

湯澤伊藤治 遠藤悦藏 飯田吉五郎
廣田吉造 袴田喜四郎 田中友右衛門
塚原寅次郎

(二)奉祝裝飾

本所區ハ、御大禮ヲ奉祝スル爲、左ノ如ク裝飾ス、

裝飾設備

- (一)兩國橋及厩橋ノ廣場ニ、奉祝塔一基ヲ設ケ、夜間ハ、イルミネーションヲ點火ス、
- (二)吾妻橋梁蹄鐵形欄干ニ、アーチヲ設備シ、夜間、イルミネーションヲ點火ス、
- (三)業平橋、江東橋、菊川橋及北辻橋橋畔ノ四箇所ニ、大國旗ヲ交叉シ、夜間ハ、柯レモイルミネーションヲ點火ス、
- (四)二ノ橋及法恩橋橋畔ノ二箇所ニ、大國旗ヲ樹立シ、夜間、イルミネーションヲ點火ス、

(三)區民奉祝會準備

本所區ハ、十一月十日御即位禮當日、區民奉祝會ヲ開催スルコトトシ、區内平久町埋立地ニ、區民奉祝場ヲ設ケ、十一月九日ヲ以テ、諸設備ヲ整フ、

ヨ 深川區

(一)賀表捧呈準備

深川區ハ、十一月五日開會ノ區會ニ於テ、五名ノ賀表起草委員ヲ設ク、

中村 清藏 松本忠次郎 岡田 貞三
岩出惣兵衛 溝口鑄次郎

委員ハ十一月五日會合シテ賀表ヲ起草シタリ、

(二)奉祝裝飾

深川區ハ、御大禮ヲ奉祝スル爲、左ノ如ク裝飾セ

奉祝綠門及橋裝飾

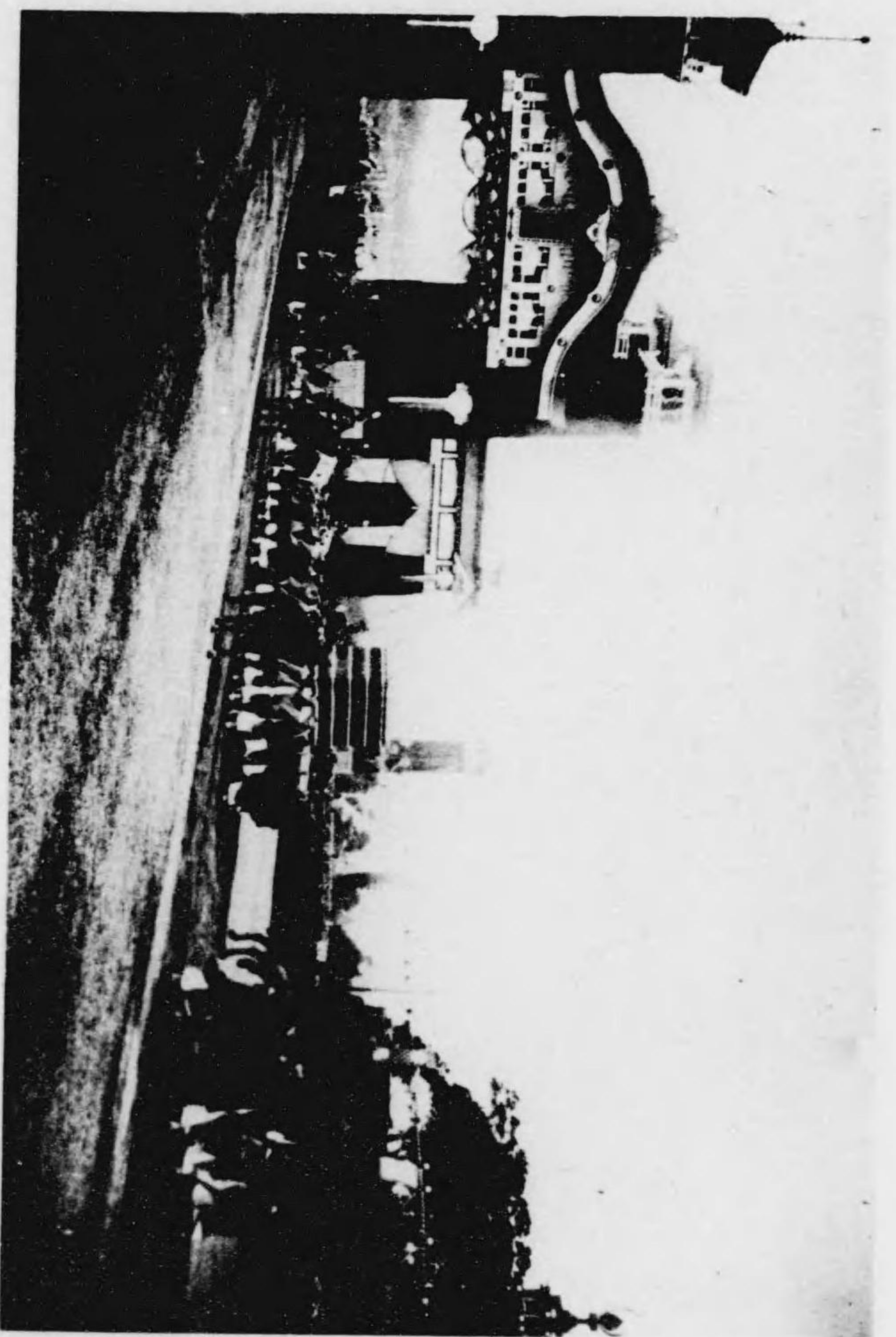
- (一)永代橋詰奉祝綠門 工費金六百圓 十一月九日出來
 - (二)新大橋詰奉祝綠門 工費金六百圓 十一月九日出來
 - (三)彌勒寺橋際裝飾 工費金拾五圓 十一月九日出來
- 御大禮奉祝各町各戸施設ニ關シテハ、十月九日區内名譽職員各町有志者ヲ區役所樓上ニ招致シ、諸般ノ施設ハ、質素ヲ旨トシ、奉祝ノ誠意ヲ表セラレタキ趣ヲ示達ス、
- 十二月九日ノ本市奉祝會裝飾トシテハ、十一月三十日永代橋詰新大橋詰建設ノ綠門ニ對シ、綠葉全部取替ヲ行ヒ、且裝飾ヲ補修ス、

(三)高齡者優遇準備

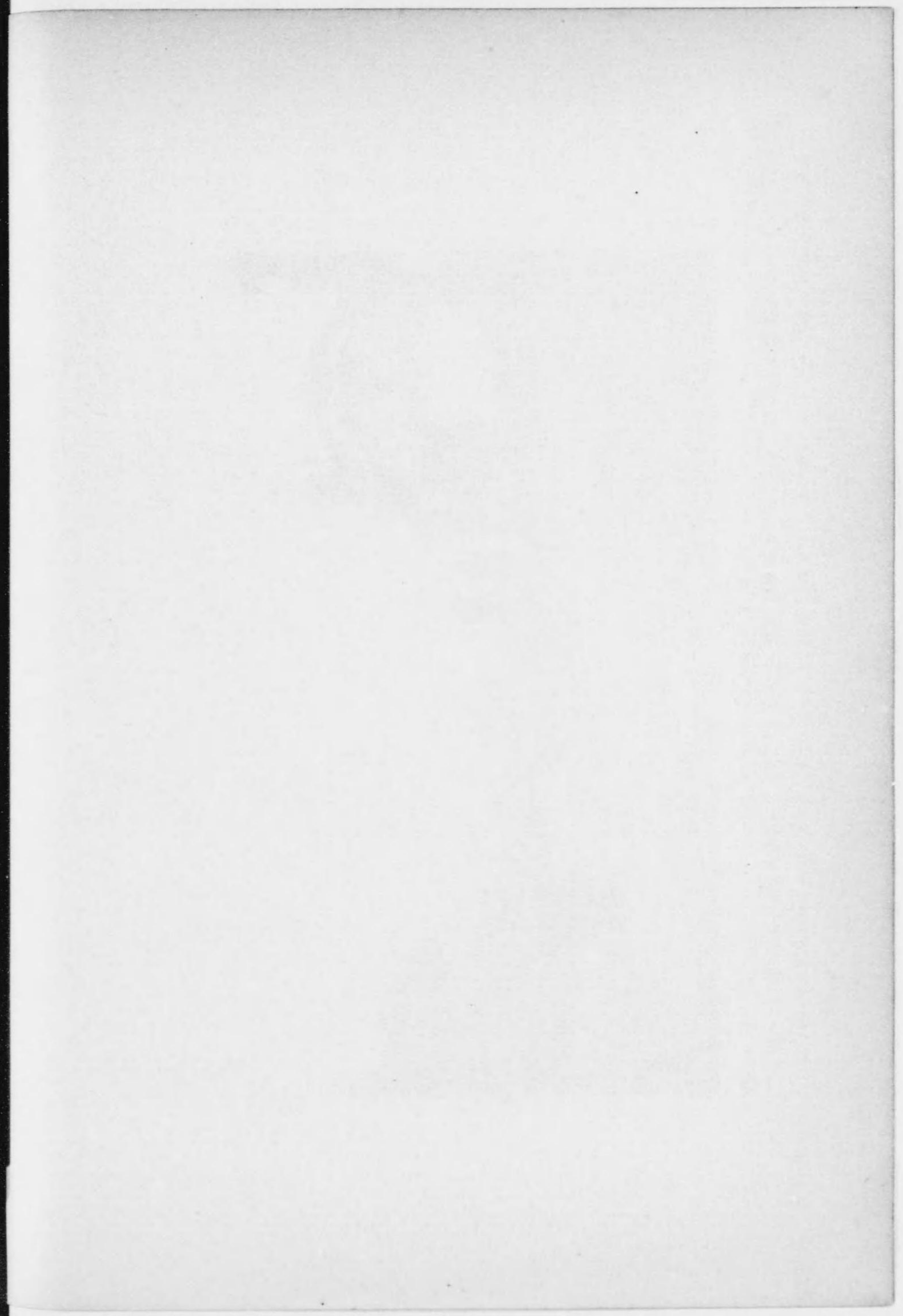
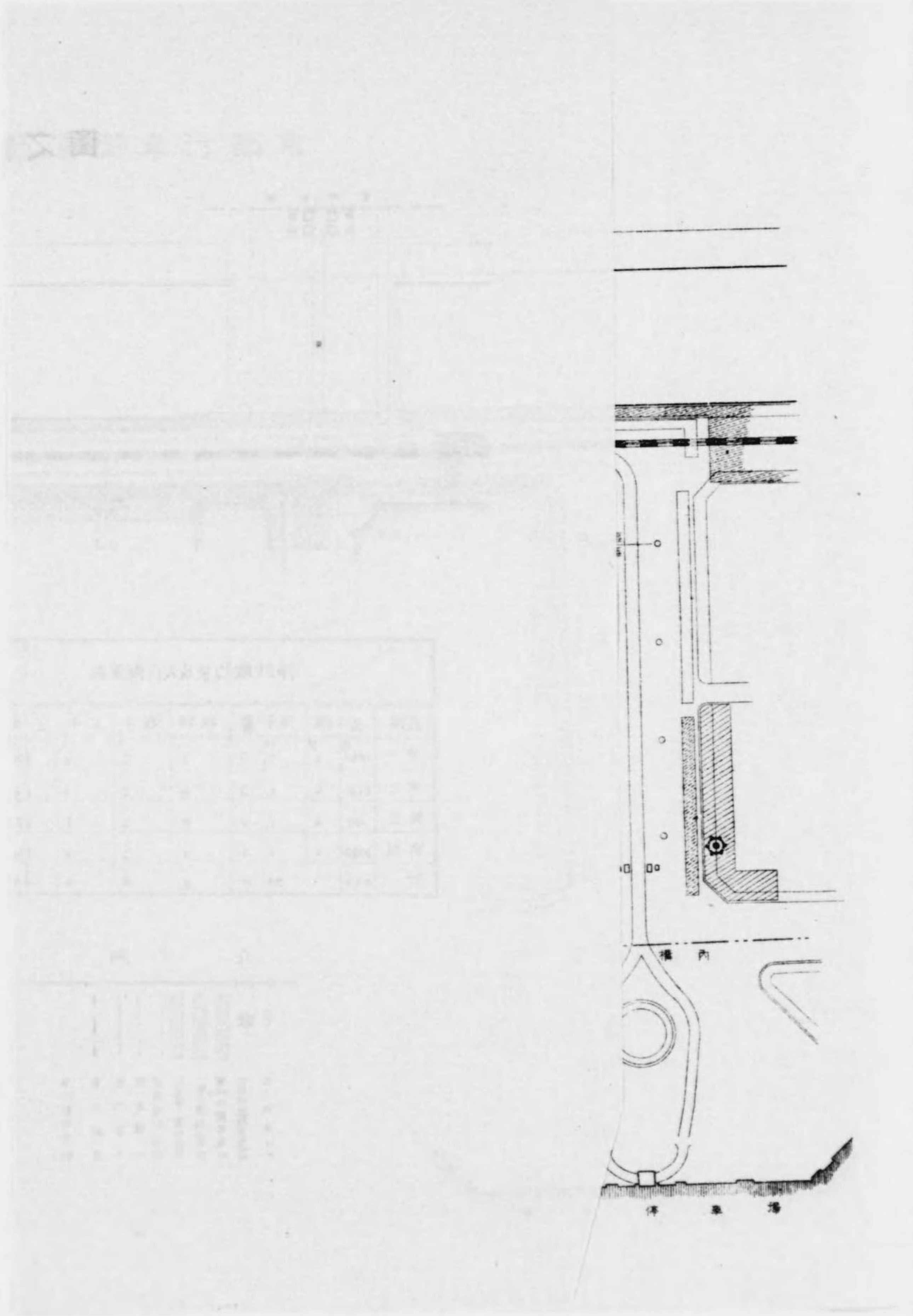
深川區ハ、十二月八日ノ區會協議會ニ於テ區内高齡者二百七十人ニ對シ、酒肴料ヲ贈與シ、以テ優遇ノ意ヲ明カニスルノ議ヲ決ス、



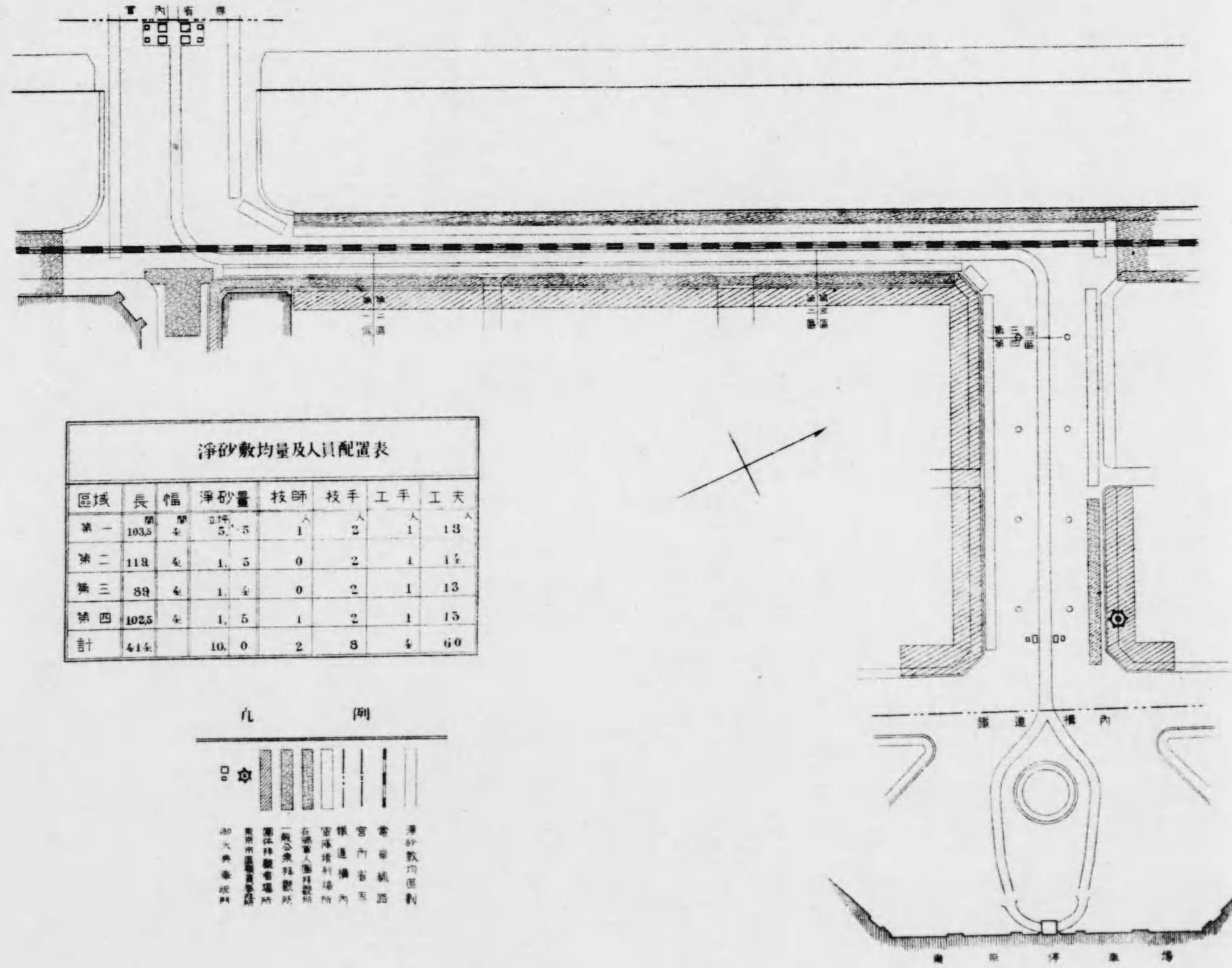
御即位奉祝會馬車行都京



御道所其先場馬幸行都京



圖之筋道御幸行廊京



淨砂敷均量及人員配置表

區域	長	幅	淨砂量	技師	技手	工手	工夫
第一	103.5	4	5.5	1	2	1	13
第二	118	4	1.5	0	2	1	14
第三	89	4	1.5	0	2	1	13
第四	102.5	4	1.5	1	2	1	15
計	414		10.0	2	8	4	60



第三 京都行幸

一行 幸

イ 御發輦

天皇陛下ハ、御豫定ノ如ク、大正四年十一月六日午前六時宮城御發輦、同七時東京停車場御發車、京都へ行幸在ラセラル、

附記

外國使臣謁見

御大禮參列ノ露西亞國特派大使ニコラス、マレウスキ、マレウイツチ、伊太利國特派大使侯爵グキツチヨリ、大不列顛國特派大使サー、ウキリアムカニンガム、グリーン、亞米利加合衆國特派大使ジョージ、ウキルキンス、ガスリ、佛蘭西國特派大使イウジエース、ルイ、ジョルジュ、レニヨ、伯刺西爾國特派大使エバミノンダス、レイテ、シエルモン、西班牙國特派大使ドン、ホセー、カロ、キ、スセチエニ、瑞典國特派使節グスタフ、オスカル、ワレンベルク、瑞西國特派使節フェルチナンド、サリス、暹羅國特派使節フヒヤナム、チターカー、白耳義國特派使節伯爵ジョルジュ、ドラ、フアイユド、ルグエルグム、丁抹國特派使節伯爵ベ、アーレフ、エルト、ラウル、フイツグ、智利國特派使節ドン、フランシスコ、ホッタ、エルボツソ、支那共和國特派使節陸宗輿、和蘭國特派使節男爵テイルク、フアン、アスベック、諾威國特派使節ベ、ダンケル、亞爾然丁國特派使節フランシスコ、オルチス、ハ、御發輦ニ先テ、大正四年

十一月二日午前十時三十分、天皇陛下ニ謁見ヲ仰付ケラル

京都御著輦

天皇陛下ハ、大正四年十一月六日午前七時東京停車場御發車、午後四時名古屋停車場御著車、同五時五分名古屋離宮ニ御安著、七日午前八時五十分名古屋離宮御發輦、同九時五十分名古屋停車場御發車、午後一時五十分京都停車場御著車、同三時十五分京都皇宮ニ御安著アラセラル、

〔參考〕登極令附式摘抄

京都ニ行幸ノ儀

- 當日何時所御殿ヲ裝飾ス
- 時刻大禮使高等官著床
- 但シ服裝大禮服正裝正服關係諸員亦同シ
- 次ニ御屏ヲ開ク
- 此ノ間神樂歌ヲ奏ス
- 次ニ神饌ヲ供ス
- 此ノ間神樂歌ヲ奏ス
- 次ニ掌典長親詞ヲ奏ス
- 次ニ天皇御代拜
- 次ニ皇后御代拜
- 次ニ神饌ヲ撤ス
- 此ノ間神樂歌ヲ奏ス
- 次ニ御車ヲ御殿ノ南階ニ遷ス
- 次ニ寶所御車ニ乘御
- 時刻文武高官有爵者優遇者並夫人停車場ニ參集ス
- 但シ服裝男子ハ大禮服正裝正服制服ナキ者ハ通常禮服女子ハ通常禮服關係員亦同シ
- 次ニ皇太子皇太子妃親王親王妃内親王王妃女王停車場ニ參著

ス

次ニ賢所御車宮城出御

天皇皇后宮城出御

幽薄ハ第一公式ヲ用キ供奉諸員中ニ大禮使高等官掌典長家典ヲ加フ

次ニ停車場ニ著御

此ノ時諸員奉迎

次ニ御登帆

此ノ時諸員奉送

次ニ京都ニ著御

此ノ時在京親王親王妃王王妃女王文武高官有爵者優遇者

鼓夫人^{皇太后}停車場ニ奉迎ス

次ニ停車場出御

幽薄宮城出御ノ時ノ如シ

次ニ皇宮ニ著御

附記

(一)臨時内閣事務所

内閣告示第五號

來ル十一月六日ヨリ同月十九日迄京都府廳舎内ニ臨時内閣事務所ヲ設置シ内閣ノ常務一切同所ニ於テ取扱フニ付同月六日ヨリ十八日迄公文ハ總テ同所ヘ宛發送スヘシ

大正四年十一月一日 内閣總理大臣伯爵 大隈 重信

(二)臨時外務省事務所

人合送第六〇五號

大正四年十一月一日 外務次官 幣原喜重郎

東京市長 奥田 義人殿

大禮ノ際京都ニ外務省事務所設置通知ノ件

大禮ノ際當省員京都滞在中等省事務所ヲ京都下京區内河

日午前九時五十五分東京宮御所御出門、同十時二十五分東京停車場御發車アラセラル、此日市長東京停車場ニ於テ奉送ス、

京都御安著

皇太子殿下ハ、大正四年十一月七日午前十時二十五分東京停車場御發車、午後三時三十分靜岡停車場御著車、同三時四十分靜岡御用邸ニ入ラセラル、八日午前七時二十分靜岡御用邸御出門、同七時三十分靜岡停車場御發車、午後三時二十分京都停車場御著車、同三時四十分二條離宮ニ御安著アラセラル、

(附記)

載仁親王妃智恵子殿下ハ、大正四年十一月四日御出發、京都へ御旅行相成リ、守正王同妃伊都子兩殿下竝ニ稔彦王殿下ハ、五日御出發、貞愛親王、博恭王、載仁親王各殿下、鳩彦王同妃允子内親王殿下、博恭王妃經子殿下、成久王同妃房子内親王殿下、恒久王妃昌子内親王殿下ハ、何レモ六日御出發、邦彦王殿下ハ、七日御出發、恒久王殿下ハ、七日豊橋町御出發、各京都へ御旅行相成リタリ、

第四 京都行幸奉送

一 奉送

(二八〇)

原町通り寺町京都俱樂部内ニ設ク可ク候間右様御承相成度此段及御通知候也 (大正四年十一月四日外務省告示第四十三號同シ)

(三)臨時宮内省出張所

宮内省告示第二十一號

臨時宮内省出張所ヲ京都皇宮内ニ置ク

大正四年十月八日 宮内大臣男爵 波多野敬直

二 賢所春興殿渡御

天皇陛下ハ、大正四年十一月七日賢所春興殿渡御ノ儀ヲ行ハセラル、

(參考) 登極令附式摘抄

賢所春興殿ニ渡御ノ儀

當日何時御殿ヲ裝飾ス

時刻大禮使高等官著床

但シ服裝京都ニ行幸ノ儀ニ於ケル賢所著床ノ時ノ如シ

次ニ賢所殿内ニ渡御

次ニ神饌ヲ供ス

次ニ家典祝詞ヲ奏ス

次ニ天皇御代拜

次ニ皇后御代拜

次ニ神饌ヲ撤ス

次ニ御座ヲ閉シ

次ニ各退下

三 東宮行啓

イ 御出發

皇太子殿下ハ、御豫定ノ如ク、大正四年十一月七日

イ 市長以下奉送

十一月六日京都行幸當日、市長、市會議長、市會議員、區長、區會議員、市參與、市助役ハ、豫定ノ如ク、午前五時四十分前ニ宮城正門前ニ參集シ、同所ニ於テ 天皇陛下ノ京都行幸ヲ奉送ス、

ロ 名譽職員吏員奉送

(一)市役所奉送所奉送

十一月六日京都行幸當日、本市名譽職員、吏員ハ豫定ノ如ク、午前四時マテニ、麴町區永樂町東京驛前ノ市役所奉送所ニ參集シ、謹テ 天皇陛下ノ京都行幸ヲ奉送ス、

(二)區役所奉送所奉送

其一 麴町區

十一月六日京都行幸當日、麴町區ハ、區公民六百三十七名東京驛前ノ區設奉送所ニ於テ奉送ス、

其二 芝區

十一月六日京都行幸當日、芝區ニ於テハ、名譽職員及各町總代約五百名、區内田町停車場ノ區設奉送所ニ於テ奉送ス、

(二八一)

八學校職員生徒兒童奉送

(一)宮城前奉送

十一月六日京都市行幸當日、本市小學校其他學校職員生徒兒童八、豫定ノ順序ニ從ヒ、教育課長守屋恒三郎、視學法貴慶次郎、外二十名ノ監督ノ下ニ、宮城前ニ於テ靜肅ニ天皇陛下ノ京都市行幸ヲ奉送ス、是日各學校ノ入場退場ハ、

ニシテ奉送人員ハ、左ノ如シ、

區	入退場口	校數	區	入退場口	校數	區	入退場口	校數
赤坂	南芝園口	一〇	神田	北口	二二	日本橋	和田口	二二
京橋	南芝園口	二九	同	同	二九	同	同	二九
芝罘	同	九四	同	同	一〇	同	同	一〇
小石川	同	二二	同	同	一六	同	同	一六
赤坂	同	二二	同	同	一六	同	同	一六
小石川	同	三本	同	同	二五	同	同	二五
草場	同	三八	同	同	二六	同	同	二六

(二八〇)

十一月六日奉送人員

區名	私立		市立		計	校數	性別	校長	教員	兒童	保護者	計
	數	別	數	別								
赤坂	一	一	一	一	四	一	一	一	一	一	一	四
京橋	一	一	一	一	四	一	一	一	一	一	一	四
芝罘	一	一	一	一	四	一	一	一	一	一	一	四
日本橋	一	一	一	一	四	一	一	一	一	一	一	四
神田	一	一	一	一	四	一	一	一	一	一	一	四
龜田	一	一	一	一	四	一	一	一	一	一	一	四
小石川	一	一	一	一	四	一	一	一	一	一	一	四
牛込	一	一	一	一	四	一	一	一	一	一	一	四
四谷	一	一	一	一	四	一	一	一	一	一	一	四
合計	八	八	八	八	三二	八	八	八	八	八	八	三二

合	市立		私立		計	校數	性別	校長	教員	兒童	保護者	計
	數	別	數	別								
赤坂	一	一	一	一	四	一	一	一	一	一	一	四
京橋	一	一	一	一	四	一	一	一	一	一	一	四
芝罘	一	一	一	一	四	一	一	一	一	一	一	四
日本橋	一	一	一	一	四	一	一	一	一	一	一	四
神田	一	一	一	一	四	一	一	一	一	一	一	四
龜田	一	一	一	一	四	一	一	一	一	一	一	四
小石川	一	一	一	一	四	一	一	一	一	一	一	四
牛込	一	一	一	一	四	一	一	一	一	一	一	四
四谷	一	一	一	一	四	一	一	一	一	一	一	四
合計	八	八	八	八	三二	八	八	八	八	八	八	三二

市直營東京市立商業學校及實科高等女學校職員生徒ハ、文部省監督下ニ於テ、宮城正門前ニ陛下ノ京都市行幸ヲ奉送ス、其人員左ノ如シ、

學	校	職員	生徒	付派人	小使	學校醫	計
東京市立商業學校	一〇	一	一〇	三	二	一	二六
實科高等女學校	一	一	一	一	一	一	五
計	一一	二	一一	四	三	二	二九

(二八〇)

(二)鐵道沿線奉送

十一月六日京都市幸當日、芝區ニ於テハ各小學校長及兒童總代ヲシテ宮城前ニ奉送セシメタル外、各小學校尋常科四學年以上ノ兒童ヲシテ、左ノ各停車場ニ奉送セシム、

新橋停車場 田町停車場 濱松町停車場
品川停車場

二警 戒

イ土木設備警戒

十一月六日京都市幸當日、奉送土木設備ニ對シ、本市土木課ニ於テ警戒スルコト、左ノ如シ、

一、道路警戒

京都市幸當日、御道筋延長四百十四間ヲ四區ニ分割シ警戒清淨ヲ完カラシムル爲メ、左ノ通り吏員及備人ヲ配置ス、

技師 二名 技手 八名 工手 四名
工夫 六十名

御大禮ニ際シ、市内ノ雜沓甚シカル可キヲ豫想シ、道路交通上ノ支障タル可キ掘鑿作業ハ可成施行セス、又會社等ニ於テモ然ラシムル方法ヲ以テ、道路ヲ管理シタリ、

二、奉送裝飾警戒

京都市幸御道筋裝飾ヲ警戒スル爲メ、當日左ノ通り吏員

(三)警 備

市内各區ハ、御大禮中及其前後、概シテ火ノ番ヲ設ケテ市街ヲ警備ス、區役所ヨリ注意書依頼書ヲ發シテ之ヲ設置シタル者、各町各自ニ之ヲ置キタル者、若クハ自警自衛ヲ爲シタル者等、其方法一ナラス、或ハ重要ナル式日ニ特殊ノ警備ヲ爲シタル者有リ、今其二三ヲ舉ク、他ハ類推シテ可也、

京橋區

同區役所ハ、十一月四日ヲ以テ、行幸當日ノ火元取締ニ關シ警察官ト協議シテ、名譽職及重ナル區民ニ注意書依頼書ヲ發シ、十一月六日ヨリ十二日ニ至ル間ノ火ノ番設置ヲ勸誘シタルニ、各町ハ協議ノ上、火ノ番ヲ設ケ又ハ警邏ヲ置キ、以テ十一月六日ヨリ十一月十一日ニ至ル間ヲ警備シタリ、

四谷區

同區役所ハ、豫メ區内ニ諭達シテ自身番ヲ置ク、其期日ハ、十一月六日、十日、十四日、十六日、十七日、二十八日、十二月四日、九日、

小石川區

火災注意ノ爲メ十一月五日ヨリ三十日マテ、各町何レモ火ノ番ヲ設ケテ夜警ヲ爲シタリ、

淺草區

同區ノ報告ニ據レハ、左ノ如シ、

御大典ニ際シ大正四年十一月六日 天皇陛下京都へ行幸アラセラルルヲ以テ五日夜ヨリ六日未明ニ互リ各警察官ハ御通路取締ノ爲、區内ノ警衛ハ自然平日ト異ナル

(二八四)

及備人ヲ派遣ス、

技師 二名 技手 十二名 雇 三名
工手 一名

京都市幸ヨリ御還幸ニ至ル二十二日間警戒ノ爲メ、左ノ通り吏員ヲ馬場先門内土木課出張所ニ駐在セシム、

技手 一名 雇 一名

ロ電氣設備警戒

十一月六日、京都市幸當日、奉送電氣設備ニ對シ、本市電氣局ニ於テ警戒スルコト、左ノ如シ、

一、軌道警戒

京都市幸當日、御道筋ニ人員ヲ配置シ、線路ノ警戒ヲ爲サシメ、軌道上ニ砂撒キヲ施行シタリ、

二、電線路警戒

京都市幸當日、御道筋ニ人員ヲ配置シ、電線路ノ警戒ヲ爲サシム、

ハ衛生設備警戒

十一月六日京都市幸當日、本市衛生課ハ、車駕通御後、奉送者集合地域及下水其他ノ跡掃除ニ任シ、掃除監督二人、掃除巡視四人及麴町區衛生掛員竝ニ掃除巡視等之ヲ監督シ、麴町區常備人夫總員ヲ督勵シテ、大掃除ヲ施行ス、

ヘキ折柄失火其ノ他ノ事故アリテハ恐懼ニ堪ヘサル次等ニ付之レカ警備ノ儀帝國在郷軍人會淺草區分會へ依頼シタルニ同會ハ之レヲ快諾シ全區ヲ南部中部北部ニ三分シ各部ニ夜警事務所ヲ設ケ各部ヲ五箇班トシ班ニハ夫適當ノ位置ニ詰所ヲ設ケ班長以下係員ハ二人乃至四人ツツ非常提灯ヲ携帶シ同夜九時頃ヨリ約一時間毎ニ交代ニテ絶エス各町ヲ巡視シ同時ニ隣接班ト連絡ヲ保テリ各部事務所ニハ理事以下役員出張シ二回乃至三回部内各班詰所ヲ巡視シ其狀況ヲ聽取スル等役員舉テ警戒ニ努メタリ斯クシテ六日午前五時ヲ以テ警戒ヲ撤セリ

四電車運轉變更

十一月六日京都市幸ノ當日、本市電氣局ハ、監督官廳ノ許可ヲ得テ、電車運轉系統ヲ變更シ、竝ニ一部ヲ中止ス、即チ別紙圖面ノ如シ、

五花電車運轉

十一月六日 天皇陛下京都市幸ノ當日、本市電氣局ハ、御大禮奉祝花電車ヲ運轉スルコト、左ノ

(二八五)

五日電車運轉變更
 六日終夜運轉
 六日午前八時マテ運轉中止
 六日午前二時頃マテ運轉



如シ、

大體 花電車運轉日割

(二八六)

月	日	七曜其他	車	數	運轉線路	運轉回数	收容車
十一月	六日	土曜(御發燈當日)		五	品川、上野、淺草、三田、小川	午前一回 午後二回	三日

花電車ノ名稱

日月(寶祚無疆) 奉祝ノ歌 文官武官
 萬歳太平樂 菊花ノ車 以上五臺

六橋梁點燈裝飾

十一月六日京都市行幸奉送ノ爲メ、本市土木課ハ、朝及夜間左ノ三橋ヲ點燈裝飾ス、
 日本橋 鍛冶橋 四谷見附橋

七煙火

十一月六日 天皇陛下京都市行幸ノ當日、本市水道課監督ノ下ニ、奉送煙火ヲ打揚クルコト、左ノ如シ、

打揚月日	打揚場所	本數	請負人民名
十一月六日 (京都市行幸當日)	鎌倉河岸地立地	壹四一本	健屋藤原彌兵衛

八市民ノ奉送

聖上陛下京都市行幸當日ノ東京市街ハ、奉祝裝飾

ノ五彩目モ綾ニ、特ニ行幸御道筋ヨリ日本橋京橋等ノ大道ハ雜沓甚シク、夜ニ入ルモ更ニ其數ヲ減セス、頗ル盛況ヲ呈ス、今三四ノ新聞記事ヲ抄シテ其概況ヲ示サン、

宮城御發燈

我皇即位の大禮を行はせらるべく六日京都に行幸せらる、大内山の事は畏し、今拜聞せるまゝを略記せん、
 賢所渡御 當日宮中にては午前三時といふに齋戒沐浴せる數名の掌典、瑞雲棚引ける温明殿を裝飾し、三時三十分大禮使參與官渡邊地方局長、同田所普通學務局長以下奉仕の人々著床、賢所渡御の儀を執り行はせられ、斯くて賢所は御羽車に移し參らせられ、十八名の八瀬童子奉昇靜かに千里門を過ぎり皇宮の正門に進ませらる
 陛下出御 是れより先き天皇陛下には未明に御起床御身を潔めさせられ賢所渡御の儀の執り行はせらるゝ間いと御嚴肅の御態にて控へさせられたるが、御發燈の御時刻迫りて鷹司侍從長の出御を奏請するや、大元帥の御正装にて出御あり、侍從長の扈從、原侍從の御劔捧持、大炊御門侍從の御壺捧持にて長き廊下を進ませられ、御殿の最南方なる御車寄に進ませたまふ、時に千里門の彼方より御羽車は徐行し參らず、陛下迪かに望ませられ、直立不動の御姿勢にて御拜あり、敬虔の御誠意龍顏に拜しぬ、鹵簿を編成すべく星の如くに居並びたる群臣は之れを拜して畏み、つ最敬禮を行へり、斯くて正に午前六時となるや、陛下には御車寄に御待

ちせる特別儀裝の風聲に乗、御鷹司侍從長御陪乗申上げ、先驅の警視儀仗の騎兵其他掌典供奉、さては高等官等御豫定の鹵簿の御順序よろしく、朝靄罩めたる二重橋上に進ませられやがて皇宮の正門を出でさせたまひぬ

鹵簿行進

燦爛たる羽車 御發燈の時刻迫りぬとて沿道に堵列せる海陸兵、芝生に奉送せる無數の群衆皆一樣に襟を正せり、時刻は愈其の期に至り、驚駭を迎ふるの奏樂の音、二重橋の畔に起る、衆目一齊に彼方に向へば、先驅の警騎肅々宮門を出づ、燦たる肩章の肩聲やかに、長劔を帯びて鹿毛の逞しきに打跨れるは、川崎警視廳警務部長にして警視二騎前行し、警部八騎左右に列れり、次で供奉の近衛騎兵二十二騎、驪馬一列に轡を並べ、其の後より八瀬の輿丁三十二人の昇きまゐらす、御羽車は出でさせたまふ、珠蓋の結構龍床の規模は更ら、錦帳燦爛仰ぎ見るだに、眩ゆし、御羽車の左右には紅帽を戴きし近衛將校八騎あり、涼たる中にも華ぎて見ゆ、且其前後には緋の袍著けたる久我立花長谷、烏丸の各掌典、縹の袍を裾長に著なせる青山、金坂、田邊、羽田の掌典、補梨、地高、蒔繪輪の鞍置き、濃紫の厚房懸けたる逸足に、緋の紉分手綱を搔繰り、口付の雜色に轡執らせて、雅びやかなり、殊に御羽車の後おさへたる九條掌典、次長の蓬萊と名も目出度き鹿毛の愛馬に、濃紫の鞅鞞に同き色の厚房、美しくも懸け、金梨地に散し扇を高蒔輪せる秘藏の鞍置きて、家紋を蒔ける相傳の太刀を佩き、黒袍垂纓の衣冠正しく打たせたる様春日の神奇の威儀とぞ肯かる

(二八七)

神々しき鳳輦 斯くて賢所渡御を拜送したれば、畏き聖上の
の鹵簿は間近くも奉迎せられぬ、或は旗戟を擁し、或は雄劍
を肩にせる、前驅の騎兵二十五騎先づ過ぐれば、其れに打續
き皆紅の粧ひ眩き儀裝馬車の先頭には、若やかなる市來稻
葉の兩式部官禮裝の肩を列へ、第二車には、戸田式部長官繡
服の胸蔽はる許り大綬小綬を打懸け打連らねて威儀を示
し、第三車には、石原宮内次官江木大禮使次官雪とも擬う鶯
帽を冠りて禮容を見す、第四車を打たせたる波多野宮相は
と見れば親任官の大禮服に大綬を帯び嚴かなる態にして坐
乗せり、宮相に次て十三騎の騎兵劍を閃かせ槍を腋にして
打續けば金色菊花の御紋章燦たる天皇旗、旗手桐淵曹長の
手に掲げられて搖らぎたる、斯くて鳳輦前衛の騎兵二十五
騎蹄音靜かに通過すれば、導騎の根村車馬監の後より、鳳輦
を咫尺に拜す六頭の良駒、二十四の金蹄は、光榮ある、馭者多
賀主馬寮技手が操る八條の手綱名譽の騎馭者久保技手が
振ふ一枝の鞭さては、口付六人の舍人が執る轡に導かれて
一動一止自から律呂のあるが如く、淨めの真砂を踏みて進
ませたまふ、輦側に隨ふ雙行八騎の近衛將校を隔てて進御
します、鳳輦の結構を仰ぎまつるに、金糸を文にせる、燃えな
んばかりの緋天鵝絨の御車蓋飾りに御紋章を蒔ける玉扇
金線を引ける朱輪は蓋はんばかりに垂れたり、斯くも神々
しき鳳輦の御裡には、伏目勝に陪乗申上ぐる鷹司侍從長に
對させ給へる陛下の、龍顔いと麗かに、畏くも時々吾等奉送
の群衆を憐はせらるるを拜されぬ、鳳輦の御後近く衛りた
るは、若見侍從武官にして、次で駒並進めし田中西の兩武官

(二八八)
何れも武威嚴かなりき、鹿毛四白の逸物に容儀正しう打跨
れる藤波主馬頭を送れば、神尾東京衛戍總督亦緩かに愛馬
に跨りて續く、駟馬縱隊の騎兵十一騎を先驅とせる三輛の
儀裝車には、伏見大禮使總裁宮、閑院大將軍、伏見少將軍の三
殿下何れも御胸狭きまでに大勳位の大綬を懸けさせられ、
夫々御正裝御正服に、涼々たる御威光を輝かせ給ふ、鳳輦後
衛の十一騎より少しく引下りて、捧劍の御役たる原大炊御
門兩侍從は、第一車を、内山侍從武官長關野武官は、第二車を
打たせ、大山内大臣は、正裝に大勳位大綬章を佩ひ劍を按じ
て、第三車に坐乗せり、一際目立つ栗毛の良馬が、曳きなす新
調の儀裝車には、大隈首相雪白の羽帽を冠りて正坐し、首相
の後車には、國璽を捧持せる日高内大臣、祕書官池邊侍醫と
同乗し、續く車には、近藤宮内書記官、小原大禮使高等官席を
連ね、最後の乗には、井上府知事、西久保總監、金衣の肘を按
して、扈從し、最後の馬車の後よりは、憐として、驕らざる近衛
の騎兵二十五騎後を警め、更に長谷川保安部長を、共にせる
警騎五騎、嚴かに後尾をおさへて、駒の足掻を速めぬ、斯くて
崇嚴比ひなき大儀の鹵簿は、肅々として、萬歳門を出でまし
て、東京驛に近づかせたまへるが、時しも朝暾雲を披きて大
御幸を奉賀するが如く、燦として、鳳蓋の上に映りぬ

東京驛著御

文武百官奉送 正五時一閃の烽火空を劈きて響けば、東京
驛内に奉送の綺羅を飾れる文武百官、鳳輦を型る左右の車
寄に自動車車馬を驅り、織るが如くに參集す、正面なる御車
寄はと見れば、交又せる大國旗靜かに垂れ、馬車廻しの聲み

も、淨らかに、大玄關の扉は、颯と開かれ、赤色の衣冠單帶劍を
裝へる掌典二名、左右に著床し、黃の布衣單を著けたる十二
名の八瀬童子は、玄關より左右の馬車廻しに跪坐し、賢所奉
安の準備を整へたり、是より先き、皇后陛下御使、徳川皇后宮
大夫、皇太子殿下御使、濱尾東宮大夫、二皇子殿下御使、三好傳
育官長を初め、久邇少將宮、北白川朝香兩大尉、宮各殿下相前
後して、御參集あらせられ、竹の間、梅の間の御待合所に入ら
せられ、鹵簿の著御を待つ

羽車鳳輦前衛 やがて、鹵簿の先驅奉祝塔を潛るや、前衛後衛
の警視、警部近衛儀仗の警護の隊、鹵簿を離れて、右方の廣場
に、横隊となりて、列ぶ、金坂青山兩掌典、補を先頭とし、九條掌
典、次長以下の奉安する御羽車の行列は、左に中央植込を廻
り、左側御馬車廻しより、御車寄に著御あり、次で、金鳳を冠せ
る國儀式儀裝、鳳輦は、御車寄に著御す、此の時、供奉の各宮殿
下、大禮使總裁宮は、左側の廣場にて降車し、陛下の鳳輦御降
車を俟ちて、供奉せり、陛下には、御送迎の爲め、先著の各宮殿
下、徳大寺東郷兩大勳位、武富藏相以下、各大臣、大臣禮遇、陸軍
各元帥以下、親任官等に、御會釋を賜ひつゝ、添田鐵道院總裁
の御案内にて、正面便殿に入御されぬ

鳳車西に下る

便殿の階下 六時三十分、御羽車の東京驛に著かせ給ふや、
柑子色の衣冠單を纏ひたる十八名の掌典は、御車寄前面に
整列し、恭しく迎へまゐらせぬ、輿丁は、人を取替て、御先導承
はれる、添田鐵道院總裁の後よりいと靜かに、プラットホーム
へと昇まゐらす、構内御通路片側には、伏見若宮妃朝香宮

北白川宮同妃、竹田宮妃五殿下を初め、奉り、東郷元帥、大隈首
相夫人、奥元帥、井上元帥、同夫人、一木内相、尾崎法相、同夫人、武
富藏相、河野農相、長谷川川村兩元帥、加藤海相、高田文相、石井
外相同夫人、徳川貴族院議長、其他原敬氏、加藤高明、齋藤實の
兩男、芳川顯正、榊山資紀、兩伯、三浦梧樓子、片岡、出羽、島村の各
海軍大將、淺田、上原、大島、安東各陸軍大將等、奉迎送申上ぐ、御
羽車は、其中を徐々と進ませられて、第四プラットホームに
出で給へり、鳳輦著御して、陛下の便殿に入らせたまひしは、
其れより數十秒の後なりき、此の日、便殿の裝飾は、平常と異
なる所もなければ、聖壽の無窮を壽ぎまつるべく、松竹梅の
盆栽を三隅に配し、他の一隅には、珍らしくも、今を盛りの紅
梅一株を置けり、清香馥郁、四邊に充つし、しばし御椅子にかゝ
らせられたる陛下には、やがて、皇后宮御使、徳川達孝東宮御
使、濱尾新兩氏に、拜謁仰付け給ひ、又、伏見總裁宮殿下を、顧み
させたまひて、何事か宣はせられたるが、かゝる間に、賢所御
羽車は、プラットホーム内なる宮廷列車中の奉安車に、渡御
ありて、鷹司侍從は、賢所移御の滞りなく、濟ませられたるを
奏するや、陛下には、再び古川副總裁の先導によりて、便殿よ
りプラットホームに、玉歩を運ばせ給ふ

列車に乗御 此時御後に、扈從し奉りたるは、各皇族、文武の
大官にして、勳三等以下の高等官九百名は、軌道を隔てたる
第三番プラットホームに、奉送せり、陛下には、賢所奉安車に
一禮遊ばされて、然る後、其の御後なる御召車に入らせ給ひ
打開かれたる西窓に、面する玉座に、著かせ給ひけるが、御窓
の前面には、五殿下其背後には、大勳位親任官等、鳳車を拜送

して今日の御幸をいと嚴肅に祝し奉れり、陛下乗御終らせたまふや岩倉掌典長、九條同次長以下の掌典内掌典等は奉安車の前後の室に供奉員も亦夫々設けの車輛に乗り終れり、斯くて杉本車掌が承はる發車の笛聲を合圖にして列車は靜に搖ぎ出でぬ時正に正七時なりき。十二月七日東京朝日新聞

聖上御發輦は本日

人皇第百二十二代の帝、舊き都に親ら御即位の大禮を擧げさせ給はんとて、今日の曉六時と申すに、賢所を奉じて宮城を出でさせられ、東京驛より龍車に駕して西に向はせ給ふとぞ承はる、沿道の臣民歡喜してそれ、奉送迎の準備怠りなき中に、首都東京の街々は美裝新に成りて五彩目も綾に、御發輦の盛儀、更に一層の壯觀を加へんとす、その前日瞥見したる市中裝飾の一斑を左に掲ぐべし

宮城前

大君在ます宮城前より、今日御發輦あらせらるべき東京驛にかけての裝飾美しくも神々しさ限りなし、先づ二重橋前には緋色に雲形散らし銀色にて萬歳を現はしたる丈餘の大旗一對次には銀色に日月を置きたる二對の日月旗、五色の日月旗を樹てつらね、それより大道路を馬場先門に至るまで、一對の萬歳旗十六間おきに樹ち根方には眞桐、檜を植ゑ、御旗の兩端には四箇の家形燈立つ、その頂には菊花狀の大裝飾燈をおかれたり、馬場先中央の奉祝門は幅二十三間の破風作り中央金字にて萬歳を現はせる匾額を掲げ紫地に雲形抜きたる幔幕三所を絞る、其左右には綠葉に包まれし六十尺の高塔四つ立ち、頂に菊花狀の電燈を點する裝置ありこれ等の裝飾には四つの鳳凰と八つの八咫鏡を配せり、それより電車道路まで六基の裝飾塔を配置し、その間に四對の日月旗と鳳凰丸の小旗を垂れたる綠門、モール、電燈飾を建て美の限りを盡くしたるかとはかりに見事なり、馬場先より東京驛までの道路には二丈餘の五色の馬簾を立て、聯ね、その間に日月旗と國旗とを配す、驛の前には二基の大裝飾電燈塔あり綠葉に包まれたり、塔の中央は赤地に紫もて聖壽萬歳、寶祚無窮の大文字を現はし、根方を菊の生花にて飾る、昨夜宮城前に集ふ男女夥しく、日比谷交叉點の電車は大混雜を爲したり、宮城前あたり八箇の探海燈が二萬燭の光りを投げ奉祝門内の二個の電燈また二萬燭にて輝らせし事とて、附近は白晝よりも明るく、群衆は繩を張り渡し砂にて淨めし御通路、裝飾電燈の根を飾りし菊花の中の青色の光り、奉祝門上の赤青の光りに驚異の眼を張れり

京橋區

御道筋を措き、市内に於て裝飾華美を誇るべきは京橋、日本橋の兩區なり、京橋畔の奉祝塔は今工事中なるがその高さ十五間といふ、銀座通りは九尺おきに電飾の裝飾柱を建て、紅白の飾柱には紅緑の花モールをつなぎ、上に國旗を配らひたる花やかさ、京橋詰の奉祝塔には昨夜七時漸く電燈が點せられ、兩側の裝飾モールの間に電光を光らす、商店の飾窓は夜に入りてより飾り始められ、屋上にもイルミネーションを點じたるが大倉商店の大アーケ燈は月かとはかり輝けり、銀座交叉點より新橋附近は日の丸に菊桐の提灯一様に點せられ、ライオンカフェ、大西錦綾堂マツダラン

の屋上裝飾燈美しく、見物人群衆せり

日本橋區

日本橋の奉祝塔、高さ十五間半、幅十五間、薄樺色に染めなされ、脚部は金を打つたる日本式なり、本石町通りは松と竹とを配して七五三を張り、蘇鐵の葉もて八咫鏡をしつらひたるは面白く、此通りの春日燈籠は市内切つての好趣向なり、昨夜は大通一帶入出盛んなりしも、裝飾少しも點燈されざりし爲、本意なくも銀座、神田に行くが多かりき

神田區

今川橋畔高さ六間の奉祝塔を、り立ち塔上の菊花の香りあたりに薰す、神田橋の左右は地球儀を戴ける高さ五間の奉祝塔、綠葉もて作られ、須田町を中心として今川橋迄紅白の幔幕打たれ、國旗萬歳旗に裝飾せらる、通り新石町の街樹の根本に菊花壇を作りたるは面白く、小川町より柳原河岸に至る一帶の幔幕國旗提灯連雀町の五色の幕人目を惹き、萬世橋際に四つの奉祝塔あり、區の中心として特に意匠を凝らせるもの、五間の高塔上には銀色の太陽をつゝみし八つの雪洞あり、橋より上野廣小路に至る通りは紅白の幔幕高張提灯國旗にて彩らる

本郷區

本郷三丁目の電車交叉點に、奉祝と現はせる大綠門を仰ぐ、高等學校前より白山に至る街頭の一角には左右二箇の奉祝白亞塔、清々し、通り一帶紅白の柱に萬歳旗を立て、國旗を交叉し提灯を吊げたるが、二、三丁目の赤青のモール、五丁目の五色五筋のモール殊に見事なり

麹町區

麹町區は半藏門外の左右に國旗裝飾塔立つ、土臺は徑一丈の杉皮造り、その上を一丈の青竹、青竹の上には高さ三尺メリンズ廻はしたる雪洞風の裝置を爲し、中央を串ぬくに七間の國旗竿を以てす、四谷見附に至る大通り一帶は紅白三段の幔幕を張り廻らし、日月旗の小ささを配せし高張りを吊る、四谷見附内には半藏門のそれと同じきを角形にせし塔を建て、寶祚萬歳、天壤無窮の大額を掲ぐ六つの大提灯には各二百燭光の電燈を點じれば、昨夜は見物の人を以つて満たされたり、四谷區は見附外に奉祝門の工事中、濠に沿ひての檜造りの神樂殿、これも工事中、見附より大木戸に到る兩側は紅白の幕、各町々色別けの提灯を吊すといふ、大木戸にはまた奉祝門を建築の筈

牛込小石川

牛込區にては要所々に大國旗を交叉し、築土八幡町前には板葺の小さき奉祝門あり、岩戸町通り、矢來通りの兩側は紅白の幔幕提灯、花モールにて裝飾し、神樂町は兩側に高さ七八尺の檜を二間隔きに植ゑて、紅白の幔幕を張り、奉祝即位禮と大書したる大提灯を吊し、柱の上に劔に國旗を結び、付け劔と劔との間を紅、黄、綠等の花モールにて裝飾したり、道路狭い丈けに華かさ一しほなり、小石川區は一體に質素にて、江戸川橋、傳通院、水道町等に大國旗を交叉し、通り、の兩側には紅白の布巻柱、二間隔きに青竹を建て、注連を張り、水道町及び音羽町通は二間毎に高張提灯を吊し、紅白の幕を引廻す、その柱の上には小國旗を配せり

下谷區にては、黒門町通りなる奉祝塔昨夜迄はまだ裝飾を了へず、通りを公園までの街飾りも出来せざりき、車坂町通りの軒頭に注連を張りたる御徒町通りの萬歳旗を掲げてその下に提灯を吊したる、共に質素ながら赤誠籠れり、浅草區は菊屋橋、鹿橋、吉野橋、吾妻橋に破風造りの奉祝門を設くる工事中、吉原は京町に高さ十間餘りの奉祝塔樹てられ、浅草橋にも奉送門工事中なり

芝、麻布

芝區にては虎の門に奉祝裝飾を施し、新橋櫻田町入口其他樞要地に奉祝塔、アーチ等を設らへ、琴平町、本郷町通り、二葉町、今井町等の大通りには日月旗、萬歳旗を飾り、その日月には夜間は五色の燈點を爲したり、此外各町思ひの飾をなしたり、催しとしては東京輪士會主催の花自轉車行列(五百臺)宮本町の火炎太鼓に八咫の鏡、神木神の山車、これは消防服裝の者三十名にて曳き、縮緬揃ひの女仕丁、女奴、男仕丁等百名是に隨ふ、其他羽織袴の旗行列、提灯行列等の催しある由、麻布區は屋敷町の事として總て質素なり、區の境界其他二三箇所にて青竹にて圍へる大松木を立て、其の上に大國旗を交叉し、夜間は其の間にイルミネーションを點す、飯倉にては三十年來初めて出すと云ふ素盞男尊の山車を飾り、此外提灯行列ある由

本所、深川

本所區は東兩國と吾妻橋畔とに三十尺の大緑門を樹て、左右には金色にて奉祝を現はす、押上、龜澤町その他要所々々

物も不用らしく、冷たさうに腰の邊りを撫で、居る萬歳門の横に立つて顧みると、顔々として顔の幕を張つたやう、更に馬場先門を商業會議所の前へ出ると、其處の電車通りには惜し氣もなく噴れ着のまゝ、レールの上に坐つて居る若い女も見受られた、更に濠端を左へ折れて東京驛へ向ふと此處は見渡す限りの満員で、押すな、痛い、などと大變な騒ぎだ、其中を利に敏い麵麩屋や辨當屋などの商人が、えゝ麵麩の出来たて、お辨當は如何などと聲を暖らして賣り廻つて歩く、見て居ると敷物代用の古新聞が羽の生えたやうに賣れて行く一本一錢の湯氣の立つおでんも濠端の夜寒さに却々賣れる、右手の三菱の原には丸の内の各團體が紋付やフロックコート、首を長くして今か、と待つて居る、此方へはおでんやも廻らない、更に進んで東京驛へ向つて行くと左手の海上保險の前には一人も人影が見えず、右手には

大團圓の紳士、連がヅラリと陣取つて居る、それから先の兩側には村雲婦人會を始め各宗教團が控へて居たが、其の宗教團の真只中に神官服を着けた若い巫子などが混つて高天ヶ原の一體が浮き出て居るのが一段と人目を惹く、夫から再び有樂町へ引返して日比谷へ廻ると、折角拜觀に來たけれど既に満員であつて入場を許されぬ、一萬人に近い奉送者がお濠の柵などに靠れて美しく輝ける馬場先門のイルミネーションを見守つて居た、(十一月七日時事新報)

旗の日の會の娘子軍

第一回旗の日の會は愈々六日午前四時から開始した關係婦

に裝飾せる緑門をしつらひ、各通りは紅白段々の幔幕を打ち、小旗球燈を飾る、深川區は高橋通りより黒江町洲崎方面の大通り一様に紅白の幕を張り、國旗球燈風に翻へる、新大橋永代橋には大緑門、門前町通りは花傘、萬燈の數々、夜は萬燈橋提灯に灯して街頭を更に美しく見せたり

(十一月六日萬朝報)

夜を籠めて拜觀の人々

淨めの雨がひと降り來るか危まれた空も、何時しか雲間を漏れる冷たい星の光に霧れ渡つて、霜は降らぬが更けるに連れて夜風が身に沁みる、五日の午後十一時頃から早くも絲と續いた子來の民草は、世にも稀なる國儀式の鹵簿を拜觀しよう

丸の内を中心、日比谷から大手町に至る濠端へ古新聞を敷いたり、下駄の上へ腰を下したり、黙々と蹲まつて時の移るを待つて居たが、六日午前五時頃には是等の一般拜觀者は勿論各團體の奉送者も大略出揃つた、先づ二重橋の前から東京驛まで一巡して見ると、宮城前の兩側の芝生の上には、右の男學生團、左の女學生團を主として、其他の各團體が犇犇と居並んで居る、中でも市内の小學生徒諸君が、大きい眼玉を提灯の火に光らせて居るのと、中學生の制服連中が胸の金鈕釦をピカ付かせて居るのが目に付き、女學生の方は淡い提灯の影に、

白い顔の輪廓、だけ浮き出さして居るのであつたが、芝生に樹てられた團體や學校名の立札と提灯は、數へることも出来ない程に混雜して居る、併し此處は芝生の上だけに數人の團體や、名流夫人の應援隊總出となつて全市に亘る大活動、杉葉とリボンで飾立てたあけび細工の花籠に小旗を山と盛り手に、それを掲げ、要所々々に主任幹事の御婦人が押立てた國旗の下に武者振勇ましく活動を始める、正装美しき小娘連も最初の程は流石にさきまきまり悪さうにも見えたが、一聲二聲皮切りをやるともう平氣なものの中には道行く紳士の前に花籠を差し出して高壓的に行く様な、姫御前も少くなかつた

矢島母子女史、は八ッ山に陣取り、小川町附近は駿河臺和英女學校の繩張り、茲は鳥渡景氣がよくないので、幹事先生氣を揉む事一通りでない、九段坂下の四谷浸禮教會連の中には七十の坂を越したお婆さん頻りに活動してゐた、幹事の久野久子さんは如才ない態度で盛に賣込む、昨夜應援の爲め態々横濱から御出張の高木すゞ子女史は東京驛前の廣場に根據を構へ奔走頗ぶる、努めてゐた尚島貫しか子女史は巢鴨根本正氏夫人は三越前から新橋際に懸けて夫れぞれ勢力範圍を定めて活動する、かくて買はれた二錢の小旗は市民の胸を飾り、帝都の景氣は更に一段の光彩を添へた、唯書入れ場所の日比谷須田町、淺草雷門杯は雜沓危險なりとて其筋のお許がなかつたのは至極遺憾とする所であつた

(十一月六日報知新聞)

旗の街灯の辻

奉送者の名残は日比谷の菊を中心として銀座通りから日本橋の大通りを湖の様に流れた

聖上御發聲奉送の爲め宮城から中央停車場に掛けては雲

霞の如き人の山で早きは前夜の十二時頃からゾロゾロ
と砂の道に露の置く隙なく押寄せた御發聲際には鍛
冶橋附近から見るとたゞ一面に眞黒な人で埋まつてゐる
拜觀に出掛けた人の中には此の光景に呑まれて途中から
引歸し大通の美しく飾られた市街に向つたものも少くな
い御發聲後は拜觀の人が雪崩を打つて四散したが

第一の賑ひは日比谷公園で銀座通り

から日本橋へ掛けての人出も却々多く街々意匠を凝らし
て飾られた中に三越呉服店を中心にした室町通の装飾は
殊に人目を惹いて群衆の足が止つた街の装飾は大抵垂幕
と萬歳旗を用ひてゐる室町四丁目は四ッ谷丸太の柱に注
連を張つて月桂冠に日蔭の葛を垂した神々しい飾り一丁
目は根付きの松の生木を街の兩側に植ゑて春日燈籠が點
いてゐるなど

常の街とはガラリと變つて異彩を放

つてゐる新橋附近では竹川町の菊が評判よく吉原の仲の
町へ行つた様だと話してゐる美人が有つた金六町河岸の
牛車大根河岸の積櫓は兩方の橋から眺めて美事で有るし
牛車の前などは人か山をなして居た

入雪崩は上野淺草へ

午後の淺草公園などは人波を打つて押すな／＼の混雜
賑ひは非常なもの

京都市幸の奉送團員が第一警戒線外に流れ出した頃四里
四方の八百八街はもう旗や花や幕張りに錦織なす美々し
い装ひを凝らしてゐる神田橋畔の奉送塔上の大地球儀が

綠葉に包まれて赤い電光飾で粉黛を施され別けても群を
誇り顔である獨り離れた奏樂堂も軒下に紅白の幔幕を絞
り上げ鏡形の銀色ボール紙に奉祝の文字を現はして吊し
柱には五色の經木モールが行儀よく飾られて電燈が燦と
して輝いて居る菊花壇は其數三十有餘霞篋で三面を圍ひ
辨慶格子の屋根の軒には紫の幔幕が純白の房で絞つて有
る煌々たる光の下に菊香は床しく人の心に通つて多くの
人は大波を寄するが如く次へ／＼とうねつてゆく午後九
時頃が最も混雜を極めたとして人の歩みは期せずして安
田善次郎翁培養の十三號に止つて了ふ

全市美裝

陛下の行幸を送り奉つた六日は市内各區に亘る奉祝準備
がすつかり出來て全市目覺める許りの華やかさである殊
に電光輝く夜景の眺めは一段の美を増してゐる各所の装
飾見るべきもの多い中でも有繫に新橋須田町間の本通が
何といつても一番凝つてゐる要所々々に建てる奉祝門や
市中の景氣を見物せんと集り來つた群衆夜に入つてより
一層夥しく八時半頃花電車の運轉を見ようと駆け集つた
群衆雜沓を極め熱する人いきれに女子供は酔はされさう
であつたかくて銀座通一帶は殆んど人で埋まり日本橋新
橋驛前の如きは通りも出來ぬ程の有様全く近年見ざる人
出であつた

昨日の市中

御發聲翌日の市中は朝來の雨氣に加へて冷氣を覺えたる
も日曜の事として市中は依然活氣を呈し二重橋より馬場先

旭光に映じ初めた時胸間に日の丸の小旗を閃めかした人
連の群が西へ東へ南へ北へゾロゾロ／＼と練り歩く

金モールを乗せた自動車馬車が飛んで

行く人々の顔には云ひ知れぬ喜びが溢れてゐる須田町附
近は連雀町の五色の幔幕絢爛に風にはためく萬歳旗や日
月旗が翻々と活々とした氣分を見せて來る電車も／＼人の
鈴生で萬世橋畔の奉祝塔の下を通る地方の小學生徒の一
隊は塔上の日月兩像を仰ぎ見て何やら先生の説明を聞い
て居る青黄赤三段の幔幕が散漫な屋竝を飾つた御成街道
から東黒門町の奉祝塔を見て上野附近へ出る火焔太鼓萬
歳旗日の丸旗の柱上には銀色の鈴が鮮やかに照り輝く上
野停車場から吐出さるゝ人々は

二つに振られて公園と淺草へ人波を打つ

街の装飾に見惚れて電車の鈴に仰天する地方人の群が三
々伍々淺草は正午頃には押すな／＼の大混雜御大典徽章
を餌に客を引く活動や御大典當込の連鎖劇が聲を限りに
人を呼ぶ花やしき觀音堂仲見世に到る所人波は全く素晴
らしい景氣であつた

夜の日比谷公園

(十一月七日東京毎日新聞)

六日夜の日比谷公園は菊花大會に依つて多くの人足を惹
いた孫の手を曳く切下髪のお婆睦まじげの若夫婦千姿萬
態の人波は其會場に充てられた正門内の運動場に轟々と
渦を巻いてゐる中央へ新に設へた大噴水の周囲は紅の色
迷る小菊や將た清楚な黄菊白菊で小高い土堤を築き汀に
は紅白の電球が水面に彩光を放つてる燈臺形の裝飾塔は

門附近は午前十時といふに最早數百名の群衆が顔集し日
比谷公園入口に到れば辻占に擬せる三十女の御大典記
念何々半額優待券を頒布しをるなど最も人目を惹き菊花
壇音樂堂附近は黒山の人で花園附近には妙齡の婦人が轟
轟と押掛け菊ダリヤの飽かぬ眺めに思ひ入つてゐる風情
よく數寄屋橋より銀座通に到れば何となく歡喜に充ち満
てるさま浮き立てり白木屋前より日本橋附近三越呉服店
前は殊更混雜を呈し右折して人形町通に廻れば芳町通の
山車小屋は裝飾全く成り今日を以つて山車を引き入れて
しまふさうである人形町の鈴木亭では芳町連が新曲の大
渡ひがあつて周囲は見物人の山其他淺草橋より雷門上野
など前日に劣らぬ活氣を呈してゐた(十一月八日新聞)

第五 御大禮

一 即位禮

イ 賢所大前儀紫宸殿儀及奉告

大正四年十一月十日、即位禮當日賢所大前ノ儀
及即位禮當日紫宸殿ノ儀、竝ニ即位禮當日皇靈
殿神殿ニ奉告ノ儀ヲ、孰モ御滞リナク行ハセラ
ル、

皇后陛下ハ、是日賢所大前ノ儀ニ、御代拜ヲ允子
内親王殿下ニ仰付ラル、

皇太子殿下ハ、是日賢所大前ノ儀ニ、御拜アラセ

ラレ、紫宸殿ノ儀ニ御參列アラセラル、
即位禮當日紫宸殿ノ儀ニ於テ、賜リタル勅語左
ノ如シ、

朕祖宗ノ遺烈ヲ承ケ惟神ノ寶祚ヲ踐ミ爰ニ
即位ノ禮ヲ行ヒ普ク爾臣民ニ誥ク

朕惟フニ皇祖皇宗國ヲ肇メ基ヲ建テ列聖統
ヲ紹キ裕ヲ垂レ天壤無窮ノ神勅ニ依リテ萬
世一系ノ帝位ヲ傳ヘ神器ヲ奉シテ八洲ニ臨
ミ皇化ヲ宣ヘテ蒼生ヲ撫ス爾臣民世世相繼
キ忠實公ニ奉ス義ハ則チ君臣ニシテ情ハ猶
ホ父子ノコトク以テ萬邦無比ノ國體ヲ成セ
リ

皇考維新ノ盛運ヲ啓キ開國ノ宏謨ヲ定メ祖
訓ヲ紹述シテ不磨ノ大典ヲ布キ皇圖ヲ恢弘
シテ曠古ノ偉業ヲ樹ツ聖德四表ニ光被シ仁
澤遐邇ニ霑洽ス

朕今不績ヲ續キ遺範ニ遵ヒ内ハ邦基ヲ固ク
シテ永ク磐石ノ安ヲ圖リ外ハ國交ヲ敦クシ
テ共ニ和平ノ慶ニ賴ラムトス朕力祖宗ニ負
フ所極メテ重シ祖宗ノ神靈照鑑上ニ在リ朕
夙夜兢業天職ヲ全クセムコトヲ期ス朕ハ爾

ノ智徳ヲ啓養シ産業ヲ殖興シテ厚生ノ道ヲ擴メ制度ヲ釐
革シテ庶政ノ規ヲ宏ニシ給フ是ニ於テ乎國家ノ綱紀廓如
トシテ光張シ邦運ノ旺盛駸駸トシテ止マズ

陛下 大統ヲ承ケ懿績ヲ續キ給ヒ

皇祖 皇宗暨 列聖ノ宏謨ニ遵ヒ丕基ヲ鞏固ニシ徳光ヲ
宣揚シテ天職ヲ全クセムトシ宵衣旰食 聖衷ヲ勞シ給フ
今大禮ノ吉辰ニ方リ明詔ヲ下シテ肇國ノ大本ヲ申明シ臣
子ノ恆道ヲ提誨シ給フ臣等感激已ム無シ
伏シテ見ミルニ

陛下 仁孝恭儉ノ天資ヲ以テ至隆ノ治ヲ圖リ給フ
皇祖 皇宗暨 列聖ノ神祐

陛下ノ聖躬ニ在リ皇業愈昌ニシテ徳澤益浹ク頌音四海ニ
洋溢セム臣等夙夜勤勉力ヲ戮セ心ヲ同クシ忠盡ノ節ヲ勵
マシ報効ノ誠ヲ竭シ以テ 聖旨ニ答ヘ奉ラムコトヲ誓フ
臣等幸ニ盛儀ニ班列シ瑞雲ノ鳳殿ヲ繞リ仁風ノ錦幃ヲ颺
スヲ望ミテ聳慶躍悅ノ至ニ任フル無シ臣等重信帝國臣民ニ
代リ恭シク大禮ヲ賀シ千萬歳ノ壽ヲ上ツル臣等重信誠懃誠
喜頓首頓首謹ミテ言ス

大正四年十一月十日

内閣總理大臣正二位勳一等伯爵 大隈 重信

附記

奉告勅使

侍從 子爵松浦 靖

即位禮當日皇靈殿神殿ニ奉告ノ爲勅使トシテ參向被仰

臣民ノ忠誠其ノ分ヲ守リ勵精其ノ業ニ從ヒ
以テ皇運ヲ扶翼スルコトヲ知ル庶幾クハ心
ヲ同クシ力ヲ戮セ倍々國光ヲ顯揚セムコト
ヲ爾臣民其レ克ク朕力意ヲ體セヨ
即位禮當日紫宸殿ノ儀ニ於テ、内閣總理大臣ハ
奏シタル壽詞左ノ如シ、

臣重信謹ミテ言ス伏シテ以ミルニ
陛下萬世一系ノ 寶祚ヲ踐ミ乾綱ヲ攬リテ坤維ヲ總ヘ爰
ニ天津高御座ニ昇御シ即位ノ大禮ヲ行ヒ給フ遠邁瞻仰シ
億兆并舞ス臣重信誠懃誠喜頓首頓首
伏シテ惟ミルニ

皇祖天壤無窮ノ神勅ヲ 皇孫ニ錫ヒテ八洲ニ君臨セシメ
三種ノ 神器ヲ親授シテ五部ノ神ヲ臣事セシメ給フ萬世
不易ノ 皇基確然トシテ爰ニ定マル
皇宗英武聖明

皇祖授國ノ 宸意ヲ體シ天業ヲ恢弘セムトシ皇師ヲ帥キ
テ中州ヲ平定シ 皇位ニ即キテ萬機ヲ親裁シ大ニ經綸ヲ
行ヒ洪範ヲ 後聖ニ胎シ給フ而シテ 皇孫ニ奉事セシ諸
部ノ子孫亦咸先志ヲ繼キテ皇謨ヲ翼贊ス億載一統ノ皇業
蔚爾トシテ維レ崇シ

先帝登極ノ初復古ノ廟策ヲ定メテ維新ノ皇圖ヲ啓キ開國
ノ鴻猷ヲ宣ヘテ萬邦ノ善長ヲ採リ藩封ノ舊制ヲ廢シテ一
途ノ治化ヲ施シ不磨ノ大典ヲ布キテ立憲ノ政授テ明ニシ
兵制ヲ建定シテ陸海ノ戎備ヲ嚴整シ文教ヲ闡敷シテ黎元

付(十一月宮内省)

(參考) 登極令附式摘抄

即位禮當日皇靈殿神殿ニ奉告ノ儀

- 當日何時御殿ヲ裝飾ス
- 時刻大禮使高等官著床
- 但シ服裝大禮服 白下 正裝正服關係諸員亦同シ
- 次ニ御座ヲ開ク
- 此ノ間神樂歌ヲ奏ス
- 次ニ神樂幣物ヲ供ス
- 此ノ間神樂歌ヲ奏ス
- 次ニ掌典次長祝詞ヲ奏ス
- 次ニ勅使(侍從) 拜禮御祭文ヲ奏ス
- 次ニ皇后宮使(女官) 拜禮
- 次ニ諸員拜禮
- 次ニ幣物神樂ヲ撤ス
- 此ノ間神樂歌ヲ奏ス
- 次ニ御座ヲ閉ク
- 此ノ間神樂歌ヲ奏ス
- 次ニ各退下
- 即位禮當日賢所大前ノ儀
- 當日早且御殿ヲ裝飾ス
- 其ノ儀本殿ノ儀與並壁代チ更メ内陣ノ中央ニ天皇ノ御座ヲ設ケ
設ケテ其ノ東方ニ皇后ノ御座ヲ設ケ
- 時刻建禮門及建春門ヲ開ク皇宮警備部之ヲ警固ス
- 時刻文武高官有爵者優遇者並ニ夫人及外國交際官並夫人朝集
所ニ參集ス
- 但シ服裝男子ハ大禮服 正裝正服關係諸員亦同シ
- 女子ハ大禮服關係諸員亦同シ
- 次ニ皇太子皇太子妃親王親王妃内親王王妃女官王女官參入

降ル
 次ニ内閣總理大臣萬歲萬歳ノ前ニ参進萬歳ヲ稱フ諸員之ニ和
 ス訖テ西階ヲ昇リ座ニ復ス
 次ニ天皇皇后入御
 警蹕出御ノ時ノ如シ
 次ニ鉦及鼓ヲ撃ツ
 次ニ各退下
 (注意)天皇擁護ニ在ルトキハ皇太后内親王等ハ御座内ニ御シ女官御帳外壇上西北隅ニ候ス皇太后ノ御服ハ
 皇后ニ同シ天皇未成年ナルトキハ攝政(皇太子)御帳外壇上東北
 隅ニ候シ内大臣ノ上座ニ就ク又勅詔ノ項ヲ攝政御帳ノ前
 ニ参進勅詔ヲ傳宣ス

〔参考〕大禮ノ要旨摘抄
 春興殿紫宸殿平面圖略解

御羽車合
 御羽車をいれ置く所御羽車は賢所を乗せ奉る御輿なり。
 神樂合
 神樂歌を奏する所。
 宜陽殿
 即位禮後一日御神樂を奉ずる所。
 春興殿にて御親祭を行はせらるるに先だち天皇皇后皇族の
 御座を更めたまふ所。
 合
 参列諸員の著席する所御輿合とは輿を繋りたる假合のことな
 り。
 紫宸殿の儀に参列する諸員殿上に著席するものを除くの著
 席する所。

恩赦及養老賑恤

(一) 恩 赦

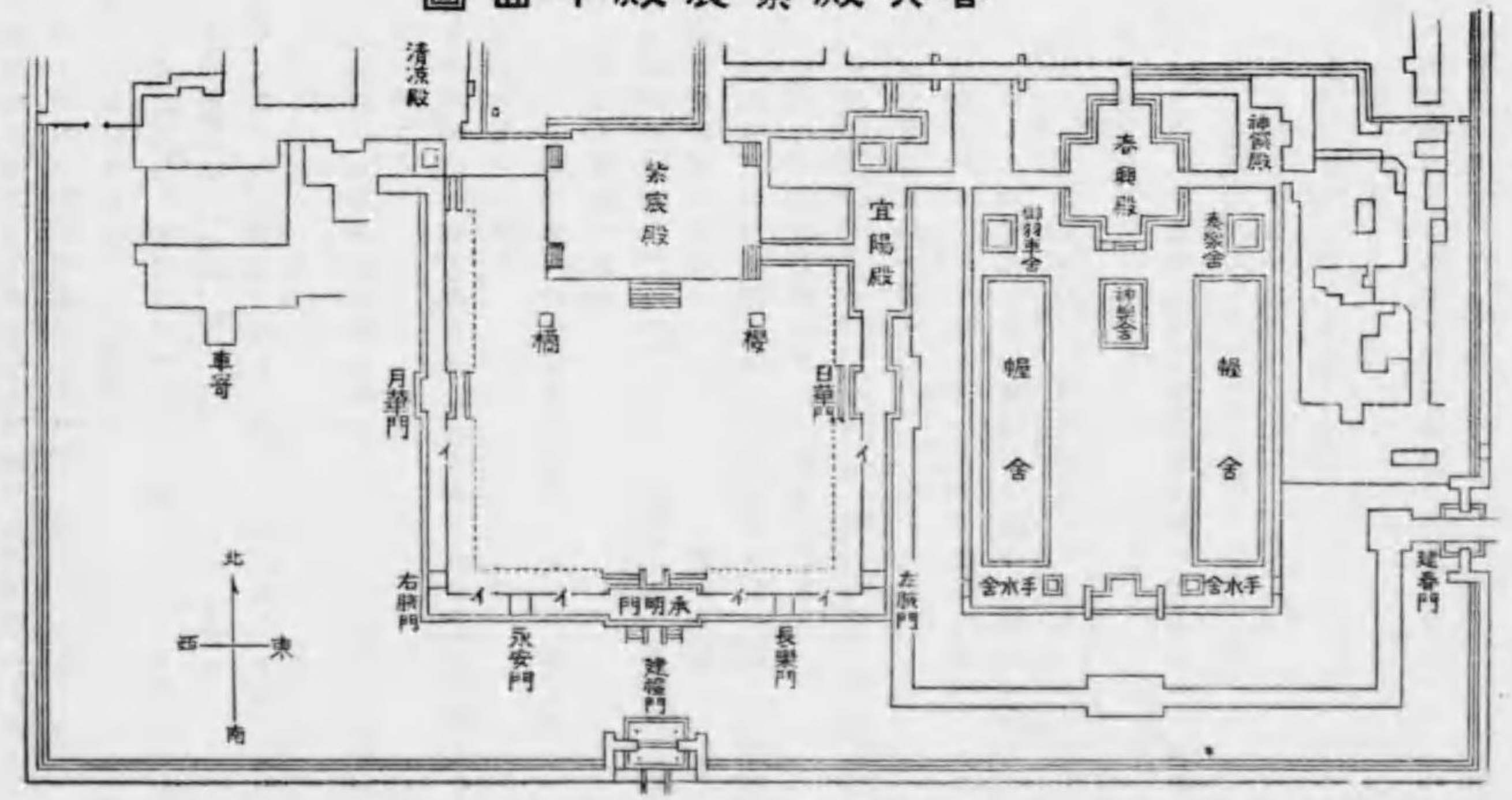
詔書
 朕大禮ヲ行フニ當リ普ク仁慈ヲ布キ以テ朕
 カ慶福ヲ頒タムコトヲ念ヒ特ニ有司ニ命シ
 テ恩赦ノ事ヲ行ハシム爾有衆其レ克ク朕カ
 意ヲ體セヨ

御名 御璽

大正四年十一月十日

- | | | |
|--------|----|-------|
| 内閣總理大臣 | 伯爵 | 大隈重信 |
| 陸軍大臣 | | 岡市之助 |
| 内務大臣 | 博士 | 一木喜徳郎 |
| 司法大臣 | | 尾崎行雄 |
| 大藏大臣 | | 武富時敏 |
| 農商務大臣 | | 河野廣中 |
| 海軍大臣 | | 加藤友三郎 |
| 遞信大臣 | | 箕浦勝人 |
| 文部大臣 | 博士 | 高田早苗 |
| 外務大臣 | 男爵 | 石井菊次郎 |

春興殿紫宸殿平面圖



御名 御璽

大正四年十一月十日

- | | | |
|--------|----|-------|
| 内閣總理大臣 | 伯爵 | 大隈重信 |
| 陸軍大臣 | | 岡市之助 |
| 内務大臣 | 博士 | 一木喜徳郎 |
| 司法大臣 | | 尾崎行雄 |
| 大藏大臣 | | 武富時敏 |
| 農商務大臣 | | 河野廣中 |
| 海軍大臣 | | 加藤友三郎 |
| 遞信大臣 | | 箕浦勝人 |
| 文部大臣 | 博士 | 高田早苗 |
| 外務大臣 | 男爵 | 石井菊次郎 |

勅令 第二百五號

勅令第二百五號
 第一條 大正四年十一月十日前刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ
 シテ其ノ執行前ニ係ルモノ刑ノ執行猶豫中執行中若ハ
 執行停止中ノモノ又ハ假出獄中ノモノハ本令ニ依リ其
 ノ刑ヲ減輕ス但シ其ノ執行ヲ遺ルル者ハ此ノ限ニ在ラス
 第二條 死刑ハ之ヲ無期懲役トス
 第三條 無期懲役ハ之ヲ有期懲役二十年トシ無期禁錮ハ

之ヲ有期禁錮二十年トス

第四條 有期ノ懲役又ハ禁錮ハ左ノ例ニ依ル

一 刑ノ執行ヲ始メサル者ニ付テハ刑期ノ四分ノ一ヲ減シタルモノトス

二 刑ノ執行ヲ始メタル者ニ付テハ殘刑期ノ二分ノ一ヲ減シタルモノトス

但シ其ノ執行刑期ノ二分ノ一ニ至ラサルトキハ前號ノ例ニ依ル

前項ノ計算ヲ爲スニ當リ年又ハ月ノ端數ヲ生スルトキハ一年ヲ十二月、一月ヲ三十日トシ日ノ端數ヲ生スルトキハ之ヲ除棄ス

第五條 舊法ノ刑ハ之ニ相當スル刑法ノ刑ノ例ニ依リ減輕ス

舊法ノ刑ヲ減輕シタルトキハ其刑名ハ之ニ相當スル刑法ノ刑名ニ變更ス

第六條 左ニ記載シタル罪ニ付テハ其ノ刑ヲ減輕セス

一 刑法第七十三條及第七十五條ノ罪

二 刑法第三百三十一條第二項ノ罪及其ノ未遂罪

三 刑法第八十一條ノ罪ノ中人ヲ死ニ致シタル罪

四 刑法第二百零五條ノ罪及其ノ未遂罪

五 刑法第二百零五條第二項ノ罪

六 刑法第二百零五條第二項ノ罪及其ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪

七 刑法第二百零五條第二項ノ罪又其ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷シタル罪

(11011)

八 刑法第二百四十條ノ罪ノ中人ヲ死ニ致シタル罪及

第二百四十一條ノ罪並其ノ未遂罪

九 軍機保護法第一條乃至第三條ノ罪及其ノ未遂罪

十 朝鮮臺灣又ハ關東州ニ行ハルル法令ノ罪ニシテ前

各號ニ記載シタル罪ト性質ヲ同クスルモノ

十一 前各號ニ記載シタル罪ト性質ヲ同クスル舊法ノ

罪

第七條 大正元年九月十三日ノ詔書ニ基キ大赦特赦減刑

ヲ得タル後罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者

ニ付テハ減刑ヲ爲サス

第九條 第六條ノ規定ニ依リ減刑ヲ爲ササル者ト雖特別

ノ事情アルトキハ減刑ヲ行フコトヲ得但シ第六條第一

號ニ記載シタル罪及之ト性質ヲ同クスル朝鮮臺灣若ハ

關東州ニ行ハルル法令又ハ舊法ノ罪ニ付テハ此ノ限ニ

在ラス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕懲戒又ハ懲罰ノ免除ニ關スル件ヲ裁可シ

茲ニ之ヲ公布セシム、

御名 御璽

大正四年十一月十日

內閣總理大臣 伯爵 大隈重信

陸軍大臣 岡市之助

大正四年十一月十日

內閣總理大臣 伯爵 大隈重信

陸軍大臣 岡市之助

內務大臣 博士 一木喜徳郎

司法大臣 尾崎行雄

大藏大臣 武富時敏

農商務大臣 河野廣中

海軍大臣 加藤友三郎

遞信大臣 箕浦勝人

文部大臣 博士 高田早苗

外務大臣 男爵 石井菊次郎

勅令第二百七號

官更又ハ官吏待遇者ニシテ大正四年十一月十日ノ所爲ニ付懲戒又ハ懲罰ノ處分ヲ受ケタル者ニ對シテハ將來ニ向テ其ノ懲戒又ハ懲罰ヲ免除ス未タ處分ヲ受ケサル者ニ對シテハ懲戒又ハ懲罰ヲ行ハス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

軍令

朕陸軍ニ於ケル懲罰ノ免除ニ關スル件ヲ制定シ之カ施行ヲ命ス、

御名 御璽

大正四年十一月十日

(11011)

之ヲ有期禁錮二十年トス

第四條 有期ノ懲役又ハ禁錮ハ左ノ例ニ依ル

一 刑ノ執行ヲ始メサル者ニ付テハ刑期ノ四分ノ一ヲ減シタルモノトス

二 刑ノ執行ヲ始メタル者ニ付テハ殘刑期ノ二分ノ一ヲ減シタルモノトス

但シ其ノ執行刑期ノ二分ノ一ニ至ラサルトキハ前號ノ例ニ依ル

第五條 舊法ノ刑ハ之ニ相當スル刑法ノ刑ノ例ニ依リ減輕ス

舊法ノ刑ヲ減輕シタルトキハ其刑名ハ之ニ相當スル刑法ノ刑名ニ變更ス

第六條 左ニ記載シタル罪ニ付テハ其ノ刑ヲ減輕セス

一 刑法第七十三條及第七十五條ノ罪

二 刑法第三百三十一條第二項ノ罪及其ノ未遂罪

三 刑法第八十一條ノ罪ノ中人ヲ死ニ致シタル罪

四 刑法第二百零五條ノ罪及其ノ未遂罪

五 刑法第二百零五條第二項ノ罪

六 刑法第二百零五條第二項ノ罪及其ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪

七 刑法第二百零五條第二項ノ罪又其ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷シタル罪

內務大臣 博士 一木喜徳郎
司法大臣 尾崎行雄
大藏大臣 武富時敏
農商務大臣 河野廣中
海軍大臣 加藤友三郎
遞信大臣 箕浦勝人
文部大臣 博士 高田早苗
外務大臣 男爵 石井菊次郎

勅令第二百六號

官更又ハ官吏待遇者ニシテ大正四年十一月十日ノ所爲ニ付懲戒又ハ懲罰ノ處分ヲ受ケタル者ニ對シテハ將來ニ向テ其ノ懲戒又ハ懲罰ヲ免除ス未タ處分ヲ受ケサル者ニ對シテハ懲戒又ハ懲罰ヲ行ハス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ施行ス

朕出納官吏辨償責任ノ免除ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

陸軍大臣 岡市之助

軍令陸第十五號

大禮ニ付特典ヲ以テ大正四年十一月十日所爲ニ關シ陸軍懲罰令ニ依リ懲罰ノ處分ヲ受ケ其ノ執行ヲ終リ若ハ免除セラレタル者其ノ執行中ノ者又ハ執行猶豫若ハ停止中ノ者ニ對シテハ將來ニ向テ其ノ懲罰ヲ免除ス未タ處分ヲ受ケサル者ニ對シテハ懲罰ヲ行ハス懲罰ニ基ク既成ノ效果ハ免除ニ因リ變更セラルルコトナシ

(二) 養老賑恤 其一 御沙汰

大正四年十一月十日、内閣總理大臣ニ對シテ左ノ御沙汰アラセラレ、養老ノ爲、木杯並酒肴料、賑恤ノ爲、金百萬圓ヲ下賜ハリタルヲ以テ、宮内大臣之ヲ内閣總理大臣ニ移シテ施行セシメタリ、

御沙汰 養ヲ存シ譽ヲ問フハ人ニ孝ヲ教フル所以ナリ惠ヲ敷キ恩ヲ垂ルルハ民ノ乏キヲ濟フヨリ先ナルハナシ茲ニ登極ノ初メニ方リ祖宗ノ遺範ヲ紹述シテ養老賑恤ノ典ヲ行フ其レ有司ニ諭シテ朕カ意ヲ宣布セシメヨ

其二 養老

内閣告示第六號

東京府武藏國東京市麴町區永田町鎮座 右官幣大社ニ列セラルル旨被 仰出 大正四年十一月十日

- 是日東京府内ノ人ニシテ叙任セラレタル者左ノ如シ、 贈正四位 故 林 又三郎 贈從四位 故 北村 久助 贈從四位 故 林 衛 贈從四位 故 古賀 彌助 贈從四位 故 尾藤 孝肇 贈從四位 故 佐藤 捨藏 贈從四位 故 安積 祐助 贈從四位 故 小泉 八雲 贈正五位 故 法學博士 田口 卯吉 贈正五位 故 法學博士 岩瀬 修理 贈正五位 故 淺野金之丞 贈正五位 故 平塚 利助 贈正五位 故 朝川 鼎 贈正五位 故 鹽谷 甲藏 贈正五位 故 宇田川 榕 贈正五位 故 中根丈右衛門 贈正五位 故 林伊三郎 贈從五位 故 井上省三 贈從五位 故 藤井 九成 贈從五位 故 荒尾 精

今般養老ノ儀ニ付御下賜アラセラレタル木杯並酒肴料類 賜左ノ如シ

- 三組木杯 壹組 酒肴料金壹圓五拾錢 右百歳以上ノ者 木杯 壹個 酒肴料金壹圓 右九十歳以上ノ者 木杯 壹個 酒肴料金五拾錢 右八十歳以上ノ者

大正四年十一月十日

内閣總理大臣伯爵 大隈 重信

其三 賑恤

内閣告示第七號

今般賑恤ノ資トシテ御下賜アラセラレタル金百萬圓類 額左ノ如シ

東京府 金四萬參千參百圓(附後) 大正四年十一月十日

内閣總理大臣伯爵 大隈 重信

附記

昇格及贈叙位

内務省告示第七十五號(編抄) 一官幣中社日枝神社

- 贈從五位 故 跡部 良顯 贈從五位 故 青地 林宗 贈從五位 故 田中 平八 贈從五位 故 石出掃部介 贈從五位 故 田中 兵庫 贈從五位 故 三野村利左衛門 贈從五位 故 井澤彌惣兵衛 贈從四位 故 近藤 康平 從五位勳一等男爵 安田善次郎 正六位勳二等 三井元之助 從五位 淺野總一郎 勳四等 池田 謙三 勳三等 高田 慎藏 勳三等 益田 孝 勳三等 加藤 正義 正六位 日比谷平左衛門 勳四等 佐々木勇之助 工學博士 服部金太郎 工學博士 南部 球吾 工學博士 近藤陸三郎 馬越 恭平 大橋新太郎 阿部 泰藏 和田 豊治 藤山 雷太 叙正六位 叙正六位 叙正六位 叙從五位 叙從五位 叙從五位 叙從五位 叙從五位 叙從五位 叙從五位 叙從五位 叙正五位 叙正五位 叙正五位 叙正五位 叙正五位 叙正五位 叙正五位 叙正五位 叙正六位 叙正六位 叙正六位 叙正六位

叙旭日大綬章 從三位勳一等男爵 澁澤榮一
叙旭日大綬章

叙勳一等授瑞寶章 正三位勳一等法學博士 奥田義人

叙勳三等授旭日中綬章 正三位勳二等醫學博士男爵 高木兼寛

叙勳三等授旭日中綬章 從五位勳四等子爵 三島彌太郎

叙勳三等授旭日中綬章 正七位勳四等 中野武營

叙勳三等授瑞寶章 從四位勳四等 豐川良平

叙勳三等授瑞寶章 勳四等 志村源太郎

叙勳三等授瑞寶章 勳四等 江原素六

叙勳三等授瑞寶章 法學博士 鎌田榮吉

叙勳三等授瑞寶章 從四位男爵 天野爲之

叙勳四等授旭日小綬章 勳五等 岩崎小彌太

叙勳五等授瑞寶章 從六位 井上準之助

叙勳五等授瑞寶章 從六位 齋藤秀三郎

叙勳五等授瑞寶章 從六位 井深掘之助

叙勳五等授瑞寶章 從六位 元田作之進

叙勳六等授瑞寶章 從六位 成瀬仁藏

叙勳六等授瑞寶章 從六位 宮川保全

叙勳五等授瑞寶章 從六位 津田梅子

叙勳五等授瑞寶章 從六位 山脇房

叙勳五等授瑞寶章 從六位 嘉悦孝

叙勳五等授瑞寶章

岡山縣阿哲郡本郷村 山室軍平

夙ニ慈善ノ志厚ク曾テ救世軍ノ本部ニ布教所ヲ設ケルニ方リ之
レニ加入シ爾來同軍事業ノ普及ニ力ヲ盡シ勞作館ヲ設立シテ免
因テ保護シ東京婦人ホームヲ創立シテ婦女ノ救済ニ力メ或ハ各
所ニ労働寄宿舎ヲ設ケテ失職者ヲ救ヒ救世軍病院ヲ開設シテ施
療ニ力ヲ竭シ其他愛憐館ヲ興シテ賑恤ニ勵ミ又大阪ニ希望館開
東洲大連ニ育兒及婦人ホームヲ設置シタルカ如キ皆其企劃經營
ニ因ラサルナリ今ヤ救世軍日本本部ノ經營スル救済事業十種ヲ
以テ數フルノ盛況ヲ見ルニ至ラシム身ヲ同軍ニ投シテヨリ已ニ
二十年當ニ至誠ヲ以テ終始シ熱烈至情ノ進ル所遂ニ無頼ノ徒ヲ
シテ悔悟セシメ窮乏ノ輩ヲ救済シタルコト其數ヲ知ラス洵ニ公
衆ノ利益ヲ興シ成績著明ナリトス依テ明治十四年十二月七日勅
定ノ褒獎章ヲ賜ヒ其善行ヲ表彰セラル

十二月十六日下賜

從三位侯爵 徳川頼倫

夙ニ歐米ヲ漫遊シ各地ノ圖書館ヲ歴覽シテ深ク感スル所アリ其
歸朝スルヤ家藏ノ書籍ヲ整理シ明治三十二年邸内ニ書庫ヲ建設
シテ南英文庫ト稱シ洽ク特志者ノ閱覽ニ便シ爾來益々事業ヲ擴
張シ今ヤ收藏圖書八萬七千餘卷一歳ノ閱覽人壹萬七千餘ヲ算ス
ルニ至ル又毎月諸名士ヲ南英文庫ニ招聘シ學術講話會ヲ開キ或
ハ南英育英會總裁トシテ熱心善善子弟ノ教育ニ努メ又史蹟名勝
天然記念物保存協會奈良大極殿址保存會其他各種ノ公益慈善事
業ニ力ヲ盡シ爲メニ私費ヲ費スコト渺カラス洵ニ公衆ノ利益ヲ
興シ成績著明ナリトス依テ明治十四年十二月七日勅定ノ褒獎
章ヲ賜ヒ其善行ヲ表彰セラル

十二月二十六日下賜

東京府士族 原胤昭

夙ニ出獄人保護救済ノ方法ヲ講スルノ急務ナルヲ感得シ私財ヲ
投シテ之レカ救済ニ力メ明治三十年東京出獄人保護所ヲ設置シ

(三〇六)

叙勳五等授賞冠章 矢島楫

叙勳四等授瑞寶章 從六位 佐藤志津

叙勳六等授瑞寶章 從六位 杉浦重剛

叙勳六等授瑞寶章 十二月一日 星野錫

依勳功特授男爵 從四位勳四等 三井高保

依勳功特授男爵 正五位勳二等 大倉喜八郎

依勳功特授男爵 勳三等 古河虎之助

叙勳四等授瑞寶章 勳四等 森村市左衛門

大正五年一月四日 從七位 湯本武比古

叙正五位 從五位勳三等 早川千吉郎

叙正六位 勳五等 末延道成

叙正六位 勳五等 福原有信

授旭日小綬章 勳四等 志立鐵次郎

褒賞十一月九日下賜 從七位 留岡幸助

夙ニ慈善ノ志厚ク曾テ救世軍ノ本部ニ布教所ヲ設ケルニ方リ之
レニ加入シ爾來同軍事業ノ普及ニ力ヲ盡シ勞作館ヲ設立シテ免
因テ保護シ東京婦人ホームヲ創立シテ婦女ノ救済ニ力メ或ハ各
所ニ労働寄宿舎ヲ設ケテ失職者ヲ救ヒ救世軍病院ヲ開設シテ施
療ニ力ヲ竭シ其他愛憐館ヲ興シテ賑恤ニ勵ミ又大阪ニ希望館開
東洲大連ニ育兒及婦人ホームヲ設置シタルカ如キ皆其企劃經營
ニ因ラサルナリ今ヤ救世軍日本本部ノ經營スル救済事業十種ヲ
以テ數フルノ盛況ヲ見ルニ至ラシム身ヲ同軍ニ投シテヨリ已ニ
二十年當ニ至誠ヲ以テ終始シ熱烈至情ノ進ル所遂ニ無頼ノ徒ヲ
シテ悔悟セシメ窮乏ノ輩ヲ救済シタルコト其數ヲ知ラス洵ニ公
衆ノ利益ヲ興シ成績著明ナリトス依テ明治十四年十二月七日勅
定ノ褒獎章ヲ賜ヒ其善行ヲ表彰セラル

大正五年二月三日下賜

神奈川縣三浦郡葉山村 鈴木三郎助

自ラ主管ノ任ニ膺リ銳意熱心之レカ維持經營ニ盡精シ設立以來
收容シタル者三千七百七十餘人ノ内既ニ感化進善ノ效著リ成績
佳良ノ者其十分ノ七ヲ占ムルニ至ル又英和女學校ヲ起シテ女子
ノ教育ヲ興メ其他各種ノ慈善事業ニ努力シタル等洵ニ公衆ノ利
益ヲ興シ成績著明ナリトス依テ明治十四年十二月七日勅定ノ
褒獎章ヲ賜ヒ其善行ヲ表彰セラル

二月十二日下賜

東京府士族 市原求

夙ニ亡父ノ遺志ヲ繼キ嚮業ニ從事シ廣ク歐米ノ事物ヲ
研究シテ消防用蒸汽唧筒ヲ創製シ以テ外品ノ輸入ヲ防遏シ又ガ
ソリンポンプノ完全ナラサルヲ憂ヘ指撥研鑽遂ニ良品ヲ製出シ
爾來益々事業ノ發展ヲ圖リ其製作スル各種唧筒ハ實ニ内地ニ需
要セラルルノミナラス支那朝鮮方面ニ輸送スルニ至ル其他多年
市會議員區會議員等ニ舉ケラレテ其職責ヲ盡ス洵ニ實業ニ精
勵シ衆民ノ模範タル者トス依テ明治十四年十二月七日勅定ノ
褒獎章ヲ賜ヒ其善行ヲ表彰セラル

二月十五日下賜

(三〇七)

(參考) 登極令附則摘抄

即位禮後一日賢所御神樂ノ儀

- 當日何時御殿ヲ裝飾ス
- 時刻文武高官有爵者優遇者並夫人朝集所ニ參集ス
- 但シ服裝賢所ニ期日奉告ノ儀ニ同シ
- 次ニ皇太子皇太子妃親王親王妃内親王王王妃女王宜陽殿ニ參入ス
- 次ニ天皇皇后宜陽殿ニ渡御
- 次ニ大禮使高等官前幕諸員參進本位ニ就ク
- 次ニ御原ヲ開ク
- 此ノ間神樂歌ヲ奏ス
- 次ニ神樂幣物ヲ供ス
- 此ノ間神樂歌ヲ奏ス
- 次ニ掌典長祝詞ヲ奏ス
- 次ニ天皇出御
- 式部長官宮内大臣前行シ侍從御座ヲ奉シ侍從長侍從侍武官長侍從武官御後ニ候シ皇太子親王王内大臣大禮使長官供奉ス
- 次ニ皇后出御
- 式部次官皇后宮大夫前行シ女官御後ニ候シ皇太子妃親王妃内親王妃女王大禮使次官供奉ス
- 次ニ天皇内陣ノ御座ニ著御侍從御座ヲ案上ニ奉安ス
- 次ニ天皇御拜禮
- 次ニ皇后御拜禮
- 次ニ皇太子皇太子妃親王親王妃内親王王王妃女王拜禮
- 次ニ天皇皇后入御
- 供奉出御ノ時ノ如シ
- 次ニ諸員拜禮

東京府士族 野村宗十郎

資性濃厚夙ニ心ヲ印刷事業ニ傾ケ明治二十二年東京築地活版製
造所ニ聘セラレ爾來果進シテ事務取締役社長ニ舉ケラル常ニ活
字ノ改良及印刷術ヲ講究シ途ニゴイント式活字數種ヲ創造シ又
假名附ゴイント活字ヲ製作シ之レカ販路ノ擴張ヲ圖リ今十各
新聞社ヲ始メトシ活字出版界ノ使用スル所トナリ我邦文運ノ隆
興ヲ裨補スルコト尠カラズ洵ニ公衆ノ利益ヲ興シ成績著明ナリ
トス依テ明治十四年十二月七日勅定ノ藍綬褒章ヲ賜ヒ其善行ヲ
表彰セラル

二月二十日下賜

東京府士族 植村澄三郎

資性廉直夙ニ心ヲ國產ノ發達ニ致シ明治二十七年札幌麥酒株式
會社取締役ニ舉ケラルル當時麥酒ノ原料タル大麥ハ專ラ外國
產ヲ實用スルノ狀況ナリシヲ慨シ率先北海道產大麥ヲ用テ極メ
テ良品ヲ產出シ後同業三社合同シテ大日本麥酒株式會社ノ成立
スルニ及ヒテ當務取締役ト爲リ銳意事業ノ擴張ヲ圖リ今ハ釀造
高益々増加シ海外ニ輸出スルノ盛況ヲ見ルニ至ル又獎勵法ヲ講
シテ麥作ノ改良ヲ勸メ或ハ醋酸砂糖肥料藥品等ノ製造事業ニ力
ヲ竭シ且少同志ト齊謀リ十勝開墾合資會社ヲ創設シテ北海道ノ
開拓ニ努ムル等洵ニ實業ニ精勵シ衆民ノ模範タル者トス依テ明
治十四年十二月七日勅定ノ藍綬褒章ヲ賜ヒ其善行ヲ表彰セラル

賢所御神樂

大正四年十一月十一日、即位禮後一日賢所御神
樂ノ儀ヲ行ハセラル、天皇陛下ハ、午前十時京
都皇宮御出門、大宮御所ニ臨御、同十一時三十分
還御アラセラレタリ、
賢所御神樂ノ儀ニ、皇后陛下御代拜ヲ允子内
親王殿下ニ仰付ラル、

次ニ幣物神樂ヲ奏ス
此ノ間神樂歌ヲ奏ス
次ニ御原ヲ開ク
此ノ間神樂歌ヲ奏ス
次ニ各退下

東宮還啓

皇太子殿下ハ、御豫定ノ如ク、十一月十二日午前
七時三十分二條離宮御出門、同八時十分京都停
車場御發車、午後三時五十分靜岡停車場御著
車、同四時五分靜岡御用邸ニ御安著アラセラレ、
十三日午前七時五十分靜岡御用邸御出門、同
八時靜岡停車場御發車、午後一時二十五分東京
停車場御著車、同一時五十分還御アラセラル、
此日助役高橋要治郎同停車場ニ於テ奉迎ス、

大嘗祭

勅使發遣

大正四年十一月十二日、神宮皇靈殿神殿ニ勅使
發遣ノ儀ヲ行ハセラル、

附記

勅使

掌典 久我通保
男爵
大嘗祭當日神宮ニ奉幣ノ爲勅使トシテ參向被仰付
侍從 日根野要吉郎

大嘗祭當日皇靈殿神殿ニ奉幣ノ爲勅使トシテ參向被仰
付

東京府知事法學博士 井上友一

(外一總督二廳長官四十四知事略)

大嘗祭當日奉幣ノ爲勅使トシテ其ノ管内官國幣社へ
參向被仰付(以上十一月宮内省)

御禊大祓

十一月十二日、大嘗祭前二日御禊ノ儀、及大嘗祭
前二日大祓ノ儀ヲ行ハセラル、

鎮祭鎮魂

十一月十三日、大嘗祭前一日大嘗宮鎮祭ノ儀、及
大嘗祭前一日鎮魂ノ儀ヲ行ハセラル、

奉幣大御饌供進及大嘗宮儀

十一月十四日、御滯リナク、大嘗祭當日神宮ニ奉
幣ノ儀、大嘗祭當日皇靈殿神殿ニ奉幣ノ儀、大嘗
祭當日賢所大御饌供進ノ儀ヲ行ハセラル、
天皇陛下ハ、是日大嘗宮ノ儀ニ依リ、午後四時三
十三分京都皇宮御出門、同三十八分大嘗宮内頓
宮ニ著御アラセラレ、十五日午前五時五十八分
頓宮御出門、同六時二分京都皇宮ニ還御アラセ
ラル、

俗歌ノ屏風西北隅ニ主基地方風俗歌ノ屏風ヲ立ツ母屋ノ四面ニ壁代ヲ作リ之ヲ奉ケ其ノ中央ニ天皇ノ御座ヲ置キ東方ニ皇后ノ御座ヲ置キ各御椅子並御臺ヲ立ツ南東西三廂ノ周圍ニ青簾ヲ懸ケ之ヲ奉ケ其ノ内ニ諸員陪宴ノ第一座ヲ設ケ床子並臺盤ヲ立ツ顯陽承觀德明義各堂ノ後面ニ經緯帳障ヲ設ケ前面ニ青簾ヲ懸ケ之ヲ奉ケ其ノ内ニ諸員陪宴ノ第二座ヲ分設シ床子並臺盤ヲ立ツ南庭ノ中央ニ舞臺ヲ構ヘ其ノ東南隅ニ樂官ノ帳ヲ設ケ

時刻文武高官有爵者優遇者並夫人及外國交際官並夫人朝集所ニ參集ス

但シ服裝即位禮當日實所大前ノ儀ニ同シ各地ニ於テ擬儀ヲ賜フヘキ者亦同シ

次ニ儀禮進奉承秋嘉樂高陽ノ各門ヲ開ク皇宮警備部之ヲ警固ス

次ニ大禮使高等官前導諸員殿上ノ廂又ハ顯陽承觀德明義ノ各堂ノ各堂ニ參進スル者ノニ參進スル者ハ各門ヨリ入り東階ノ各門ヨリ入り各門ヨリ入り各其ノ本位ニ就ク

次ニ式部官警備ヲ稱フ

次ニ天皇御座出御

式部長官宮内大臣前行シ侍從御座ヲ奉シ侍從長侍從侍武官長侍從武官御後ニ候シ皇太子親王王内大臣大禮使長官供奉ス

次ニ皇后御座ニ著御

次ニ供奉員各本位ニ就ク

次ニ勅語アリ

次ニ内閣總理大臣奉對ス

次ニ外國交際官首席者奉對ス

次ニ天皇皇后ニ白酒黒酒ヲ供ス官儀禮女

次ニ諸員ニ白酒黒酒ヲ賜フ

次ニ式部長官悠紀主基兩地方獻物ノ色日ヲ奏ス

此ノ時兩地方ノ獻物ヲ南榮ニ排列ス御座人

次ニ天皇皇后ニ御膳並御酒ヲ供ス官儀禮女

次ニ諸員ニ膳並酒ヲ賜フ

次ニ久米舞ヲ奏ス

次ニ天皇皇后ニ御禮物ヲ益供ス官儀禮女

次ニ諸員ニ御禮物ヲ益賜ス

次ニ悠紀主基兩地方ノ風俗ヲ奏ス

次ニ大歌及五節舞ヲ奏ス

次ニ天皇皇后ニ揮筆ヲ供ス官儀禮女

次ニ諸員ニ揮筆ヲ賜フ

次ニ天皇皇后入御

供奉警備出御ノ時ノ如シ

次ニ各退下

當日文武高官有爵者優遇者並夫人ニシテ召サレラル者ニハ各其ノ所在地ニ於テ擬儀ヲ賜フ但シ擬儀ヲ賜フヘキ者ノ範圍及其ノ場所ハ時ニ臨ミ之ヲ定ム

(注意)天皇未成年ナルトキハ勅語ノ項ヲ攝政御座ノ前面ニ參進シ東方ニ侍立シ勅語ヲ傳宣ストス

大嘗祭ハ大嘗宮にて行はせらる。大嘗宮は御祭毎に新に建てさせらるるものにして、今回は京都皇宮の仙洞御所址に建てさせらる。大嘗宮は悠紀殿と主基殿とをいひ、東西に並び建てらる。御柱は皮付の松の木、御屋は茅葺にて築垣を廻らしたる上古のまゝの質樸なる御建物のなり。

當日、夜に入りて、悠紀殿供儀の儀あり、天皇親立殿にて御浴あり、御祭服に改めさせたまひて、悠紀殿に渡御あり、悠紀齋田の米にて造りたる御飯、御酒を初め種々のものを、御親ら皇祖天照大神を初め天神地祇に供へたまひ、御親らもきこしめす、悠紀殿の御祭終りて、親立殿に還御あり、夜中過ぐる頃主基殿供儀の儀あり、天皇更に御湯浴あらせられ、御祭服にて、主基殿に渡御あり、悠紀殿と同様の御祭を行はせたまひ、曉に及びて終る。

神宮皇靈殿、神殿及び全國の官國幣社へは、勅使をして當日幣物を奉らしめたまひ、實所には神饗を供へ奉らしめたまふ。

〔參考〕 大禮の要旨摘抄

大嘗祭

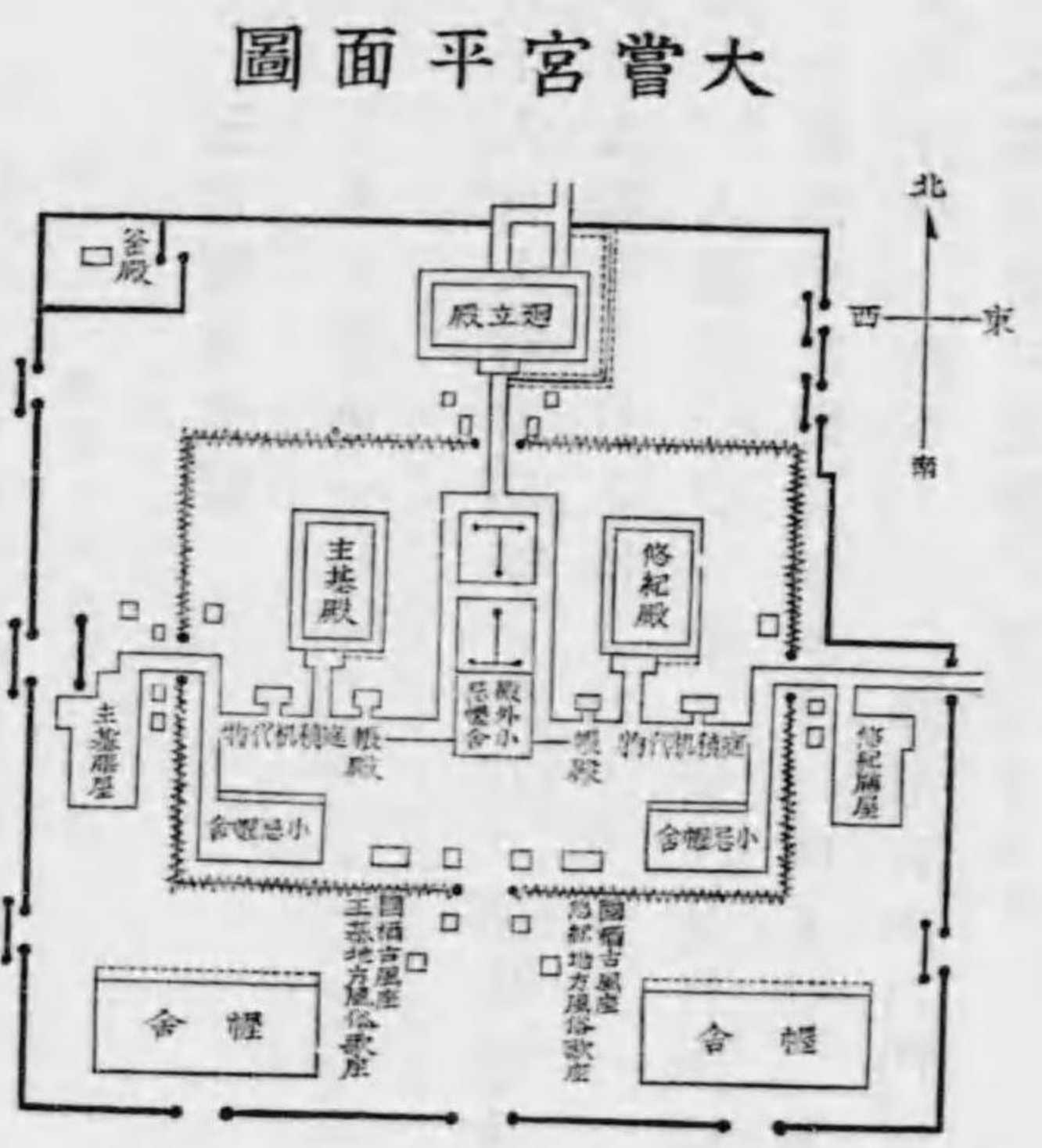
大嘗祭ハ大嘗宮にて行はせらる。大嘗宮は御祭毎に新に建てさせらるるものにして、今回は京都皇宮の仙洞御所址に建てさせらる。大嘗宮は悠紀殿と主基殿とをいひ、東西に並び建てらる。御柱は皮付の松の木、御屋は茅葺にて築垣を廻らしたる上古のまゝの質樸なる御建物のなり。

當日、夜に入りて、悠紀殿供儀の儀あり、天皇親立殿にて御浴あり、御祭服に改めさせたまひて、悠紀殿に渡御あり、悠紀齋田の米にて造りたる御飯、御酒を初め種々のものを、御親ら皇祖天照大神を初め天神地祇に供へたまひ、御親らもきこしめす、悠紀殿の御祭終りて、親立殿に還御あり、夜中過ぐる頃主基殿供儀の儀あり、天皇更に御湯浴あらせられ、御祭服にて、主基殿に渡御あり、悠紀殿と同様の御祭を行はせたまひ、曉に及びて終る。

神宮皇靈殿、神殿及び全國の官國幣社へは、勅使をして當日幣物を奉らしめたまひ、實所には神饗を供へ奉らしめたまふ。

大嘗宮平面圖略解

親立殿 御親祭に先立ちて御湯浴あらせられ、御祭服に更めたまふ所。皇后も此の所にて御服をかへさせたまふ。親立殿といふは、此の御殿より悠紀殿に渡御し、一旦ここに還御ありて更に主基殿に渡御し、又ここに還御せさせたまふに由る。



大嘗宮平面圖

親立殿にて御湯浴に用ひさせたまふ御湯を沸す所、帳殿 皇后御拜禮の所、帳殿とは帳を垂れたる御殿の義なり、小忌帳合 供奉諸員の著席する所、小忌とは潔斎のことなり、殿外小忌帳合 皇后供奉諸員の著席する所、庭積机代物 各地方の物産にして庭上の机に積上げて供進せらるるもの、

附記

紫宸殿並大嘗宮拜觀

大正四年十一月十六日官報、號外大禮使彙報、左ノ如シ、

紫宸殿並大嘗宮拜觀 京都ニ於ケル大禮ノ各儀ノ何レカニ召サレタル者ニ對シ、明十七日午前九時ヨリ午後二時マテ及本月十九日午前十時ヨリ午後四時マテノ間、紫宸殿及大嘗宮拜觀差許サル

注意

一 服裝 男子ハ通常服(スル制) 女子ハ通常服又ハ白襟紋附

一 順路 宜秋門ヲ入り御車寄前ヲ東へ月華門ヲ入り庭上料ニ左へ紫宸殿西階ヲ昇リ南階ノ上ニ出テ

テ高御座及御帳臺ヲ拜シ順次東階ヲ降リ日華門ヲ經テ建春門ニ出ツ

大宮御所正門内右へ大嘗宮通用門ヲ入り廻立殿庭上ヲ經テ順路悠紀殿及主基殿ヲ拜シ南面神門南板垣門ヲ過キ朝集所ヲ觀テ仙洞御所正門ニ出ツ

一名刺 大禮ノ各儀ノ何レカニ召サレタル資格ヲ記入シアル名刺ヲ持參シ宜秋門竝大宮御所正門ニ入ルトキ掛員ニ交付スルコト

三大饗及夜宴

イ大饗第一日

十一月十六日、大嘗宮鎮祭ノ儀竝ニ即位禮後及大嘗祭後大饗第一日ノ儀ヲ行ハセラル、天皇陛下ハ、大饗第一日ノ儀ニ依リ、是日午前十時五十分京都皇宮御發輦、同十一時五分二條離宮ニ著御、午後一時五十分二條離宮御出門、同二時五分京都皇宮ニ還御アラセラル、即位禮及大嘗祭後大饗第一日ノ儀ニ於テ賜ハリタル勅語、左ノ如シ、
朕大禮ノ典儀ヲ舉行シ爰ニ饗宴ヲ開キ各國代表者竝ニ諸大臣等ト歡ヲ共ニスルコトヲ得ルハ朕ノ太タ喜悅スル所ナリ茲ニ友邦ノ

君主及大統領ノ健康ヲ祝シ併セテ交際ノ益親密ナラムコトヲ望ム

内閣總理大臣奉對

大禮ノ盛儀ヲ舉行セラルルニ方リ群臣ヲ召シテ大饗ノ御宴ヲ開カセラレ優渥ナル勅語ヲ賜フ 天恩涯ナク臣等感激ノ至ニ堪ヘス臣等重信群臣ニ代リ恭シク寵眷ノ厚キヲ拜謝シ敬テ 寶祚ノ無窮ヲ祝シ 聖壽ノ無疆ヲ祈リ奉ル

外國交際官首席者奉對譯文

外臣ハ茲ニ列席セル外國代表者ノ名ニ於テ外交團ニ賜ハリタル優渥ナル勅語ニ對シ深甚ナル感謝ヲ奉呈スルノ光榮ヲ有ス惟フニ帝國友邦ノ君主及ヒ元首ニ於テ該勅語ニ對シ深ク満足セラルヘキハ疑ヲ容レサル所ナリ
陛下カ皇祚ヲ踐セラルルカ爲メ大典ヲ舉行セラルルニ方リ外交團ハ謹テ茲ニ至敬ナル祝詞ヲ陳奏シ併セテ衷心ヨリ 陛下 皇后陛下、親王、内親王、王、女王各殿下ノ福祉健康ヲ祈ル外交團ハ帝國ノ利益、帝國民ノ幸福竝ニ帝國ト愛ニ表代セラルル各國トノ間ニ存スル親好關係ノ爲メ 陛下御宇ノ永ク隆盛多社ナラムコトヲ切ニ冀フ

大饗第二日及夜宴

十一月十七日、即位禮及大嘗祭後大饗第二日ノ儀ヲ行ハセラル、又大嘗祭後大饗夜宴ノ儀ヲ行ハセラル、
天皇陛下ハ、大饗第二日ノ儀及大饗夜宴ノ儀ニ

依リ、是日午後四時五十分京都皇宮御發輦、同五時十分二條離宮ニ著御、十八日午前零時三十分二條離宮御出門、同五十分京都皇宮ニ還御アラセラル、

(參考) 登極令附式摘抄

- 即位禮及大嘗祭後大饗第二日ノ儀
- 當日何時文武高官有爵者優遇者並夫人及外國交際官並夫人二條離宮内ノ朝集所ニ參集ス
- 但シ服裝大饗第一日ノ儀ニ同シ
- 次ニ皇太子皇太子妃親王親王妃内親王王王妃女王二條離宮ニ參著ス
- 次ニ天皇皇后二條離宮ニ行幸啓
- 次ニ大禮使高等官前導諸員正裝ニ參進本位ニ就ク
- 次ニ天皇御正皇后御出御
- 武部長官宮内大臣前行シ侍從長侍從武官長侍從武官皇后宮大夫女官御後ニ候シ皇太子皇太子妃親王親王妃内親王王王妃女王大禮使長官供奉ス
- 次ニ天皇皇后御座ニ著御
- 次ニ陪宴スヘキ供奉員本位ニ就ク
- 次ニ陪宴
- 此ノ間奏樂
- 次ニ天皇皇后入御
- 供奉出御ノ時ノ如シ
- 次ニ各退下
- 即位禮及大嘗祭後大饗夜宴ノ儀
- 時刻文武高官有爵者優遇者並夫人及外國交際官並夫人二條離宮内ノ朝集所ニ參集ス
- 但シ服裝夜宴朝見ノ儀ニ同シ
- 次ニ大禮使高等官前導諸員正裝ニ參進本位ニ就ク
- 次ニ天皇御正皇后御出御

- 武部長官宮内大臣前行シ侍從長侍從武官長侍從武官皇后宮大夫女官御後ニ候シ皇太子皇太子妃親王親王妃内親王王妃女王大禮使長官供奉ス
- 次ニ舞樂
- 次ニ陪宴
- 此ノ間奏樂
- 次ニ天皇皇后入御
- 供奉出御ノ時ノ如シ
- 次ニ各退下

四神宮御親謁

イ伊勢行幸

天皇陛下ハ、御豫定ノ如ク、十一月十九日午前八時三十分京都皇宮御發輦、同九時京都停車場御發車、午後一時四十五分山田停車場御著車、同二時二十分宇治山田行在所ニ御安著遊ハサル、

御親謁

十一月二十日二十一日、御滯リナク、即位禮及大嘗祭後神宮ニ御親謁ノ儀ヲ行ハセラル、
天皇陛下ハ、二十日豐受大神宮御親謁ノ爲メ、午前九時宇治山田行在所御發輦、同三十分頓宮著御、同十一時三十分頓宮御出門、正午十二時行在所ニ還御アラセラル、
豐受大神宮御親謁ノ儀ニ、皇后陛下御代拜チ

房子内親王殿下ニ仰付ラル、

天皇陛下ハ、二十一日皇大神宮御親謁ノ爲メ、午前九時十分宇治山田行在所御發輦、同二十分頓宮著御、同十一時三十分頓宮御出門、同四十分行在所ニ還御アラセラル、
皇大神宮御親謁ノ儀ニ、皇后陛下御代拜ヲ房子内親王殿下ニ仰付ラル、

八 京都皇宮還御

天皇陛下ハ、御豫定ノ如ク、十一月二十二日午前八時二十分宇治山田行在所御發輦、同九時山田停車場御發車、午後一時五十分京都停車場御著車、同二時二十分京都皇宮ニ還御アラセラル、

五 神武天皇山陵御親謁

天皇陛下ハ、十一月二十四日午前八時三十分京都皇宮御發輦、同九時京都停車場御發車、同十一時十五分畝傍停車場御著車、御滞リナク、即位禮及大嘗祭後神武天皇山陵御親謁ノ儀ヲ行ハセラレ、午後零時四十五分畝傍停車場御發車、同三時京都停車場御著車、同三時三十分京都皇宮ニ還幸アラセラル、
是日 皇后陛下御代拜ヲ昌子内親王殿下ニ仰付ケラル、

ニ仰付ケラル、

第六 御大禮奉祝

上御即位禮奉祝

一 参列

大正四年十一月十日御即位禮當日賢所大前ノ儀紫宸殿ノ儀ニ、本市ヨリ参列シタル者、左ノ如シ、

東京市長正三位勳一等法學博士 奥田 義人

東京市會議長 正七位 勳三等 中野 武營

十一月十一日即位禮後一日賢所御神樂ノ儀ニ、本市ヨリ参列シタル者左ノ如シ、

東京市長正三位勳一等法學博士 奥田 義人

東京市會議長 正七位 勳三等 中野 武營

二 賀表捧呈

イ 市

乾賀 表

(一) 市 會

十一月十日御即位禮當日、東京市會ハ、午前九時ヲ以テ開議ス、出席議員六十名、
羽田如雲 住佐太郎 坪谷善四郎 糸川正敏 早川喜兵衛 宮崎三之助 白石源右衛門 菅原太郎 徳田種徳 犬橋新太郎 大貫傳兵衛 天澤朝吉 早川庄太郎 伊東靖村 松恒一郎 伊藤定七 豊川良平 加藤正義 鎌田芳太郎

付ラル、

六 明治天皇山陵御親謁

天皇陛下ハ、十一月二十五日午前八時五十分京都皇宮御發輦、同九時二十分京都停車場御發車、同九時三十分桃山停車場御著車、即位禮及大嘗祭後明治天皇山陵ニ御親謁ノ儀ヲ行ハセラル、午前十時四十分桃山停車場御發車、同十五分京都停車場御著車、同十一時二十五分京都皇宮ニ還御アラセラル、
明治天皇山陵御親謁ノ儀ニ、皇后陛下御代拜ヲ昌子内親王殿下ニ仰付ラル、

七 孝明天皇山陵、仁孝天皇山陵、光格天皇山陵御親謁

天皇陛下ハ、十一月二十六日午前九時二十分京都皇宮御發輦、同十時十分頓宮著御、即位禮及大嘗祭後孝明天皇山陵、仁孝天皇山陵、光格天皇山陵ニ御親謁ノ儀ヲ行ハセラレ、午前十時五十分頓宮御出門、同十一時四十五分京都皇宮ニ還御アラセラル、

孝明天皇山陵、仁孝天皇山陵、光格天皇山陵御親謁ノ儀ニ、皇后陛下御代拜ヲ昌子内親王殿下ニ仰付ケラル、

淺川保平、新波原登原女、松山傳太郎、本村正孝、辰野延次郎、松兼經、秋本太郎、西川嘉門、細野順三郎、山崎十郎、香村清、尾花實、野村安、藤原吉、八木可海、野並慶定、後藤武夫、長瀬助、角田眞平、藤澤正氣、松崎英太郎、川久保源治、橋本直一、飯塚仁兵衛、青木榮次郎、秋山朝正、間平右衛門、新井與四郎、根岸治右衛門、松崎權四郎、三浦良幹、矢野吉野、山幸吉、中島行實、辻井喜太郎、所澤貞太郎、近藤達兒、太田信治、藤田生次郎、山口憲大、内重兵衛、津村重會、長谷川吉次、若林成昭、番外ニハ、高橋要治、郎宮川鐵次、郎著席ス、

議事日程

第一賀表議定並捧呈ニ關スル件起草委員長報告

副議長山口憲開議ヲ宣シテ曰フ、今日ハ忝クモ

今上陛下御即位ノ大禮ヲ舉ケサセラルル吉

辰也、帝國臣民タル者津々浦々ニ至ルマテ皆謹

ミテ盛典ヲ祝シ、彌カ上ニモ皇室ノ榮ヘ給ハム

コトヲ祈ラサルナシ、況ヤ輦轂ノ下ニ住ミ、日常

皇室ニ接近シ奉ル東京市二百萬ノ市民ニ於テ

チャ、是時ニ當テ、特ニ本市會ヲ開會シ、市民ヲ代

表シテ 陛下ニ奉ル可キ賀表ヲ議スルノ光榮

ヲ荷フ、我々市會議員ニ在リテハ、無上ノ名譽ニ

シテ、終生忘ル可カラサル一大記念也、諸君願ク

ハ慎重ノ審議アラシメテ、是ニ於テ起草委

員長角田眞平登壇、委員會ノ經過ヲ報告シ、第一

回委員會ハ、十月六日ヲ以テ開會シ、鄭重ナル協

議ヲ爲シ、相當ノ古禮等ヲモ調査研究スルノ申

合セテ爲シ、十月二十日ノ第二回委員會、十月二

十五日ノ第三回委員會、其他ノ集會ニ由リ、研究

熟議ノ結果、滿場一致ヲ以テ可決シタル旨ヲ述
べ、之カ草案ヲ朗讀ス、

(總員起立)

(賀表略ス)

採決、

滿場起立、

副議長、全會一致ヲ以テ可決スルコトヲ宣ス、

(拍手)

是ニ於テ副議長ハ、賀表可決ヲ在京都市長議長
ニ電報シ、速ニ捧呈セシムルヤウ、議長ノ手ニ於
テ取計ラヒ差支ナキヤ否ヤヲ諮リ、異議ナク決
定シ、午前九時十分散會ス、

(二) 捧呈

十一月十日東京市會賀表ヲ決議スルヤ、助役高
橋要治郎ハ、直ニ在京都市長議長ニ電報ス、

電文

賀表可決

大正四年十一月十日

高橋助役

奥田市長宛

返電

宮内省ノ都合ニ依リ明日捧呈ス

大正四年十一月十日午前十時二十五分發

東京市役所 高橋助役宛

奥田市長

十一日午前十時、市長議長ハ、京都皇宮ニ參候シ
テ宮内大臣ニ面シ、賀表ヲ奉リテ執奏ヲ請ヒ、滯
リ無ク捧呈ノ手續ヲ了ス、賀表左ノ如シ、

東京市長 臣奥田義人言フス伏シテ以フニ

天皇陛下登極ノ令ニ遵ヒテ即位ノ禮ヲ行ハ

セ給フ億兆ノ臣民執レカ慶賀セサラシヤ

臣義人誠歡誠喜頓首頓首臣聞ク王者統ヲ

垂レテ萬物澤ヲ被ラサルハナク大人明ヲ

繼キテ四方皆盡ク光ヲ仰ク是故ニ

二神出世シテ嘉禾豐葦原ニ蕃熟シ

列聖邦ヲ經シテ文化大八島ニ鬱興セリ恭

シク惟ミルニ

陛下文思聰明武德睿毅ニシテ萬世一系ノ大

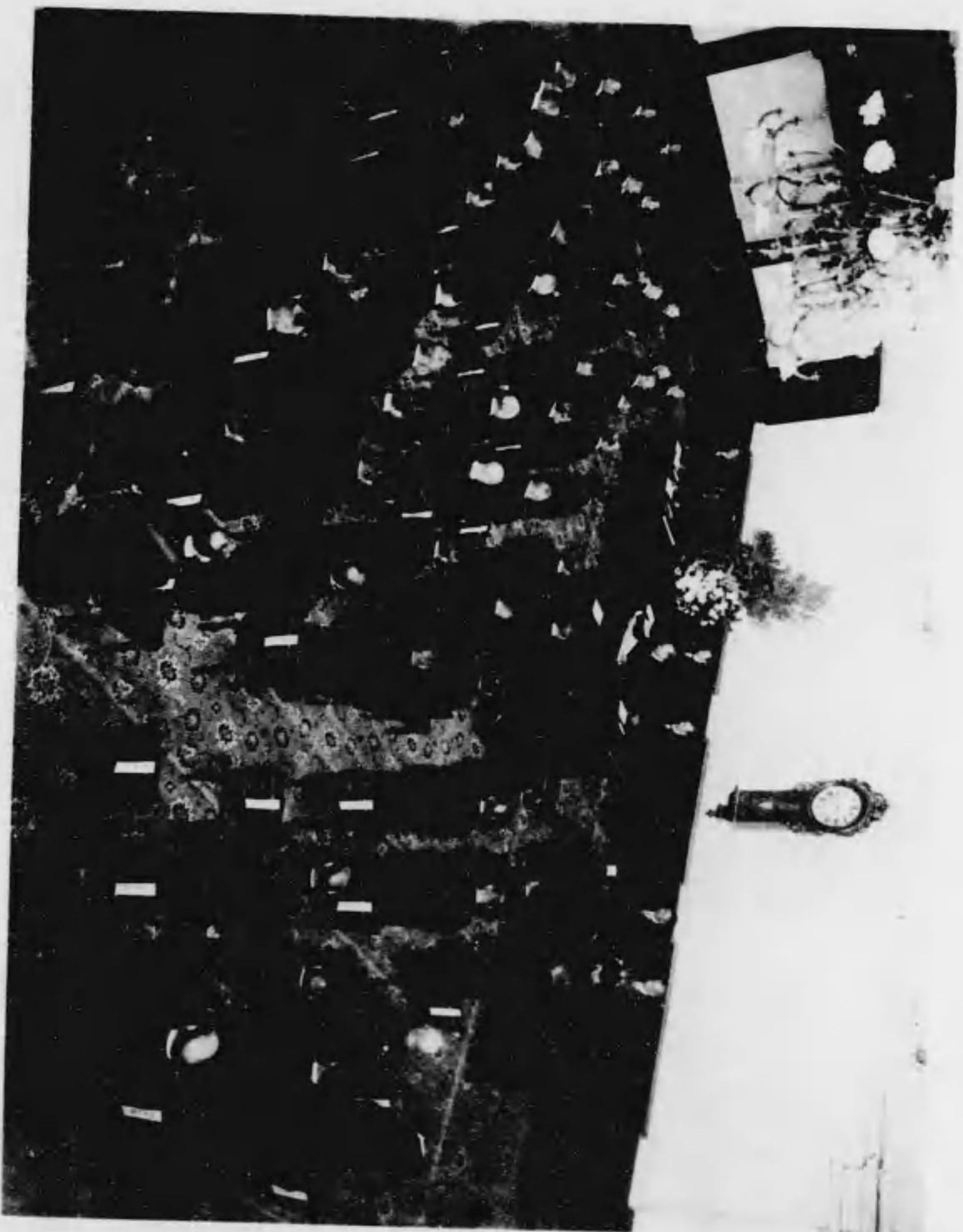
統ヲ承ケ

先帝遠大ノ雄圖ヲ紹キ給ヒ乾德ノ發スル所

雲行キ雨施シ重熙ノ澤草野ニ徧ク一視ノ

仁遠邇ニ流ル是ニ由リテ天人交々慶シテ

昌期ノ遇フコトアルヲ幸トシ



議決表賀會市京東

聖祚ノ窮リナキヲ祝ス臣義人謫劣ヲ以テ公職
ヲ輦轂ノ下ニ叨リニシ歎忭ノ忱恆情ニ倍
萬ス天ヲ瞻聖ヲ望ミ激切屏營ノ至リニ任
フルナシ謹ミテ市會ノ議ヲ經市民ニ代リ
テ表ヲ奉リ賀ヲ稱ケ以 聞ス臣義人誠歡誠
喜頓首頓首謹ミテ言フス

大正四年十一月十日

東京市長正三位勳一等法學博士臣奥田義人上表

電報

電文(至急)

捧呈済ム

大正四年十一月十一日午前十時三十分京都發

奥田市長

東京市役所 高橋助役宛

(三) 報告

其一 市參事會報告

十一月十二日午後一時開議同二時五十分閉會
ノ市參事會ニ於テ賀表捧呈濟報告ヲ供覽ス、

大正四年十一月十一日提案決議

賀表捧呈濟報告

一、本市賀表ハ十一月十一日捧呈相濟タル旨別紙ノ通り在
京都奥田市長ヨリ電報アリタリ

右報告ス

(別紙略)

其二 市會議員報告

內發第一九三號

拜啓

昨十日市會ニ於テ議決相成候本市賀表ハ本日捧呈ノ手續
相濟候趣奥田市長ヨリ電報有之候間此段御報申進候

大正四年十一月十一日

敬具

市會議員各位

東京市助役 高橋要治郎

坤賀 辭

十一月十日御即位禮當日、市會散會後、市長代理
助役高橋要治郎市會副議長山口憲宮城ニ參候
シテ賀辭ヲ言上シ、更ニ青山御所ニ參候シテ、
皇后陛下ニ賀辭ヲ言上シタリ、

口 區

(一) 麴町區

十一月十日御即位禮當日、麴町區ニ於テハ、午前
十時ヲ以テ區會ヲ開キ、滿場一致ヲ以テ賀表ヲ
決議シ、區長橋本久太郎區會議議長竹村良貞宮内

省ニ出頭シテ之ヲ捧呈ス、

恭賀 登極表

臣久太郎臣良貞等 言ス謹ミテ按スルニ我邦 列聖ノ國ヲ治メタマフハ惟レ仁惟レ義日月ノ下土ヲ照臨スルカ若ク衆庶ノ君ニ奉スルヤ克ク忠克ク孝子孫ノ義祖ニ敬事スルカ如シ分ハ則チ君臣情ハ是レ父子此レ國體ノ萬國ニ同シカラサル所以也 寶祚ノ天壤ト窮リ無キ所以ナリ於戲盛ナルカナ恭シク惟ルニ

天皇陛下聰明睿智ノ資ヲ稟ケ聖神文武ノ德ヲ躬ニシ三禋廬ニ倚リ孝敬ノ誠ハ上下ヲ威セシメ萬里師ヲ出タシ膺懲ノ功ハ中外ヲ動カシタマフ茲ニ孟冬ノ吉辰ヲトシ以テ登極ノ大典ヲ舉ケ

皇祖ノ先訓ニ欽遵シ 先帝ノ偉烈ヲ敬承シ一百二十一

聖ノ鴻緒ヲ紹キ二千五百餘載ノ 大寶ニ膺リ大ニ嘗祭ヲ修メ而シテ天地神祇ヲ享シ徧ク輔筵ヲ張リ以テ都鄙臣民ヲ饗シタマフ萬國ノ衣冠ハ共ニ一家ノ歡ヲ獻リ四海ノ臣庶ハ同ク華封ノ祝ヲ致ス誠ニ是レ曠古ノ大典寔ニ千歲ノ盛事爲リ

列聖仁義ノ治ハ此ニ自リテ雨露ノ澤益々深ク衆庶忠孝ノ奉ハ是ニ於テカカ松栢ノ茂彌々承キ

祖訓ノ系ル所アリ 先烈永ク墜チサラン 臣等誠懼誠忤頓首頓首 臣等宅ル所幸ニ 宸居ニ隣リシ 恩ヲ蒙ルコト曾テ他區ヨリ邁ク 天ヲ戴キ 聖ヲ仰クハ實ニ恒品ニ倍ス忠ヲ致シ敬ヲ盡スヤ

東京市神田區會議長 福田 又一

(三) 日本橋區

十一月十日御即位禮當日、日本橋區ニ於テハ、午前十一時區會ヲ開キ、滿場一致ヲ以テ賀表捧呈ヲ決議シ、區長新居友三郎區會議長柿沼谷藏宮内省ニ出頭シテ之ヲ捧呈ス、

伏シテ惟ルニ

今上陛下允文允武寶祚ヲ踐ミ皇緒ヲ繼キ萬世一系極ニ登リ聖謨ヲ恢ニシ金甌缺クル無シ茲ニ良辰ヲトシ乃チ羣臣ヲ會シ誕ニ即位ノ體ヲ舉ケラレ以テ天ニ代テ極ヲ建ツルノ盛儀ヲ明ニシ聿ニ大嘗ノ祭ヲ設ケ以テ先ヲ崇ヒ本ニ報ユルノ大典ヲ修メ給フ

仁風四海ニ洽ク聖德八紘ニ覃フ嗚呼盛哉於戲休哉 臣等欽仰欣抃ノ至ニ勝ヘス

謹テ日本橋區會ノ決議ヲ具シ日本橋區十有五萬ノ民庶ヲ代表シ

寶祚ノ悠久ト聖壽ノ無疆ヲ奉祝スルノ誠忱ヲ致シ以テ聞ス

大正四年十一月十日

東京市日本橋區長正六位勳五等 新居友三郎
東京市日本橋區會議長 柿沼 谷藏

奉表 謹上

(四) 京橋區

(11110)

葵ノ羣倫ニ比セシ 昌期ニ遭逢シ 萬壽ヲ頌禱シ激越屏營ノ至ニ任フル無シ謹ミテ上表陳賀以聞ス

大正四年十一月十日

東京府東京市麴町區長 勳四等 橋本久太郎
區會議長 勳四等 竹村良貞等 上表

(二) 神田區

十一月十日御即位禮當日、神田區ニ於テハ、午前十時區會ヲ開キ、全會一致ヲ以テ左記賀表ヲ決議シ、即時區長山縣鐵藏區副議長赤羽武次郎宮内省ニ出頭シテ之ヲ捧呈ス、

賀表

臣等誠恐誠惶稽首再拜謹テ言ス 恭ク惟ミルニ

先帝敬聖文武盛德大業前代未タ比倫ヲ見奉ラサル所ナリ而シテ

陛下至仁至孝夙ニ 先帝ノ御心ヲ體シタマヒ深ク古今ノ道ヲ窮メ廣ク東西ノ學ヲ修メ遂ニ寶祚ヲ踐マセタマフニ及ヒ宵衣旰食銳意治ヲ圖リ紹述ノ緒日ニ就リ治平ノ績月ニ將シタマフ茲ニ

極登ノ大典ヲ舉ケタマフニ際シ 臣等特ニ羣毅ノ下ニアリテ常ニ 聖澤ノ厚キニ浴スル者寔ニ歡天喜地ノ至リニ堪

ヘス誠恐誠惶稽首再拜謹テ上表シテ賀シ奏ル

大正四年十一月十日

東京市神田區長 山縣 鐵藏

十一月十日御即位禮當日、京橋區ハ、午前九時區會ヲ開キ、賀表起草委員長ノ報告有リ、總員起立、敬意ヲ表シテ、之ヲ可決ス、是ニ於テ區長國枝捨次郎區會議長田村藤兵衛直ニ宮内省ニ出頭シテ捧呈ノ手續ヲ了ス、

賀表

天皇陛下ニ上奏ス

陛下天縱英明乾綱ヲ握リ 神器ヲ奉シテ六合ニ光臨シ茲ニ本日ヲ以テ即位ノ大典ヲ京都ニ舉ケ續テ又大嘗祭ヲ行ハセ給フ伏シテ惟ルニ

陛下既ニ 先帝ノ遺業ヲ紹述シテ祖訓ヲ恢宏シ内ハ賢良ニ任シテ億兆ヲ候撫シ外ハ國威ヲ振揚シテ東亞ノ大局ヲ保全セララル惟聖惟明盛徳日ニ躋リ允文允武大業愈炳

カナリ 臣等羣毅ノ下ニ在リ夙ニ皇澤ニ浴シ驩虞ノ治ヲ樂ム今ヤ曠古ノ盛事ニ際シテ欣抃措ク所ヲ知ラス恭シク表ヲ上リテ 即位ノ大典ヲ賀シ謹テ

寶祚ノ無窮ヲ祈リ奉ル 臣等誠恐誠惶頓首頓首

大正四年十一月十日

東京市京橋區長 國枝捨次郎
東京市京橋區會議長 田村藤兵衛

(五) 芝區

十一月十日御即位禮當日、芝區ニ於テハ、午前十

(11111)

時區會ヲ開キ、委員起草ノ賀表ヲ附議シ、總員起立ノ上、議長起草文ヲ朗讀シ、滿場一致之ヲ可決ス、散會ハ午前十時十九分也、是ニ於テ區長古橋幸正區會議長細野順即時宮内省ニ出頭シテ賀表ヲ捧呈ス、

今茲乙卯十一月十日

天皇陛下即位ノ大典ヲ舉ケサセラル普天率土孰カ拊慶セサラシヤ臣等稽首頓首謹ミテ白ス恭シク惟ミルニ
皇祖業ヲ創メテ鴻範ヲ白禱原ニ立テ給ヒシヨリ
列聖統ヲ承ケテ懿德ヲ蒼生ニ施シ金甌缺クルナク瓜瓞系ヲ一ニシ寶祚ノ隆ナル天壤ト窮リナク日月ト共ニ光アリ伏シテ惟ミルニ
陛下允ニ仁允ニ智能ク
列聖ノ宏謨ヲ紹キ乃チ文乃チ武克ク
先帝ノ昭烈ヲ承ケ今ヤ天日嗣ノ高御座ニ御シ現人神ト天下ニ臨マセ給フ四海皞々萬國朝宗太平ノ祥ハ紫雲ニ見ハレ萬歳ノ聲ハ九天ニ達ス臣等幸ニ輦轂ノ下ニ生レ此千載一遇ノ盛典ニ會シ且日夕高輪ノ宮ニ金枝ノ繁榮ヲ仰キ竹芝ノ里ニ離宮ノ宏壯ヲ拜ス衷心傾日歡拊ノ情自ラ他ト異ナルモノアリ乃チ表ヲ奉シ賀ヲ稱シテ以テ聞ス

大正四年十一月十日

東京市芝區區長 古橋 幸正
東京市芝區會議長 勳六等 細野 順

大正四年十一月十日

東京市赤坂區會議長 正五位勳四等 肥塚 龍

(八) 四谷區

十一月十日御即位禮當日、四谷區ニ於テハ、臨時區會ヲ開キ、奉祝文捧呈ヲ決議シ、區長佐藤三吾區會議長菊地武恒宮内省ニ出頭シテ、之ヲ捧呈ス、

東京市四谷區區長 佐藤三吾等謹ミテ言ス
敬聖文武天皇陛下維新ノ鴻緒ヲ承ケ無窮ノ寶祚ヲ踐マセラレ爰ニ本日ノ佳辰ヲトシテ即位ノ大禮ヲ舉ケタマフ萬國風關ニ趨リ千官龍庭ヲ仰ク
皇威四海ニ加リ歡聲八洲ニ溢ル洵ニ是振古未タ曾テアラサルノ盛觀タリ臣等叨リニ區政ニ膺リ斯ノ慶典ニ遭フ欣歡拊躍ノ至リニ任ヘス謹ミテ表ヲ奉リテ以テ聞ス

(九) 牛込區

十一月十日御即位禮當日、牛込區ニ於テハ、特ニ區會ヲ開キテ賀表ヲ議決シ、區會議長伯爵小笠原長幹區長古本崇宮内省ニ出頭シテ、之ヲ捧呈ス、

賀表

皇運ノ隆昌天壤ト共ニ窮リ無ク本日ヲ以テ茲ニ御即位ノ

(1111)

(六) 麻布區

十一月十日御即位禮當日、麻布區ニ於テハ、午前十時特ニ區會ヲ開キ、謹テ賀表ヲ決議シ、區長平林政博區會議長佐治實然即時宮内省ニ出頭シテ、之ヲ捧呈ス、

賀表

臣等誠恐誠惶謹ミテ

御即位ノ大禮ヲ祝シ
聖壽ノ無疆ヲ祈リ奉ル誠恐誠惶謹言
大正四年十一月十日

東京市麻布區區長 平林 政博
東京市麻布區會議長 佐治 實然

(七) 赤坂區

十一月十日御即位禮當日、赤坂區ニ於テハ、區會ヲ開キテ賀表ヲ決議シ直ニ之ヲ捧呈ス、
決議文ハ大高橋勳ニ拜書シ、白木桐箱ニ納メ、献上、蓋ニ載セ、之ヲ捧呈シタリ、

東京市赤坂區會議長 肥塚 龍

誠恐誠惶頓首再拜伏シテ惟ミレハ

今上天皇陛下英明ノ資ヲ稟ケ前ニ大統ヲ繼キ給ヒ國威八紘ニ振ヒ聖澤四表ニ溢ル今ヤ登極ノ大典ヲ舉ケ給フ誠ニ之レ邦家ノ慶事臣等惓歎ノ至ニ堪ヘス茲ニ區民ヲ代表シ誠恐誠惶謹ミテ賀表ヲ上ル

大典ヲ行ハセラル神人同慶歌頌ノ聲寰宇ニ盈テリ伏シテ惟ミルニ

天皇陛下允ニ文允ニ武 先帝維新中興ノ洪業ヲ繼承シ益益 聖德ヲ宣揚シタマフ億兆安寧ニシテ富強ノ基彌々固ク稜威萬邦ニ耀ケリ臣等此大典ニ遭遇シ感恩歡喜ノ至ニ堪ヘス乃チ區會ノ決議ヲ具シ恭ク賀表ヲ捧ケ 聖壽ノ萬歲ヲ祝シ奉ル誠恐誠惶頓首謹言
大正四年十一月十日

東京市牛込區會議長 從四位伯爵 小笠原長幹

東京市牛込區區長 古本 崇

(一〇) 小石川區

十一月十日御即位禮當日、小石川區ニ於テハ、午前九時區會ヲ開キテ、賀表捧呈ノ決議ヲ爲シ、即時區長須崎緝作區會議長佐藤正興宮内省ニ出頭シテ、之ヲ捧呈ス、奉賀文左ノ如シ、

恭ク惟ルニ

敬聖文武天皇陛下

曩ニ天壤無窮ノ寶祚ヲ踐マセタマヒ今茲ニ本日ノ佳辰ヲトシ即位ノ大禮ヲ行ハセタマフ臣等昭代ニ生レ此盛事ニ遭ヒ欣歡拊躍ノ至リニ任ヘス茲ニ本區會ノ決議ヲ以テ謹ミテ聖壽ノ萬歲ヲ祝シ奉ル
大正四年十一月十日

東京市小石川區區長 勳八等 須崎 緝作

東京市小石川區會議長 勳六等 佐藤 正興

(1111)

(一)本郷區

十一月十日御即位禮當日、本郷區ニ於テハ、午前十一時區會ヲ開キ、滿場一致ヲ以テ賀表捧呈ノ決議ヲ爲シ、區長見山正賀直ニ宮内省ニ出頭シテ、之ヲ捧呈ス、

恭シク惟ミルニ

天皇陛下萬世一系ノ大統ヲ繼承シ給ヒ本日ヲ以テ即位ノ大典ヲ舉ケサセ給フ慶雲天ニ漲リ瑞祥地ニ溢ル伏シテ

天皇陛下允文允武先常ノ遺烈ヲ續キ皇猷ヲ恢弘シ國運ヲ振興シ以テ光前照後ノ一大紀元ヲ劃シ給ハンコト昭乎トシテ明カナリ臣等輩穀ノ下ニ在リテ朝ニ惠露ニ潤ヒ夕ニ慈雨ニ浴シ更ニ此ノ佳辰ニ會ス洵ニ感激慶喜ノ至ニ勝ヘス謹テ賀ヲ無疆ヲ賀シ聖壽ノ萬歳ヲ祈リ奉ル臣正賀茲ニ東京市本郷區會ノ議決ヲ具シ以テ聞ス

大正四年十一月十日

東京市本郷區長 見山 正賀

(二)下谷區

十一月十日御即位禮當日、下谷區ニ於テハ、區會ヲ開キテ賀表捧呈ノ決議ヲ爲シ、區長戸野周二郎區會議長坂入宗兵衛宮内省ニ出頭シテ、之ヲ捧呈ス、

今丕イニ踐祚ノ輿典ヲ行ハセラル天光地照頌歌ノ聲四郊ニ聞ユ於戲昌ナル哉茲ニ區會ノ議決ヲ具シ

恭シク奉賀ノ下忱ヲ表ス

大正四年十一月十日

東京市淺草區長 山崎林太郎

東京市淺草區會議長 倉田茂三郎

謹 奉

(一四)本所區

十一月十日御即位禮當日、本所區ニ於テハ、午前十時ヲ以テ區會ヲ開キ、滿場一致左記賀表ヲ議決シ、區長岡田淳司、區會議長湯澤伊藤治宮内省ニ出頭シテ、之ヲ捧呈ス、

臣等誠懽欣頓首頓首謹ミテ白ス

皇祖 皇宗國ヲ建テ基ヲ肇メ萬世一系ノ寶祚ヲ承ケタマヒ社稷愈々鞏クシテ國運日ニ開ク伏シテ惟ニ

天皇陛下聖明神武 祖宗ノ遠猷ニ則リ内ニハ以テ文ヲ治メ外ニハ以テ武ヲ尚ヒタマヒ國光遐ニ煥キテ 天恩普ク潤フ四方兆民 昭代ヲ謳歌セサルハ莫シ愛ニ國家ノ至隆ニ當リ 登極ノ大禮ヲ舉ケタマフ洵ニ無疆ノ光慶ナリ臣等幸ニ生ヲ 聖世ニ享ケ親シク 盛儀ノ莊嚴ヲ拜シテ 隆德ノ崇高ヲ仰ク誠懽ノ至誠欣ノ極殆ント言ノ出ツル所ヲ知ラス茲ニ東京市本所區會ノ決議ヲ以テ恭シク表ヲ裁シテ以テ聞ス頓首頓首謹ミ白ス

(三三)

東京市下谷區長 戸野周二郎區民ヲ代表シテ謹ミテ言ス

敬聖文武ニオハシマス
天皇陛下茲ニ本日ノ佳辰ヲ以テ即位ノ禮ヲ舉ケサセ給ヒ次キテ十四日大嘗祭ヲ行ハセ給フ伏シテ惟ミルニ即位ノ禮ハ尊祖慰民ノ範ヲ垂レサセ給フ大儀ニシテ大嘗祭ハ祭政一致ノ旨ヲ示サセ給フ大祀ナリ實ニ是レ國體ノ精華ノ表現ニシテ中外萬民ノ瞻望シテ齊シク慶賀スル所ナリ臣等幸ニ生ヲ聖代ニ享ケ斯ノ曠古ノ盛典ヲ拜シ誠懽誠喜欣并欣舞ノ至ニ堪ヘス乃チ區會ノ決議ニ由リ謹ミテ表ヲ上リ恭シク聖壽ノ萬歳ヲ賀シ無疆トヲ壽キ奉ル
紀元二千五百七十五年十一月十日

東京市下谷區長從六位 戸野周二郎

捧呈ヲ了スルヤ、區長區會議長ハ、歸所捧呈濟ノ報告ヲ爲ス、

(一三)淺草區

十一月十日御即位禮當日、淺草區ニ於テハ、午前十一時區會ヲ開會シ、十一時三十分議事ヲ開キ、起草委員五名ヲ舉ケテ奉賀文ヲ議定シ、大高檀紙ニ清書シ、白木ノ桐箱ニ納メ、區長山崎林太郎區會副議長渡邊長次郎(病氣缺席)帶同携行シテ宮内省ニ捧呈ス、奉賀文左ノ如シ、

謹ミ畏ミテ惟フニ

我皇 天命ニ配シテ神統ヲ繼キ肝食治ヲ圖ラセ玉フ

東京市本所區長從五位勳六等 岡田 淳司

東京市本所區會議長 湯澤伊藤治

上

大正四年十一月十日

(一五)深川區

十一月十日御即位禮當日、深川區ニ於テハ、區會ヲ開キ、滿場一致、左記奉祝文ヲ決議シ、區長植木武彦、區會議長中村清藏直ニ宮内省ニ出頭シテ之ヲ捧呈ス、

恭シク惟ルニ

敬聖文武天皇陛下

曩キニ天壤無窮ノ寶祚ヲ踐マセタマヒ今茲ニ本日ノ佳辰ヲトシ即位ノ大禮ヲ行ハセタマフ臣等昭代ニ生レ此盛事ニ遭ヒ欣歡拊躍ノ至リニ任ヘス茲ニ本區會ノ決議ヲ以テ謹ミテ聖壽萬歳ヲ祝シ奉ル

大正四年十一月十日

東京市深川區長從六位勳六等 植木 武彦
東京市深川區會議長勳五等 中村 清藏

二 學校

十一月十日御即位禮當日、市内各小學校職員兒童總代百七十四名ハ、本郷區誠之尋常小學校長杉浦恂太郎ヲ代表者トシ、宮内省ニ出頭シテ賀

(三三)

表ヲ捧呈セシム、

恭シク惟ルニ
陛下曩ニ無窮ノ寶祚ヲ踐ミ維新ノ宏猷ヲ繼カセラレ今
ハ佳辰ヲ選ヒ 即位ノ大禮ヲ行ハセ給フ萬邦來リ賀シ
億兆皆慶ス臣等小學ニ在テ教育ノ事ニ從ヒ忠孝ノ道ヲ
修ム乃チ 淑旨ヲ奉戴シ本分ニ勵精シ以テ 聖恩ノ萬
一ニ報イ奉ラムコトヲ期ス臣等ハ 葦藪ノ下ニ居リ常
ニ 天日ヲ咫尺ニ拜スルノ光榮ヲ荷フ爰ニ曠古ノ盛儀
ニ逢ヒ歡喜措ク所ヲ知ラス謹テ表ヲ奉リ 聖壽ノ無疆
ヲ賀シ奉ル

大正四年十一月十日

東京市立小學校職員兒童總代

東京市麹町高等小學校長 小關 源助

外百七十三名

本市 民

大正四年十一月二十三日判決
御大典ニ付本市役所及各區役所へ奉賀ノ爲メ出頭ノ上記
名セシモノ其他賀表共別紙ノ通有之候間宮内省へ進達ス
ルモノトス

(別紙)

御大典奉賀受付表

自大正四年十一月十日
至同 十一月十七日

受付役所名	奉賀人員	賀表捧呈數
東京市役所	一、〇二八	九
麹町區役所	一五四	九

而シテ之カ受付ノ狀況左ノ如シ

上市受付

本市ハ、市民ノ奉賀ヲ進達スル爲メ、十一月十日
御即位禮當日ヨリ同十七日ニ至ル間、毎日午前
九時ヨリ午後四時マテ、市役所樓上ニ奉賀受付
所ヲ設ケ、奉賀人名簿ヲ備ヘ、掛員二名ヲシテ之
ヲ監セシメ、以テ一般市民ノ奉賀ヲ受付ク、奉賀
人員一千二十八人、賀表九也、

下區受付

(一) 麹町區

麴町區ハ、十一月十日御即位禮當日ヨリ同十七
日ニ至ル間、毎日午前九時ヨリ午後四時マテ、區
役所樓上ニ奉賀受付所ヲ設置シ、奉賀人名簿ヲ
備ヘ、區民ノ奉賀ヲ受付ク、奉賀人員二百三十人、

(二) 神田區

神田區ハ、御大禮奉賀ヲ言上セントスル一般區
民ノ爲メ、十一月十日御即位禮當日ヨリ同十七
日マテ、毎日午前九時ヨリ午後四時ニ至ル間、區
役所内ニ受付ヲ設ケ、奉賀人名簿ヲ備ヘ置キ、終
了後市役所ヲ經テ宮内省ニ捧呈シタリ、奉賀人
員百二十五人、

(三) 日本橋區

日本橋區ハ、御大禮奉賀ヲ言上セントスル一般
區民ノ爲メ、十一月十日御即位禮當日ヨリ同十
七日マテ、毎日午前九時ヨリ午後四時ニ至ル間、
區役所支關ニ受付ヲ設ケ、奉賀人名簿ヲ備フ、奉
賀人員二百四十六人也、

(四) 京橋區

京橋區ハ、御大禮奉賀ヲ言上セントスル一般區
民ノ爲メ、十一月十日御即位禮當日ヨリ同十七

神田區役所	二二二
日本橋區役所	二一六
京橋區役所	七六八
芝區役所	二二九
麻布區役所	一五三
赤坂區役所	六七
四谷區役所	七四
牛込區役所	三六五
小石川區役所	二八四
本郷區役所	三〇三
下谷區役所	一九五
淺草區役所	三三三
本所區役所	五一
深川區役所	一一二
合計	五、〇三四

日マテ、毎日午前九時ヨリ午後四時ニ至ル間、區
役所ニ於テ、奉賀ヲ受付ケ、區民奉祝會當日ハ、會
場タル同區高等小學校ニ奉賀人名簿ヲ備ヘテ
之カ受付ヲ爲シタリ、奉賀人員奉祝會場ノ分七
百名、區役所ノ分二百名、

(五) 芝區

芝區ハ、十一月十日御即位禮當日ヨリ同十七日
マテ、毎日午前九時ヨリ午後四時迄ノ間一般區
民ノ爲メ、區役所内ニ奉賀所ヲ設ケ、奉賀人名簿
ヲ備ヘ、奉賀ヲ受けタリ、奉賀人員二百二十九人、

(六) 麻布區

麻布區ハ、十一月十日御即位禮當日ヨリ同十七
日マテ、毎日午前九時ヨリ午後四時マテ、一般區
民ノ爲メ、區役所内ニ奉賀受付ヲ設ケ、奉賀人名
簿ヲ備ヘ、以テ奉賀ノ受付ヲ爲ス、奉賀人員百五
十三人也、

(七) 赤坂區

赤坂區ハ、區役所内ニ奉賀受付所ヲ設ケ、名簿ヲ
備ヘ、以テ一般區民ノ奉賀ヲ受けタリ、期日ハ
十一月十日御即位禮當日ヨリ同十七日ニ至リ、

毎日ノ時間ハ午前九時ヨリ午後四時ニ及フコト、各區ト同シ、奉賀人員六十七人、

(八)四谷區

四谷區ハ、區役所内ニ於テ、十一月十日御即位禮當日ヨリ同十七日ニ至ル間、毎日午前九時ヨリ午後四時マテ、一般人民ノ奉賀ヲ受付ク、奉賀人員七十四人、

(九)牛込區

牛込區ハ、區役所ニ於テ、十一月十日御即位禮當日ヨリ八日間、奉賀人名簿ヲ備ヘ、一般區民上表ノ便ニ供シタリ、奉賀人員三百六十五人、

(一〇)小石川區

小石川區ハ、十一月十日御即位禮當日ヨリ同十七日マテ、毎日午前九時ヨリ午後四時ニ至ル間、御大禮奉賀ヲ言上セントスル一般區民ノ爲メ、奉賀人名簿ヲ備ヘ、區役所内ニ受付所ヲ設ク、而シテ人名簿ニ記名シタル者ハ二百八十四人也、

(一一)本郷區

本郷區ハ、一般區民ノ奉賀ヲ受付クル爲メ、十一月十日御即位禮當日ヨリ八日間、區役所内ニ受

付所ヲ設ケ名簿ヲ備フ、三百三人ノ奉賀者及賀表四有り、

(一二)下谷區

下谷區ハ、十一月十日御即位禮當日ヨリ十七日マテ、區役所ニ於テ、區内一般奉賀者ノ受付ヲ爲ス、其數

總員 百九十五名

内

百八十四名

五名

六名

個人奉賀

團體奉賀

町總代人

奉賀人名簿ハ、市役所ヲ經由シテ、宮内省ニ捧呈ス、

(一三)淺草區

淺草區ハ、御大禮奉賀ヲ言上セントスル一般區民ノ爲メ、大正四年十一月十日ヨリ同十七日迄、毎日午前九時ヨリ午後四時迄、區役所内ニ受付所ヲ設ケ、奉賀人名簿ヲ備ヘ、毎日吏員二名嚴肅ニ警衛セリ、奉賀ノ爲メ登廳セシ者五百三十九名也、

(一四)本所區

本所區ハ、一般區民ノ爲メニ奉賀受付所ヲ區役

東京市職員奉賀式



東京市職員奉賀式



小学校兒童奉賀式

所内ニ開設シ、御即位禮當日ヨリ八日間之カ受付ヲ爲シタリ、奉賀人員五百十一人有リ、

(一五)深川區

深川區ハ十一月十日ヨリ同十七日迄、毎日午前九時ヨリ午後四時迄、區役所内ニ奉賀人名簿ヲ備へ、區民ノ奉賀ヲ受付ケタリ、受付人員百二十二人、

三奉祝式

イ市

御大禮本市職員奉祝式ハ、豫定ノ如ク十一月十日御即位禮當日ヲ以テ、日比谷公園音樂堂ニ之ヲ開ク、振鈴一番、市長代理助役高橋要治、副市長山口憲以下市名譽職員吏員著席シ、左ノ順序ニ依リ式ヲ舉ク、

- 午後三時十一分 開會内記課長安藤彪雄開會ヲ宣ス
- 同 三時十二分 一同敬禮
- 自同三時十三分 四分間 君が代(三回奏樂)
- 自同三時十六分 四分間 大禮奉祝唱歌(奏樂)
- 自同三時二十分 三分間 大禮奉祝唱歌(奏樂)
- 自同三時二十六分 四分時 大禮奉祝唱歌(奏樂)

同 三時三十分

萬歳奉唱三回(司會者市長代理助役高橋要治郎發聲一同之ニ和ス)

散會

一同敬禮

(參考)

湧き返る東京

全市到る處萬歳萬歳

滿飾の五彩が瑞雲と相映發する日比谷の奏樂堂には市長代理の高橋助役及び市名譽職各課長等が襟を正して立つた周圍には赤誠を以て御大禮を祝ぎ奉る十萬を超ゆる市民が肅然として集まつて居る東京市の奉祝式は三時から舉行されたのだ、大隈首相が紫宸殿の南階に立つて萬歳を三唱する時刻前五分此處ではハイモニー俱樂部管絃樂隊に依て再び御大典奉祝歌が囀鳴と奏された莊重森嚴の階調が天地無窮に始まつて、共に祝ぐ日出度さよに終るや否や百一發の祝砲の第一が火蓋を切られて轟然と響いて來た、高橋助役が直に滿面を紅に染めて一聲高く「天皇陛下萬歳」と唱へれば言下に萬民の歡聲は迸つて萬歳萬歳と天地も崩れん計り煙花が中天に彩光を放つ、市民は先の三唱に慥らず尙口々に萬歳を連呼して場内をいくつもく大渦を卷いて狂喜する、小旗を翳す者紅提灯を高々に打振る者中には雀躍するものもあつた、斯くて夜に入るも尙人の群は加はつてさしにも廣き園内も肩々相摩の大混雜、殊に菊花大會や花壇の邊りは一層雜沓を極めた(十一月十一日報知新聞)

區

(一)麴町區

十一月十日御即位禮當日、麴町區ニ於テハ、午後三時ヨリ、區會議員、區學務委員、區學校長、區學校醫、區長、區吏員、區會議事堂ニ參集シテ、奉祝會ヲ開ク、

午後三時二十分

開會

同 三時三十分

一同敬禮

西方ニ向ヒ、司會者區長萬歳ヲ唱フ

ル三聲、一同之ニ和ス、

一同敬禮、

同 三時三十五分

閉會

(二)神田區

十一月十日御即位禮當日、神田區ニ於テハ、午後三時ヨリ、區會議員、區學務委員、區役所吏員、區會議事堂ニ會同シ、區長司會者ト爲リ、午後三時半左記ノ順序ニ依リ、萬歳ヲ奉唱シテ奉祝ノ誠意ヲ奉表シタリ、

順序

司會者 「天皇陛下萬歳」

諸員 「萬歳」

司會者 「萬歳」

諸員 「萬歳」

司會者 「萬歳」

諸員 「萬歳」

一同敬禮、

散會

(三)日本橋區

十一月十日御即位禮當日、日本橋區ニ於テハ、區名譽職員一同、區役所ニ會同シテ、御大典奉祝式ヲ舉ク、式左ノ如シ、

一、正午十二時

一同會同

(服裝 通常禮服、フロックコート又ハ紋付羽織袴)

一、午後三時開會

一、一同敬禮

一、午後三時三十分

司會者萬歳ヲ唱フ

(三聲) 諸員之ニ和ス

萬歳奉唱方

司會者 天皇陛下萬歳

諸員 萬歳

同 萬歳

同 萬歳

同 萬歳

同 萬歳

一、一同敬禮

一、散會

(四)京橋區

十一月十日御即位禮當日、京橋區ハ、區公民奉祝會ヲ區内明石町京橋高等小學校校庭ニ開ク、來會者無慮八百餘名、午後三時三十分ヲ報スルヤ、區長ハ起テ 天皇陛下ノ萬歳ヲ奉唱シ、總員之

(八)四谷區

十一月十日御即位禮當日、四谷區ハ、區役所員區民奉祝會合同シテ、赤坂離宮四谷方面御正門前ノ芝生地ニ設ケタル奉祝式場ニ、奉祝式ヲ舉ク、午後三時三十分ヲ期シ、萬歳ヲ奉唱ス、是日餘興トシテ、式場ノ傍ニ設ケタル能樂堂ニ於テ、神代神樂及里神樂ヲ執行シ、晝夜烟火ヲ打揚ケ、又祝宴會ヲ催開ス、

(九)牛込區

十一月十日御即位禮當日、牛込區ハ、區内名譽職員、警察署長、各町總代、衛生組合長、小學校長、區吏員等、區役所ニ會シテ奉祝會ヲ開キ、午後三時三十分萬歳ヲ奉唱ス、

(一〇)小石川區

十一月十日御即位禮當日、小石川區ハ、午後三時、區名譽職員並ニ區吏員全部、區會議事堂ニ參集シ、午後三時三十分ヲ期シ、一齊ニ萬歳ヲ三唱シ、奉祝ノ誠意ヲ表ス、區内各神社ニ於テハ、氏子參拜シ、午後三時三十分萬歳ヲ三唱ス、東京砲兵工廠員及職工全部ハ、旗行列ヲ爲シ、宮城前ニ於テ

ニ和スルコト三回、終テ記念トシテ素燒ノ盃ヲ頒チ、神酒ヲ拜戴シテ散會ス、而シテ午後六時ヨリハ、區役所樓上ニ於テ、名譽職員、區内小學校長、警察署長其他ノ奉祝會ヲ開ク、來會者百餘名、一同萬歳ヲ三唱シ、午後九時散會ス、

(五)芝區

十一月十日御即位禮當日、芝區ハ、區會議員、區學務委員及區吏員一同ノ奉祝會ヲ開キ、午後二時三十分ヨリ式場ニ整列シ、同三時三十分ヲ期シ、司會者區長ノ發聲ニ依リ萬歳ヲ三唱シ、終リテ別室ニ祝盃ヲ舉ク、

(六)麻布區

十一月十日御即位禮當日、麻布區ハ、式場ヲ區役所樓上ニ設ケテ奉祝會ヲ開キ、區名譽職員、區吏員、區内各團體代表者等之ニ會シ、午後三時三十分ヲ期シ、區會議長發聲ノ下ニ一同萬歳ヲ奉唱ス、

(七)赤坂區

十一月十日御即位禮當日、赤坂區ハ、名譽職員吏員ノ奉祝式ヲ區役所ニ舉ケ、午後三時三十分ヲ期シ、萬歳ヲ三唱ス、是日會スル者百二十餘人也

萬歳ヲ奉唱ス、

(一)本郷區

十一月十日御即位禮當日、本郷區ハ、名譽職員、吏員ノ奉祝式ヲ開キ、午後三時三十分司會者ノ發聲ニ依リ、萬歳ヲ三唱ス、是日本郷共睦會ハ、町内三箇所ニ奉祝門ヲ設ケ、本郷祠前ニ會同シテ奉祝式ヲ舉ケ、會員總代篠田元一郎奉祝文ヲ朗讀シ、午後三時三十分ヲ期シテ、陛下ノ萬歳ヲ奉唱ス、

(二)下谷區

十一月十日御即位禮當日、下谷區ハ、午後三時ヨリ下谷區祝賀會ヲ開ク、會衆二百餘名、區長開會ヲ宣シ、司會者發聲、天皇陛下ノ萬歳ヲ三唱シ、衆之ニ和ス、是日帝國在郷軍人會下谷區分會ハ、區内在郷軍人ヲ一堂ニ會シ、奉祝會ヲ開ク、

(三)淺草區

十一月十日御即位禮當日、淺草區ハ、奉祝會場ヲ區役所ニ設ケ、門前ニ大國旗ヲ交叉シ、注連飾ヲ爲シ、一對ノ高張ヲ樹テ、式場ニハ注連ヲ張り、式壇ニ齋竹四本ヲ樹テ、眞菰ヲ敷キ、鏡餅神酒ヲ供

三時三十分ヲ以テ遙拜式ヲ行ヒ、陛下ノ萬歳ヲ三唱シ、終テ來會者ニ神酒ヲ頒ツ、解散ハ午後四時三十分也、

(四)本所區

十一月十日御即位禮當日、本所區ハ、區役所樓上ニ區名職員吏員並ニ各町總代ノ奉祝式ヲ舉行シ、午後三時三十分ヲ以テ萬歳ヲ奉唱ス、

(五)深川區

十一月十日御即位禮當日、深川區ハ、區内平久町埋立地區民奉祝場ニ區民奉祝式ヲ舉行ス、參會者一萬二千餘人也、奉祝式次第左ノ如シ、

大禮奉祝式順序

- 一、開會 (鼓樂)
- 一、君が代 (奏樂)
- 一、區會議長祝辭 (奏樂)
- 一、大禮奉祝唱歌 (奏樂)
- 一、午後三時三十分司會者深川區長萬歳三唱一同之ニ和ス
- 一、一同敬禮
- 一、散會

八學校

(一)麴町區

へ、而シテ區名譽職員及區吏員一同ハ、午後二時ヲ以テ參集シ、三時奉祝式ヲ始メ、三時三十分萬歳ヲ三唱ス、其次第左ノ如シ、

淺草區奉祝式次第

- 一、午後三時一同著席
- 二、區長山崎林太郎開會ヲ告ク
- 三、一同敬禮(樂器合奏)
- 四、君が代奏樂
- 五、大禮奉祝歌奏樂
- 六、午後三時三十分萬歳ヲ唱フ
- 天皇陛下萬歳 司會者 諸員
- 萬歳 司會者 諸員
- 萬歳 司會者 諸員
- 萬歳 司會者 諸員

- 七、一同敬禮(樂器合奏)
- 八、區長山崎林太郎開會ヲ告ク

終テ會衆ニ紅白ノ餅ヲ頒ツ、是日帝國在郷軍人會淺草區分會ハ、淺草公園ニ遙拜式ヲ謹行ス、觀音堂裡約七百坪ヲ圍キテ式場トシ、京都ニ面シテ遙拜場ヲ設ク、會スル者一千六百五十八名、午後二時三十分會長指揮下ニ入場シ、同三時開會、勅諭勅語ノ捧讀、御大禮ニ關スル講話等有リ、同

十一月十日御即位禮當日、麴町區内各市立小學校ハ、午後二時ヲ以テ職員兒童學校ニ參集シ、大正四年九月文部省令第七號ノ次第ニ依リ、奉祝式ヲ舉行ス、翌十一日午前八時職員兒童再ヒ學校ニ參集シ、順次縱列ヲ組ミ、各學校區域内ニ旗行列ヲ爲シ、奉祝唱歌ヲ唱ヘツツ行進シ、以テ奉祝ヲ奉表シタリ、

(二)神田區

十一月十日御即位禮當日、神田區内市立小學校ハ、何レモ奉祝式ヲ舉ケ、左記市立小學校兒童ニ對シ、紅白祝餅ヲ給與ス、

- 一、橋高等小學校生徒 八百二十七人 神田女子補習學校生徒 八十人
- 西小川尋常小學校生徒 千一百十六人 錦華尋常小學校生徒 千三百十人
- 錦華商業補習夜學校生徒 百十八人
- 小川尋常小學校生徒 八百四十六人 神田尋常小學校生徒 千九百九十六人
- 神田商業補習夜學校生徒 百七十六人 濱路尋常小學校生徒 七百七十八人
- 永富尋常小學校生徒 三百五十六人
- 千櫻尋常小學校生徒 千〇三十人 練成尋常小學校生徒 六百九十九人
- 芳林尋常小學校生徒 千九十七人
- 橋本尋常小學校生徒 八百二十三人
- 和泉尋常小學校生徒 三百八十六人
- 今川尋常小學校生徒 千二百十七人
- 佐久間尋常小學校生徒 八百三十四人
- 佐久間補習夜學校生徒 二百六十八人

計 一萬三千百六十五人

舉式後、兒童ノ通學區域内ニ於テ旗行列ヲ行ヒ、

以テ奉祝ノ誠意ヲ表シタル學校左ノ如シ、

- 錦華尋常小學校 淡路尋常小學校 神田尋常小學校
- 千櫻尋常小學校 練成尋常小學校 橋本尋常小學校
- 小川尋常小學校 和泉尋常小學校 佐久間尋常小學校
- 西小川尋常小學校 今川尋常小學校 永富尋常小學校
- 芳林尋常小學校 一橋高等小學校

(三)日本橋區

十一月十日御即位禮當日、日本橋區内市私立各小學校及幼稚園ハ、大正四年九月二十二日附文部省令第七號ニ基キ、是日午後二時ヲ以テ奉祝式ヲ開キ、三時三十分萬歳ヲ奉唱ス、式後小學校兒童及幼稚園兒ニ祝葉ヲ給與シ又旗行列ヲ舉行ス、

儀式次第

- 一、職員生徒兒童君が代ヲ合唱ス
- 二、職員生徒兒童 天皇陛下 皇后陛下 御影ニ對シ奉リ最敬禮ヲ行フ
- 三、學校長ハ教育ニ關スル勸語ヲ奉讀ス
- 四、學校長ハ大禮ニ關スル訓話ヲ行フ
- 五、職員生徒兒童ハ文部省撰定ノ大禮祝歌ヲ合唱ス
- 六、職員生徒兒童

御大典奉祝トシテ遺憾ナキ成績ヲ舉クルヲ得タリト云フ

(五)芝區

十一月十日御即位禮當日、芝區内市立小學校ハ、午後二時三十分奉祝式ヲ舉行シ、兒童ニ祝餅ヲ與ヘ、午後三時三十分ヲ期シ、校長司會ノ下ニ萬歳ヲ三唱ス、越テ十六日、區内市立小學校兒童ノ奉祝旗行列ヲ行フ、尋常三年以下ハ校庭ニ於テ之ヲ行ヒ、同四年以上ハ、芝公園ニ集合シ、區長古橋幸正發聲シテ、萬歳ヲ三唱シ、旗行列ヲ舉行ス、

(六)麻布區

十一月十日御即位禮當日、麻布區内市立小學校ハ、午後二時前後ヨリ全校生徒ヲ集メテ聖德及御即位大禮ノ大意ヲ謹話シ、同三時三十分ニ至ルヤ、校長發聲ノ下ニ一同萬歳ヲ奉唱シ、其ヨリ豫テ準備シタル日ノ丸ノ小旗ヲ各生徒ニ與ヘ、職員引率シテ、其校ノ通學區域内ヲ行進セシメ、終テ歸校後、祝ノ餅(紅白ノ餅)一包ツツ與ヘテ解散ス、

(七)赤坂區

十一月十日御大典當日、赤坂區内市立小學校ハ、奉祝式ヲ舉行シ、兒童ニ紅白ノ祝餅ヲ給與ス、是

(三三四)

萬歳ヲ奉唱ス

- (萬歳奉唱方)
- 學校長 天皇陛下萬歳
- 職員生徒兒童 萬歳
- 學校長 萬歳
- 職員生徒兒童 萬歳
- 學校長 萬歳
- 職員生徒兒童 萬歳

(四)京橋區

十一月十日御即位禮當日、京橋區内市立小學校ハ、市教育課ノ通牒ニ基キテ、何レモ豫定ノ奉祝式ヲ舉ケ、十二日小學校奉祝聯合運動會ヲ日比谷公園ニ開ク、會スル者來賓保護者等數百名ニ達シ、五千ノ兒童ハ、豫定ノ競技ヲ爲シ、午後四時無事終了ヲ告ケ、一同隊伍ヲ整ヘ、新定ノ京橋區歌ヲ唱シ、山下門ヲ出テ、南鍋町ヨリ銀座通りニ出テ、京橋ヲ渡リ、南傳馬町ヨリ鍛冶橋ニ通スル大通ニ於テ、宮城ニ向テ整列シ、萬歳ヲ三唱シテ散會ス、從來運動會ハ、學校毎ニ之ヲ開催シ、校長間ニ聯合運動會ノ希望ナキニアラサリシモ、實行上能ク秩序ヲ維持シ得ルヤ否ヤノ懸念少ナカラス、荏苒今日ニ及ヒ、遂ニ今次ノ開催ト爲リ、

日各小學校共、其通學區域内ニ兒童ノ旗行列ヲ行ヒタルコト、諸區ト同シ、

(八)四谷區

十一月十日御即位禮當日、四谷區内各小學校ハ、奉祝式ヲ舉行シ、兒童一般ニ紅白祝餅竝ニ記念印刷物ヲ授與シ、又兒童全部ニ紙製ノ國旗ヲ與ヘテ旗行列ヲ行ヒ、赤坂離宮四谷方面御正門前芝生地ニ集合シテ、萬歳ヲ奉唱ス、集合所ハ、大國旗、萬歳旗及區名大旗ヲ樹テテ、之ヲ裝飾セリ、

(九)牛込區

十一月十日御即位禮當日、牛込區内各小學校ハ、豫定ノ奉祝式ヲ舉ケ、旗行列ヲ行ヒ、兒童ニ紅白祝餅ヲ給與ス、

(一〇)小石川區

十一月十日御即位禮當日、小石川區内各小學校ハ、豫定ノ奉祝式ヲ舉ケ、校長ヨリ全校兒童ニ對シ訓話スル所有リ、終テ兒童全部ニ紅白鳥ノ子餅ヲ給與シ、且校庭ニ於テ旗行列ヲ行フ、

(一一)本郷區

(CHINA)

十一月十日御即位禮當日、本郷區内各小學校ハ、豫定ノ如ク奉祝式ヲ舉ケ、市立小學校兒童ニ御大典記念帖、紅白鳥ノ子餅、幼兒ニ教育手工新折紙、紅白鳥ノ子餅ヲ給與シ、私立幼稚園稚兒ニ教育手工新折紙ヲ與フ、各學校何レモ奉祝旗行列ヲ爲ス、

(一) 下谷區

十一月十日御即位禮當日、下谷區各小學校ハ、豫テ申合セ、午後二時マテニ兒童ヲ各學校ニ集メ、午後三時三十分ヲ期シ、職員兒童萬歳ヲ奉唱シ、同四時全ク式ヲ終リ、其ヨリ各校何レモ其最寄ニ旗行列ヲ爲シ、熱誠ニ祝意ヲ表セリ、

(二) 淺草區

十一月十日御即位禮當日、淺草區内市立小學校十五校ハ、門前ニ大國旗ヲ交叉シ、注連飾ヲ施シ、高張提灯一對ヲ樹テ、式場ニモ注連ヲ張り、式壇ニ齋竹ヲ樹テ、眞菰ヲ敷キ、鏡餅及神酒ヲ供ヘ、豫定ノ如ク奉祝式ヲ舉ケ、職員及兒童新メリンス製小國旗及素甘紅白餅ヲ給與ス、其外私立小學校兒童ニハ、市立小學校ト同シク小國旗紅白餅ヲ、區營市立商業補習夜學校生徒ニハ、紅白餅ヲ

給與ス、式後各校ハ、何レモ通學區域内ニ旗行列ヲ舉行シタリ、

(一) 本所區

十一月十日御即位禮當日、本所區内各小學校ハ、何レモ奉祝式ヲ舉行シ、每校通學區域内ニ於テ旗行列ヲ爲ス、

(二) 深川區

十一月十日御即位禮當日、深川區内市立小學校ハ、何レモ豫定ノ奉祝式ヲ舉ケ、各小學校トモ、其通學區域内ニ兒童ノ旗行列ヲ舉行シ、以テ祝意ヲ表シタリ、

四 賜饌及午餐會

イ 賜 饌

十一月十六日即位禮及大嘗祭後大饗第一日ノ儀ノ當日、東京府ニ於テ饗饌ヲ賜フ、本市ヨリハ市會議員及區長區會議議長、市參與、助役、之ニ與ル、其次第左ノ如シ、

次第書

- 第一 鈴十一時三十分式場參入ノ用意ノコト
第二 鈴十一時四十分掛員ノ案内ニ依リ式場ニ參入ノコト
正午十二時諸員式場ニ著席ス
次ニ上席者賜饌拜戴並御禮執奏ノ詞ヲ述フ

次ニ賜饌拜戴
次ニ上席者 天皇陛下萬歳ヲ稱フ 一同之ニ和ス
次ニ各退散

附記

記念章傳達

上 傳 達

十一月十六日東京府ニ於テ饗饌ヲ賜タル市會議員及市助役並ニ區會議員十名ニ對シ、其筋ヨリ御大典記念章ノ授與有リ、乃チ之ヲ傳達ス、

今般貴下ニ對シ其筋ヨリ大典記念章授與相成候間取急キ御傳達候也

大正四年十二月八日

東京市長法學博士 奥田 義人

殿

〔別紙〕

假受領書

一大禮記念章

右受領候也

壹個

大正四年十二月八日

東京府知事通知

去ル十一月十六日當府ニ於テ饗饌ヲ賜ハリタル者ノ中別記ノ者ニ對スル大典記念章ハ、特ニ此際授與相成候條夫々本人へ御傳達ノ上領票ヲ微シ御回付有之度候也

追テ右記念章佩用ノ義ハ、本日中ニ御裁可ヲ仰ケ事ニ相成居候ニ付、明朝迄ニ何等御通知不致トキハ、佩用差支無キ義ト御承知相成度此段申添候也
大正四年十二月八日

東京府知事法學博士 井上 友一
東京市長法學博士 奥田 義人 殿

- 東京市助役從四位勳四等 高橋要治郎
同 宮川鐵次郎
東京市助役從四位勳四等 橋本久太郎
同 山縣 鐵藏
同日本橋區長正六位勳五等 新居友三郎
同京橋區長 國枝捨次郎
同 芝區長 古橋 幸正
同麻布區長 平林 政博
同赤坂區長 長谷川友次郎
同四谷區長 佐藤 三吾
同牛込區長 古 本 崇
同小石川區長勳八等 須崎 緝作
同本郷區長 見山 正賀
同下谷區長從六位 戶野周二郎
同淺草區長 山崎林太郎
同本所區長從五位勳六等 岡田 淳司
同深川區長 植木 武彦
東京市麹町區會議長勳四等 竹村 良貞

同日本橋區會議長 柿沼谷藏
 同京橋區會議長 田村藤兵衛
 同麻布區會議長 佐治實然
 同四谷區會議長正七位勳四等 菊地武恒
 同小石川區會議長勳六等 佐藤正興
 同本郷區會議長 吉川仙太郎
 同下谷區會議長 坂入宗兵衛
 同淺草區會議長 倉田茂三郎
 同深川區會議長勳五等 中村清藏

下受領者

御大禮記念章ヲ傳達シタルハ、東京府通知別記ノ者及市會議員也而シテ市會議員中議長中野武實、須藤太郎、議員小泉策太郎、飯塚仁兵衛、鳩山一郎、秋虎太郎、江間俊一、矢野鉉吉、伊藤仁太郎、別ニ授與サレタルヲ以テ、市ヨリ傳達セス

東京市會議員正五位勳二等 加藤正義
 同勳三等 豐川良平
 同 山口憲
 同 音羽耕逸
 同 原田種徳
 同 青木榮次郎
 同 大橋新太郎
 同 秋山朝

溝淵正氣
 角田眞平
 辻井喜太郎
 笠原文太郎
 星野錫
 津村重舍
 橋本直一

伊東 靖

午餐會

十一月十日午後一時豫定ノ如ク、市役所樓上ニ午餐會ヲ開ク、東京市會副議長山口憲其他市會議員及同待遇者出席ス、市長代理助役高橋要治、郎來賓ニ對シテ挨拶スル所有リ、奉祝ノ辭ヲ述ヘ、此曠古ノ盛典ニ會シ、葦藪ノ下ニ在ル我々東京市民ハ舉市一致、奉祝ノ誠ヲ捧クルハ勿論益、自治體ノ發達整備ニ努力シ、以テ 聖恩ノ萬一ニ奉答セサル可カラスト稱シ、杯ヲ舉ケテ 兩陛下ノ萬歳ヲ三唱シ、會衆之ニ和ス、市會副議長山口憲ヨリハ、賀辭言上ノ爲メ、宮城竝ニ青山御所ヘ參候シタル次第ノ報告有リタリ、

五事務休停

十一月十日御即位禮當日ハ、公休日ナルヲ以テ、本市事務ヲ休停シ、市内學校亦休業ス、

六花電車運轉

十一月十日ノ御即位禮ヲ奉祝シ、本市電氣局ハ、是日ヨリ十五日ニ至ル間花電車ヲ運轉ス、内十四日ハ、最モ嚴肅ヲ要ス可キ大嘗祭ニ當ルヲ以

同 所澤貞太郎 近藤達見
 同 大内重兵衛 長澤延次郎
 同 早川喜兵衛 八東可海
 同 早川庄太郎 後藤武夫
 同 尾後貫朝吾郎 野々山幸吉
 同 糸川正鐵 若林成昭
 同 横山勝太郎 細野順
 同 野並慶定 清峯太郎
 同 村松恒一郎 川久保源治
 同 藤原俊雄 羽田如雲
 同 榎川忠兵衛 木村正孝
 同 中島行廣 坪谷善四郎
 同 淺川保平 伊藤定七
 同 西川嘉門 三浦良幹
 同 長谷川吉次 安藤兼吉
 同 鎌田芳太郎 岩松兼經
 同 高橋義信 堀田生次郎
 同 松崎權四郎 斯波厚
 同 松山傳十郎 松崎英太郎
 同 新井與四郎 宮崎三之助
 同 安住佐太郎 白石源右衛門
 同 大貫傳兵衛 根岸治右衛門
 同 山瀬俊賢 笠原小十郎
 同 大澤朝吉 長清助
 同 太田信治郎

テ、之ヲ停休ス、

奉祝花電車運轉日割

月日	七曜其他	車數	運轉線路	運轉回數	收容車庫
十一月十日	水曜(御即位禮當日)	五	品川上野淺草有樂町線及三田小川町須田町間	午前二回、午後一回	三田
十一月十一日	木曜	二三	深川線、江東橋線	同	本所山
十一月十二日	金曜	二三	大塚、外手町間	同	大塚
十一月十三日	土曜	二三	六本木、三田間	同	日比谷
十一月十五日	曜	二三	廣尾線、日比谷線	同	廣尾

花電車名稱
 日 月寶祚無窮 奉祝ノ歌 文官武官
 萬歳太平樂 菊花ノ車 以上五臺

七奏樂

十一月十日御即位禮當日、日比谷公園音樂堂ニ於テハ、本市用地課監督ノ下ニ豫定ノ奏樂ヲ施行ス、聽衆場ノ内外ニ滿チ、音樂堂開始以來ノ盛況ヲ呈シタルニ拘ラス、何レモ奉祝ノ至情面ニ溢レ、熱心ニ聽聞シテ何等ノ喧騒ヲモ見サリシハ、誠ニ昭代ノ盛事ト謂フ可シ、

十一月十日
 東京派遣海軍々樂隊演奏

第一回吹奏樂 午後十二時三十分ヨリ二時三十分ニ至ル

第一部

- 一、行進曲「楽しい日」 ウイガント作
- 二、歌劇序曲「歡呼」 パツハ作
- 三、歌劇拔萃曲「舞踏の夢」 ストラウス作
- 四、クラリネット獨奏曲「ルイザモンツォルト」 ベルクソン作
- 五、歌劇綜合曲「トロバトーン」 ウエルヂ作
- 第二部
- 六、即位大行進曲「豫言者」 マイヤベイヤ作
- 七、歌劇拔萃曲「リゴレット」 ウエルヂ作
- 八、描寫的綜合曲「ハイランドの風景」 ムーレ作
- 九、歌劇幻想曲「寵倖者」 ドセツチ作
- 十大禮唱歌曲「東京行進曲」君が代

第二部

- 第一行進曲「即位」 クラルク作
- 二、序曲「ホルチーキノ啞女」 オーベル作
- 三、圓舞曲「分限娘」 フアル作
- 四、東洋風音樂「キスメット」 マーケイ作
- 五、歌劇拔萃曲「マルタ」 フロトウ作
- 第二部
- 六、歌劇拔萃曲「自働車美人」 ギルバート作
- 七、木琴獨奏曲「囀雀」 シエンプロット作
- 八、パトロール曲「トウブリン灣よりの遠征」 ラムベ編

及府社ノ一ヲ舉ケ、他ハ類推セシム、

靖國神社

麴町區富士見町鎮座別格官幣社靖國神社ハ十一月十日御即位禮當日、左ノ祭式ニ據リ中祭ヲ行フ、是日ハ國家ノ一大慶日ナルヲ以テ神饌ノ調理社殿ノ裝飾等非常ノ注意ヲ以テ之ヲ爲シ、是日ヨリ五日間煙火ヲ揚ケ、里神樂武術試合其他各種ノ餘興ヲ行ヒ、連日參拜者陸續タリ、

即位禮當日祭々式

- 當日早且神職社殿ヲ裝飾ス
- 午前十時宮司以下參進所定ノ座ニ著ク
- 次ニ御扉ヲ開ク 御簾ヲ宮司奉仕、主 警蹕 揚ク 典二人從テ
- 此ノ間奏樂
- 次ニ神饌ヲ供ス 神宜以下
- 此ノ間奏樂
- 次ニ宮司祝詞ヲ奏ス
- 次ニ宮司玉串ヲ奠シ拜禮
- 次ニ神宜以下拜禮
- 次ニ神饌ヲ撤ス 神宜以下
- 此ノ間奏樂
- 次ニ御扉ヲ閉ツ 御簾ヲ 宮司奉仕、主 警蹕 垂ル 典二人從テ
- 此ノ間奏樂
- 次ニ各退下

即位禮當日祭祝詞

此乃所乃底津岩根爾宮柱太敷立高天原爾千木高知且稱辭竟奉留掛麻久母畏伎靖國神社乃大前爾宮司正七位賀

(三四〇)

八、歌劇幻想曲「トスカ」

九、歌劇拔萃曲「婚禮市場」

十、各國々歌同盟軍 露西亞、白耳義、日本、佛蘭西、伊太利、英、吉利、佛

ヅチニ作
ヤコビー作
ウード作

八橋梁點燈裝飾

十一月十日夜、御即位禮ヲ奉祝スル爲メ、本市土木課ハ、左ノ三橋ヲ點燈裝飾ス、

日本橋 鍛冶橋 四谷見附橋

九煙火

十一月十日御即位禮當日、豫定ノ如ク本市水道課監督ノ下ニ奉祝煙火ヲ打揚クルコト、左ノ如シ、

打揚月日	打揚場所	本數	請負人氏名
十一月十日 (御即位禮當日)	日比谷公園	(晝六 夜四一)	鐵屋屋原彌兵衛
	東京帝國大學構内	(晝六 夜四一)	同
十一月十日	九段坂上	(晝六 夜四一)	玉屋及川博之
	兩國	(晝六 夜四一)	同
	青山本尾原	(晝六 夜四一)	平山煙火製造所主 小野よし

一〇祭祀

十一月十日御即位禮當日、市内各神社ハ、中祭ヲ執行ス、祭式大同小異ナレハ、左ニ官幣社國幣社

茂百樹畏美畏母白左久高天原爾事始米且遠皇祖乃御世々々彌繼々爾承繼來座世留次第乃爾爾々々天皇命乃由皇皇大御神乃大御前爾告奉里天下乃國民爾宜給此敷給布登八十日日波有禮杆母此乃十一月乃十日亥生日乃足日乃吉日登撰定米且大典禮行給比治給布爾依里且大前爾豐御食豐御酒種々乃物置橫山乃如久獻奉里置伎且言壽疑祝比奉良久波天皇命乃大御位波天壤乃共無窮爾變留事無久大御稜威波日月乃共萬世爾輝且里且知食須四方乃國波天乃壁立極國乃退立限青雲乃露久極白雲乃墜居向伏限青海原波船乃舳乃留留極國原波馬乃爪乃至留限狹伎國波廣久嶮伎國波不邪久遠伎國波八十綱打懸邪且引寄須留事乃如久彌張里爾張里彌廣良爾廣呂里行加奉大御隆乃大御世登言壽疑祝比奉留狀黃字牟我志美平邪久聞食志且今母往前母皇朝廷乃守護皇御國乃鎮登朝乃守里夕乃守里爾守幸閉給閉登畏美畏美母稱辭竟奉良久登白須

大正四年十一月十日

日枝神社

麴町區永田町鎮座國幣大社日枝神社ハ十一月十日午前十時、御即位禮當日祭ヲ奉仕ス、是日境内ノ丘陵上(二子山ト稱ス)ニ遙拜所ヲ舖設シ、表裡參道入口ニ齋所ヲ建テ、注連繩ヲ張り、中門内ニ鏡劍玉及五色帛ヲ掛ケタル大櫛二基ヲ建テ、鉾旗二旋錦旗二旋ヲ飾リ、神門外ニ國旗ヲ掲揚ス、麴町區在郷軍人會會員其ノ他一般ノ參拜者多ク、社頭

(三四一)

賑フ、

御即位當日祭式次第

當日早旦社殿ヲ裝飾ス

時刻宮司以下所定ノ座ニ著ク

次宮司御屏ヲ開キ畢リテ側ニ候ス

次宮司以下神饌ヲ供ス 此間奏樂

次宮司祝詞ヲ奏ス

次宮司玉串ヲ奉リテ拜禮

次補宜以下拜禮 此間奏樂

次補宜以下神饌ヲ撤ス

次宮司御屏ヲ閉テ畢リテ本座ニ復ス 此間奏樂

次各退出

以上

御即位禮當日祭祝詞

掛麻久母畏後日枝神社乃大前爾宮司正六位勳六等久

保惠鄰恐美恐美母白左久

高天原爾事始米氏遠皇祖乃御世與里彌繼繼爾受繼來

坐世留次第乃隨爾

天皇命波天都高御座爾坐志氏天都日嗣知食須事乃由

乎皇大御神爾告奉里天乃下乃國民爾宜給布登今年乃此

乃月乃十日乃日爾大御禮行給比治給布爾依里氏大神乃

大前爾御食御酒種種乃物共獻奉里氏稱辭竟奉留狀乎平

介久安介久聞食志氏今母以往母

天皇命乃大御世乎手長乃御世登堅石爾常石爾齋奉里嚴

御世爾幸奉里氏萬世爾大坐坐左志米給比知食左幸四方

一一鳴 笛

十一月十日午後三時三十分、紫宸殿ニ於テ内閣總理大臣萬歳ヲ奉唱スル時刻ヲ期シ、市内ノ汽笛設備ヲ有スル工場其他ハ、一齊ニ汽笛ヲ鳴ラシタリ、左ニ其一ニテ舉ク、

小石川區 東京砲兵工廠東京帽子會社堀内製紙工場ニテ、何レモ鳴笛ヲ實行ス、

本郷區 鳴笛ヲ爲シタル者、左ノ如シ、

一、設備アリタルモノ
根津片町二四 植田耕工場 駒込坂下町一二五 中央護謨株式会社
本富士町一 東京帝國大學

一二菊花大會

御大禮奉祝記念ノ爲メ、本市主催ノ下ニ、電氣局主任シテ日比谷公園内ニ菊花大會ヲ舉行ス、十一月六日開會シ、好評噴々ノ裡ニ、同月二十五日ヲ以テ閉會ス、出品總數二千二百九十五點、觀覽人約九十萬人ニ達ス、

(參考)
菊花大會景況

市電氣局の主催に係る日比谷公園の菊花大會今年は御大禮奉祝のためとあつて出品も約千點に及び培養家も亦一

(三四)

乃國波皇大御神乃依給爾爾隨爾爾青海原波船乃留留極陸路波馬乃爪乃至爾爾狹彼國波廣久嶮彼國波平介久遠彼國波八十綱打懸介氏引寄須爾事乃如久廣彼厚彼大御恩惠乎蒙良志米給比高彼貴彼大御後威乎仰賀志米給爾登爾辭竟奉良久登恐美恐美母白須

大正四年十一月十日

神田神社

神田區宮本町鎮座府社神田神社ハ、十一月十日御即位禮當日、中祭ヲ行フ、

前一日、一ノ大鳥居ニ齋竹高サ六間餘ヲ建ツ、當日早旦社殿其他ノ裝飾ヲナス、即チ内陣ノ上段ニハ、錦欄ノ打敷長サ一丈七尺許、今御即位記念トシテ特ニ調製セシモノ、金ヲ布帛ニ五采雲田形ニ色角ノ葉等悉ク山緒アル織田シ模樣アリ、ヲ布キ、本幣殿ノ兩側ニハ、壁代若クハ五采緞子ノ幔帳ニ模樣ヲ垂レ、拜殿ノ縁ニハ、幟旗、比禮旗數流ヲ、庭上ニハ、瓊簾、鈴鈴四竿ニ、紅白ノ錦旗ヲハ配列シ、幟旗、瓊簾、鈴鈴、儀物、樓門ニハ、門帳ヲ懸ク、午前八時表門以外ノ通路ヲ閉ツ、神職四名伶人五名ニハ、祓所^{庭上ニ設テ、方ニ間中、繩張、忌如ニ著キ修祓シ、同九時昇殿、開扉ヨリ閉扉マテ、祭祀令ノ定ムル所ニヨリテ奉仕シ、神社古例ノ一種六臺、四種十臺ノ供御ヲハ奉奠セリ、當日式ニ列セシ氏子總代人、即チ神田、日本橋、麴町、下谷ノ四區ニ互ル百八十八箇町ノ代表者ハ六名ナリ、}

午後ヨリハ、帝國在郷軍人會神田分會、神田協和會、東京書籍共立會等ノ會員參拜、又ハ奉賀式アリ、

としは力を入れて丹精を凝らしたるものと見え昨年に比して數倍の出來榮えなので八日の如き朝來の雨天にも係はらず相當の人数のあつたのは強ち彌次馬ばかりでもあるまい先づ飾られた

音樂堂前の奉祝塔

の右と左に市培養を梓作り三鉢と篠立約百點とある何れも花の出來榮え其種類決して捨つべきものでは無いが然も其大作りも細管も中管も誰の目にも其手入に今一としほの注意があつたなら儘に千金の價値があらうにとの感じは恰度現在の市電氣局の昨今を思はせ意味深長だ、更に其左を見ると安田善次郎氏の出品がある日本に三つしか無いとか云ふ直徑五尺餘の見事な大鉢何百圓ほどするだらうと早速無風流に直踏みが始まる其左右には對の瀬戸鉢其四隅の懸崖には赤の同じやうな瓦鉢其陳列ばかりでなく其構造りも中央から周圍に篠立ちの數も並びも整然として

一糸亂れぬ状態は

如何にも安田一家の堅實な營業振りが其花の上にもまで見えて安田翁の心が偲ばれる更に其右方の花壇を見ると此處には岩崎男爵家の濫いゝ盆景がある山菊の寄植野菊の懸崖電燈輝く銀座の街より一轉して秩父山中に炭小屋を見る思ひ絢爛の極の清淡桃山の花見に飽いた太閤が利休の點茶に雅懐をやるの趣あるは岩崎現時の反影とも見られやう更に毛利家と岡澤家とが隣して一方は男爵なりと云はゞ云へ其後列の三鉢前列の四鉢大作りの鉢のさま

CHIRIN

からして整然と威風あたりを壓せんとして居るに比し岡澤子爵の篠造りは我こそは藤原鎌足公の後裔と云つては見たものゝどこやら振はぬと云つたやうな趣があるのも面白い、海軍少將の澤良喚氏陸軍少將の平山直方氏何れも秋香會員ながら

共に劣らぬ出品も

面白く工學博士の笠井愛次郎氏下澁谷の豪農？佐々木定吉氏亦好一對の取組で我は農我は工と一步譲らぬ趣が好對照だ本郷を中心とする同好會が二花壇を占領して紅黄紫白我れ劣らじと美を競ふに對し小石川を中心とした重陽會が何條劣るべきと同じく二花壇を占領して互に芳を競へるさまは慥に該會中の白眉で目も紛なる見物であるが扱て同好會は慥に一段群を抜てゐるらしい種苗會社が井上官次郎氏の名で堂々一花壇を占領して居るが思ひなしか營業振を發揮したやうに見えたさて亦花の出来からすると同好會の寺崎佛吉氏の千松島は黄花の大輪中瓣一尺一寸に及んだ見事なもの同前島岑象氏の舞獅子は

薄桃抱き咲の逸品

下田美照氏の弓弭の光は細管黄花の優れたもの其他素人の眼には老松「入雲龍」許の紐「佐野の渡」翠波「日出の海」初霜等何れも立優つて見られた之に對する重陽會は出品人の姓名を誌さぬので一寸評するにも困つたが弓弭の光「舞の袖」入船の雪「黄龍司」等が最も目についた又た一方秋香會の出品では笠井氏の「玉樹後庭花」雨後の夕陽立川勇次郎氏の「青山の雲神女の舞」澤良喚氏の「玉樹後庭花」毛利家の神女の

(三四四)

舞「不老酒」は素人には天盃もよく見えた岡澤子爵の十四鉢中では田郷丸が最もよく佐々木定吉氏の七鉢中でも田郷丸と雨後の夕陽とが

非常によく出来た

岩崎家の盆景では懸崖のあけぼの野菊、向素人には山菊の寄植も眼についた安田家の出品では何と云つても小倉山が一番の出来で酒井伯爵家の三方作り、関は左右一丈以上に及び其出品何れも素人離れのしたそして餘り飾らぬ見ること堅實なるお大名の面目が躍如として想像される井上官次郎氏では延壽司岡本鷹雄氏の出品では「日出の海」明月日比谷公園では代々の譽平山直方氏では慶雲原田貞齊氏では玉冠「捷軍小澤慎平氏では大勝利「黄帝」鈴木靈眞氏では美女の舞「遠藤千恵氏の鳳凰」澤陽の秋多田角太郎氏では金光松「波上月朝倉氏では肥後菊「神奈川縣高田の

莊原青木芹澤三氏

の内では莊原氏の「天恵千葉縣北條の熊澤直見氏」一文字長野縣宮越喜一郎氏の「大典の祝等も遙々出品した御志に對しての御世辭許りでもなく先づ賞めておくべきものだらう更に同好會八王子支部の出品に係る小峰光太郎氏の「天恵齋藤政吉氏の「天錦章等は是れ亦たなか」に見事なもので今や日比谷公園は紫白黄紅菊花薫じて秋正に關である

(十一月九日東京毎日新聞)

日比谷の菊花大會審査發表

目下日比谷に於て開催中なる東京市大禮奉祝菊花大會の



會 大 花 菊 市 京 東

審査は十一日比谷公園の會場に於て開催されたるが其結果左の如し

一大菊盆栽 △一等賞千松島寺崎傳吉△同流錦馬同人△同雪嵐稻生

兵吉△二等賞重陽鈴木靈眞△同美女の舞同人△同秋芳同人△同

金鶏司稻生兵吉△同眞紅星福地喜三郎△同白波上の月鈴木靈眞

△同御所櫻小澤慎平△同舞獅子前島孝象

一大菊切花 新花の分△二等賞白鳳更生會△同金星流福地喜三郎△

古花の分△一等賞眞紅星福地喜三郎△同翁龍山井秀規△二等賞

金鶏の司渡邊顯辰△同流水の韻鈴木昌實△同敷島の錦更生會△

同萬花の長同會

(十一月十二日 世界新聞)

一三警 備

御大禮中、市民ハ何レモ火ノ元等ニ關シテ自ら警メタルハ言フマテモナシ、各町申合セテ自身番ヲ設ケ、日夜警備シタル者亦少ナカラス、

一四市民ノ奉祝

御大禮當日ハ、市中至ル所一段ノ盛觀ヲ呈シ、殊ニ宮城前ハ終日人ヲ以テ埋ムル景況ニシテ、其數實ニ百二十萬トス、而シテ是日出ル能ハサリシ奉祝行列等ハ、其後連日絶エス、以テ月下旬ニ及フ、

(參考)

人の海灯の海

津々浦々の際涯にも、歌ふ、今日の大典の尊き』に、ましてや帝都の十日は、大空こそ曇れ心からなる晴やかな笑顔を浮べた人々は、玉の宮居間近く

祝の催し物に憧れる人達は、
刻々に増加 して、午砲の鳴る頃は遠く坂下御門の先から、凱旋道路、櫻田門に掛けて一望、白い黒い人の顔に埋められた、その中に武者草鞋甲斐々々しく法螺貝を鳴らした白装束、四谷の山伏行列の三十二人、之は萬歳門で萬歳を唱へて引退つた、槍物町の御輿、麻布の御輿が『ツツシヨイ』で來て、馬場先から退る工廠の一萬人は二重橋前の廣場に整列して萬口一齊に『ばんざい』の聲を掲げる、天地に響けとばかり唱ふる聲に幾萬の觀衆亦これに應じて『ばんざいばんざい』續いて京橋、日本橋を初め板橋までの旅行列十四隊が順次に繰込んで來て、手に手に持った

小國旗の波 は紅白の亂れに美しとも美しかった、三時三十分の時は來た花火が揚がる、寺々の鐘、工場のは高く今日の大典を祝する、旅行列の一面は萬歳を唱へた、幾萬の人もまた帽子を振つて和した、遙かに股々と轟く百一發の祝砲、この時日の光りは心ある様に雲間から漏れた、かくて夜になると萬藏門の灯が美しい光りに輝く、夜を待つて繰り出した芝、淺草、下谷、麻布、深川から十數組の
提灯行列は 人込の中を練つて來る、宮城前は灯の海と化し



(宮城前ノ旗行列)



(日本橋ノ旗行列)



(提灯行列)



(水代橋ノ神遊)

て美観を極めた、灯の海は萬歳の聲と共にゆら／＼と揺れる大内山の松が枝の繁みの間から、三個の提灯が之れに應じる。これは勅旨を奉じて侍従松浦清興、神谷掌典の兩氏が市民の奉祝に答へたのであつた。十一月十日の夜は斯くして二百萬市民が歡喜に更け行くのであつた。

(十一月十一日時事新報)

十日の東京市

御即位式當日、十日の東京市は朝來雲低かりしも雨降るまでに至らず、熱せる市民は各區各町到る處に奉祝の誠意を表せり、今本紙締切迄の分を擧ぐれば左の如し。

二重橋前

大内山の空が、こよない歡喜に明け放れた頃から、朝拜の人が宮城前に集つて居た。禮裝の陸海軍將校が間斷なしに二重橋を渡つて、奉賀に參内する。騎馬で行くもある、自動車や馬車で乗込むもある、徒歩もある。帽子の飾毛が奥まつた橋の上に見え隠れするのが又なく美しく、それを見やうとて、或は奉祝の行列を見やうとての群衆は、八時半頃に櫻田門内から坂下門前にかけて三四丁の間人垣を作つた。誰も彼も胸に帽子に菊花を挿し、或は奉祝旗を付けて居る。馬場先門へかけての裝飾は御發業當日の儘で、萬歳旗、日月旗が嚴かな光輝を放つて居る。この沿道にも御世をこよぶく人の帯が出来て居る。花自轉車を揃へて乗付けるがある。俣で來て遙拜する高齢者がある。人出は漸次増すばかり、午後零時半本所理髮組合の旗行列を始め、團體續々練込み來り。午後一時には長蛇の如き砲兵工廠一萬人の行列がやつて來

た。一方日比谷公園には六日から菊花大會が開かれて居る。午前十時から海軍々樂、午後三時から市の奉賀式が菊花や萬歳旗で美しく飾つた音樂堂で催されるので、夫等の見物人は彼方此方に雜沓した。

靖國區

靖國、日枝兩神社にては午前十時中祭を執行したり。靖國神社の廣庭には多數の露店出店し、參詣者堵をなせり。明治藥學校生徒千餘名の旗行列は正午清水谷公園を出發、外濠を牛込見附、神田橋に出で、大手町を経て二重橋前に至り、萬歳を三唱し、更に櫻田門より赤坂見附に出で、同校前に至りて散會せり。飯田町三、四、五の三ヶ町の若者達は午前九時より粹な衣にて踊屋臺三臺を曳き廻し、奉祝踊を演じ居たるが到る處見物人は山をなしたり。

京橋區

午前九時區會議員一同區役所樓上に集合、奉祝文を決議し、國枝區長、區會副議長、河合萬五郎氏と共に宮内省に出頭して奉呈せり。區役所樓上には奉賀受名簿を備へ、午前九時より奉賀を受く。その名簿は十六日迄の分を纏めて、宮内省に奉呈すといふ。午後三時より區の公民三千五百名、明石町京橋高等小學校に集合、國枝區長主會となりて奉祝の御神酒を一同に領てり。此外十一ヶ所の區内小學校にては生徒一同午後三時までに各學校に集合して奉祝式を催し、萬歳の三唱を終つて後、一萬三千人は各校長職員に引率せられて各通學區域内の旗行列を開始したり。入船町北川氏主催の日本橋京橋區の板金業組合員の團體二百五十名の提灯行

列は午後三時まで同區明石町河岸輕子橋際に集合したり、これより入船町通を練つて八丁堀河岸に出で新正橋鍛冶橋馬場先を経て二重橋前に至り萬歳を三唱す

日本橋區

中洲町にては朝より高さ一丈二尺餘の鳳凰の山車を曳き出したり、桐に鳳凰の模様ある長着つけたる十歳以上十八歳までの少年五十名二名の頭が先きに立つ、槍物町は神輿を出し坂本、十思上町各女子高等小學校生徒數千名の旗行列あり、人出多く頗る雜沓せり

神田區

神田明神にては午前九時莊嚴なる中祭を執行せり、多町青物市場の若者約三百名は正午萬世橋停車場前に參集午後二時出發御成街道を経て上野公園に向へり、上野にて東京青果物組合會員四百名と合して旗行列を組織し、萬世橋神田橋を経て順路二重橋前に至り萬歳を三唱して散會する、筈同市場連は別に萬世橋の南側に盤臺五百枚を積み上に青松を飾り市松の油障子を蔽ひたる奉祝飾物を造れり、区内十八の官私立小學校にては午後三時半の式終つて兒童の旗行列を催すべく、講武所にては見番前に屋臺を拵へ、午後三時組合の仕事師は佐久間町の獅子を木遣音頭で運び來り飾りつけたり、夕方よりは手踊ある筈、大時計前には同町一丁目の『翁』二丁目の『小鍛冶』和布新『臺所』町の『石橋』佐久間町の『素盞鳴尊』四臺の山車を飾り午前より笛太鼓にて賑やかに御代を壽ぎ居たり

淺草區

淺草觀音はじめ区内各神社佛閣に於ては正午頃よりそれぞれ御大禮に關する講演會を開き各小學校生徒約三千名はその校に於て舉式後淺草公園に集合一時半より旗行列を開始し二重橋に向へり、山谷町の有志二千餘名は午後四時半今戸八幡社境内に集合し二重橋まで提灯行列を行ふ手筈にて二時より幹事は境内に詰かけゐたり、六區の各興行物は何れも休業して奉祝の式を擧げたり

下谷區

区内十五の各小學校約一萬二千六百餘名の生徒は午前九時各學校に集合、式を擧げて後各區域に於て旗行列を爲し、午後三時萬歳を三唱して散會せり、竹町の料理店松家の雇人約百六十は大典に因みし銀製縁起鍋祝皿を萬歳旗や國旗に吊し車を連ねて上野公園に到り、それより順路宮城前奉祝門に到り、萬歳を唱へて午前十一時引揚げたり、竹町有志、千十三名は第六福寶館前に參集して公園に出で順路二重橋前に到る、山伏町有志五百八十二名、坂本町有志八百六十一名も同じ道順を二重橋前に到つて萬歳を三唱し日比谷公園に入りて散會せり

小石川區

砲兵工廠職工約一萬人は、淺黄や紺の職工服に脚絆、草鞋がけ、帽子に菊花を著け、國旗を手にし二百人宛五十圍を編成して十一時同廠正門を出發、水道橋より高等商業學校前に到り鍛冶橋に抜け南傳馬町を右に折れて紺屋橋を渡り有樂橋を経て帝劇前より二重橋前に到り萬歳を奉唱し、文部省前にて解散せり、殿りの正門を出でしは午後一時頃なり

其他林町白山聯合組合團約百十名は午前十時白山神社に
參集、旗行列を爲して二重橋前に到り新諏訪町有志數百名
も旗行列にて附近を一週せり、尙松枝町は御即位式記念の
神輿を新造したるが午前八時より小日向神社附近を昇ぎ
廻はりたり

芝 區

花自轉車行列二百二十名は午前十一時十分芝公園を出發
せり、列は十臺を一組として一列の縦隊をとる、車輪に取付
けたる五色のモール、把手には小さき國旗を交又したる美
しき馬場先門まで徐行し、宮城を拜して大手町、吳服橋を渡
りて、上野に赴き、不忍池畔に至れり、水道衛生工事請負組合
の旗行列は其數百五十人、羽織袴と洋服のみにて二時三十
分芝公園を發し二重橋に至りしは三時三十分萬歳を三唱
したり、此外四國町八十名の羽織袴行列あり、神輿、山車等出
でて賑ひたり

麻布區

飯倉熊野神社の御輿は午前八時八十餘名の若者に昇がれ
日比谷公園迄練行き八重洲町にて晝食後新橋より芝公園
を廻つて返り、算小學校及び區内幼稚園聯合の一千百名、麻
布尋常小學校の千五百名、飯倉小學校の九百名等は各自校
にて午後三時半奉賀式を行ひ夫より旗行列をなして區内
を練行きたり

本所區

區内の九小學校男女生徒約一萬人はその校に於て式を舉
げたる後旗行列を行ひ、各町内を練歩きたるが一時は全區

菓子と云ふ兵營生活としては大變な饗應、一同是は「」と
舌鼓打つてゐる程に午後二時半啣曉として集合喇叭が響
き渡れば三線の縦隊横隊を作つた總勢遙に京都の方を拜
し、劔を抜く將校、捧銃の兵卒共に肅然たる最敬禮の中に君
が代の吹奏は湧くが如くに加はる續いて中隊長は聲も嚴
に勅語を捧讀し終るや、天皇陛下萬歳の三唱天に轟き鳴り
は少時は止まなかつた (十一月十一日東京朝日新聞)

花の日は九日十日

花の日の菊の花は愈よ九日十日の兩日、午前七時から午
後四時まで

- ▲九段坂下▲市ヶ谷見附▲日比谷公園▲三越前▲白木屋前▲村
 - 井銀行前▲萬世橋▲松屋前▲大學赤門前▲春日町▲江戸川終點
 - ▲虎之門及芝公園▲神樂坂上▲上野廣小路▲赤坂見附▲澁谷宮
 - 益坂▲新宿道分▲柏木鳴子天神前▲新橋停車場前▲深川黒江町
 - ▲茅場町▲水天宮前▲巢鴨終點▲水道橋▲四谷見附▲女子職業
 - 前▲女子美術前▲大塚終點▲吾妻橋▲駿河臺上▲銀座尾張町
- の十八ヶ所路傍で賣る、嘉悦孝子女史は本部の女子商業前
に天幕を張つて同校出身者十數名と共に店を出す、日比谷
公園前では天野博士夫人爲子以下十數名、尾張町交又點附
近は昨年と同じに枝吉夫人が、盛裝した同町商家の令嬢と
一緒に辻に立つ、茅場町交又點は藤間勘十郎が門下の令嬢と
と共に活動し、長谷川時雨、岡田八千代兩女史もそこに出る、
女子美術前は校長の男爵夫人佐藤静子が若夫人や黒の紋
服を著た女生徒を率ゐ、九段上は吉岡女醫學校長が女醫を
使つて共に四五萬を賣らうといふ勢である、三越吳服店前
は山本男爵夫人、加藤中將夫人、中濱博士夫人の御歴々揃ひ
白木屋前は櫻井ちか子女史が生徒を部下とし大學正門前

旗の巻と化し、萬歳々々の聲盛んなりき、斯くて列は區役所
前に集合して萬歳を三唱し正午頃散會したり

深川區

區内十五の小學校生徒は午前十時より各校に集合し式を
舉げたる後各町内に旗行列を行ひ區役所前に集合して萬
歳を三唱して解散せり

赤坂區

區内各小學校にては午前十時奉祝式を行ひ式後旗行列を
開始したり

牛込區

津久土千三百名外各小學校にては午後三時各自學校に參
集して萬歳を三唱の後附近各通學區域にて旗行列を爲せ
り (十一月十一日萬朝報)

兵隊さんの喜び

大典を祝する爲め近衛第一師團の各聯隊にては莊嚴なる
祝賀の式と和氣霽然たる饗宴とで時ならぬ賑ひを見せた
先づ正門前には
一對の轡を 樹て門には大青竹に日の丸の旗を秋風に靡か
せ營庭は心地能げに掃き清められ全員は新調の軍服に新
調の靴夫れに襦衣ズボン下の末に至る迄新しく身に著け
武者髯を剃り六時半の起床と共に入浴して身體の塵を拂
ふ等萬端用意が済むと體て十時を相圖に各中隊毎に中隊
長以下全員將校集會所に參し新に御下賜になつた御眞影
を拜し、式が終ると今度は
特別御馳走 の午餐となり赤飯、豚汁、きんとん、蓮根、芋、林檎

は岡田、入澤、穂積其の他博士夫人十餘名が出陣する、松屋前
は宇佐川中將夫人、春日町交又點には鳩山春子女史が女子
職業成申俱樂部の婦人を率ゐ懸命に活動する九日には本
部の女子職業へ荷車や自働車が後から「」と來て花を運
ぶ十數名の苦學生は汗になつて送りをやる、今年は豫約賣
りを廢したが、それでも砲兵工廠の二萬四千、電氣局の八千、
專賣局の三千、鐵道院の四千、中山太陽堂の一萬といふ大口
丈けは豫約し、これも特別に扱はれた紅葉館、養生堂、三越、白
木屋、市村座、新喜樂等は既に花で店飾をしてゐる、兩日共賣
手は日の丸に菊の花を出した徽章を胸に付け、花を盛つた
籠を提げ、金の入つた小箱を携へ、三人一組となつて賣るの
である、釣鐘は例によつて成るだけ出さぬ事としてゐる、見
物なのは吾妻橋際賣場で金彫家の香川勝廣氏が令嬢ふく
子を賣子にし、氏自身も赤褌で應援するさうである

十一月九日萬朝報

満都に花降る第二日

九日はほんの斥候戦、十日こそ花の日晴れの場所とあつて、
手強ね引いた貴婦人令嬢連は、早朝から持場持場に陣取つ
て、鶴の目鷹の眼であつた

本郷は道分 元富士署前、一丁目、白山肴町と綱を張つたのは
女子美術の生徒約百人で、一高の朴齒の下駄や帝大の角帽
を一手に引受け、帝大の法醫學教室を根城にした諸博士夫
人連は前日に鑑み「遠慮なく遠征しませうよ」と衆議一決、赤
門、正門、龍岡町の南門と三手に分れて夫々出動し
江戸川終點 では髪を分けた鳩山薫子さんがセッセと花に

ピンをさして居る、田紳らしいのが花所望と来る「ハイ一個二錢以上です」では二錢を下さい」と、現金至極、此處はかう云つた式が多いのですよ」と相見て莞爾とする吉岡彌生女史の持場九段では紋羽二重の被布の花蹊刀自は惜氣もなく老體を刻んで居たが、午前十時頃退却入替つて跡見李子女史が白襟紋付で大奮闘だが顔の賣れてる女史丈けに效驗頗る顯か忽ち一圓札で花一個といふ特殊のお客が二人迄舞込んだ

日本橋通へ 来て三越の角で櫻井ちか子女史が采配を振れば白木屋は鳩山春子小池てる子女史の面々此處までは執れも山の手式の貴婦人令嬢方であつたが茅場町の賣場に至つてガラリと變り、藤間勘十郎のお弟子さんや紅葉館のお稚兒さん揃ひの下町情緒を漂はせてゐるのは主任の長谷川時雨、岡田八千代女史のお好みと察せられる午前十時頃菊五郎と丑之助と男寅を乗せた自動車グーと来てバラバラと銀貨を撒き散らし「御苦勞」と許り若干の花をひつ渡つて行く此處では晝までに一萬餘を賣り盡し、何處も彼處も菊花團々花の帝都として了つた十一月十一日時事新報

昨日の市中

昨日の市中は十日の雜沓を避けて出なかつた連中で相應に賑つた、矢張人の足は馬場先から二重橋に向ひ皇居を仰ぎて遙拜する者引きも切らず市内其處此處には、今日は萬歳會の日と書いた紙片を籠に下げた年若き女子に海老茶の袴をはかせて萬歳を縫込んだ布片を賣らして居るのを見受けたが花の日會ほどの人氣は更に無い御大典記念の

を終り手に、日の丸を擔いで日比谷門から帝國ホテル前に出で山下門から新橋へ出で銀座通りを南傳馬町角で萬歳で解散した尙ほ夜に入つては芝白金近邊の催しで提灯行列約百五十名が遙々と三田通りから宮城前へ乗り込んで僅かではあるが十二日の夜を彩る一つであつた

(十一月十三日時事新報)

宮城前の大賑ひ

十四日は好個の御大典日和、京都では此日大嘗祭を行はせらるゝと云ふので宮城前を中心とし東京驛日比谷公園附近一圓の地は滿都奉祝の繪巻物の中に一際強い色彩を現した、馬場先門から萬歳門を通つて二重橋前に及ぶ大道路は午前九時と云ふに早くも五六騎の

騎馬巡査を配して警戒をせねばならぬ程の大混雜、日比谷の十字路から櫻田門方面に至る街路樹の下には水菓子屋パン屋、キャラメル屋の群が軒を連ねんばかりに店を張つて淺草仲店以上の景氣を見せて居る、平常は上る可らずの立札殿めしい芝生や土手も今日此頃は撤去の様で孫連の爺さん婆さんが小松の陰に腰を下して

持參の振飯を開いて居るがあれば日曜休日の官吏らしい夫婦者が芝生の上にハンケチを擴げて遠足にでも行つた様な呑氣さを味つて居る、御大典記念の繪ハガキは五錢で十枚と聲高に呼ぶ繪葉書屋、煙草にマツチは如何の爺さんもある小春日和の暖かさと奉祝熱とに浮かされた此日の丸の内附近は森殿一點張りの平常の氣分を一變して正に上野と淺草を掻き混ぜた様な歡喜悅樂の天地を現した十

(三五〇)

繪葉書屋は諸々方々に陣取つて十五枚あつて一組五錢と呼んで居たがこれは逓信省發行の記念繪葉書に押されて賣行わるく各郵便局には記念貯金切手臺帳切と書いて下げてある切とは賣切のことで賣ると云ふ字を避けたところがお役所仕事である、日比谷公園は相變らず賑ひ銀座から日本橋へかけての大通りも人出あり三越や白木屋の大禮儀式の模型裾模様などの陳列は人氣を呼んでゐた

(十一月十二日東京日々新聞)

賑かな市内

十日以來神輿の渡御其他の催し物で市内は相當に賑つて居るが十二日は午前八時から京橋八丁堀の御輿が二臺仕丁姿の若者に擔がれて区内を一巡し十一時半頃内幸町をワッショの聲も賑かに騒ぎ廻つて歸ると午後一時頃芝田町の山車狸々を曳き出して馬場先門前へ練り込む、同時頃本郷湯島神社境内へ集合した神輿十三本を同じく宮城附近へ擔ぎ込んだので景氣は一倍し折柄天氣も何うやら晴となり宮城附近の裝飾を未だ見ぬ人々と是れ等の催し物を見んとする人々で馬場先門附近は可成りの人出であつた、一方日比谷公園では此日午前九時から京橋区内の十四小學校の大典奉祝の聯合大運動會が開催され四千餘りの男女生徒等が入り亂れての遊戯は、戰闘(磯千鳥)菊の舞(等種々)中にも尋常科女生徒の菊の舞は樂の音に従つて一齊に手を拍ち足拍子を取つて舞ふ處大喝采で宮城附近から公園に繰込んだ市民は運動場の周圍を十重二十重に取り巻いて亦非常な賑ひを呈した小學生連は二時過ぎ運動

時半頃神田區有志の旗行列數百名が樂隊を先頭として賑やかに繰込んで來ると芝生を埋むる數千の群集は萬歳を連呼して之を迎へ行列側が亦之に和して萬歳々々の歡聲を揚げる

神輿行列

奉祝行列の呼物なる深川八幡氏子中の神輿行列は十四日午前五時から勢揃ひの場所たる深川座前へ押寄せる、七時頃には悉く集まつた、若い衆連は一樣に鼠色の腰切袴、脊中へ丸に奉祝と白で抜き襟字は町名を現し其上に白丁を被ひ七時三十分頃拍子木を合圖にソーッと喚聲が湧き上つて真先には紫地の唐縮緬に夫々氏子の町名を染抜いた大旗を立て其次に先觸れ太鼓がドーン、先頭は東黒江町と仲町の獅子頭が合せて二對、神輿の第一番に進んだのは大川端の組合連中第二番は川口町、第三番は越前堀第四番は箱崎町と以下順次卅九番は龜久町組を殿りとして黒江町の裏から

河岸を傳つて 永代橋に出づ斯くて約一萬人の大一行は行くに従つていよゝゝ意氣天を衝き荒布橋を渡つて江戸橋から中央郵便局の横町に出ると四日市では神輿御連中様御休憩所又は麥湯差上ますの札を立て娘は褌掛け、雇人は向ふ鉢巻で接待に出で或は神輿の頂邊を目覓て淨めの冷水をザブザブ掛けたり

波の花を振掛れば若者連は鹽と水が一緒に目鼻に流れ込むのも何も恐れず吊下る者、昇ぐ者、警官や世話人が聲を暖まして「左側だッ」電車を通せッ」でらる怒鳴るのも是亦何

(四四一)

ものかはと日本橋を右に見て吳服橋を入り大手町附近の廣場に集合して休憩す、三十九臺の大神輿は太陽に輝いて燦爛たる光を放ちながら又々此處に勢揃ひして大手町へ出るとさしもの廣い道路も人で埋つて了ふ、行列は稍もすると電車線路へ

猛然と突進する、ので電車は止むを得ず立往生、乗客は我も我もと飛び降りて四方八方へ雪崩込む東京驛前からは一歩一歩いよゝ混雑の巷となり神輿は忽ち行列亂れて我れ勝ちに馬場先外奉祝門の正面に押し寄せたところは頗る壯觀であつた夫より思ひよゝの奉祝の意を表して帝劇の横丁で一休みしてから道を代て目出度く深川に還つたが今日は深川區内を練廻るさうだ

小供の山車 午前神輿の渡御に難查した丸の内は午後復山車の練行に混雑を極めた豫て三田六箇町では江戸時代の山車は電線が蜘蛛の巣のやうに捌んだ街路を練るのは危険なので御大典奉祝の記念として子供山車を新造して昨日は

八臺の山車を揃へて都大路を練歩いて三時前後に日比谷を経て馬場先に繰出した、萬歳藤の鉢山車を先頭に北四國町の獅子頭が二臺次が南四國町の太鼓の順で笛太鼓で囃し立てる、曳子は子供八分に二分の大人が監督と囃子中には手古舞姿に花笠菊花模様の揃袴といふ扮装、而も夫が子供だから馬鹿に可愛らしい、太鼓に次いで三田二丁目の「渡邊綱」が練る、六番目が同朋町の「神武天皇」七番目が功運町の「正成」、臺町一丁目の牛若が殿で何れも菊や牡丹の造花と

場先門に向ひ

萬歳を唱へ再び區内に引返して街頭を揉んで歩く、午後一時頃になると再び満潮時の様に大通の人波が京橋から南傳馬町の十字街に押寄せた、八幡の神輿の列が還御するの、で金色の鳳凰と燦爛たる纒絡とが群集の頭の上で揺れて居た

(十一月十五日東京朝日新聞)

人、百五十萬

十四日の大嘗祭當日は日曜に二の酉にお祭りと三ッ累つた上に近來稀な快晴と來たので出るは、淺草に上野に兩國に、宮城前に、何處を見ても肩擦れ合ふの大難查、電車の如きはどの電車でも一日中満員札の下通しと云ふ十日の即位式當日にも優る乗客電氣局計算課では十五日朝から午後の四時過ぎ迄十人がかりで賣上げの調べをやり漸く乗客數と乗車賃の調べがついたと云ふ騒ぎ、如何に人出の多かつたかと云ふ事は此一事でも祭する事が出来やう即ち電車のお客は實に百三萬四千三百八十八人此收入三萬七千四百六圓五十二錢之を即位禮の十日に比すると乗客の數は約一萬人多く東京市開市以來第一の客數を表した電車に乗つた者丈で百三萬人と云ふのであるから電車に乗らなかつた人間を算入したら當日の人数は實に百五十萬にも及んだらうと思はれる、十一月十六日中外商業新報

昨夜の提灯行列

下谷區仲徒町の町民五百名の提灯行列は午後五時練堀町小學校前に集合し五時半樂隊を先頭に馬場先門より二重橋前に至り萬歳を三唱して七時半散會したり

提灯で飾立てゝある、山車の列は馬場先前へ來ると一齊に宮城に向つて萬歳を三唱し模範道路を市役所前に向ひ鍛冶橋を渡つて右に外濠に添ひ土橋を経て三田に引揚げたが山車の通路は兩側共人牆を築いた、別に南鍛冶町の山車も京橋區内を練つて馬場先門に向つて萬歳を歡呼した

市中難查

御盛儀の日曆は大嘗會とあつて帝都の奉祝の番組も神祭に因んで神輿の渡御、山車の練行に市中は隨所に群集に渦を巻いて賑つた、日本橋詰から四日市河岸は深川八幡の神輿の渡御路に當つて居るので十時頃から塙壁を築いて身動きも出来ない難查二組の

獅子頭を先頭

一番大川端町、二番川口町の順に練つて來て何れも橋袂の廣場で揉みに揉んで西河岸に向ふ其度毎に群集が海嘯の様な大渦を巻く向河岸の魚市場では神田明神奉納の大鳥居の上様式を今日の佳日を選んだとあつて頭、齋の者百餘名の一團が大鳥居棟上式の高札を先頭に神、神鏡、五彩の布を綾に捌んだ二基の幣串を捧げ木遣音頭勇ましく町内を練歩き大通を北に向つた

(十一月十五日東京朝日新聞)

少年團の旅行列

東京少年團二百五十餘名は十四日午前九時三十分芝公園に集り、佐藤大尉、川原大尉、小川中尉號令の下に勢揃ひを爲し新調の國旗真先に手に手に小國旗を携へ、大門通りに出て大通りを北に日本橋詰より左折し濠端を練り有樂橋を渡りて二重橋前に至り萬歳を三唱し、日比谷公園に入りて散會したり

(十一月十五日萬朝報)

御大典日和の打續く賑ひ

風はあつたけれども朝からの大典日和で市中は昨日も至る處賑つたが人出の中心は何んと云つても矢張り丸の内、二重橋外は例に依つて黒山の様な人、此の日馬場先門へ繰り込んで來た主なる團體の先頭は京橋區の神輿の列で本港町、船松町、新船松町、新榮町、新港町、新富町、木挽町一丁目と云ふ様な順序で御幣を捧た神官の後からワツシヨ、と

景氣よく練り込む、夫れが十一時頃、萬歳々々の聲諸共一と揉み揉んで東京府廳の方へ引揚げて行く、其の中で新富町の拍子木を勤めた男は芝居者と見えて仕丁姿に猿轡をとつて居たのが人目を惹いた、午後二時別項の義士行列が乗り込んで來ると數萬の群衆は一時にワツと騒ぎ出してと

電車を停めて了つた、此外深川區では前日昇つぎ廻つた四十餘臺の神輿を又もや昇ぎ出して午前九時から氏子の各町内を練り歩き、芝區内の市立小學十九校の生徒七千七百

除名は聯合の旗行列を催し芝公園の圓山下で萬歳を三唱した夜に入つては海軍工廠の職工數千名が盛んな提灯行列を催して京橋日本橋の大通りから丸の内へ繰り込んで引揚げた
(十一月十六日時事新報)

色々な行列

義士行列

本所區内蕎麥屋組合の義士行列は十五日午前十時同區松井町美濃屋で勢揃をし、手打蕎麥に縁喜を祝つて後出發した、先づ電車を深川八幡に詣で永代橋から日本橋大通銀座、新橋を練つて日比谷公園を経て馬場先に至り萬歳を三唱し歸途大手町から日本橋通旭町市區改正通を兩國橋に出で午後三時解散した一行は總て黒に山形の打入り裝束で各々手槍を携へ、一人が大石良雄に扮して山鹿流の陣太鼓を鳴らし乍ら行く態は沿道到る處大喝采であつた

海軍工廠

築地なる海軍造船工廠職工千八百餘名は十五日午後五時半同廠玄關前で勢揃ひをし約百名づつが十八班、各班長監督の下に六時喇叭合圖に繰出した、大萬燈音楽隊を先頭とし祝歌、世界に輝くを高唱しつゝ、銀座より大通りを左に練り三越呉服店前から左折し、順路吳服橋を渡り、八時二重橋前に到着して萬歳を三唱し、海軍省前を経て九時半日比谷公園に入り、こゝで隨意解散した、沿道の見物頗る多く、此日の行列中第一の盛んなものであつた

山車行列

芝區西久保八幡町の若者は十五日午前九時氏神八幡社境

勢獅子

京橋築地から獅子が出るそれを見ないでなるものかと、二十一日朝築地三丁目の海軍大學に面した河岸沿に集まつた人は大したものであつた、十時になると築地一丁目の獅子頭一對が町内の若衆五六十人宛に昇がれてやつて來た、獅子は運慶の作で大きなものである續いて南小田原町と築地三丁目南本郷町上柳原町、南飯田町などの獅子も來た、少し遅れて小田原橋を渡つてワッショ、オイショの掛聲勇ましく乗り込み來るものがある、打ち見れば角あり牙あり、眼腫爛々と朝日に輝いて居る、その後からは亞弗利加の沙漠の繪で見る様な虎が來た、これこそは南小田原町二丁目三丁目四丁目聯合の若衆の昇いだ龍虎の一對である、重さは八十貫目、樺の素木彫でなか／＼大きなものである、子供等は「二丁目の龍だ三丁目の虎だ」と囃し立て、居た、愈々十一時となれば、京橋つきちの獅子と書いた旗を眞つ先きに押し立て、練り出した、南小田原町一丁目と築地三丁目の聯合獅子一對を先登にして、豫定の通り六組十二頭の獅子頭と龍虎の一對を、揃ひの印半纏に粹に三尺を締めた若衆が景氣よく昇いで出發した、順路日比谷に出で電車通りを馬場先萬歳門外へ著いた、こゝで萬歳奉唱の後三菱ヶ原で晝食を濟ませ鍛冶橋を渡つて京橋區内を一巡して元の築地へ歸つた
(十一月廿二日報知新聞)

五百名の旗行列

下谷區竹町の有志五百三十名は、二十一日奉祝旗行列を催したり、午前十時竹町小學校に集合、第六福寶館前に整列し、

内で山車の勢揃ひを爲し區内を練り八幡を中心にして二時頃
は非常に賑つた
(十一月十六日萬朝報)

光の巷

種々の行列で丸の内を中心に賑ひに賑つた十六日は午後四時頃は群衆の波も引汐となつたが夕刻からは又賑ひ初めた馬場先の奉祝門から二重橋前にかけてイルミネーションの

煌々と輝くのと提灯の紅の光

はお濠の水に映れる中を人の波は刻々に加はつて午後八時頃には一面の群衆となる銀座、日本橋、神田等の各大通りは電光裝飾、彩旗、球燈、レースの花飾りに踵を接ぐ夥しい人出で其中を各提灯行列の赤い光の列が蜿蜒と練つて行く高等工業學校では附屬教員養成所徒弟學校を併せて

總數二千六百の生徒が八隊に

別れて午後六時同校を出發淺草橋より石町日本橋を経て鍛冶橋から馬場先門に向ふ、五十鈴の川の末かけてと奉祝歌を合唱し乍ら歩武堂々と二重橋前面で陛下の萬歳を三唱し之と前後して各方面よりの提灯行列は宮城前の廣場を紅の海と化し中にも工藝學校の

龍と鳳凰の燈籠行列は大人氣

で他の提灯行列も一緒になつて萬歳を連呼し天も搖ぐばかりであつた其他花電車の市中を縦横に走るも賑しく京都に於せられる大饗大夜宴の夜を東京全市は奉祝の賑ひに埋まつた
(十一月十六日東京日々新聞)

五隊となり唱歌節面白く西町通りを上野廣小路に出で、御成街道を練つて須田町に出で、右折して小川町神田橋を渡つて濠端を馬場先に繰り込み奉祝門に入りて二重橋前に著整列して萬歳を三唱し、東京驛前に引返して隨意解散せり
(十一月廿二日萬朝報)

一五區記念事業

イ 神田區

(一) 區記念事業

御大禮奉祝記念トシテ、神田區ハ左ノ事業ヲ施行ス、

御大禮記念メタル(銀地七寶燒)ヲ作製シ區會議員區學務委員、區役所吏員、小學校職員ニ贈與ス、

(二) 學校記念事業

神田區ハ、十月九日開會ノ區會ニ於テ、御大禮記念事業トシテ、年々講演會ヲ開催スルニ決ス、

大正四年十月九日決議

第十六號

御大典記念講演會開催ノ件

御大典ヲ記念スヘキ事業トシテ本區ハ毎年各市立小學校ニ於テ講演會ヲ開催セントス

但講演會ニ要スル經費ハ本區特別經濟教育資金ヨリ生スル收入ヲ以テ支辨スルモノトス

(三五五)

大正四年十月七日提出
東京市神田區長 山縣 鐵藏

日本橋區

(一)區記念事業

御大禮奉祝記念トシテ、日本橋區ハ、日本橋區教育會附屬日本橋高等女學校獨立經營ノ爲メ、金壹萬五千圓竝ニ校舍建物業具等價格參千六百七拾四圓貳拾錢ヲ寄附ス、是ヨリ先同校ハ區有建造物無償使用ノ許可ヲ得テ、日本橋區教育會之ヲ經營シ、年々區ヨリ補助シ來リタル者也、然ルニ近時校舍朽腐シ、設備亦漸ク時勢ニ伴ハサルヲ以テ、校舍改築ノ儀有リ、偶教育會ヨリ區ニ對シテ該校舍ノ無償下付ヲ願ヒ出テ、區ハ、左ノ調査委員ニ付託シテ調査スル所有ラシム、

大内重兵衛 西澤 善七 遠山市郎兵衛
岡本 宏 平塚 有 津村 重舍
清水 米藏

調査ノ結果、同校ノ基礎ヲ鞏固ニシ、其維持方法ヲ全カラシムルト同時ニ、區負擔ヲ輕減スル爲メ、該校ノ獨立經營ヲ便トシ、建物業具等ヲ現在ノ儘無償ヲ以テ下付シ、且改築費ノ一部ヲ給與シ、教育會ヨリ分離シテ財團法人トシ、之ヲ御即

御大典京橋區紀念會々々

- 第一條 本會ハ御大典京橋區紀念會ト稱シ本區ニ紀念館ヲ建設シ御大典ヲ奉祝スルヲ目的トス
- 第二條 紀念館ハ一部ヲ公會堂ニ當テ本區民一般ノ使用ニ供シ又一部ニ演武館ヲ設ケテ青年子弟ノ體育獎勵及ヒ精神修養ヲ圖ルモノトス
- 第三條 本會事務所ハ當分京橋區役所内ニ設ケ
- 第四條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
 - 一、會長 一名 一、副會長 一名
 - 一、理事 若干名 一、經理委員 若干名
 - 一、會計監督 若干名 一、相談役 若干名
 - 一、評議員 若干名
- 第五條 會長ハ會務一切ヲ統率ス
 - 一、副會長ハ會長ヲ補佐シ會長差支アルトキハ其職務ヲ代理ス
 - 一、理事ハ會長ノ指揮ヲ受ケ本會常務ニ執掌ス
 - 一、經理委員ハ本會金錢ノ出納并ニ計算ニ關スル事務ヲ掌理ス
 - 一、會計監督ハ會計ヲ監督シ現在金ノ當否ヲ監査ス
 - 一、相談役ハ會務ヲ監視シ會長ノ諮問ニ基キ會務ノ方針ヲ決定ス
 - 一、評議員ハ重要ナル會議ニ參與ス
 - 一、別ニ部委員ヲ置キ部ノ事務ヲ擔任ス
- 第六條 會長副會長ハ發起人會ニ於テ之ヲ推薦シ其他ノ役員ハ會長ニ於テ囑托スルモノトス
- 第七條 本會ノ役員ハ總テ名譽職トス
- 第八條 本會設立ノ主旨ヲ贊助シ一定ノ寄附ヲナシタルモノヲ會員トス
- 第九條 本會ニ特別ノ功勞アルモノハ名譽會員ニ推薦スルコトヲ得
- 第十條 紀念館使用ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム使用規定ニヨリ

附則

第十條 紀念館使用ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム使用規定ニヨリ

(三五六)

位大典奉祝記念事業ト爲スノ議ヲ決ス、大正四年三月十九日開會ノ區會ハ、右委員ノ報告ヲ是認シ、上記ノ金額物件ヲ下付シ、日本橋區教育會ハ、更ニ之ヲ該校ニ寄附ス、清水米藏亦金壹萬五千圓ノ寄附ヲ爲シ、大正四年五月三日文部大臣ノ許可ヲ得、茲ニ財團法人日本橋女學館ヲ設立シ、校舍ヲ新築擴張シテ、授業ヲ開始ス、

(二)學校記念事業

御大禮奉祝記念トシテ、日本橋區内各小學校及幼稚園ハ、左ノ事項ヲ施行ス、

- (イ)兒童ヲシテ記念帳ヲ作製セシム
- (ロ)各學校ニ於テ記念文庫ヲ設置セシム
- (ハ)記念樹一對ヲ植栽ス

ハ京橋區

(一)區記念事業

御大禮奉祝記念トシテ、京橋區ハ、京橋區御大典記念會ナル者ヲ起シ、演武場ヲ兼ネタル公會堂ヲ建設シ、大ニ體育ヲ獎勵シテ青年ノ弊習ヲ打破シ、時代ノ缺陷ヲ補フ目的ヲ以テ、現ニ有志ノ贊助ヲ求メツツ有リ、會則及記念館計畫左ノ如シ、

紀念館ヲ臨時使用スルコトヲ得

御大典京橋區紀念館計畫考案

京橋區紀念館ハ收入ノ各部約五萬圓ヲ區内有志者ノ寄附金ニ仰キ敷地トシテハ可成區役所附近ニ於テ便利ナル位置ニシテ相當ノ空地ヲ存スル處ヲ選ミ、約二百坪之ニ樹林泉石等ヲ適當ニ配置シ本館建坪ハ百坪内外三階建ノ豫定トス其概算左ノ如シ

一金壹萬八千圓	本館五階三階建百坪
一金千五百圓	附屬所小使室等約三十坪
一金千圓	地上物件移轉料
一金貳千圓	椅子、テーブル等
一金貳千五百圓	備品、新調費
一金貳千五百圓	雜費
合計金參萬四千五百圓	

以上ヲ寄附金總定額五萬圓ヨリ差引殘金壹萬五千五百圓ヲ維持資金トス而シテ各科目ノ金額ハ極メテ大要ノ見込ヲ舉ケタルミナレバ、彼此金額ノ漸減ハ勢ヒ免ルヘカラス其建築ノ詳細ナル設計ハ何レ専門家ノ手ニ依リテ慎重調査立案セシメントス以上

(二)學校記念事業

御大禮奉祝記念トシテ、京橋區内各小學校ハ、豫定ノ如ク、記念樹樟一對ヲ校庭ニ植エ、兒童ニ銅記念メタルヲ給與ス、

ニ芝區

(一)區記念事業

御大禮奉祝記念トシテ、芝區ハ、十月二十七日開

(三五七)

會ノ區會ニ於テ議員村松仙之助外八名ヨリノ建議ニ係ル、芝區共有金ノ内金壹萬圓ヲ市立小學校獎學基金トシテ管理スルノ件ヲ可決ス、

(二) 學校記念事業

御大禮奉祝記念トシテ、芝區内各小學校十七校ハ、各校ニ記念花瓶ヲ備ヘ付ク、又杉ノ若木一對ヲ校庭ニ植ウ、

木麻布區

(一) 區記念事業

御大禮奉祝記念トシテ、麻布區ハ、十二月二十四日區名譽職員、區長、區役所各掛長并ニ市立小學校長ニ對シ、青色硝子製置時計、其他ノ區役所吏員、各小學校及幼稚園職員ニ對シ、木製置時計各一個ヲ贈リ、區役所及市立小學校並ニ幼稚園ノ小使給仕等ニハ、記念品料ヲ與ヘタリ、

(二) 學校記念事業

御大禮奉祝記念トシテ、麻布區各小學校ハ、杉一對ヲ其校庭ニ植ウ、

四谷區

(一) 區記念事業

御大禮奉祝記念トシテ、四谷區ハ、左ノ事業ヲ施行ス、

- (一) 區ニ女子實業補習學校ヲ設立シ、大正五年四月開校ス、
- (二) 區會議員區學務委員ニ、金牌一個ヲ贈與ス、

(二) 學校記念事業

御大禮奉祝記念トシテ、四谷區内各小學校ハ、左ノ事業ヲ施行ス、

- (一) 各小學校兒童成績品張り交セ、屏風半隻ヲ、須賀神社ニ獻納ス、
- (二) 各小學校々庭ニ記念月桂樹ヲ植ウ、

ト牛込區

御大禮奉祝記念トシテ、牛込區内各小學校ハ、何レモ記念帖ヲ調製シ、校庭ニ記念樹ヲ植ウ、

子小石川區

(一) 區記念事業

御大禮奉祝記念トシテ、小石川區ハ、市制實施以降、歷代ノ區會議長寫眞ヲ議事堂内ニ掲ク、其數四名也、

(二) 學校記念事業

御大禮奉祝記念トシテ、小石川區内各小學校ハ、柿一對ヲ校庭ニ植ウ、

リ本郷區

(一) 區記念事業

御大禮奉祝記念トシテ、本郷區ハ、左ノ事業ヲ施行ス、

(一) 區内左記神社ニ、記念神鏡ヲ獻納ス、

- 駒込神明町二村社天祖神社
- 真砂町六村社櫻木神社
- 妻戀町八村社妻戀神社
- 湯島梅園町一府社湯島神社
- 根津須賀町二七府社根津神社
- 湯島新花町六一無格社御靈神社
- 元町二丁目六〇無格社稻荷神社

神寶奉獻狀

大正四年十一月十日 今上天皇即位ノ大典ニ際シ、神鏡一面ヲ〇〇大神ノ尊前ニ獻シ、永ク此ノ盛儀ヲ記念シ、謹テ寶祚ノ無窮ト國運ノ進張トヲ祈リ奉ル

東京市本郷區長 見山 正賀

記念神鏡

直徑四寸厚貳分圓鏡表研出シ、裏面鳳凰文様鑄出文字、大正四年十一月十日奉獻、製作人府下瀧ノ川町、東京市本郷區、田端四三三、香取 秀真

(二) 區會議員區學務委員及重ナル區吏員ニ奉祝記念メタル、一個ヲ贈與ス、

(二) 神社記念事業

御大禮奉祝記念トシテ、本郷區各神社ハ、記念植樹等ノ事業ヲ爲ス、

- 府社湯島神社々司 押見寅之助 記念植樹
- 府社根津神社々司 宮西惟助 記念植樹 祭器、祭具、社殿調度ノ新調
- 村社天祖神社々掌 白井壽雄 記念植樹
- 村社櫻木神社々掌 正八位 岩崎 春彦 火防設備
- 村社妻戀神社々掌 志賀 正光 社殿ノ修繕、調度、祭器、祭具ノ新調
- 無格社御靈神社々掌 志賀 正光 記念植樹、祭器、祭具ノ新調
- 無格社富士神社々掌 白井壽雄 玉垣築設、記念植樹

(三) 學校記念事業

御大禮奉祝記念トシテ、本郷區各學校ハ、左ノ事業ヲ施行ス、

- 市立小學校
- 一本郷高等小學校
- 一 記念畫帖ノ作製、記念校旗ノ制定、並ニ記念展覽會及ヒ運動會ヲ開催
- 一本郷尋常小學校
- 一 記念帖ノ作製、植樹、御大禮ニ關スル幻燈會ヲ開催、奉祝大會保護者兒童校友合併開催ス
- 一 誠之尋常小學校
- 一 記念帖ノ作製 植樹
- 一 湯島尋常小學校

- 一 記念園ヲ取設ク永ク記念トナルヘキ樹木及天然石ヲ配置ス
- 一 駒本尋常小學校
- 一 記念植樹
- 一 根津尋常小學校
- 一 記念ノ爲メ展覽會並ニ植樹ヲナス
- 一 校友ノ記念植樹並ニ保護者ノ記念寄附御眞影奉安庫外三點
其價格若干)
- 一 追分尋常小學校
- 一 記念ノ爲メ畫帖ノ作製校旗ノ制定展覽會及ヒ運動會ヲ開催
- 一 富士前尋常小學校
- 一 記念帖ノ作製植栽
- 一 眞砂尋常小學校
- 一 記念石ヲ校庭ニ据付樹木ヲ配シテ小園ヲ設ク記念寄贈アリ
保護者會ニ於テ御眞影奉置殿寄贈ノ計畫ヲ立ツ
記念講演會ヲ開催ス
- 一 千駄木尋常小學校
- 一 職員兒童共作ノ記念帖ヲ作製ス
- 一 元町尋常小學校
- 一 記念ノ爲メ磐石ヲ据付ケ竹木ヲ配シテ小園ヲ設ケ又書畫帖
ヲ作製ス
- 一 家庭會ヨリ記念トシテ御眞影奉安殿ヲ寄贈セラル
- 私立學校
- 一 私立本郷區教育會附屬尋常小學校
- 一 記念帖ノ作製旗行列ヲ行フ
- 一 私立東京裁縫女學校
- 一 本校後援ノ目的ヲ以テ錦華會ヲ組織セラル
- 一 年功加俸及終身年金ニ關スル規定ヲ制定ス
- 一 村田丹波捕圖松本順三畫書ノ賀表ヲ奉呈ス
- 一 職員生徒ノ貯金ヲ創始ス
- 一 私立東京女子技藝學校
- 一 校庭ニ月桂樹ヲ植ケリ
- 一 私立都立文館中學校

- 一 記念圖書館ヲ設置ノ計畫ヲナシ本日建築ニ著手ス
- 一 私立京華中學校
- 一 武造獎勵ノ目的ヲ以テ建坪九拾五坪此費用六千五百貳拾五
圓ノ武德館ヲ建設セリ
- 一 大典記念誌ト稱スル小冊子ヲ印刷シ職員生徒一校ニ配布セ
リ
- 一 私立京華商業學校
- 一 御大典ニ關スル説明及國力發達ニ關スル表ヲ作製シ小冊子
ニ編シ之レヲ生徒一校ニ配布セリ

〔四〕區民記念事業

御大禮奉祝記念トシテ、本郷區湯島天神三業組合ハ、竹内悦太郎ヲ總代トシ、湯島公園地内ニ養老孝子ノ銅像並ニ細流ヲ築造シ、十一月十日ヲ以テ竣工式ヲ舉ケ、之ヲ東京市ニ寄附ス、式場區長ノ朗讀シタル祝辭左ノ如シ、

湯島天神三業組合竣工式祝辭

湯島天神三業組合ハ曠古ノ大典ヲ記念スル爲メ湯島公園内へ細流ヲ築造シテ之レヲ本市ニ寄附センコトヲ企テラレ九月三十日日本市ノ許可ヲ得テ工事ニ著手シ今ヤ其竣工ヲ告ケタリ公園ノ風致之レニ依リテ大ニ改マリ爾今爰ニ逍遙スルモノ一層清爽ノ感アルヘシ洵ニ欣喜ニ堪ヘス厚ク組合員諸氏ノ特志ヲ感謝シ重ネテ當公園ニ永久ノ好記念物ヲ得タルヲ喜フ聊カ一言ヲ述ヘテ祝辭トス

大正四年十一月十日 東京市本郷區區長 見山 正賀

又下谷區

神田區市立小學校小使 六十七人
計 百二十人

日本橋區

日本橋區ハ、十一月十日御即位禮當日、左ノ如ク表彰ス、

〔二〕名譽職表彰

區長ハ、區會議員區學務委員現任者ニ對シ、多年其職ニ盡瘁シタル功勞ヲ感謝シ、左ノ感謝狀ヲ贈ル、

貴下ハ日本橋區會議長トシテ熱誠其ノ職ニ當リ區政上ニ努力セラレタル功勞尠カラズ日本橋區會カ能ク自治ノ本旨ヲ發揮シ區民ノ幸福ヲ増進シツツアルハ全ク貴下カ各般ノ處措其ノ宜ニ適ヒタル結果ニシテ自治制度ノ運用上欣喜ニ勝ヘサル所ナリ本職ハ今上陛下御即位大典ノ吉辰ニ際シ貴下ノ公共事業ニ致サレタル功績ヲ顯彰シ茲ニ謹ミテ感謝ノ誠意ヲ表ス

大正四年十一月十日

東京市日本橋區區長 新居友三郎

貴下ハ日本橋區會副議長トシテ熱誠其ノ職ニ當リ區政上ニ努力セラレタル功勞尠カラズ日本橋區會カ能ク自治ノ本旨ヲ發揮シ區民ノ幸福ヲ増進シツツアルハ全ク貴下カ各般ノ處措其ノ宜ニ適ヒタル結果ニシテ自治制度ノ運用上欣喜ニ勝ヘサル所ナリ本職ハ今上陛下御即位大典ノ吉辰ニ際シ貴下ノ公共事業ニ

御大禮奉祝記念トシテ、下谷區ハ、左ノ事業ヲ施行ス、

區内郷社村社以下無格社十五社ニ記念神鏡ヲ寄進ス、

ル 淺草區

御大禮奉祝記念トシテ、淺草區ハ、區會議員、區學務委員、區役所掛長以上ノ吏員等五十七名ニ、金製ノタルヲ贈與ス、

ヲ 深川區

御大禮奉祝記念トシテ、深川區ハ、十一月十日區内市立小學校、明川、明治深川、六間堀、數矢、東川、東陽、元加賀、臨海、扇橋十校兒童ヲシテ、其校庭及學校所在地鎮守神社タル府社富岡八幡神社、深川公園地、郷社天祖神社、西森下町、村社稻荷神社、猿江町境内ニ松又ハ樺ヲ植付ケシム、

一六區表彰慰勞

イ 神田區

神田區ハ、十二月九日日本市奉祝會當日、左記備人ニ對シ、酒肴料ヲ贈與シタリ、

神田區役所 給仕、小使、水道定工夫、職工 五十三人
下水備人夫

致サレタル功績ヲ顯彰シ茲ニ謹ミテ感謝ノ誠意ヲ表ス

大正四年十一月十日

東京市日本橋區長 新居友三郎

貴下ハ日本橋區會議員トシテ熱誠其ノ職ニ當リ區政上ニ努力セラレタル功勞尠カラズ日本橋區會カ能ク自治ノ本旨ヲ發揮シ區民ノ幸福ヲ増進シツツアルハ全ク貴下カ他議員諸君ト協同一致其ノ職責ヲ盡サレタル結果ニシテ自治制度ノ運用上欣喜ニ勝ヘサル所ナリ本職ハ

今上陛下御即位大典ノ吉辰ニ際シ貴下ノ公共事業ニ致サレタル功績ヲ顯彰シ茲ニ謹ミテ感謝ノ誠意ヲ表ス

大正四年十一月十日

東京市日本橋區長 新居友三郎

貴下ハ日本橋區學務委員長トシテ熱誠其ノ職ニ當リ教育ノ普及上進ヲ圖ランカ爲努力セラレタル功勞尠カラズ日本橋區學務委員會カ能ク教育制度ノ本旨ヲ發揮シツツアルハ全ク貴下カ各般ノ處措其ノ宜ニ適ヒタル結果ニシテ教育制度ノ運用上欣喜ニ勝ヘサル所ナリ本職ハ

今上陛下御即位大典ノ吉辰ニ際シ貴下ノ教育上ニ致サレタル功績ヲ顯彰シ茲ニ謹ミテ感謝ノ誠意ヲ表ス

大正四年十一月十日

東京市日本橋區長 新居友三郎

ルヲ以テ此舉有リ、

ニ牛込區

牛込區ハ十一月十日御即位禮當日、十二年以上區名譽職ニ在リタル人々ニ、三組銀盃ヲ贈リテ其功勞ヲ表彰ス、

ホ小石川區

小石川區ハ十一月十日御即位禮當日、區名譽職其他ニ對シ、左ノ如ク表彰ス、

- 一、勤勞少カラサル區會議員區學務委員ニ對シ銀盃壹對ヲ贈呈シ勤勞ヲ表彰ス
- 一、滿十年以上本區ニ勤績セル吏員及小學校教員ニ對シ木杯壹組及酒肴料ヲ贈リ勤勞ヲ表彰ス
- 但區長ニ對シテハ銀盃壹對ヲ贈ル
- 一、滿八年以上本區ニ勤績セル區役所及小學校使丁ニ對シ木杯壹個及酒肴料ヲ贈リ勤勞ヲ表彰ス
- 一、滿三年以上本區ニ勤績セル區役所給仕ニ對シ同上

同	區會議員	十四人
同	區學務委員	一人
同	區長以下區吏員及小學校教員	十五人
同	使丁	五人
同	給仕	一人

へ本郷區

(三六)

貴下ハ日本橋區學務委員長トシテ熱誠其ノ職ニ當リ教育ノ普及上進ヲ圖ランカ爲努力セラレタル功勞尠カラズ日本橋區學務委員會カ能ク教育制度ノ本旨ヲ發揮シツツアルハ全ク貴下カ他委員諸君ト協同一致其ノ職責ヲ盡サレタル結果ニシテ欣喜ニ勝ヘサル所ナリ本職ハ

今上陛下御即位大典ノ吉辰ニ際シ貴下ノ教育上ニ致サレタル功績ヲ顯彰シ茲ニ謹ミテ感謝ノ誠意ヲ表ス

大正四年十一月十日

東京市日本橋區長 新居友三郎

(二)區吏員以下表彰

區長ハ區在職市吏員以下使丁人夫ニ至リ、學校長以下職員使丁等ニ至ル全員四百九十三人ニ對シ、酒肴料ヲ給與シ、平素ノ勞ヲ慰シ、以テ奉祝ノ意ヲ表ス、

ハ四谷區

四谷區ハ十一月十日御即位禮當日、區役所吏員全體ニ酒肴料ヲ贈リ、小學校職員全體ニモ同様ノ贈與ヲ爲ス、同時ニ小學校事務員小使中、數ヘ年十二年以上ノ勤績者二人、同ク小使二人ニ贈與シ、鮫橋小學校々醫モ亦勤績十二年以上ナルヲ以テ金牌ヲ贈リテ表彰ス、同校ハ市直營ニ屬スト雖、校醫ハ、嘗テ區校醫ヨリ引續同校々醫ト爲リタルノミナラス、同校兒童皆區内ノ者ニ係

本郷區ニ在リテハ、十一月十日御即位禮當日、市立小學校在勤事務掛員及使丁ヲ表彰ス、

表彰狀

本郷區雇 氏 名(二人)

多年本郷區ニ勤務セシニ依リ

御即位式舉行ノ嘉辰ニ當リ特ニ目錄壹封ヲ授與シテ之レヲ表彰ス

大正四年十一月十日

東京市本郷區長 見山 正賀

某小學校使丁 氏 名(五人)

多年本郷區市立小學校ニ勤務セシニ依リ

御即位式舉行ノ嘉辰ニ當リ特ニ目錄壹封ヲ授與シ之レヲ表彰ス

大正四年十一月十日

東京市本郷區長 見山 正賀

ト下谷區

下谷區ニ在リテハ、十二月十五日勤勞者ニ對シ、左ノ如ク表彰ス、

(一)十二月十五日午後三時區費支辨吏員以下ノ表彰式ヲ舉ク、

下谷區會書記 氏 名(一人)

同區有財產取扱雇 氏 名(一人)

多年本區公務ニ從事セラレ勤勞洵ニ尠カラズ依テ

御即位式舉行ノ嘉辰ニ當リ特ニ銀時計壹個ヲ贈テ之ヲ表彰ス

大正四年十二月十五日

東京市下谷區長 戸野周二郎

東京市立下谷區谷中小學校小使 氏 名(二人)

(三六)

多年東京市立下各區谷中小學校ニ勤務セシニ依リ
御即位式舉行ノ嘉辰ニ當リ特ニ目錄壹封ヲ授與シテ之ヲ
表彰ス

大正四年十二月十五日 東京市下谷區長 戸野周二郎

チ 淺草區

淺草區ニ在リテハ、十二月二十七日區費支辨吏
員ノ勤勞者ニ對シ、表彰スル所有リ、

淺草區事務掛 氏 名四人

多年本區ニ服務シ勤勞尠カラス

今茲

御即位式舉行ノ嘉辰ニ會シ區會ノ議決ニ依リ特ニ目錄一
封ヲ贈リテ之ヲ表彰ス

大正四年十二月二十七日

東京市淺草區長 山崎林太郎

東京市某尋常小學校小使 氏 名八人

多年本區ニ勤務セシニ依リ

御即位式舉行ノ嘉辰ニ會シ區會ノ議決ニ依リ特ニ目錄一
封ヲ授與シテ之ヲ表彰ス

大正四年十二月二十七日

東京市淺草區長 山崎林太郎

リ 本所區

本所區ニ在リテハ、十一月十日御即位禮當日、同
區二十二年以上勤續シタル區備員五名小使ヲ

舍ムニ對シ、各目錄ヲ贈與シ、之ヲ表彰ス、

小學校事務掛 三人

同 小使 三人

又 深川區

深川區ハ、十一月十日開會ノ區會ニ於テ、左記三
名ハ、滿二十年以上引續キ區會議員トシテ、本區
ノ爲ニ盡瘁シタルヲ以テ、御大禮ノ嘉辰ニ際シ、
其功勞ヲ表彰セントノ議可決セラレ、即日銀盃
壹組ツツヲ贈呈シテ、之ヲ表彰シタリ、

區會議員議長中村 清藏 同(副議長)松本忠次郎

同 岡田 貞三

中大嘗祭奉祝

一 參 列

十一月十四日大嘗宮ノ儀ニ奥田市長ハ勳一等
ノ資格ヲ以テ參列ス、

二 祭 祀

天官幣社國幣社

別格官幣社靖國神社 (龜町富士見町銀座)

十一月十四日大嘗祭當日大祭ヲ執行ス、社殿ノ裝飾鋪設
等例大祭ニ準シ掛官トシテ、陸軍省ヨリ和田陸軍歩兵大
佐同隨員屬一名海軍省ヨリ古川海軍大佐同隨員屬一名

(上) 祝奉ノ日當祭嘗大



(東京市役所)



(萬歳門ノ晝)



(萬歳門ノ夜)

參列ス、勅使東京府知事井上友一御幣物ヲ奉シテ參向シ、
莊重ニ祭典ヲ舉ク、是日神饌中ノ和稻荒稻白酒黒酒ハ、埼
玉縣比企郡八和田村高橋桂助許可ヲ得テ、春來栽培地ヲ
齋定シ、其收穫米粟ヲ精撰獻納シタル者ヲ以テ調理シ、清
酒ハ、同縣大里郡男衾村山田徳太郎新穀ヲ以テ精釀ス、餘
興ニハ烟火、里神樂、素人相撲等有リ、參拜者極メテ多シ、

大嘗祭當日祭々式

當日早旦神職社殿ヲ裝飾ス

午前八時陸海軍兩省掛官正宮司以下參進著床

次ニ御扉ヲ開ク御儀ヲ宮司奉仕警蹕

此ノ間奏樂

次ニ神饌ヲ供ス禰宜以下仕

此ノ間奏樂

次ニ宮司祝詞ヲ奏ス

次ニ勅使御幣物ヲ奉シ參向掛官及宮司階下ニ奉迎ス

次ニ宮司御幣物ヲ奉奠ス御幣物ハ豫メ勅使隨員辛殿ヨリ出シ假案ノ上ニ置ク

次ニ勅使御祭文ヲ奏ス

次ニ勅使御祭文ヲ宮司ニ付ス

次ニ宮司御祭文ヲ内陣ニ納ム訖テ勅使ニ反命ス

次ニ勅使下向掛官及宮司階下ニ奉送ス

次ニ掛官玉串ヲ奠シ拜禮

次ニ掛官隨員拜禮

次ニ宮司玉串ヲ奠シ拜禮

次ニ禰宜以下拜禮

次ニ御幣物神饌ヲ撤ス禰宜以下仕

此ノ間奏樂
次ニ御扉ヲ閉ツ御儀ヲ宮司奉仕警蹕

此ノ間奏樂

大嘗祭當日祭祝詞

此乃所乃底津岩根爾宮柱太敷立高天原爾千木高知且
鎮座須掛麻久母畏伎清國神社乃大前爾宮司正七位賀
茂百樹畏美畏美母白左久天津日嗣高御座乃洪業受
傳閉座志且食國天下知食須新世乃始米登此乃十一月
十四日乃生日乃足日乃吉日爾大嘗祭仕奉里給比天津
御食乃長御食乃遠御食聞食志給布爾依里且天皇命乃
大命以且東京府知事從四位勳三等法學博士井上友一
齋差遣波志且大前齋祭良志米給布我故爾垂穗八握
爾志那比茂禮爾秋乃初穗爾由志里伊都志里和稻荒稻
爾備奉里白寸黑寸爾仕奉里且海川乃物山野乃物爾至
留麻傳爾御服波明妙照妙爾爾辭竟奉良久爾不爾久安
爾久相宇豆那比開食志且天皇命乃大御世爾萬千秋乃
長五百秋爾堅磐爾常磐爾齋比奉里茂乃大御世爾幸爾
奉里給比親王等諸王等齋始米且百乃官乃人等天下乃
國民爾至留麻傳爾彌遠爾彌廣爾撫給比惠給比且皇朝
延爾五十權八桑枝乃如久立榮延且仕奉良志米給比陸
海乃軍人波武久雄々志久亦伎清伎心以且忠爾伊曾志
久仕奉良志米給爾登畏畏美母爾爾辭竟奉良久登白須
大正四年十一月十四日

國幣大社日枝神社 總町永田町儀座

十一月十四日大嘗祭當日午前九時三十分勅使參向、大嘗祭當日祭ヲ執行ス、裝飾舖設御即位禮當日祭ニ同シ、勅使東京府知事從四位勳三等法學博士井上友一、隨員東京府屬峰村金作、同渡邊儀重郎、重ナル參拜者、麴町區長、京橋區長、氏子總代、氏子內市立小學校校長、竝職員總代、同小學校兒童總代高等科每級男女各壹名、尋常科五、六學年男女各壹名、麴町一丁目大日本中學校職員及生徒ニシテ、終日參拜者相踵ク、祭典了ルノ後、職員社務所ニ參集シテ直會ヲ行ヒ、聖壽ノ萬歳ヲ奉祝ス、

大嘗祭當日祭式次第

- 當日早旦社殿ヲ裝飾ス
- 時刻宮司以下所定ノ座ニ著ク是ヨリ先修職ノ儀アリ
- 次勅使御幣物ヲ奉シテ社頭ニ參向ス宮司以下奉迎
- 次御幣物及勅使以下被ノ儀アリ副宜主典、是ヨリ先手奉仕ノ儀アリ
- 次勅使所定ノ座ニ著ク
- 次御幣物辛櫃ヲ本殿便宜ノ所ニ置ク副員
- 次宮司諸事辨備セル由ヲ勅使ニ申ス
- 次宮司御扉ヲ開キ畢リテ側ニ候ス、此間奏樂
- 次禰宜以下神饌ヲ供ス、此間奏樂
- 次宮司祝詞ヲ奏ス
- 次勅使隨員御幣物ヲ辛櫃ヨリ出シ假ニ案上ニ置ク案上ニ置クハ豫メ便宜ノ所ニ設ケク
- 次宮司御幣物ヲ奉ル
- 次勅使進テ御祭文ヲ奏ス
- 次宮司進テ御祭文ヲ請ヒ神前ニ納メ訖テ勅使ニ反命ス

(三六六)

- 次勅使玉串ヲ奉リテ拜禮玉串ハ隨員之レヲ附ス
- 次勅使隨員拜禮
- 次宮司玉串ヲ奉リテ拜禮玉串ハ主典之レヲ附ス
- 次禰宜以下拜禮
- 次區長拜禮
- 次氏子總代拜禮
- 次各學校校長職員及兒童總代拜禮
- 次禰宜以下御幣物ヲ撤ス
- 次禰宜以下神饌ヲ撤ス、此間奏樂
- 次宮司御扉ヲ閉テ畢リテ本座ニ復ス、此間奏樂
- 次宮司祭儀畢レル由ヲ勅使ニ白ス
- 次勅使退下宮司以下奉送
- 次各退下
- 以上
- 大嘗祭當日祭祝詞
- 掛麻久母畏後日枝神社乃大前爾宮司正六位勳六等久保惠隣恐美恐美母白左久天都日嗣高御座乃業乎承傳坐志氏食國天乃下知食須大御世乃始乃今日乃生日乃足日爾大嘗祭仕奉里給布爾依里氏
- 天皇命乃大命以知氏東京府知事從四位勳三等法學博士井上友一乎差使被志氏大前乎齋祭良志奉給布賀故爾八東穗爾莫莫然茂禮留秋乃初穗乎和稻荒稻爾仕奉里御酒波甕乃上高知里甕乃腹滿竝倍氏海川乃物山野乃物爾至留麻傳種種乃物乎凡物爾置足被志氏獻奉良久乎平介久安介久宇豆乃比開食志氏

天皇命乃大御世乎堅石爾常石爾齋奉里嚴御世爾幸奉里給比親王等諸王等乎始米氏百乃官乃人等天乃下乃國民爾至留麻傳撫給比惠給比氏
天皇賀大朝廷爾五十櫃八桑枝乃如久立榮衣仕奉良志奉給爾登恐美恐美母白須
大正四年十一月十四日

地府社

市内ニ於ケル府社ハ、

- 神田神社 東京市神田區宮本町鎮座
- 氷川神社 同市赤坂區氷川町鎮座
- 金刀比羅宮 同市芝區琴平町鎮座
- 芝大神宮 同市同區宮本町鎮座
- 湯島神社 同市本郷區湯島公園地鎮座
- 東照宮 同市下谷區上野公園地鎮座
- 根津神社 同市同區根津須賀町鎮座
- 富岡八幡宮 同市深川區深川公園地鎮座

八社ニシテ、何レモ十一月十四日ヲ以テ大祭ヲ執行シ、府ヨリ神饌幣帛料供進使參向シタリ、祭式略同シケレハ、左ニ其一ヲ擧ク、

府社神田神社 神田區宮本町鎮座
十一月十四日大嘗祭當日、大祭ヲ執行ス、其次第左ノ如シ
設備裝飾等、渾テ十日祭典ノ時ト同シ、午前十時神職八名、伶人六名、被ヲ修ス、同十時東京府ヨリ幣帛供進使ト

人郷社村社無格社
麴町區

(一) 祭祀執行
十一月十四日大嘗祭當日、麴町區ニ於テハ、各神社何レモ大祭ヲ執行ス、區長ハ神饌幣帛料供進使トシテ各神社ニ參向シタリ、

(二) 小學校兒童參拜
十一月十四日大嘗祭當日、麴町區市立各小學校職員兒童總代ハ、區内ノ各學校鎮守神社ニ參拜ス、

神田區

(一) 祭祀執行
十一月十四日大嘗祭當日、神田區ニ於テハ、各神社ノ大祭ヲ執行ス、區長ハ神饌幣帛料供進使トシテ、午前村社柳森神社(柳原河岸第四號地鎮座)ニ、午後同三崎稻荷神社(三崎町鎮座)ニ參向ス、

(二) 小學校兒童參拜

(三六七)

十一月十四日大嘗祭當日、神田區内市立各小學校職員兒童總代ハ、鎮守神社ニ參拜ス、

ハ日本橋區

(一) 祭祀執行

十一月十四日大嘗祭當日、日本橋區ニ於テハ、村社杉森神社ノ大祭ヲ執行シ、區長ハ、神饌幣帛料供進使トシテ、參向シタリ、

(二) 小學校兒童參拜

十一月十四日大嘗祭當日、日本橋區各小學校長及生徒兒童總代、鎮守社ニ參拜ス、

ニ京橋區

(一) 祭祀執行

十一月十四日大嘗祭當日、京橋區ニ於テハ、各神社何レモ大祭ヲ執行シ、區長ハ、神饌幣帛料供進使トシテ、左ノ各神社ニ參向シタリ、

郷社 住吉神社(御島鎮座) 同稻荷神社(本湊町三〇鎮座)
村社 稻荷神社(南小田原町一丁目鎮座)

(二) 小學校兒童參拜

十一月十四日大嘗祭當日、京橋區内市立小學校職員兒童總代ハ、各其校鎮守ノ神社ヲ參拜シタ

ホ芝區

(一) 祭祀執行

十一月十四日大嘗祭當日、芝區ニ於テハ、區役所樓上ニ齋壇ヲ設ケテ參拜シ、各神社ハ、府社芝大神宮ノ外、郷社八幡神社(西久保八幡町鎮座)同東照宮(芝公園地鎮座)同御田八幡神社(芝田町鎮座)、村社烏森神社(烏森町三番地鎮座)同愛宕神社(愛宕町一丁目鎮座)以下各社、皆大祭ヲ執行シ、區ヨリ神饌幣帛料供進使參向ス、

(二) 小學校兒童參拜

十一月十四日大嘗祭當日、芝區内市立小學校職員兒童總代ハ、各鎮守神社ヲ參拜シタリ、

ヘ麻布區

(一) 祭祀執行

十一月十四日大嘗祭當日、麻布區ニ於テハ、郷社氷川神社(本村町鎮座)、村社櫻田神社(麻布櫻田町鎮座)、同末廣神社(麻布坂下町鎮座)、同熊野神社(飯倉町三丁目鎮座)以下、大祭ヲ執行シ、區長ハ、神饌幣帛料供進使トシテ參向ス、

(F) 祝奉ノ日當祭嘗大



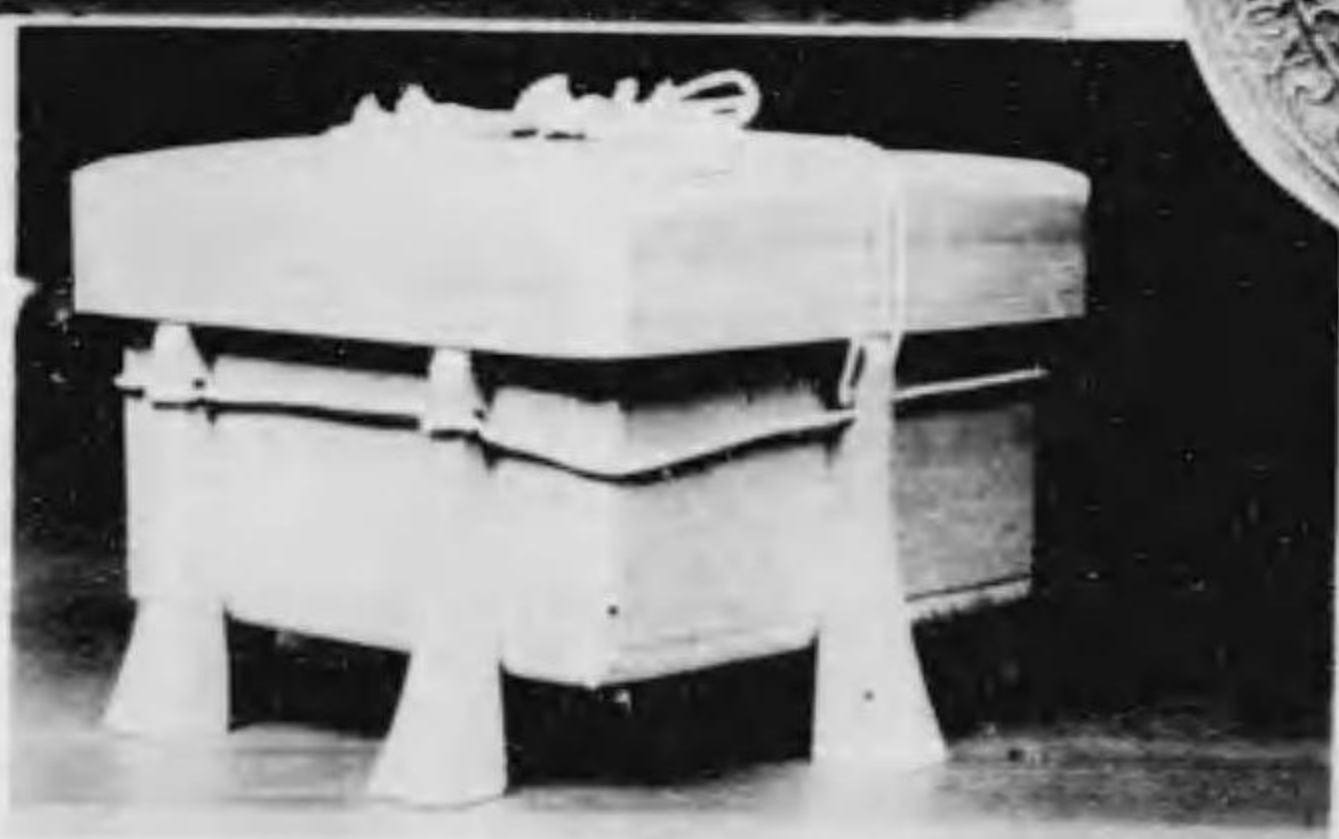
(通橋本日ノ晝)



(座銀ノ夜)



(區地本)



神鏡
(本區區神紅寄進)



(二) 小學校兒童參拜

十一月十四日大嘗祭當日、麻布區ハ、市立各小學校長兒童總代ヲ率キ、其校所在地ノ氏神ヲ初メトシ、其校通學區域内ノ各神社區内十社、隣町澁谷町一社ヲ參拜シ、區費支出ノ供物料(金壹圓)ヲ各社ニ供ヘタリ、

ト 赤坂區

(一) 祭祀執行

十一月十四日大嘗祭當日、赤坂區ニ於テハ、村社氷川神社ノ大祭ニ依リ、區長參拜ス、

(二) 小學校兒童參拜

十一月十四日大嘗祭當日、赤坂區内市立小學校職員兒童總代ハ、鎮守氷川神社ニ參拜シタリ、

チ 四谷區

(一) 祭祀執行

十一月十四日大嘗祭當日、四谷區ニ於テハ、郷社須賀神社ノ大祭ヲ行ヒ、區長神饌幣帛料供進使トシテ參向シ、區吏員名譽職員參拜ス、

(二) 小學校兒童參拜

十一月十四日大嘗祭當日、四谷區内市立小學校職員兒童ハ、鎮守須賀神社ニ參拜シタリ、

リ 牛込區

(一) 祭祀執行

十一月十四日大嘗祭當日、牛込區ニ於テハ、郷社赤城神社、赤城元町鎮座、同八幡神社、市谷八幡町鎮座、村社八幡神社、築土八幡町鎮座、同築土神社(築土八幡町鎮座)、同八幡神社、高田町鎮座等皆大祭ヲ執行シ、區ヨリハ神饌幣帛料供進使參向ス、

(二) 小學校兒童參拜

十一月十四日大嘗祭當日、牛込區内市立小學校職員兒童總代ハ、各鎮守ノ神社ニ參拜シタリ、

又 小石川區

(一) 祭祀執行

十一月十四日大嘗祭當日、小石川區ニ於テハ、郷社一社、村社五社大祭ヲ執行ス、神饌幣帛料供進使トシテ、區長隨員ヲ伴ヒ、各神社ニ參向ス、

(二) 小學校兒童參拜

十一月十四日大嘗祭當日、小石川區内各小學校職員及兒童總代ハ、區内ノ神社ニ參拜ス、

ル本郷區

(一)祭祀執行

十一月十四日大嘗祭當日、本郷區ニ於テハ、各神社大祭ヲ執行ス、區長ハ書記一名ヲ隨ヘ、

- 村社 天祖神社 駒込神明町二鎮座
- 村社 櫻木神社 眞砂町六鎮座
- 村社 妻戀神社 妻戀町八鎮座
- 府社 湯島神社 湯島梅園町一鎮座
- 府社 根津神社 根津須賀町二七鎮座
- 無格社 御靈神社 湯島新花町六一鎮座
- 無格社 稻荷神社 元町二丁目六鎮座

ノ七社ニ參拜シ、神饌幣帛料ヲ供進ス、指定神社ニ對シテハ、神饌幣帛料供進竝ニ區ヨリノ神饌料及記念神鏡ヲ奉獻シ、此外區内市立小學校鎮守卜定メラレタル神社ニ對シテ、亦區ヨリノ神饌料及記念神鏡ヲ奉獻ス、

(二)學校兒童參拜

十一月十四日大嘗祭當日、本郷區内市立各小學校職員、兒童總代ハ、各其鎮守ノ神社ニ參拜ス、

ヲ下谷區

(一)祭祀執行

十一月十四日大嘗祭當日、下谷區ニ於テハ、各神社大祭ヲ執行ス、是日區長ハ書記一名ヲ隨ヘ、午前七時ヨリ午後八時マテ、左ノ各神社ニ參向ス、

- 郷社 下谷神社 村社 鷺神社 村社 千束神社
 - 村社 小野照崎神社 村社 五條天神社
- 左ノ各神社ニハ、松井書記區長ニ代リテ、午前八時ヨリ午後三時マテ參拜ス、

- 無格社 茅町稻荷社 無格社 三島神社 根座
- 無格社 三島神社(金杉上町)

村社 穴稻荷社ニハ、十五日午後一時區長書記一名ヲ隨ヘ、供進使トシテ參向シ、無格社井上神社、同金比羅神社、府社 東照宮ヘハ、松井書記區長ニ代リテ參拜ス、

(二)小學校兒童參拜

十一月十四日大嘗祭當日、下谷區内市立小學校職員及生徒總代ハ、何レモ鎮守神社ヘ參拜ス、

ヲ淺草區

(一)祭祀執行

十一月十四日大嘗祭當日、淺草區内神社郷社三、村社十、無格社十八ハ、何レモ大祭ヲ執行ス、規定ニ從ヒ、幣帛供進使ヲ參向セシムルコト、左ノ如

員兒童總代ハ、各鎮守神社ニ參拜ス、職員小使ニハ、區ヨリ賄料ヲ支給シタリ、

カ本所區

(一)祭祀執行

十一月十四日大嘗祭當日、本所區ニ於テハ、郷社牛島神社(向島須崎町鎮座)以下、大祭ヲ執行シ、區長ハ神饌幣帛料供進使トシテ參向ス、

(二)小學校兒童參拜

十一月十四日大嘗祭當日、本所區内市立各小學校職員、兒童總代ハ、各區域内ノ神社ヘ參拜ス、

ヨ深川區

(一)祭祀執行

十一月十四日大嘗祭當日、深川區ニ於テハ、各神社大祭ヲ執行ス、區ヨリ左ノ各神社ニ、大嘗祭神饌幣帛料ヲ供進シタリ、

- 府社 八幡神社 郷社 天祖神社 村社 稻荷神社 村社 洲崎神社

(二)小學校兒童參拜

十一月十四日大嘗祭當日、深川區内市立小學校十校各組ノ兒童總代ハ、校長及職員ト共ニ、各其

シ、

供進使 淺草區長 山崎林太郎

隨員

書記一名

右參向神社

- 十一月十四日午前九時 村社 八幡神社 所今戸在町
- 同 同十一時 郷社 淺草神社 地淺草公園在町
- 同 午後一時 村社 須賀神社 所須賀在町
- 同 同三時 郷社 石清水八幡宮 所八幡在町
- 供進使 淺草區書記 稻葉龜藏
- 隨員 書記一名

右參向神社

- 十一月十四日午前九時 村社 神戶神社 所神戶在町
- 同 同十一時 郷社 鳥越神社 町元鳥越在町
- 同 午後一時 村社 松平神社 所南元在町
- 同 同三時 村社 八幡神社 所福井町一丁目一在町
- 供進使 淺草區書記 三浦八十次
- 隨員 書記一名

右參向神社

- 十一月十四日午前九時 村社 三島神社 所奇在町
- 同 同十一時 村社 熱田神社 所吉野在町
- 同 午後一時 村社 玉姫稻荷神社 所山谷在町
- 同 同三時 村社 白山神社 所龜岡町三丁目一在町

(二)小學校兒童參拜

十一月十四日大嘗祭當日、淺草區内各小學校職

鎮守神社タル府社富岡八幡神社、郷社天祖神社、
村社稻荷神社ニ參拜ス、

下大饗及夜宴奉祝

一參列

十一月十六日即位禮及大嘗祭後大饗第一日ノ
儀ニ、市長ハ勳一等ノ資格ヲ以テ參列ス、
十一月十七日即位禮及大嘗祭後大饗夜宴ノ儀
ニ、本市ヨリ參列シタル者左ノ如シ、

東京市長正三位勳一等法學博士 奥田 義人
東京市會議長正七位勳三等 中野 武營

附記

市長議長歸京

內發第一九三號

市長議長歸京東京驛著時刻左記ノ通ニ候間爲念御通知候
也

市長 十九日午後八時三十分著
議長 十九日午前八時四十分著
以上

大正四年十一月十八日

內記課

各課長宛
電氣局長宛

二花電車運轉

十一月十六日十七日大饗第一日ノ儀第二日ノ
儀及大饗夜宴ノ儀當日、本市電氣局ハ、花電車ヲ
運轉シテ之ヲ奉祝ス、

奉祝花電車運轉日割

月日	七曜其他	車數	運轉線路	運轉回數	車數
十一月十六日	火曜(大饗第一日)	五	品川上野線、本町線及 三田小川町須田町間	午前二回 午後二回	三回
十一月十七日	水曜(大饗第二日)	五	同	同	同

花電車名稱

日月寶祚無窮 奉祝ノ歌 文官武官
萬歲太平樂 菊花ノ車 以上五臺

三奏樂

十一月十六日十七日大饗第一日ノ儀第二日ノ
儀及大饗夜宴ノ儀當日、本市ハ日比谷公園音樂
堂ニ於テ奉祝奏樂ヲ爲ス、用地課之ヲ監督スル
御即位禮當日ノ奏樂ニ同シク、其盛況亦相伯仲
ス、

十一月十六日

三越音樂隊演奏

第一回 午前十時ヨリ十二時ニ至ル

第二回 午前十時ヨリ十二時ニ至ル

第三回 午前十時ヨリ十二時ニ至ル

第一回 午前十時ヨリ十二時ニ至ル

カワカブエキー作
フロトワ作

- 四、圓舞曲「西班牙固有樂調」エスツヤヤンチナ、ソルドエル作
五、拔萃曲「ミニヨン」 トーマ作
六、イ、マザルカ「スワーエーデン農夫」 トランスワトール作
ロ、圓舞曲「樂しき家庭」 マルガー調曲
- 第二部
- 七、御大典奉祝歌 唱歌
吹奏樂
- 八、行進曲「我大君」 スコートン作
九、序曲「フエガロの結婚」 モツアルト作
十、イ、圓舞曲「夢の精」 マイスラー作
ロ、ゴルカ「銀治屋」 パーロー作
十一、拔萃曲「お伽草不思議の水差」 アイノー作
十二、長唄「雛鶴三番叟」 アイノー作
- 第一部
- 一、御大典奉祝歌 唱歌
管弦樂
- 二、行進曲「星と編永久なれ」 スーザ作
フロトワ作
三、序曲「マルタ」 トパーニ作
四、圓舞曲「吾々の結婚日」 ビンヤンク作
五、英國歌「海上の生活」 ビール作
六、イ、露國歌劇「ザールの生活」 ラムプ調曲
ロ、愛蘭「グリーン湖への道すがら」
- 第二部
- 七、御大典奉祝歌 唱歌
吹奏樂
- 八、歌劇「鎌倉中」戴冠式行進曲「 マイヤヘリア作
九、序曲「イフケニア、イン、アウリス」 グルック作
レハール作
十、圓舞曲「金と銀」 ヘルマン作
十一、イ、大叙事的幻想曲「コロムナス」 ションス作
ロ、セリア「ユーホニオン、ソロー」

- 十二、長唄「老松」
- 十一月十七日
- 三越音樂隊演奏
- 第一回 午前十時ヨリ十二時ニ至ル
- 第二回 午前十時ヨリ十二時ニ至ル
- 第三回 午前十時ヨリ十二時ニ至ル
- 第一回 午前十時ヨリ十二時ニ至ル
- 一、御大典奉祝歌 唱歌
管弦樂
- 二、行進曲「集會ノ都市」 アルレン作
三、歌劇「ローレンツ」中「プライダルコ」作
シゲネル作
四、圓舞曲「佛蘭西美人」 トパーニ調曲
五、イ、露と蛙 アイレンベルグ作
ロ、森林中ノ音樂 アイレンベルグ作
六、圓舞曲「青きダニエーア河の碧流」 シトラウス作
- 第二部
- 七、御大典奉祝歌 唱歌
吹奏樂
- 八、行進曲「二十世紀」 ロイシー作
九、序曲「ウキルヘルム、デル」 ロツシニ作
十、圓舞曲「フロトワ」 スチューア作
十一、イ、露國歌劇「ザールの生活」 グリンカ作
ロ、行進曲「埃及」 シトラウス作
- 第二回 午後二時ヨリ四時ニ至ル
- 第一部
- 一、御大典奉祝歌 唱歌
管弦樂
- 二、行進曲「本世紀中ノ凱旋」 ライス作
三、夢想曲「カルメン」 ビレー作
四、圓舞曲「分限者の娘」 ロツター調曲

- 五、綜合曲、思ひ出のハイデルマルヒ
 - 六、國舞、藝術家氣質
 - 七、御大典奉祝歌
 - 八、序曲、此の世の樂み
 - 九、拔萃曲、聖母の寶玉
 - 十、英國歌、拔萃曲
 - 十一、國舞、秋の夢
 - 十二、清元喜撰中、浮かれ坊主
- トバニー調曲
シトラリス作
- 吹奏樂
- ナタン作
フエラリ作
エツケルト作
ジョイス作
マツクリン作

四橋梁點燈裝飾

十一月十六日夜、大饗及夜宴ヲ奉祝スル爲メ、本市土木課ハ、左ノ三橋ヲ點燈裝飾ス、
日本橋 鍛冶橋 四谷見附橋

五煙火

十一月十六日大饗第一日ノ儀當日、本市ハ豫定ノ如ク水道課監督ノ下ニ奉祝烟火ヲ打揚ク、

打揚月日	打揚場所	本	數	請負人氏名
十一月十六日 (大饗第一日)	兩國河上	(晝) (夜)	五〇 二五	平山烟火製造所主 小野よし

附記

市民ノ奉祝獻品

宮内省告示第三十二號
京都皇宮内ニ設置ノ臨時宮内省出張所ハ之ヲ廢止ス
大正四年十二月九日 宮内大臣男爵 波多野敬直

二賢所御神樂

十一月二十九日東京還幸後賢所御神樂ノ儀ヲ行ハセラル、

附記 參列者

東京還幸後賢所御神樂ノ儀ニ參列ノ爲左ノ諸員ヲ召サセラル、

- 一、大勳位
- 一、各廳勅任官總代一人
- 一、有爵者總代各爵一人
- 一、親任官
- 一、官内奏任官總代一人
- 一、大禮使高等官

以上當日在京者ニ限ル
召サレタル者ハ十一月二十九日午後四時三十分マテニ賢所參集所ニ參集ノコト
但シ服裝ハ大禮服、正裝、服制ナキ者ハ通常禮服トス
(大正四年十一月二十五日官報所載大禮使彙報)

三皇靈殿神殿御親謁

十一月三十日還幸後皇靈殿神殿御親謁ノ儀ヲ行ハセラル、
(參考) 大正四年十一月二十七日官報大禮使彙報ニ、
高等官著床 左記ノ儀ニ當日在京ノ大禮使高等官全部
著床ニ付時刻三十分前迄ニ賢所參集所ニ參集ノコト

(三七四)
御大禮ヲ奉祝シテ物品ヲ獻納シタル市民中、區ノ報告ニ接シタル者ヲ左ニ例示ス、
淺草區

第七 東京還幸

一還幸

十一月二十七日京都御發轅東京ニ還幸ノ儀ヲ行ハセラレ、天皇陛下ハ、御豫定ノ如ク、是日午前九時二十分京都皇宮御發轅、同十時四十分京都停車場御發車、午後二時四十分名古屋停車場御發車、同三時三十分名古屋離宮ニ御安著アラセラレ、二十八日午前六時三十分名古屋離宮御發轅、同七時三十分名古屋停車場御發車、午後四時三十分東京停車場御發車、同五時二十分還幸アラセラル、
二十八日賢所溫明殿ニ還御ノ儀ヲ行ハセラル、

附記

臨時宮内省出張所廢止

十一月三十日還幸後皇靈殿神殿ニ親謁ノ儀
著床 午前九時三十分
服裝 大禮服、正裝、服制ナキ者ハ通常禮服

附記

御祝電並御答電
御祝電 大禮ニ付伊太利國皇帝陛下、白耳義國皇帝陛下、亞米利加合衆國大統領閣下、露西亞國皇帝陛下、諸威國皇帝陛下、大不列顛國皇帝陛下、佛蘭西共和國大統領閣下、西班牙國皇帝皇后兩陛下、和蘭國皇帝陛下、智利共和國大統領閣下、支那共和國大統領閣下、丁抹國皇帝陛下、暹羅國皇帝陛下、西班牙國アルフォンソ親王殿下ヨリ
天皇陛下ハ、御祝電ヲ寄セラレタルニ對シ夫々御答電御發送アラセラレタリ (大正四年十一月三日官報宮廷錄事)

第八 東京御還幸奉迎

一奉迎

イ市長以下奉迎
十一月二十八日東京還幸當日、市長、市會議長、市會議員、區長、區會議長、市助役ハ、豫定ノ如ク、午後四時二十分宮城正門前ニ參集シ、同所ニ於テ天皇陛下ノ御還幸ヲ奉迎ス、
□名譽職員吏員奉迎
十一月二十八日東京還幸當日、本市名譽職員吏

員ハ、豫定ノ如ク、午後一時マテニ麴町區永樂町東京驛前四十間道路南側ノ市役所奉迎所ニ參集シ、謹テ、天皇陛下ノ御還幸ヲ奉迎ス、

ハ區公民奉迎

十一月二十八日東京還幸當日、麴町區公民六百七十四名ハ、東京驛前四十間道路南側ノ區設奉迎所ニ於テ、陛下ノ御還幸ヲ奉迎ス、

ニ學校職員生徒兒童奉迎

(一)宮城前奉迎

十一月二十八日東京還幸當日、本市各小學校其他ノ職員生徒兒童ハ、豫定ノ如ク、午後二時マテニ宮城前ノ奉迎場ニ參集シ、天皇陛下ノ御還幸ヲ奉迎ス、順序方法等一ニ奉送ノ時ニ同シ、唯兒童生徒總代ノ奉送當日ニ異ナル者ヲ以テセルノミ、

(二)鐵道沿線奉迎

十一月二十八日東京還幸當日、芝區ニ於テハ、各小學校長及兒童總代ヲシテ宮城前奉迎場ニ於

テ奉迎セシメタル外、各小學校尋常科四學年以上ノ兒童ヲシテ、左記停車場ニ奉迎セシム、順序方法一ニ奉送當日ニ同シ、

新橋停車場 田町停車場 濱松町停車場 品川停車場

二警 戒

イ土木設備警戒

十一月二十八日東京還幸當日、奉迎土木設備ニ對シ、本市土木課ニ於テ警戒スルコト、左ノ如シ、

一道路警戒

京都市幸當日ニ同シ、

二奉祝裝飾警戒

御還幸當日、御道筋裝飾警戒ノ爲メ、左ノ通り吏員及備人ヲ派遣ス、

技師 二名 技手 十名 雇 二名 工手 一名

ロ電氣設備警戒

十一月二十八日東京還幸當日、奉迎電氣設備ニ對シ、本市電氣局ニ於テ警戒スルコト、左ノ如シ、

一、軌道警戒

東京御還幸當日、御道筋ニ人員ヲ配置シテ、線路ヲ警戒セシメ、且軌道上ニ撒砂ヲ爲ス、

二、電線路警戒

東京御還幸當日、御道筋ニ人員ヲ配置シテ、電線路ヲ警戒セシム、

附記

點 燈

東京御還幸ノ際、和田倉門ヨリ日比谷交叉點ニ至ル間ニ、二百燭光、タングステン二十四燈ヲ點火ス、

ハ衛生設備警戒

十一月二十八日東京還幸當日、本市衛生課ノ施爲ハ、京都市幸當日ニ同シ、

三警 備

十一月二十八日東京還幸當日、各區ハ、引續キ適宜ノ方法ヲ以テ町内ヲ警備ス、

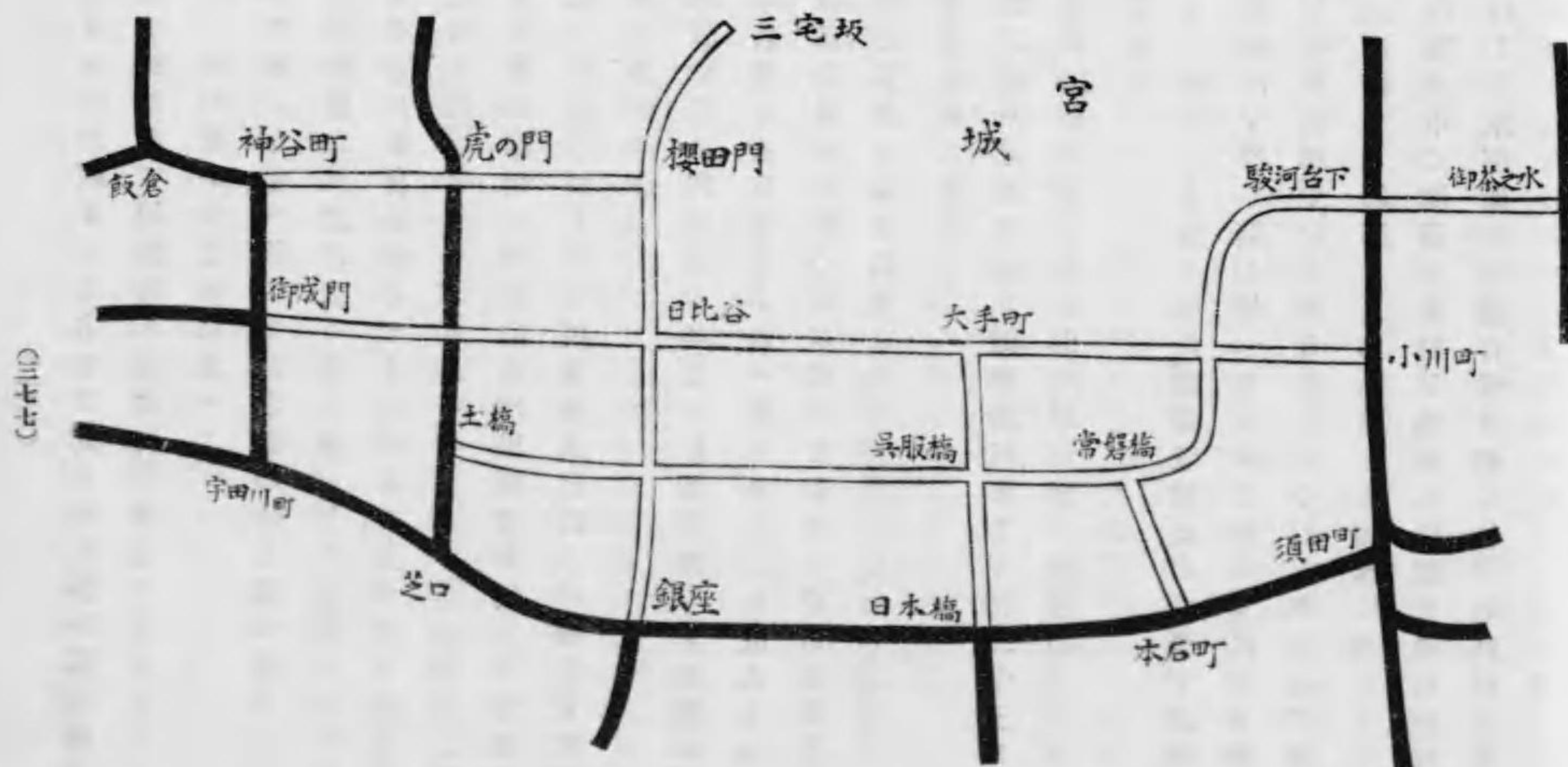
四電車運轉一部中止

十一月二十八日東京還幸當日、本市電氣局ハ、監督官廳ノ許可ヲ得、奉迎ノ爲メ、電車運轉ノ一部ヲ中止ス、即チ別紙圖面ノ如シ、

五花電車運轉

十一月二十八日東京還幸當日、本市電氣局ハ、

十一月二十八日午前八時ヨリ午後五時半頃
 一、區間電車運轉中止中
 (運轉中止區間ハ、ハシクハ行發符ヲ見ル)



奉迎花電車ヲ運轉ス、

奉迎花電車運轉日割

月	日	七曜其他	車數	運轉線路	運轉回数	車庫
十一月二十八日	(日曜)	(御還幸當日)	五	品川上野淺草箱根線及三田小川町須田町間	午前一回 午後二回	三田

花電車名稱

日月寶祚無窮 奉祝ノ歌 文官武官
萬歳太平樂 菊花ノ車 以上五臺

六橋梁點燈裝飾

十一月二十八日夜、東京御還幸奉迎ノ爲メ、本市土木課ハ、左ノ三橋ヲ點燈裝飾ス、

日本橋 鍛冶橋 四谷見附橋

七煙火

十一月二十八日東京御還幸奉迎ノ爲メ、本市水道課ハ、豫定ノ煙火ヲ打揚ク、

打揚月日	打揚場所	本	數	請負人氏名
十一月二十八日 (御還幸當日)	芝浦埋立地	壹	一四	健屋藤原彌兵衛

八市民ノ奉迎奉祝

天皇陛下御還幸當日ノ市中景況、及其後ノ奉祝行列等、左記ノ如シ、

全市喜びに甦る

二十八日は愈々聖駕西の京より御還幸遊ばさるゝを迎へ

かに地を籠めて居る店を鎖して奉祝に今日の一日を休業して居る商店や二階三階四階と高く聳え立つ窓々から国旗や球燈を空中に漂はして祝意を表する商店や、或は又店頭飾窓に奉祝に因む飾り物をして道行く人の眼をそばたしめて居る商店などが盛装の街の中に眼の届く限り續いて居る、京橋中橋廣小路、日本橋今川橋と大通の要所を所をかためて居るやうな所々の奉祝門も再び新装を凝らして新設當時にも増した美しさである、十一時から大門を發した五臺の花電車は市民の歡呼の中に送られて、長閑な菊日和が溶け込む線路の上を緩やかに這つて居る、自動車馬車、腕車の往來も此六日にも増して賑やかである

自動車の先 國旗を繡したり腕車の背に萬歳旗を飾つたりして走つて居るのも幾つか目に止る、或る荷馬車挽が奉祝と染抜いた法被を著て五色の手綱を見せた馬を曳いて行くのは床しかつた、兩側の人道は美しく著飾つた女や子供がお祭心地で嬉々として打ち連れて歩いてゐる、奉祝に因んだ風船や玩具などを賣つてゐる大道商人付處々の軒先に人の足を止めて居る

東京では 十一時から五時まで同驛新橋驛間の一切の列車の運轉を中止したので新橋驛は舊驛時代の昔に返つたやう、御成門小川町間及び其附近の電車も十時から五時過ぎまで運轉を中止したので日本橋京橋の大通り線は滿員が續いた淺草公園は奉祝氣分の人出でこつた返し、街の其處此處に警官隊のサーベルが銀色の林を作つて居た

還幸の夜 金色に燃える夕日が西の空を一しきり染て消

奉る可き日なので前々から市中は到る所裝飾の幕や旗や其他風雨に洒されて變色若しくは汚損を生じたるもの、修繕に忙しかつたが廿七日に至つて

全市悉く美装を整へ終つて只奉迎の時を待つ許りとなつた市中の股賑は又之れより再び新たなる景趣を添へた以前にも増した歡喜の街となるのである先づ最も眼を引くは銀座通りに「アメツチノムタキハミナキ」の奉祝歌と「聖壽萬歳」及び菊の節句や酒宴の古代風俗畫を描いた大燈籠を幔幕代りに出したもので萬歳旗或は紅白の幔幕を取り替へた所も少からず

馬場先門の 萬歳門を始め其他の杉葉も残らず深緑滴らん許りの新葉と著け替へられ一層目新しさを覺える日本橋通では塔の塗替をやつた所などもあつて全市の氣分は已に餘程の緊張を見るに至つた(十一月二十八日國民新聞)

市民歡喜に躍る

申分の無い還幸日和である、御發業以來こゝに二十三日、二十八日の還御を迎へ奉る市民が如何に歡喜の心を躍らして居たかは

街々を飾る 裝飾にも見られた御發業當時の幔幕も球燈も彩旗も奉祝門も悉く塗り替へられ附け替へられ作り替へられてこの日頃花やかに飾られてあつた市中は更に面目を一新した緑滴る緑葉と光彩陸離たる旛旗は燃えるやうな五色の彩の中に聖壽の無窮を祝福して居る、先づ新橋から見て行くと銀座通りの懸行燈は新に替へられ打ち續く菊花壇も今を盛り黄菊白菊を移し植られて清香よくよ

えると満都は只火の海と化した八百八町に打ち續く電飾と提灯の灯は炎々天を焦して居る、殊に二重橋前から日本橋銀座の大通りに渉る空はほんのりと紫紅色に色づいて處々に探照燈の煌々たる

火の柱が天迄 届けと燦き渡つて居る、此不夜城の壯觀を見んものと集り來る市民は引きも切らず滿員續きの電車は更けるに従つて益々混み合つた、兎も角も此夜の壯觀は矢張り二重橋に止を刺す、萬歳門から二重橋際に至る兩側の奉祝塔は尖端に花環形の電飾、中央に畫を欺く探照燈の光りを見せて夜の幕に包まれた御苑の松原や垣々たる砂利敷の御道筋を照して居る、赤い線のある警官の提灯が右に動く儘に左に動く儘に、夜景見物の群集は極めて柔順に其指揮に従つて歩いて居る、萬歳門の主塔から袖門に連る電飾は暗紫色の空を背景にして

赤に青に五彩の色をくつきりと浮出させ中空に舞ふ風風の金色の翼は此良夜を徹して還幸の奉賀を謳ふもの、如くである此あたりは殊に雜沓が甚だしい、馬場先門で電車を下りた群集はこゝまで來て此強烈な光に照されると皆恍惚として我を忘れ只此壯觀に打たれて居る、群衆を相手のおでん屋パン屋壽司屋など路傍に屋臺店を並べて宛ら縁日の賑ひを思はせる、日本橋から銀座に至る大通りの夜景も還幸の夜の氣分に相應しい、色電氣で王冠を見せた三越の飾窓には黒山の様な人ばかりである、繩を張つて春日燈籠を飾つた室町通の町飾りも燈籠に灯が入つて一層神々しさを増した、天を突く日本橋兩側の奉祝門は火の

花を付けて、白木屋界隈の

商店の電飾比 流石大東京の中心としての誇りを語つて居る、通三丁目の飾棚に赤と青の電球を列ねたのは花やかである、京橋際の本社の奉祝門が空中に描き出す赤電氣の日の出も正に揚々として四海に輝く我國威の表徴とは見えやう、銀座の舗道は往來の人が渦を巻いて、日本電氣の五層樓を包む赤電氣や青電氣は絢爛華麗、春光熾々として流れる花園を思はしめる、花電車と提灯行列は此火の海の満都を縫うて更けるまで賑つた(十一月廿九日東京朝日新聞)

奉迎飛行

二十八日聖上陛下の還幸に付き帝國飛行協會員尾崎行輝氏は空中より奉迎の誠意を表する爲め單機三重號を驅つて帝都訪問の壯舉を行ふ、此日初冬の空高く舞れたれど北風冷やかに面を打つ、午前六時半行輝氏は協會練習場に現れて三重號を曳き出し職工を督勵して機體の點檢發動機の調整を試む七時五十分準備全く成るや黒革の飛行服に身を固めて機上の人となり地上約三四十米突の低空に小圓形を描きて一旦場の東方に著陸せるが再び昇登して二百米突の高空に登り記念塔上より富岡森林上を掠めて大圓形を描き軽快なる飛行振を示せしが總て機首を南方に取り帝都の空を指して機影を没せり(所澤電報)

宮城上を數周

三重號の著陸地たる代々木練兵場には飛行協會員を始め千餘の觀衆轟々と詰めかけて待ち受くる程に午前八時二十分朝霧未だ晴れやらぬ練兵場の空高く爆音勇ましく飛

を携へて坂本町通りより上野公園に練り、正午同所にて解散せり(十一月三十日萬朝報)

昨夜の奉祝行列

慶應大學生徒職員等四千名は三日午後五時校庭に集合し手に手にカンテラを點じて出發、赤羽橋より芝園橋區役所前より櫻田本郷町を右に新橋に出で銀座通りを真直に練りて日本橋一丁目より左に折れ、吳服橋より大手町通り、馬場先より二重橋前に至りて萬歳を三唱、日比谷公園音樂堂前に至り再び萬歳を三唱して午後七時三十分散會したり又開成中學生約千八百名は午後五時より神田淡路町を出發、二重橋前まで提灯行列を爲し、日比谷公園にて散會したり、此外この夜半込區の千三百人麴町區の二千五百名の提灯行列あり、二重橋前附近は光の巷と化した(十二月四日萬朝報)

昨日今日の行列

日本橋區檜物町神輿は五日午前十時白丁姿の町内若者百二十名が擔ぎ有志十六人羽織袴にて附き添ひ鍛冶橋を渡り八重洲町より馬場先門に至り萬歳を奉唱して日比谷公園に至り暫時休憩の後更に山下門を出で日吉町より左へ大根河岸を一直線に通し夫れより更に町内全體を練り廻り御假屋に納めたり、又向島牛島神社の氏子なる本所區若宮町、松倉町一、二丁目、北新町、原庭町、石原町、横網町、松代町の神輿八臺及龜戸天神の氏子なる同區太平町一、二丁目、茅場町、柳原町、柳島町、同梅森町の御輿六臺は同日午前八時各町を昇出し兩國橋際にて勢揃ひの上横山町通りを常磐橋和

(三八〇)

行し來り場上一周の後觀衆喝采裡に東より西に向つて無事著陸したり時に八時二十五分斯くて少憩後尾崎氏は愈々帝都を訪問すべく再び機上の人となり西より東に向つて滑走離陸二周の後四百米突の高度に達し白色に塗られたる機體に熱々たる旭光を浴びつゝ悠々山の手線に沿ひて品川に出で更に海上を飛んで越中島附近より隅田川を溯り上野附近より山の手に出で約五百米突の高度を保ちつゝ代々木の空に現はれしが

其儘外濠に沿うて宮城を一周したる

後日比谷公園附近にて百米突の低空飛行を試み此處にて亦數周の後代々木練兵場に引返し著陸せんとしたるが此時警戒線内には觀衆入り亂れて甚だ危険を感せしも巧に難關を切り抜け九時五十分西隅に著陸したり其際草中に隠れし杭の爲めに右車輪を破損したるより飛行を中止し機體は分解の上所澤に送る事としたり尙當日の飛行時間は五十分にして距離五十餘哩なりと

(十一月廿九日やまと新聞)

二組の旗行列

下谷區竹町を中心とせる有志六百三十名は二十九日午前九時を合圖に一同竹町なる第六福寶館前に集合、六隊となつて上野に向ひ旗行列を催したり、一行は西町通りを電車線路に沿うて、上野山下より不忍に入り、池を一週したる上山王臺に上り、遂に皇城を拜し萬歳を奉唱し、十一時三十分隨意解散す、又同區龍泉寺、上下金杉各町の有志三百餘名は、午前九時三輪神社境内に集合して十時出發手に手に小旗

田倉門に出で、馬場先萬歳門に至り萬歳を奉唱して歸途に就きたり(十二月六日時事新報)

乙姫様の山車

日本橋魚河岸の若い衆連二百餘人は六日午前七時頃から「乙姫」を飾つた山車を曳出して江戸橋の廣場に集合し、充分に勢揃ひをして午前十時といふに消防隊の木遣りに連れられて練り出した、一回「祝大典」と染抜いた粋な絆纏に花笠を冠り、中には絆縮緬の襦袢の肌抜きといふ打扮に、金に糸目をつけぬといふ河岸ッ兒の勇みを見せる、役員連五十餘名は縮緬魚繫ぎの重ね著に源氏博多の角帯を締めて、素足の草鞋穿きといふ拵へ、行列は笛太鼓の囀りに連れて西河岸から吳服橋へかゝり、東京驛前を馬場先門に來て萬歳を三唱し、夫より鍛冶橋を渡り真直に日本橋の電車通へ出それから引返して室町附近を練り歩き午後四時頃江戸橋へ歸りめで度散會した(十二月六日萬朝報)

鳥越神輿行列

九日の奉祝會を眼前に控へた市中は何處となく活氣付き六日は魚河岸が山車を練出し七日は又淺草鳥越神社氏子中から十二臺の神輿を昇ぎ出した午前八時と云ふに各町の若い衆は寒い風の荒む中を揃ひの半纏に更紗の三尺帯、白鉢巻白足袋中には西洋人、武士、鳥田の假裝で酒樓嬢の元氣よく新堀端越谷橋際に參集の上九時を合圖に廿名餘の子供衆に曳かせた金の小太鼓の車を先頭に大太鼓の音勇ましく阿部川町、北三筋町、森下町、西島越町、小島町、二臺永住町の各神輿についで水干姿卅名の子供に擔がれた榮久

(三八一)

町、新猿屋町、南榮久町、向柳原町二丁目、松山町と十二臺何れも百人餘りの若衆に擔がれワッショ〜と土煙渦巻く中を揉みつ揉まれつ菊屋橋に向つて出發し左に折れて電車通りに沿ひ上野停車場前に向つたが、沿道は左右一面見物人の垣を築かれ一時電車も立往生の始末であつた漸く上野驛前を過ぎ三橋から右に不忍池畔を一周して辨天前に一先づ揉み下し此處でお酒と鮓で腹を拵へ十一時半更にみやこ座前を経て廣小路松坂屋の角を電車通りに折れ小島町より三味線堀、西島越、二長町を経て向柳原柳北學校の角を左に七曲に出で猿屋町から甚内橋を渡つて鳥越神社に引返した

(十二月八日やまと新聞)

昨夜の提灯行列

市内各區の洋服商組合有志三千五百名は七日午後五時半日比谷公園に集合して提灯行列を催し役員の指揮にて高張提灯を先頭にし何れも紅白の運動帽を頂き折柄の寒風裡に奉祝曲奏樂しつゝ二重橋前に至りて萬歳を三唱し、凱旋道路、日比谷公園裏通を経て新橋に出で銀座通りを一直線に上野に赴き、不忍池畔にて解散したり、又淺草壽町有志三百五十名及び芝區三田二丁目三田同朋町、四國町の三ヶ町有志三百名も同じく提灯行列を催はし二重橋前にて萬歳三唱の上前者は蓬萊座前にて解散し、後者は日比谷公園にて解散したり

(十二月八日萬朝報)

附記

御大禮御式場拜觀公告

(三八二)

御大禮ヲ行ハセラルタル大嘗宮紫宸殿二條離宮内饗宴場拜觀ニ關シ、東京府ヨリノ通牒ニ接シ、各區ハ之ヲ區民ニ告知シタリ、左ニ下谷區ノ公告ヲ擧ク

公告

御大禮ヲ行ハセラルタル大嘗宮紫宸殿及二條離宮内饗宴場等拜觀ヲ希望セラルル向ニ對シ、鐵道院ニ於テ京都へ往復ノ汽車賃金平常ノ二割引(但三等乘客ニ限リ)ヲ以テ往復乗車券ヲ發賣シ且通用期間モ普通往復乗車券ヨリ三日間ノ延長有之旨其筋ヨリ通牒有之候ニ付公告候也

但右ハ十二月一日ヨリ明年三月十日迄トシ鐵道院全線德島線ヲ除クニ互リ各驛ヨリ京都及二條驛ニ限ルモノトス

大正四年十二月二十四日

第九 御大禮觀兵式及特別

觀艦式

上御大禮觀兵式

一 觀兵式要領

軍令

朕大禮觀兵式要領ヲ制定シ之カ施行ヲ命ス

御名 御璽

大正四年十月四日

陸軍大臣 岡市之助

軍令第十三號

大禮觀兵式要領左ノ通定ム

大禮觀兵式要領

第一 大禮觀兵式ハ大正四年十二月二日(當日雨天等ナル東京青山練兵場ニ於テ之ヲ施行ス)

第二 大禮觀兵式ニ出場スヘキ軍隊左ノ如シ

一 大禮觀兵式諸兵指揮官及幕僚

二 近衛師團

三 第一師團

四 第一師管內ニ在ル陸軍諸學校ノ教導隊軍樂生徒隊

五 第二乃至第十八師團司令部同師團內ニ在ル各兵旅團

司令部 各兵種ヲ通シ師團 竝各兵聯(大)隊ノ代表隊(内地歩兵聯ニ在リテハ軍隊ヲ有ス)

第三 左ニ掲クル者ハ大禮觀兵式ニ參列陪觀ス

一 第一師管內ニ在ル陸軍官衙學校ニ在職ノ陸軍將校同

相當官同高等文官以下(教導隊ノ下士及陸軍諸學校ノ學生徒)

二 第一師管以外ニ在ル陸軍諸部隊(朝鮮、臺灣及ノ代表者)

三 大禮觀兵式當日東京ニ在ル陸軍將校同相當官以下(在

合者ヲ含ム)

第四 大禮觀兵式施行ノ當日東京ニ於テ禮砲式ヲ行フ

第五 服裝ハ隊伍ニ列スル者ハ軍裝トシ其ノ他ノ將校同

相當官准士官ハ正裝、文官ハ大禮服トス

附則

本令施行ニ關スル細則ハ陸軍大臣之ヲ定ム、

二 指揮官

大禮觀兵式諸兵指揮官被仰付

元帥陸軍大將大勳位功二級 貞愛 親王

大禮觀兵式諸兵參謀長被仰付 陸軍中將 田中 義一

(以上十一月四日內閣十一月四日參謀八名副官七人ノ任命有リ)

附記

大禮觀兵式委員

陸軍省 陸特第六四號

大禮觀兵式委員ニ關スル件通牒

大正四年十月八日 陸軍次官 大島 健一

東京市長 奥田 義人殿

來ル十二月舉行セラルヘキ大禮觀兵式ニ關スル業務ニ

從事スル爲今同大禮觀兵式委員長及同委員任命相成候

ニ付同委員事務所ノ位置及委員長以下主要委員ノ官氏

名及通牒候也

左記

大禮觀兵式委員事務所 陸軍省內

委員 大禮觀兵式委員長 陸軍中將 大島 健一

高級委員 陸軍少將 山田 隆一

接伴主任委員 陸軍少將 菅野 尚一

大禮觀兵 總務主任委員 陸軍騎兵大佐 森岡 守成

式委員 庶務主任委員 陸軍工兵大佐 井上 幾太郎

經理主任委員 陸軍一等主計正廣瀨 正徳

衛生主任委員 陸軍一等軍醫正山田 弘倫

(三八三)

三 觀兵式

イ 行幸仰出

大正四年十一月二十九日官報所掲宮廷錄事、左ノ如シ、

行幸仰出 來ル十二月二日大禮觀兵式ヲ行ハセラルルニ付午前八時三十分御出門青山練兵場へ行幸アラセラルル旨仰出サレタリ尤モ當日雨天ノ節ハ翌三日行幸アラセラ

ルヘキ御都合ナリ御道筋左ノ如シ
正門ヨリ祝田町四ツ角右へ新道ヲ經テ西日比谷町通衆議院議長官舎ニ沿ヒ右へ内幸町通左へ虎ノ門跡ヲ經テ右斜ニ葵町右へ溜池通電車線路ニ沿ヒ田町一丁目十一番地角左へ表町通ヲ過キ青山通青山御所ニ沿ヒ右へ左へ青山練兵場

還幸ノ節

青山練兵場東信濃町口ヨリ信濃町及左門町通忍町十五番地角右へ四谷通四谷見附橋ヲ渡リ麴町通半藏門前右へ堀端ニ沿ヒ櫻田門前ヲ過キ左へ新道ヲ經テ祝田町四ツ角左へ正門

ロ 式

天皇陛下ハ、御豫定ノ如ク、大正四年十二月二日午前八時三十分御出門、青山練兵場へ行幸、大禮觀兵式ヲ行ハセラレ、午後零時四十分還幸アラセラ

下 特別觀艦式

一 指揮官

特別觀艦式指揮官被仰付 海軍大將 男爵片岡 七郎

特別觀艦式參謀長被仰付 海軍少將 竹 下 勇

外ニ戰隊司令官五名、戰隊參謀三名、副官二名、戰隊參謀十名、分隊長九名各艦乗組十二名略
以上十一月二十日海軍省

二 觀艦式

大正四年十二月六日官報所載宮廷錄事、左ノ如シ、

行幸 天皇陛下ハ一昨四日午前七時四十五分御出門同八時東京停車場御發車同八時五十分舊橫濱停車場御著車軍艦筑波ニ乗御橫濱沖ニ於テ特別觀艦式ヲ行ハセラレ訖テ更ニ軍艦扶桑ニ乗御特別觀艦式ニ關與ノ海軍將校其他ニ午餐ヲ賜ハリ午後四時三十五分舊橫濱停車場御發車同五時二十五分東京停車場御著車同五時四十分還幸アラセラレタリ

東宮行啓 皇太子殿下ハ一昨四日午前七時十分東宮御所御出門同七時四十分東京停車場御發車橫濱港へ行啓觀艦式御覽午後一時五十分橫濱新港税關棧橋御發車同三時二十五分還御アラセラレタリ

第十 觀兵式及觀艦式施設

上 觀兵式施設

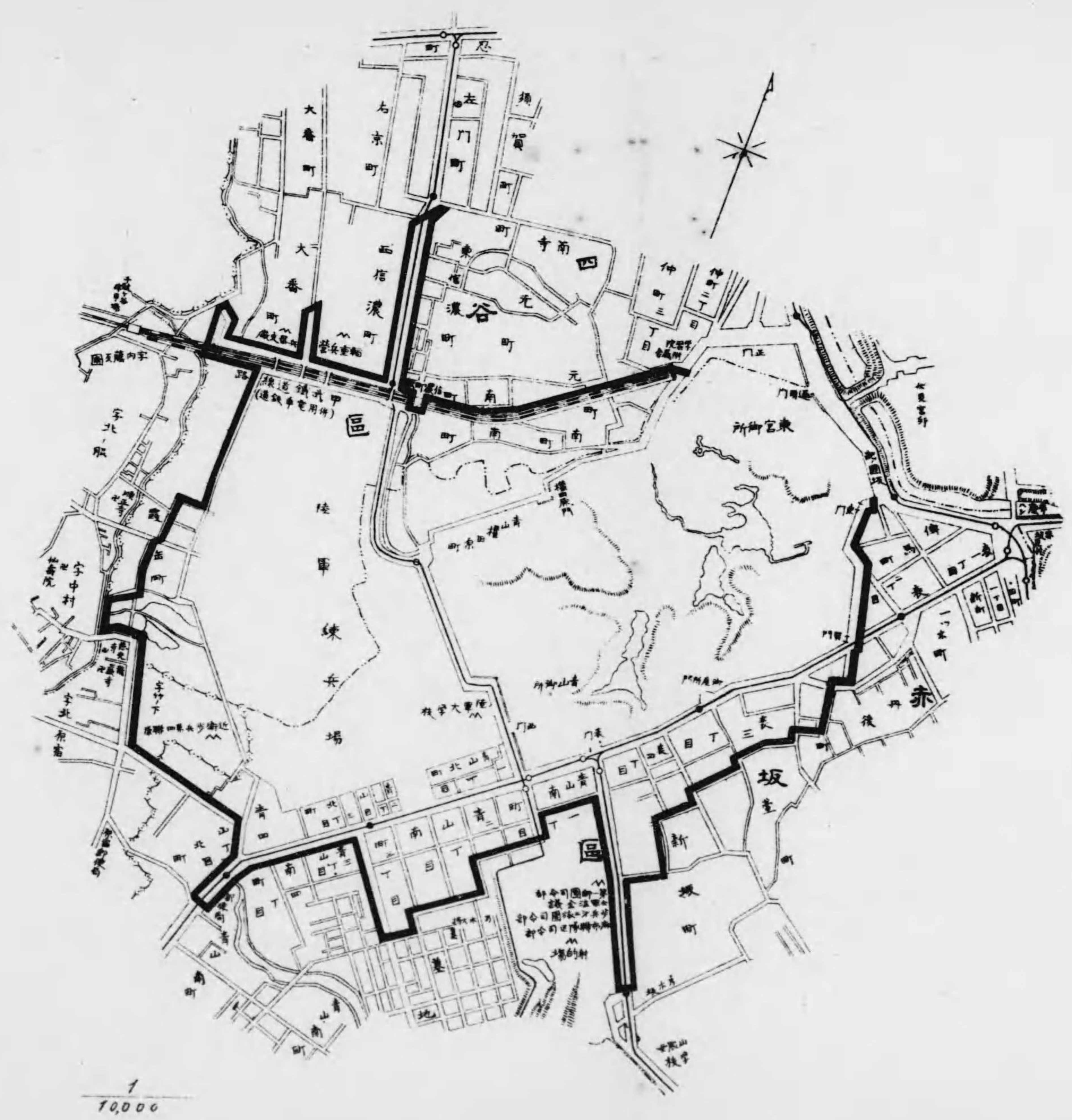


地角右へ四谷通四谷見附橋ヲ渡リ麴町通半藏門前右へ堀
端ニ沿ヒ櫻田門前ヲ過キ左へ新道ヲ經テ祝田町四ツ角左
へ正門

式

天皇陛下ハ、御豫定ノ如ク、大正四年十二月二日
午前八時三十分御出門、青山練兵場へ行幸、大禮
觀兵式ヲ行ハセラレ、午後零時四十分還幸アラ
セラル、

大禮觀兵式當日交通遮斷區域圖



午餐ヲ賜ハリ午後四時三十五分舊横濱停車場御發車同五
時二十五分東京停車場御著車同五時四十分還幸アラセラ
レタリ
東宮行啓 皇太子殿下ハ一昨四日午前七時十分東宮御所
御出門同七時四十分東京停車場御發車横濱港へ行啓觀艦
式御覽午後一時五十分横濱新港税關棧橋御發車同三時
二十五分還御アラセラレタリ

第十 觀兵式及觀艦式施設
上觀兵式施設



一 御道筋整理

御大禮觀兵式行幸御道筋ハ、麴町赤坂四谷各區衛生掛員及掃除監視吏員擔任シ、十二月一日即チ行幸前日ヨリ當日ニ涉リ整理ニ從事シ、撒水、掃除等ヲ施行シ、撒水ニハ苦鹽混和水ヲ使用シ、タリ、内麴町區ノ施設ヲ舉クレハ、左ノ如シ、

行幸御道筋新道ヨリ西日比谷町通り虎ノ門英橋ニ至ル道路並附近撒水及掃除ハ午前六時著手セシメ吏員六名人夫ヲ指揮監督セリ、還幸御道筋四谷見附橋ヨリ半藏門堀端通リ新道ニ至ル間並其附近ノ撒水並掃除ハ午前八時ヨリ著手吏員五名人夫ヲ督勵施行セリ

(參考) 行幸御道筋ニ關スル情願

來ル十二月二日青山練兵場ニ於テ御舉行可被爲在大禮觀兵式御當日ノ 行幸及 還幸ノ御道筋ニ就テハ目今御詮議中ノ御儀ト奉拜察候得共何卒右 還幸ノ御道筋ヲ左記ノ通り御治定被爲在ムコトハ麴町、四谷兩區民ノ最モ熱心ニ情願スル所ニ御座候 雲上ノ事固ヨリ之ヲ窺フ可カラサル所ニハ候得共聊カ兩區民意ノ存スル所御參考迄ニ開陳候閣下幸ニ微意ヲ諒トシ宜敷御諒察被成下候ハハ光榮ノ至ニ候此段得貴意候 敬具

大正四年十一月二日

東京市長法學博士 奥田 義人

宮内大臣 男爵波多野敬直殿閣下

左記

還幸御道筋

青山練兵場ヨリ信濃町停車場前ヲ經テ右へ忍町傳馬町通四谷見附橋ヲ經テ麴町通半藏門外右へ堀端通り櫻田門ヲ入り左へ堀端左へ宮城正門

二 奉迎裝飾

十二月二日ノ御大禮觀兵式行幸ヲ奉迎スル爲メ、麴町區ハ、御大禮ニ際シテ、四谷見附及半藏門ニ設ケタル奉祝裝飾ノ模様更新ヲ爲ス、

三 電車運轉變更

十二月二日青山練兵場ニ於テ舉行セラルル御大禮觀兵式當日、本市電氣局ハ、監督官廳ノ許可ヲ得テ、電車ノ運轉ヲ變更シ、一部ノ休止ヲ爲ス、即チ左ノ圖面ノ如シ、

附記

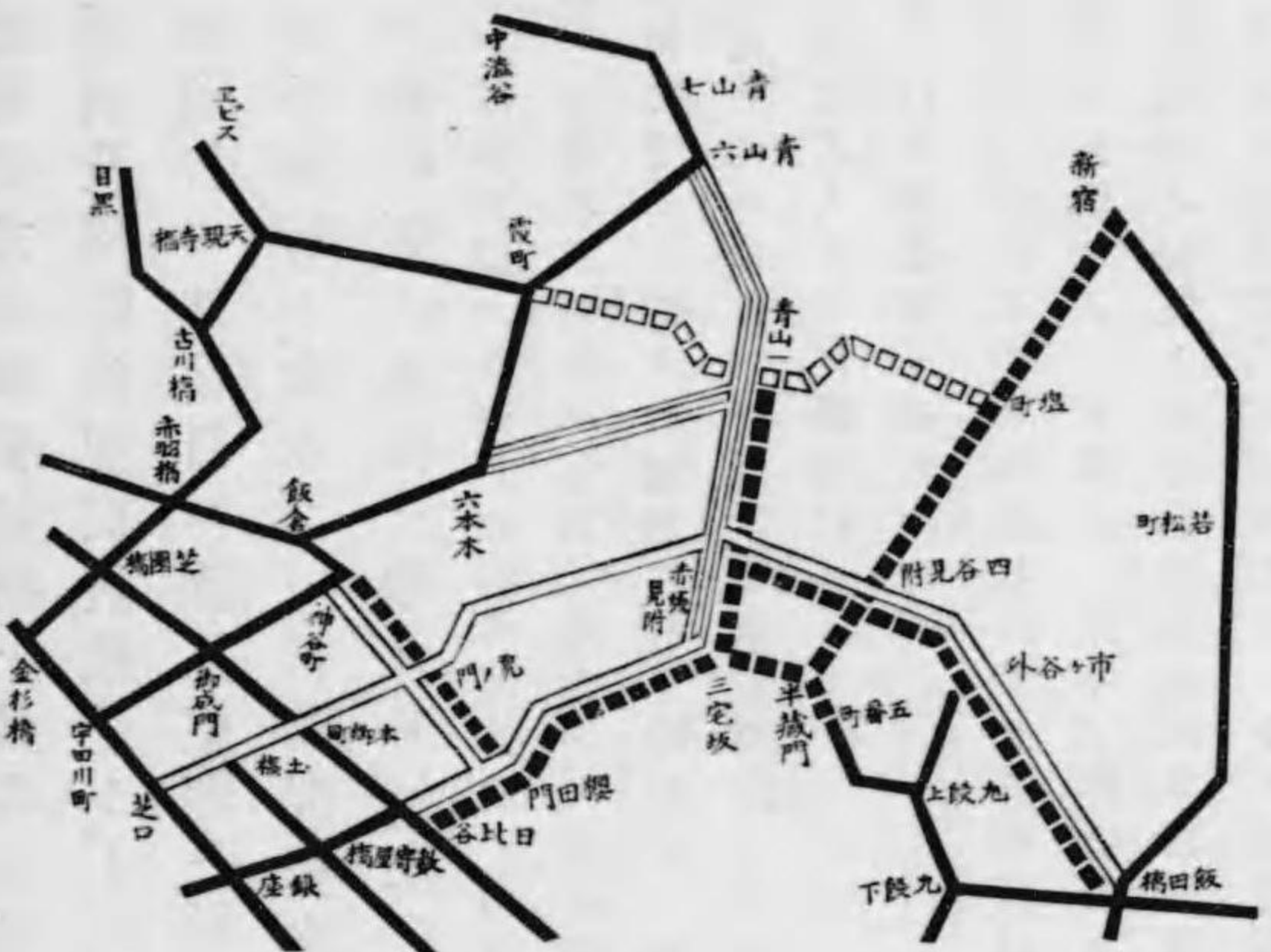
交通遮斷

警視廳告示第五十四號
大禮觀兵式當日ニ於ケル交通遮斷ニ關スル件左ノ通定ム
大正四年十一月廿七日 警視廳長 西久保弘道
大禮觀兵式當日ニ於ケル交通遮斷ニ關スル件
第一條 大禮觀兵式當日ハ別紙圖面黑線ノ地點ヲ交通遮斷線ト定ム、但シ交通ノ狀況ニ依リ之ヲ延長スルコトアルヘン
交通遮斷ハ交通ノ狀況ヲ斟酌シテ交通遮斷線配置ノ警察官吏之ヲ行フ
第二條 交通遮斷ヲ行ヒタル後ハ左ノ各號ニ掲ケル者ノ外變

大禮觀兵式當日午前四時三十分ヨリ運
轉開始

但左記ノ通り運轉休止ノコト

- 線ハ始業ヨリ午後零時半頃マテ
- 線ハ始業ヨリ午前九時頃マテ
- (但始業ヨリ午前六時マテ青山發)
- 九段築地方向ニ限リ運轉ス
- 線ハ午前七時半頃ヨリ九時頃マテ
- 線ハ午前十一時頃ヨリ十二時頃マテ



運轉休止區間ニ對シテハ乗換券發行セズ

駐劄軍、青島守備軍の各代表者に至るまで其總人數三萬八千九百十五人馬匹約五千砲百九十二門は東面して玉座に正對し奉り三線に軍容を整ふ是が正面九百米突深さ三百三十米突實に青山練兵場の四分の三を領し歩兵軍旗六十八旋騎兵軍旗二十五旋は其第一列の間隔毎に旗首を掲げて國軍の威容を飾れり

聖駕を迎ふ

如上の諸兵指揮官伏見宮貞愛親王殿下には參謀長田中(義)中將以下十七名の諸參謀副官を隨へさせ玉座の御傍に御整列あり山縣大山奥長谷川村の諸元帥寺內朝鮮總督淺田軍事參議官安東臺灣總督中村關東都督上原教育總監一戸軍事參議官大迫軍事參議官の諸大將以下神尾東京衛戍總督井口駐劄軍司令官大谷青島守備軍司令官等各將星も亦其左翼に踵を正して齊しく聖駕を迎へ奉る午前九時東宮殿下には陸軍歩兵中尉の御服裝にて菊花大綬章御佩用式場に行啓あり斯くて午前九時十五分天皇旗を先立て、鹵簿の先頭陸軍大學校の横より式場に入るや三軍乃ち捧刀捧銃し軍旗悉く旗竿を傾け代々木練兵場に百一發の皇禮砲轟き軍樂と喇叭と君が代一回を吹奏して最敬禮を行ひ麻布第三聯隊の營庭に繫留せる風式氣球は紅球一個を繫けて大元帥陛下式場著御を報す

各隊の御親閱

陛下御正裝は功一級金鷄勳章の大綬を帶びさせ給ひ内山侍從武官長を隨へさせ玉座に著かせ給ふや御少憩の

(三八六)

- 通達斷線内ニ立入ルコトヲ得ス
- 一 式場參列者
- 一 入場證ヲ有スル者
- 一 陪觀許可證ヲ有スル者
- 一 其ノ他警察官吏ニ於テ交通通達斷線内ニ立入ルノ必要アリト認メタル者
- 第三條 式場ニ參集スルモノハ便宜ノ交通通達斷線ヲ通過シ各指定ノ式場入口ヨリ參入スルヲ要ス
- 但シ交通通達斷線通過ニ關シテハ警察官吏ニ於テ他道ヲ指定スル事アルヘシ

四 救護所設置

十二月二日御大禮觀兵式拜觀ノ爲メ、四谷區ハ同區醫師會ニ委囑シ、救護所ヲ設置ス、

五 奉迎

十二月二日御大禮觀兵式當日、麴町區市立小學校兒童三千名、日本中學校前ヨリ陸軍省前ニ至ル濠端ニ整列シテ、觀兵式場行幸ヲ奉迎ス、同區名譽職員及區吏員一同ハ、區役所前ニ於テ奉拜ス、

(參考)

大禮觀兵式御模様

今上陛下曠古の大典を畢らせ給ひ猶親しく陛下の陸軍を閲し給ふ十二月二日午前八時三十分御親閱に供しまつるべき帝國陸軍の精銳は國軍の首位たる近衛師團より基隆澎湖島永興灣鎮海灣旅順等諸要塞朝鮮支那派遣後更に御乘馬にて御閱兵の式を行はせらる御後に伏見閑院久連北白川朝香東久邇の各宮殿下を始めまつり内山侍從武官各皇族附武官各元帥軍事參議官何れも正裝にて四列縱隊を作りて扈從し之に拘欄たる各外國武官隨從しつゝ、最右翼なる戸山近衛兩軍樂隊の前より歩兵學校近衛師團第一師團各師團代表部隊の第一線の直前を北に過させ給ひ次いで各野砲兵重砲兵鐵道聯隊電信隊等の第二線を南に更に騎兵輜重兵の第三線を北に順次に靴躰を聞させ給へば通御あらせらるるに從ひ軍樂と喇叭と君が代を吹奏し銃劍齊頭に林立し軍旗齊しく垂れ第三線の御閱兵終りて復び玉座前に著御あり御馬を停めさせて茲に分列敬禮式を受けさせらる

分列敬禮の式

軍樂隊先づ進みつゝ玉座に正對停止し行進分列の譜を奏するに從ひ近衛師團第一師團歩兵部隊過ぎ次いで一個師團つゝ各代表歩兵部隊は一團となりて逐次に到り何れも敬禮點に近づくや四旋の軍旗は地に近く旗竿を俯して御前を過ぐ先頭なるは古色蒼然として纒に綠のみを残し後なるは概ね未だ新しくして旭日紅を見るべく茲に國運進展の象徴を現し陛下には軍旗に對して常に舉手の御答禮を與へ給ふ

空中の最敬禮

恰も午前十一時騎兵代表部隊の一團が第二十旅團の軍旗を捧げて御前を過つゝある際バ式航空船は場の西北隅に現れ徐ろに方向を變換すること左に二回約三百

(三八七)

米突の高度を保ち敬禮點と齊頭面に到るや國旗を船尾に掲げ本邦未曾有の空中分列式の新記録を造れば續いて飛行機五機の單縱陣二隊は南より北へ速度最も順調に約二百米突の低空を掠めつゝ敬禮點に至る毎に各機順次に國旗を機首に掲げて空中最敬禮を表し奉る地には機軸として砲車の分列行進轟き騎兵輜重兵の馬蹄を揃へて之に續く何れも御前の敬禮點に頭一右の最敬禮を奉り其の全縱長約二里に亙る斯くて十一時二十分分列の式終る。

勅語を賜ふ

茲に於て陛下御下馬あり玉座に就かせられ御前に九歩を距て、伏見宮殿下其の右前三歩に陸相代理長谷川元帥立ち殿下の御後三歩に秋山近衛師團長より柴第十八師團長に至るまで各師團長一列に徒歩にて整列し玉座の右横近く山縣大山奥川村の四元帥寺内朝鮮總督上原教育總監各軍事參議官中村都督安東總督及び朝鮮青島の二軍司令官侍立し氣を附けの號音と共に各隊不動の姿勢を取り陛下玉座を出御せらるゝや一聲の號音と共に軍樂と喇叭と君が代一回吹奏し各隊捧刀捧銃の禮を奉り軍旗茲に四度旗竿を垂る陛下玉音朗々勅し畢らせ給ひ伏見宮殿下拜受あらせ給ふや二聲の號音と共に各隊は敬禮し畢り各師團長亦舊位置に復す

勅語

朕即位ノ大禮ヲ訖リ茲ニ親シク觀兵ノ式

て整列し以て時の至るを待つ天皇陛下には正午十二時卅分觀兵式より還御まし、御晝餐後暫く御休憩ありて午後三時三十分大元帥の御正裝を召させ給ひ伏見總裁宮殿下内山侍從武官長以下の扈從にて御車寄に出で給ふ空前の光榮を擔へる一萬一千の在郷軍人等凜然として麗しき龍姿を拜し奉り其威に打たれ能く首を擡げ得る者として一人もある事なし旋て陛下には御車寄近くに設らへられし玉座に就かせ給ひ左方には加藤海相波多野宮相安東臺灣總督及各師團長朝鮮駐劄司令官各鎮守府長官等著床し右方には伏見總裁宮殿下を始め同會の本部會元老たる山縣大山奥東郷井上各元帥及同會副會長福島大將山田海軍中將等四十四名胸間の勳章を燦めかして著席せり天皇陛下には伏見總裁宮殿下御先導各元帥大臣等扈從申上げ在郷軍人等の整列せる前を玉歩輕やかに歩ませ給ふ此の間旗を待てる者は前に高く捧げ旗なき者は擧手の禮を爲せり斯くて是等在郷軍人を親しく櫛はせ給へば紅葉山を掠め禁裡を吹き來る風颯然として陛下の御帽に翳し給へる前立を靡かせ五千の在郷軍人旗翻翻として打ち翻り禁苑に繁る松の緑の楓の葉と相交り之に秋の西日の相映發して其美しさ云はん方なく長くも天皇陛下に於かせられては龍顏最と清々しく拜せられしが此時總裁宮殿下を麾がれて優詔を賜ふ即ち如左

勅語

朕親シク帝國在郷軍人會會員ヲ閱シ其ノ

(三八八)

ヲ行ヒ帝國陸軍ノ綱紀張り威容整ヘルヲ視テ深ク之ヲ喜ミス汝將卒益々奮勵シ以テ報效ヲ期セヨ

陛下還幸

御親閱滞なく終らせられ陛下は玉座より鳳車に入御あり恰も正午兩儀肅々と式場を出でさせ給へば各團體奉送の最敬禮を奉り軍旗五度地に垂る次で皇太子殿下各宮殿下還啓あらせられ各團體解散の號音と共に大正の大御代に記念すべき御大禮觀兵式全く終了を告ぐ

在郷軍人御親閱

昨日大觀兵式後天皇陛下には我在郷軍人に對し御親閱の榮を賜ひの御大典觀兵式參列の爲め帝國各師團所屬在郷軍人の上京せる者同軍人會分會長約六千名旗手四千餘名總計一萬一千二百餘名なるが是等の在郷軍人は青山觀兵式場より二個に分列して各縱隊を作り一隊は權田原より青山練兵場前を経て櫻田門より宮城に出で他の一隊は青山通より霞ヶ關凱旋道路を経て宮城前に出で茲に兩隊相合したるは午後正一時なり茲に兩隊は一團となり二重橋より坂下門に至る大道路に勢揃ひを爲し數千の在郷軍人旗は林の如く立ち松の綠濃やかなる宮城前の廣場に時ならぬ美觀を呈し見物人の山を築けり此處に待つこと約二時間指揮官長坂大佐聲高らかに號令一下するや再び縱隊を作り坂下門より隊伍整然足並正しく東御車寄前を過り左折して肅々として御車寄前に到り芝地たると道路たるとを問はず北面し

健在ヲ憚フ汝等益々奮勵克ク其ノ本分ヲ盡シ以テ朕力倚信ニ副ハンコトヲ期セヨ

同宮殿下には鞠躬如として之を拜受し終りて一旦自席に戻り再び數歩前に進み出で給ひ最も謹嚴なる御態度もて玉音朗々に奉答文を御朗讀遊ばされぬ

奉答

陛下茲に帝國在郷軍人會會員を親閱あらせられ特に優渥なる勅語を賜ふ眞愛等感激の至りに堪へず益々奮勵努力以て聖旨に副ひ奉らんことを期す眞愛帝國在郷軍人會會員一同を代表して謹みて奉答す

陛下には御機嫌殊の外美はしく入御あり夫より總裁宮殿下には更に當日特に賜はりたる勅語を奉讀し給ひ一同退下したるは四時過にして坂下門外の廣場に於て全く解散したるは太陽既に振天府の邊りに没し靄然たる暮色將に内裡を襲はんとする頃なりき

(天正四年十二月三日東京朝日新聞)

下觀艦式施設

十二月四日特別觀艦式當日、行幸御道筋ヲ整理ス、麴町區掃除監督吏員主トシテ事ニ當リタリ、施設事項ハ、觀兵式當日ニ同シ、

(參考) 特別觀艦式御模様

御即位大禮に伴ふ特別大觀艦式は十二月四日早且を以て、

(三八九)

滞り無く行はせられぬ此の日碧空拭ふが如く風あれど高浪を捲くに到らず洵に好艦觀日和なり御國の鎮護百二十五隻の海城は朝八時より所定の位置に滿艦飾を施し大元帥陛下の御到着を待ち奉れり

御發車

此の朝陛下には海軍大元帥の御正装に大勳位功一級以下數多の勳章を御佩用内山侍從武官長御陪乘第一公式函簿にて供奉員數多を隨へられ七時五十分宮城御出門東京驛に向はせらる東京驛に至る御順路兩側には上京中なる在郷軍人府立第一中學校生徒等整列して御通過を待ち奉る之より先七時二十分伏見大宮閑院宮及び各殿下には妃殿下御同列にて皇族臨時列車にて御先發引き續き七時三十分皇太子殿下には入江侍從長御陪乘濱尾大夫以下供奉淳宮高松官兩皇子殿下を御同伴同四十分御先發あらせられたり陛下御著驛あらせらるゝや添田鐵道院總裁御先導申し上げ歩廊に進ませらるゝと共に高橋驛長恭しく御召車の扉を排し奉る陛下には直ちに乘御東伏見宮伏見若宮殿下波多野宮相鷹司侍從長關野武官以下供奉加藤海相一木内相添田總裁有吉神奈川縣知事田中港務部長陪從午前八時五分御機嫌麗しく御發車あらせらる

御乘艦

櫻木町停車場には松本大尉指揮の下に海軍儀仗兵一大隊及び第一師團儀仗兵一小隊又西波止場には松井大尉指揮の下に海軍儀仗兵一大隊陸軍儀仗一小隊整列し待つ間程なく午前八時五十分と云ふにお召列車到着あり加藤海相

に金剛榛名の巨艦之に並び第三列は驅逐艦列にて海風を首位に山風浦風居並び此の北二列は驅逐艦及び水雷艇列にて潛航艇六隻を含む此の列中に在る艦艇總數百十七隻之に御召艦及び供奉艦四隻と第一列の背面に列せる特務船を併せ實に百二十五隻更に米國亞細亞艦隊司令長官坐乗の旗艦サラトガ來りて列するあり威容實に堂々たり十時二十分先導艦矢矧扶桑比叡の前面に進み來る御召艦之に續けり須ち扶桑乗員に萬歳の聲起ること三度斯くて御召艦の進行に従ひ各艦上君が代の吹奏に和して起る萬歳の聲は乾坤に響き互る莊嚴の極みなり御召艦は第二列の最終の最上を過ぎて左に廻轉し二列三列の間に入り十一時三十五分艦列を出で第二列先登艦比叡に對して半哩の西に投錨したるが此頃より強き西北の風吹き出でて波浪漸く高し

勅語

御親閱全く了る陛下には第一艦隊司令長官吉松中將第二艦隊司令長官名和中將第三艦隊司令長官財部中將第四艦隊司令官柄内中將外各戰隊司令官及幕僚各艦長司令運送船工作船指揮官御召艦に在りし海軍將官及び相當官英國大使館附武官海軍大佐ライマー氏米國大使館附海軍大佐ホーン氏外本邦駐劄外國大使館附海軍武官十數名參列の米國亞細亞艦隊司令長官ウインターホルター大將及び幕僚サラトガ艦長モーゼス大佐並びに御召艦供奉以外の艦船に在りし勅任官を筑波に召されて謁を賜ひ勅語を賜ふ加藤海相謹んで之を拜授し奉る

藤井横須賀鎮守府司令長官島村軍令部長吉松第一艦隊司令長官等の奉迎を受けさせられ海軍樂隊の吹奏する君が代奏樂中に御馬車に召され肅々として順路西波止場に御著あり時に正九時御下車玉歩を棧橋へと運ばせらるれば此處に此日の指揮官たる片岡大將は幕僚を從へて奉迎し大將の御案内にて陛下には御召艦筑波の艦載小蒸汽に召させらる斯くて徐々進航を始むればお召艦筑波先づ皇禮砲の第一發を放ち之に倣ふて港外艦列百餘隻の大小艦艇よりも皇禮砲を發射したるがお召艦の筑波に近寄るや同艦にては登舷禮を行ひ奉賀を三唱し九時十三分御召艦お召艦に横付けとなり艦長の御先導にて舷梯に玉歩を移させ給ふ間も無く天皇旗はするゝと後橋頭高く掲揚されぬ

御親閱

午前十時御召艦筑波は矢矧を先導とし皇太子旗橋頭に眩き常磐及び滿洲に續きて徐々港外に向つて進む陛下には筑波艦橋の玉座に片岡指揮官を侍らせ御前には艦列を示せる圖と雙眼鏡を置かせられ英委颯爽只管前面に展開せる式場に御目を注がせらる御召艦拔錨式場に向つて進行を初むるや扶桑に先づ皇禮砲の第一發起り引き續き參列の戰艦巡洋戰艦より一齊に皇禮砲發射され其の音轟々と響き渡つて勇壯極りなし式場の西端は防波堤の沖一哩の地點に始まり幅約一哩半にて東五哩半の延長をなせる長方形の一劃なり南に西東に長き第一列は扶桑に始まり利根に終り十二隻第二列は此の北に横たはりて比叡を先登

勅語

朕即位ノ大禮ヲ訖リ茲ニ親シク觀艦ノ式ヲ行ヒ帝國海軍ノ進歩顯著ナルヲ視テ深ク之ヲ嘉ス今ヤ列國海軍ノ趨勢ハ汝等將卒ノ努力ニ俟ツモノ尠カラス汝等益々奮勵セヨ

御賜餐

午後零時五十分陛下には筑波より扶桑に成らせられ直に扶桑後甲板の玉座に就かせ給ふ玉座は艦側の欄及び柱を紅白の布にて捲き天井はカンバス天幕の内裏に金帛を張りていと清楚なる設備なり陛下は其處に各皇族殿下大勳位親任官を召されて午餐を賜ふ別に比叡には東伏見宮依仁親王殿下金剛には伏見若宮博恭王殿下を派せられて特別觀艦式に關與せる高等官及び陪觀の榮を得たる代議士各省局長新聞社長に餐を賜へり此日召されたる者の總數二萬五千名海軍々樂隊の賜餐艦にて吹奏する妙なる樂は賑やかに海面を渡り今日の盛儀を祝げるものゝ如し

還幸

陛下には三時五十分還幸あらせらる可き御豫定なりしが軍艦扶桑に御移乗の頃より風波益々高く御召艦筑波に御歸還困難となりしより扶桑に御乘艦の儘港内第一區十號浮標に投錨し四時御上陸遊ばされ四時二十五分櫻木町驛御發五時十五分東京驛に御著諸員の奉迎裡に宮城に還御遊ばされたり

(大正四年十二月五日時事新報)

附記

第一 親王御降誕奉賀

一 親王御降誕

大正四年十二月二日官報號外左ノ如シ

告示

宮内省告示第三十號

十二月二日午後七時三十五分皇后陛下御分曉皇男子誕生アラセラル

大正四年十二月二日

宮内大臣男爵 波多野敬直

宮廷録事

御産 皇后陛下ハ御安産ニテ御母子共御健全ニ涉ラセラル

二 奉賀

イ 市參事會賀表協議

十二月三日午後一時市參事會開議出席者九名

市長奥田義人、助役宮川鐵次郎、議員坪谷善四郎、同野々山幸吉、同辰澤延次郎、同新波厚、同松崎權四郎、同江間俊一、同原田種徳

市會議

案賀表捧呈ノ件ニ同意シ、午後二時三十分閉會ス、

ロ 市會賀表決議

十二月六日午前十時四十分開會ノ東京市會ニ於テ、議長中野武營ハ、開會ヲ宣スルヤ、直ニ議事日程第一第百十三號ヲ議題ニ附ス、

(八田書記長朗讀)

第百十三號

賀表捧呈ノ件

皇后陛下御分曉 親王御誕生アラセラルタルニ付賀表ヲ捧呈スルモノトス

市參事會審査意見

大正四年十二月三日市參事會ハ本議案ヲ相當ナリト認メ同意セリ

大正四年十二月三日提出

東京市長法學博士 奥田 義人

市長提出ノ理由ヲ説明シテ云フ、去ル二日 皇后陛下御分曉在ラセラルレ、親王殿下御降誕在ラセラル、臣民ノ等シク慶賀シ奉ル所也、殊ニ今回ノ御分曉ハ、皇后陛下ト爲ラセラレ御始メテノ御分曉ニシテ、恐レナカラ我邦歴史上稀ニ見ル所ノ御慶事ト拜承ス、而シテ御當日十二月二日ハ、未曾有ノ盛典タル大禮觀兵式ヲ青山練兵場ニ行ハセラルタル日ニ當リ、此日ニ於テ 親王殿下ノ御降誕遊ハサルコト、皇室ノ愈々繁榮シ、皇威益發揚スル前兆ト申ス可ク、慶賀ニ慶賀ヲ重ヌル次第也、予ハ此ノ場合ニ於テ市會ノ議ヲ經、市民ニ代テ賀辭ヲ奉ルノ適當ナルヲ認メ、茲ニ本案ヲ提出ス、全會一致ヲ以テ御協賛アランコト切望ニ堪ヘサル所也、議長贊否ヲ起立ニ問フ、滿場起立之ヲ贊ス、第二第三讀會ハ、之ヲ省略シ、大拍手ノ中ニ之ヲ可決ス、

ハ 捧呈

大正四年十二月六日提案判決

大正五年三月二十三日

宮内大臣男爵 波多野敬直

(大正五年三月二十三日官報)

行幸行啓御發著割並市内御道筋 來ル四月一日東京御發 兼奈良縣下へ行幸本月二十九日東京御發與三重奈良兩縣 下京都府下へ行啓御發著割並ニ東京市内御道筋左ノ如シ (中略)

行啓御發著割

三月二十九日

午前八時三十五分

御發與

同 八時五十分

東京停車場御發車

午後五時五十分

名古屋停車場御著車

御泊所

名古屋離宮

同 三十日

午前十時四十分

名古屋離宮御發與

同 十一時

名古屋停車場御發車

午後二時五十分

山田停車場御著車

御泊所

神宮司廳

同 三十一日

午前九時

宇治山田御泊所御發與

豐受大神宮御參拜

午後一時四十分宇治山田御泊所

御發與

皇大神宮御參拜

四月一日

午前八時二十分

宇治山田御泊所御發與

同 九時

山田停車場御發車

(三九三)

賀表捧呈ノ件

皇后陛下御分曉 親王御誕生アラセラルタルニ付賀表

捧呈ノ件別紙議案市會ニ於テ決議セシニ依リ捧呈ノ手

續ヲ爲スモノトス

但賀表ハ別紙ノ通リトス

「別紙」

謹奉賀

親王殿下御誕生

右御執奏被成下度候也

大正四年十二月六日

東京市長正三位勳一等法學博士 奥田 義人

宮内大臣男爵 波多野敬直殿

(議案略ス)

是ニ於テ奥田市長ハ、中野議長ト共ニ即日參内シテ賀表ヲ捧呈ス、

第二 皇后陛下行啓

一行啓仰出

大正五年、天皇陛下ノ奈良縣行幸ニ前後シテ、皇后陛下ハ、三重奈良兩縣下並ニ京都府下へ行啓アラセラル、

宮内省告示第三號

天皇陛下來ル四月一日東京御發兼奈良縣下へ行幸皇后陛下來ル三月二十九日東京御發與三重奈良兩縣下並京都府下へ行啓アラセラルヘキ旨仰出サル

午後一時四十分 奈良停車場御著車

御泊所 奈良俱樂部

同 二日

奈良御滞在

同 三日

午前八時二十五分 奈良行在所御發輿

同 八時四十五分 奈良停車場御發車

同 九時三十四分 畝傍停車場御著車

神武天皇山陵御參拜

午前十一時十分 畝傍停車場御發車

同 十一時五十八分 奈良停車場御著車

奈良行在所還御

同 四日

奈良御滞在

同 五日

午後一時十分 奈良御泊所御發輿

同 一時三十分 奈良停車場御發車

同 二時五十二分 京都停車場御著車

御泊所 京都皇宮

同 六日

京都御滞在

同 七日

京都御滞在

同 八日

京都御滞在

(三九四)

同 九日

午前七時五十分 京都皇宮御發輿

同 八時二十分 京都停車場御發車

正午十二時 名古屋停車場御著車

御泊所 名古屋離宮

同 十日

午前七時四十分 名古屋離宮御發輿

同 八時 名古屋停車場御發車

午後五時 東京停車場御著車

還御

東京市内御道筋

(中略)

行啓

坂下門ヨリ右へ堀端ニ沿ヒ左へ馬場先門跡ヲ出テ左へ堀端通右へ東京停車場

(大正五年三月二十三日官報)

二三重縣下行啓

皇后陛下ハ、御豫定ノ如ク、大正五年三月二十九日午前八時三十分宮城御發輿アラセラレ、同八時五十分東京停車場御發車、午後五時五十分名古屋停車場御著車、同六時名古屋離宮へ御安著アラセラル、三十日午前十時四十分名古屋離宮御出門、同十一時名古屋停車場御發車、午後二時五十分山田停車場御著車、同三時三十分神宮司

廳へ御安著アラセラル、三月二十九日市長ハ東京停車場ニ於テ 行啓ヲ奉送ス、

(大正五年三月三十一日官報ニ據ル)

三神宮御參拜

皇后陛下ハ、御豫定ノ如ク、三月三十一日午前九時宇治山田御泊所御發輿、豐受大神宮御參拜、同十一時還御、午後一時四十分御發輿、皇大神宮御參拜、同三時十分還御アラセラル、

(大正五年四月一日官報ニ據ル)

四奈良縣下行啓

皇后陛下ハ、御豫定ノ如ク、四月一日午前八時二十分宇治山田御泊所御發輿、同九時山田停車場御發車、午後一時四十分奈良停車場御著車、同二時奈良俱樂部ニ御安著アラセラル、

(大正五年四月四日官報ニ據ル)

五春日神社御參拜

皇后陛下ハ、四月二日午前九時奈良御泊所御出門、官幣大社春日神社御參拜、續テ東大寺及興福寺へ御立寄、同十一時二十五分還御アラセラル、

(大正五年四月四日官報ニ據ル)

六神武天皇山陵御參拜

(三九五)

皇后陛下ハ、御豫定ノ如ク、四月三日午前八時二十五分奈良行在所御出門、同八時四十五分奈良停車場御發車、同九時三十分畝傍停車場御著車、神武天皇山陵御參拜、續テ官幣大社榎原神宮御參拜、同十一時十分畝傍停車場御發車、同十一時五十八分奈良停車場御著車、午後零時二十五分還御アラセラル、

(大正五年四月五日官報ニ據ル)

七正倉院及博物館行幸啓

天皇 皇后兩陛下ハ、四月四日午前十時奈良行在所御出門、正倉院及奈良帝室博物館へ臨御、午後零時五分還御アラセラル、

(大正五年四月五日官報ニ據ル)

八行啓竝ニ御遊覽

皇后陛下ハ、四月四日午後二時三十分奈良御泊所御出門、奈良女子高等師範學校へ行啓、同五時三十分還御、五日午前八時四十分奈良御泊所御出門、若草山附近へ行啓、同所御遊覽、同十時四十分還御アラセラル、

(大正五年四月六日官報ニ據ル)

九京都行啓

皇后陛下ハ、御豫定ノ如ク、四月五日午後一時十分奈良御泊所御出門、同一時三十分奈良停車場

(三九五)

御發車、同二時五十二分京都停車場御著車、同三時二十分京都皇宮へ御安著アラセラル、

(天正五年四月六日官報ニ據ル)

- 一〇伏見桃山陵、伏見桃山東陵、後月輪東山陵、後月輪東北陵、仁孝天皇山陵、光格天皇山陵御參拜

皇后陛下ハ、四月六日午前九時京都皇宮御出門、伏見桃山陵、伏見桃山東陵、後月輪東山陵、後月輪東北陵、仁孝天皇山陵、光格天皇山陵御參拜、其後東福寺ニ御立寄アラセラレ、午後五時二十分還御アラセラル、

(天正五年四月七日官報ニ據ル)

- 一一行啓竝ニ御遊覽

皇后陛下ハ、四月七日午前八時京都皇宮御出門、官幣大社賀茂御祖神社、同賀茂別雷神社御參拜、續テ嵐山御遊覽、桂離宮へ御立寄、午後六時三十分還御アラセラル、八日午前八時三十分京都皇宮御出門、官幣大社男山八幡宮御參拜、續テ二條離宮へ御立寄、午後六時二十分還御アラセラル、

(天正五年四月十日官報ニ據ル)

- 一二名古屋還啓

皇后陛下ハ、御豫定ノ如ク、四月九日午前七時五十分京都皇宮御出門、同八時二十分京都停車場御發車、正午十二時名古屋停車場御著車、午後零時二十分名古屋離宮へ御安著アラセラル、

(天正五年四月十日官報ニ據ル)

- 一三熱田神宮御參拜

皇后陛下ハ、四月九日午後三時名古屋離宮御出門、官幣大社熱田神宮御參拜、同四時四十分還御アラセラル、

(天正五年四月十一日官報ニ據ル)

- 一四東京還啓

皇后陛下ハ、御豫定ノ如ク、四月十日午前七時四十分名古屋離宮御出門、同八時名古屋停車場御發車、午後五時東京停車場御著車、同五時十五分宮城ニ還御アラセラル、此日市長奉迎ス、

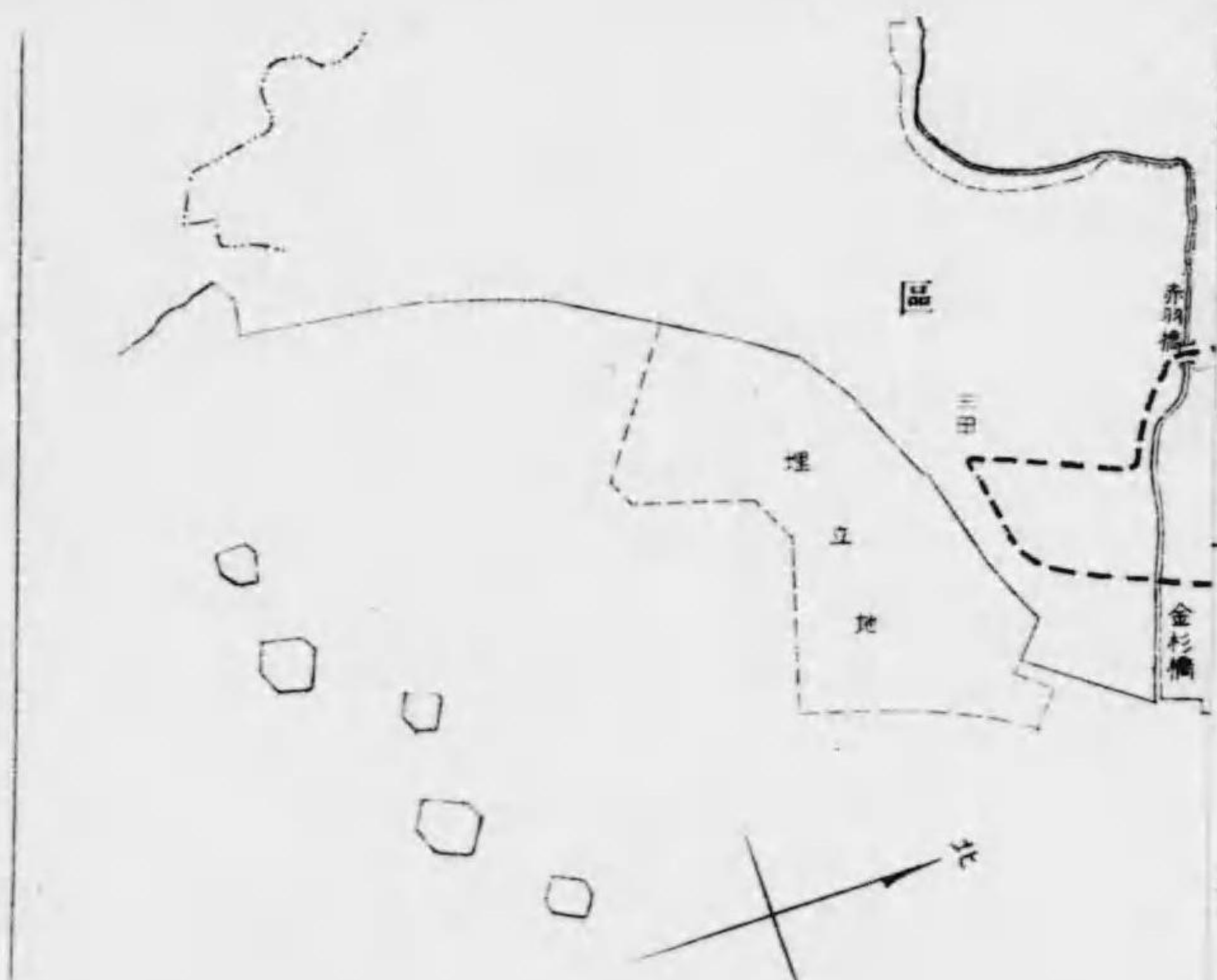
(天正五年四月十一日官報ニ據ル)

第一一 御大禮奉祝會

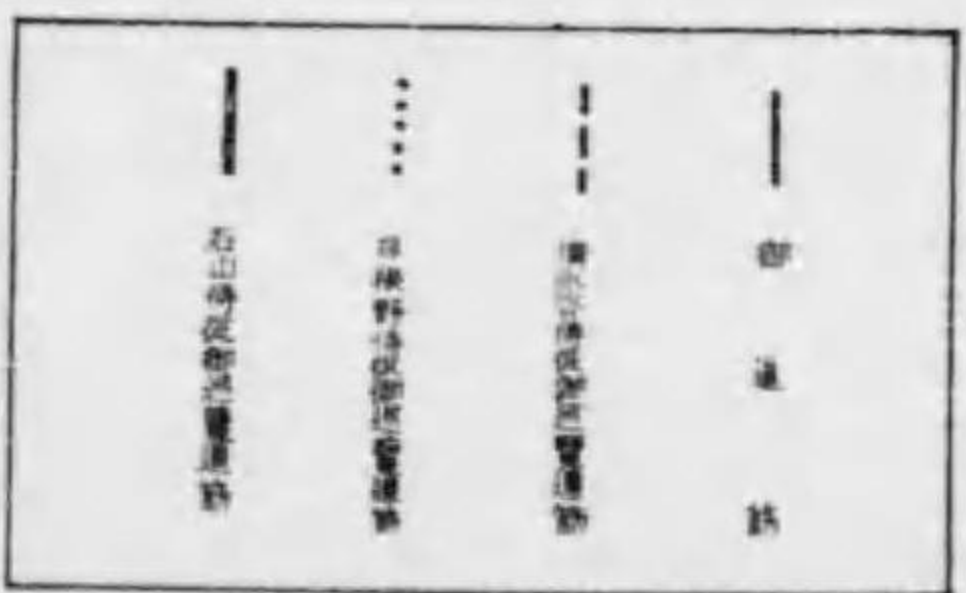
- 一奉迎準備

十二月九日御大禮東京市奉祝會ヲ上野公園ニ開ク、是日快晴、天地喜色有リ、午前七時三十分關係各員悉ク部署ニ就ク、便殿ハ、前日中諸般ノ設

會行幸御道筋
並勅使御巡覽線路



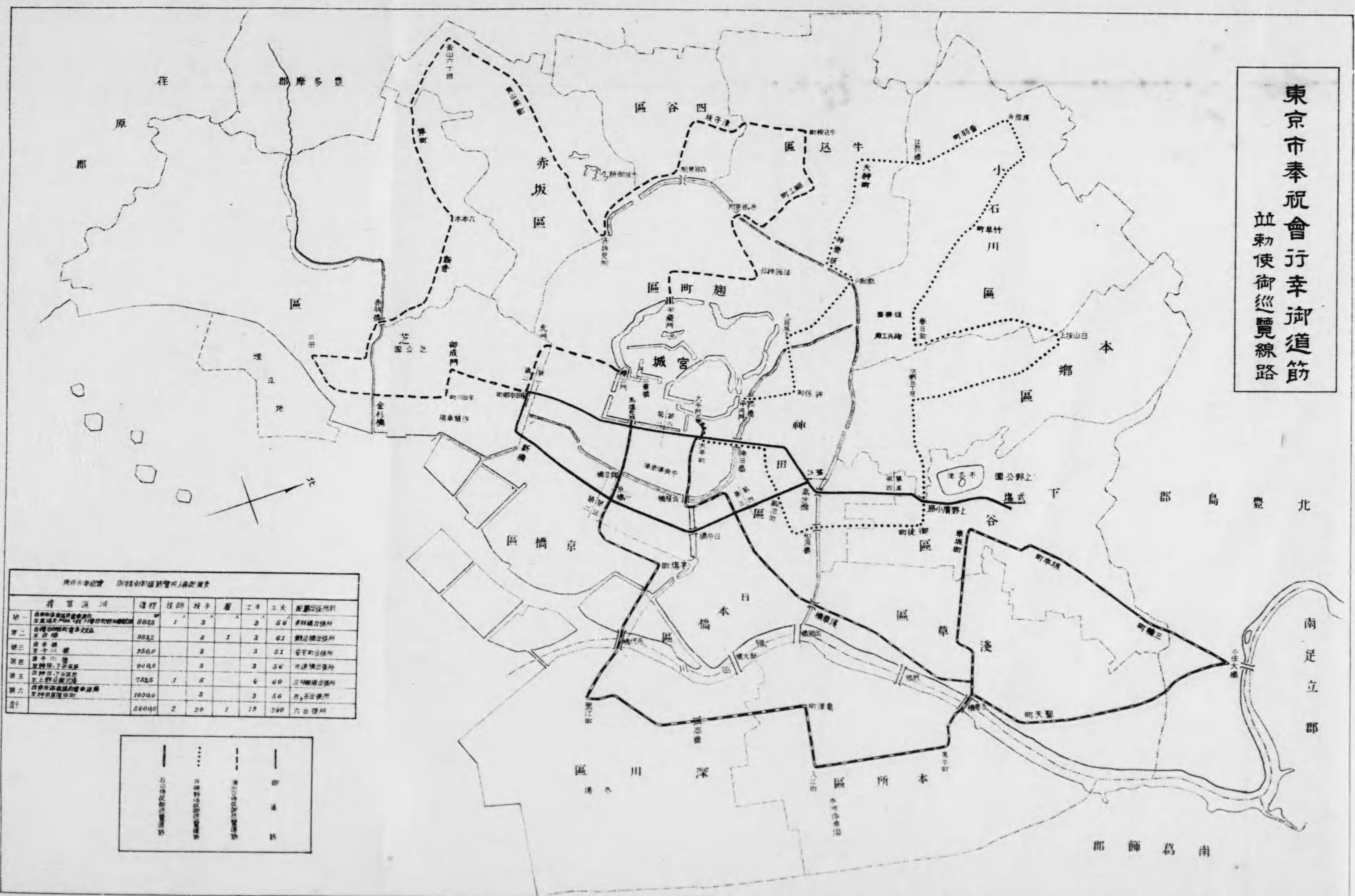
項目	人員	馬	牛	工	夫	費用	備考
第一	1	3	3	3	56	奉迎準備所	
第二	3	1	3	3	61	觀音寺御所	
第三	3	3	3	3	51	安樂寺御所	
第四	3	3	3	3	56	水邊橋御所	
第五	1	5	4	6	60	三輪橋御所	
第六	3	3	3	3	56	赤松御所	
合計	2	20	1	19	240	六御所	



東京市奉祝會行幸御道筋
並勅使御巡覽線路

分選御アラセラル、八日午前八時三十分京都皇宮御出門、官幣大社男山八幡宮御參拜、續テ二條離宮へ御立寄、午後六時二十分還御アラセラル、
(天正五年四月十日官報ニ據ル)
 一二名古屋還啓

第一 御大禮奉祝會
 一奉迎準備
 十二月九日御大禮東京市奉祝會ヲ上野公園ニ開ク、是日快晴、天地喜色有リ、午前七時三十分關係各員悉ク部署ニ就ク、便殿ハ、前日中諸般ノ設

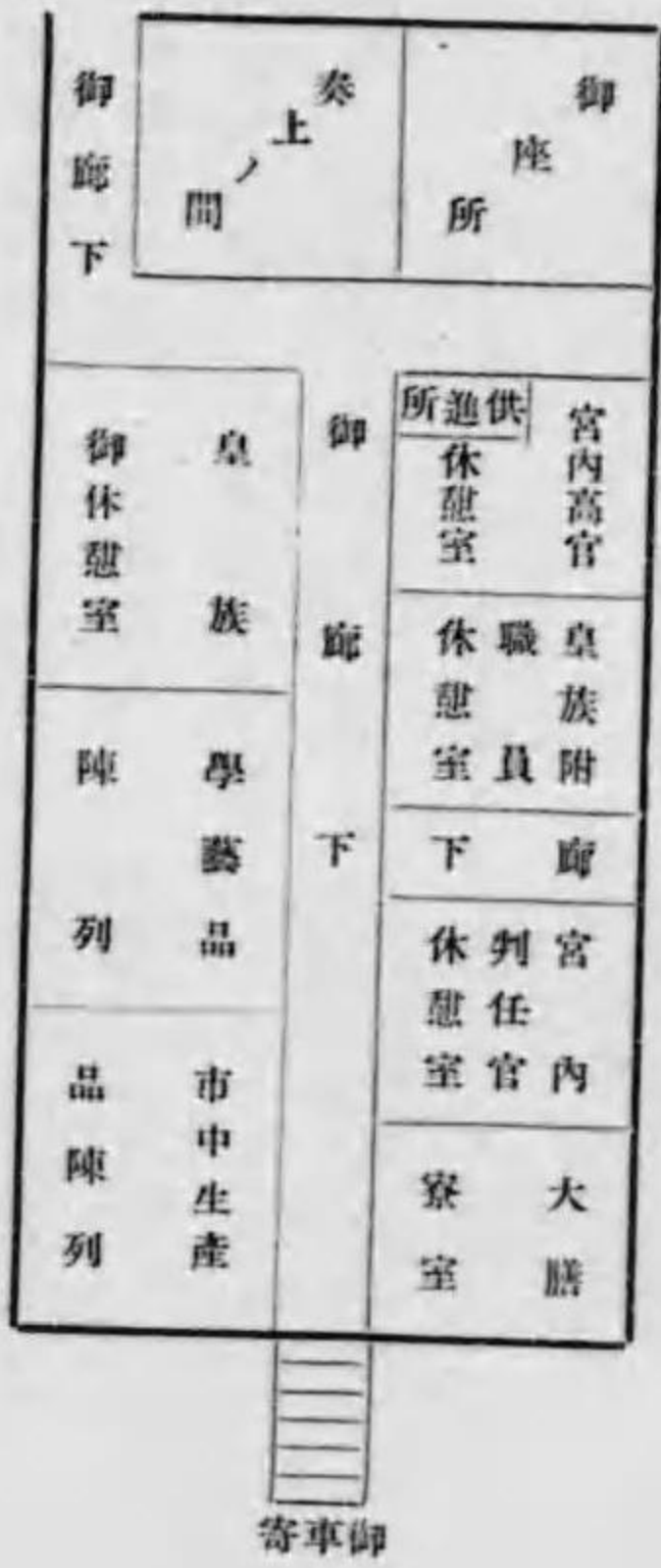


東京市奉祝會 御道筋御巡覽人員配置表

番	区	道程	技師	技手	雇	工	工夫	郵便出張所
第一	本郷区	8832	1	3	3	3	56	本郷出張所
第二	神田区	9332		8	1	3	61	神田出張所
第三	京橋区	5500		3		3	51	京橋出張所
第四	浅草区	9000		3		3	56	浅草出張所
第五	深川区	7325	1	5		4	60	三軒出張所
第六	本所区	10000		3		3	56	本所出張所
計		54000	2	20	1	13	340	六出張所

〃 御道筋
 〃 勅使御巡覽線路
 〃 御道筋御巡覽人員配置表
 〃 石山御道筋御巡覽人員配置表

備ヲ整ヘ、早朝更ニ各室ヲ清掃シ、調度ノ配備天
覽品ノ整頓ヲ了リ、午前七時煖房具ニ點火ス、尋
テ主殿寮大膳寮調度寮等ヨリ、陸續御調度品到
達シ、宮内省職員侍從職總務課内匠寮主馬寮主殿
寮大膳寮調度寮諸員總テ小禮服亦至リ、奉
迎ノ準備ニ執掌ス、午前八時侍從原恒太郎參著
之ヲ指揮ス、同八時三十分奉迎ノ準備全ク成ル、
便殿内ノ御間取左ノ如シ、



午前九時御先著梨本宮守正王殿下台臨、市長市
會議長市會議員式場附近ニ御迎へ申上ケ、委員
安藤彪雄御車寄ニ拜迎シテ、御休憩室ニ御先導
申上ク、同九時十分市長市會議長及東京府知事
井上友一、警視總監西久保弘道、御車寄階段脇ニ
並列シ、市會議員亦御車寄前ノ廣場ニ整列シテ、
著御ヲ待ツ、同九時二十分竹田宮恒久王殿下台
臨、諸員敬禮ノ中ニ御著有リ、市長御先導申上ケ、
御休憩室ニ入ラセラル、同九時三十分侍從原恒

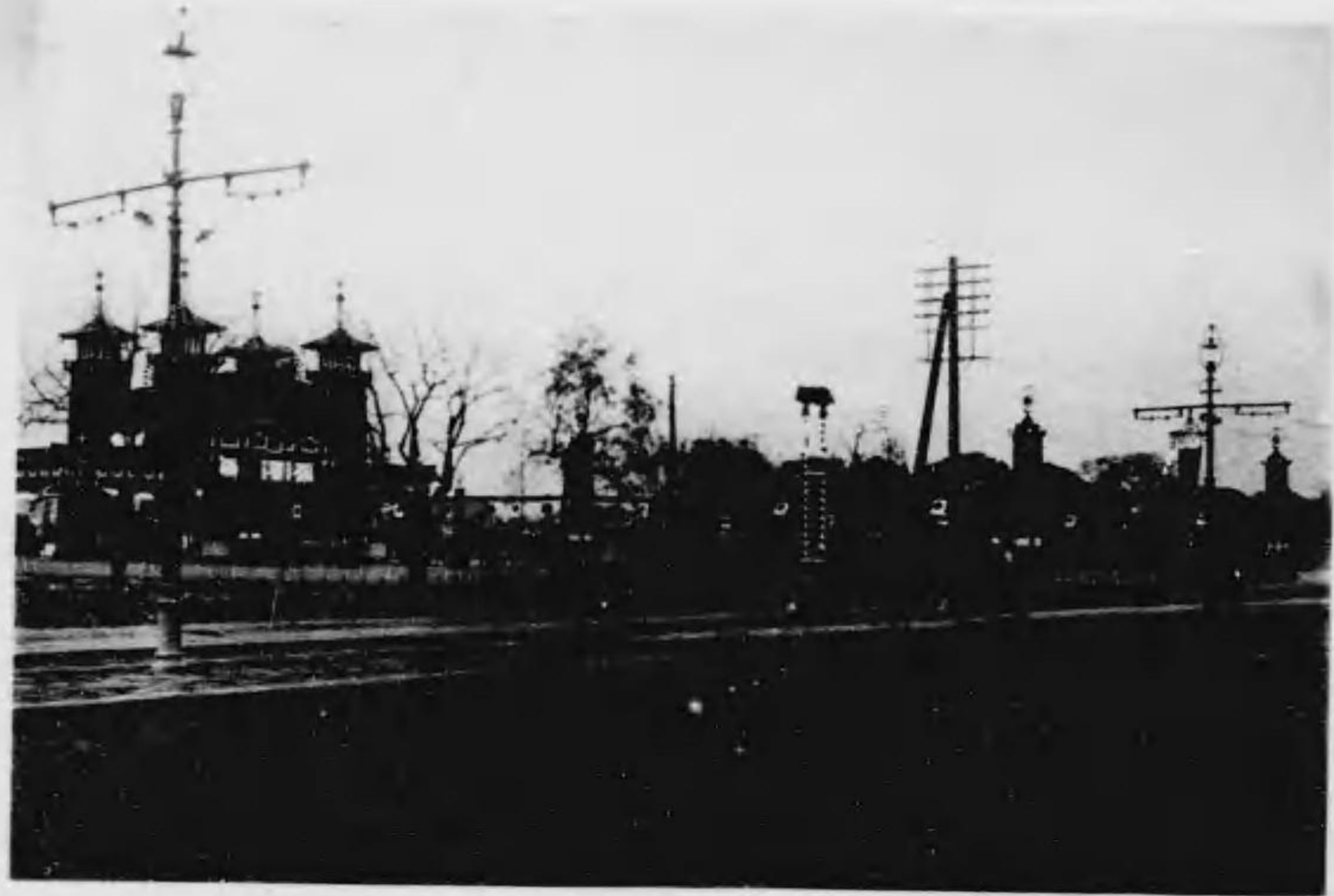
太郎ヨリ、特別ノ 思召ニ依リ、是日奉迎ノ市會
議員全部ニ對シ、特ニ御車寄階段上ノ御廊下ニ
整列シ、陛下著御、御座所入御ノ節ヲ以テ、奉拜
ノ儀、仰出サレタル旨、傳達有リ、全員感戴措ク所
ヲ知ラス、謹テ御廊下ニ整列ス、本市ノ光榮亦極
マレリト謂フ可シ、

二行 幸

天皇陛下ハ、御豫定ノ如ク、午前九時御出門、特別
公式ノ鹵簿ニ依リ、車駕肅々、上野公園ニ行幸ア
ラセラル、

鹵簿

警部馬	近衛騎兵	近衛騎兵上
警視馬	近衛下士軍色	近衛騎兵
警部馬	近衛騎兵	近衛騎兵上
天皇旗近衛下士曹	近衛騎兵	近衛騎兵上
近衛騎兵	近衛下士轉務曹長	近衛騎兵
近衛騎兵	近衛騎兵	近衛騎兵



(御通跡門先場馬) 幸行會觀奉市京東



(御入門正場會) 同

近衛騎兵上 近衛騎兵上 近衛下士軍伍
 近衛騎兵 近衛騎兵
 近衛騎兵 近衛騎兵
 近衛騎兵上 近衛騎兵上 近衛下士軍伍

聖上 御馬車
 侍從長(鷹司) 陪乘

近衛將校(中少尉)

近衛將校(中少尉)

(若見) 侍從武官馬 近衛將校(大尉)
 (山中)

近衛下士軍伍 近衛騎兵 近衛騎兵上
 近衛騎兵(喇叭) 近衛騎兵 近衛騎兵
 近衛騎兵(喇叭) 近衛騎兵 近衛騎兵
 近衛下士軍伍 近衛騎兵 近衛騎兵上

侍從馬車
 (天炊御門)
 (海江田)

侍從武官長馬車 皇族邦彦王殿下馬車 皇族成久王殿下馬車

宮内大臣馬車 宮内書記官
 (波多野) (三室戸)
 侍 馬車 近衛下士軍伍
 (土屋)

近衛騎兵上
 近衛騎兵
 近衛騎兵
 近衛騎兵上

近衛騎兵 近衛騎兵 近衛騎兵上
 近衛騎兵 近衛騎兵
 近衛騎兵 近衛騎兵
 近衛騎兵 近衛騎兵
 近衛騎兵 近衛騎兵上

近衛下士軍伍

近衛騎兵 警部馬

近衛騎兵 警部馬

(備考)

- 一 聖上御禮裝
- 一 供奉高官小禮服武官ハ禮裝
- 一 供奉近衛騎兵服裝大禮供奉近衛騎兵制服
- 一 供奉近衛騎兵ハ將校三人特務曹長以下五十四人トシ
 其ノ配置ハ陸軍大臣ノ定ムル所ニ依ル
- 一 御馬車供奉馬車ハ行幸南簿第二公式ノ場合ニ於ケル
 馬車ヲ用ユ

供奉ニハ、久邇宮邦彦王殿下、北白川宮成久王殿下、宮内大臣男爵波多野敬直、宮内書記官三室戸敬光、侍從長公爵鷹司熙通、侍從原恒太郎(先著)、同大炊御門家政、同子爵海江田幸吉、侍醫片山芳林、同醫學博士土屋岩保、侍從武官長内山小二郎、侍從武官若見虎治、同田中國重仰付ラル、是日

陛下ハ、特ニ無蓋ノ鳳輦ヲ以テ親シク市民ニ臨マセラル、叙慮ノ程申スモ畏シ、

三奉迎

イ沿道奉迎

宮城ヨリ上野公園本市奉祝會式場ニ至ル御道筋ハ、滿都ノ市民兩側ニ列シ、靜肅ニ聖駕ヲ奉迎シタリ、就中沿道各區ハ、多ク小學校兒童其他ヲシテ御道筋ニ奉迎セシム、

芝區

芝區ニ於テハ、區内市立小學校尋常四學年以上ノ兒童七千餘名ヲシテ、同區櫻田本郷町烏羽家具店角ヨリ新幸町角ニ至ル沿道ニ整列シテ奉迎セシム、各町總代亦兒童ノ背後ニ整列シテ奉迎シタリ、

京橋區

京橋區ニ於テハ、區内市立小學校生徒三學年以上全部ヲシテ新橋京橋間ノ沿道兩側ニ整列奉迎セシメタリ、同區高齡者二百餘名ハ、銀座三丁目高齡者奉拜所ニ於テ、附添人家族及名譽職員等ト共ニ奉迎ス、區ヨリ是日紅白餅一箱ツツヲ高齡者ニ贈ル、

日本橋區

日本橋區ニ於テハ、區内市立小學校兒童ヲ室町通ニ並列セシメ、聖駕ヲ奉迎シタリ、

神田區

神田區ニ於テハ、區内小學校生徒其他沿道ニ於テ奉祝會行幸ヲ奉迎ス、

下谷區

下谷區ニ於テハ、區内小學校職員二百人兒童總代八人ヲ出シテ、上野公園内奉迎場ニ聖駕ヲ奉迎セシメタル外、區内市立小學校職員兒童五千餘名ヲシテ元黒門町ヨリ北大門町ニ至ル間ニ整列セシメ、書記一名雇一名出張シテ之ヲ監シ、同シク聖駕ヲ奉迎ス、而シテ兒童ノ背後ニハ、父兒保護者約四千人整列シテ奉迎シタリ、

ロ式場奉迎

今上陛下ハ、午前十時五分奉祝會式場正門内ニ於ケル陸海軍軍樂隊ノ君が代奏樂裡ニ、御車寄ニ著御在ラセラル、市長市會議長府知事警視總監其他ノ諸員謹テ奉迎シ、市長奉導シテ、御座所ニ入ラセ給フ、是時御先著各宮殿下ハ、御廊下ニ奉迎アラセラレ、市會議員ハ御車寄階上ノ御廊下ニ整列シテ、奉拜ヲ仰付ラル、奉拜人名左ノ如シ、

- | | | |
|--------|-------|-------|
| 羽田 如雲 | 安住佐太郎 | 坪谷善四郎 |
| 糸川 正鐵 | 早川喜兵衛 | 宮崎三之助 |
| 白石源右衛門 | 清 峯太郎 | 原田 種徳 |
| 大橋新太郎 | 大貫傳兵衛 | 山瀬 俊賢 |
| 大澤 朝吉 | 早川庄太郎 | 伊 東 靖 |

路線及電氣軌道圖、公園及重要橋梁圖、隅田河口改良及枝川浚渫工事竣功圖、水道圖、改良下水圖、及市内高齢者名簿ヲ奉獻ス、次テ左記三名拜謁ヲ仰付ラル、

東京市長正三位勳一等法學博士 奥田義人
東京市會議長正七位勳三等 中野武營
東京市會副議長 山口 憲

五奉祝式

午前十時十五分宮内大臣ヲ經テ式場 出御ヲ奏請シ、茲ニ御大禮奉祝式ヲ舉ク、陛下ハ各宮殿下及供奉諸員ヲ隨ヘサセラレ、君が代奏樂ノ間ニ式場玉座ニ 立御在ラセ給フ、參列諸員一同最敬禮ヲ行フ、是時參列市公民ノ至誠ハ、期セスシテ萬歳ノ奉唱ト爲レリ、市長ハ其靜マルヲ待チ、市會議長ト共ニ御前ニ進ミ、奉祝詞ヲ議長ヨリ受ク、鞠躬如トシテ階ヲ上リ、正面御縁ニ立チテ最敬禮ヲ行ヒ、謹テ奉祝詞ヲ拜讀ス、

東京市長 奥田義人言フス

天皇陛下即位ノ次月九日本市ノ願ヲ俯允シ車駕上野ニ臨幸シテ市民奉祝ノ誠ヲ納レ給フ 臣義人誠歡誠忭頓首頓首竊カニ以フニ京師ハ首善ノ區ニシテ聲教ノ出ツル所衆

- | | | |
|--------|-------|--------|
| 村松恒一郎 | 伊藤定七 | 黒須龍太郎 |
| 豊川良平 | 加藤正義 | 鎌田芳太郎 |
| 淺川保平 | 斯波厚 | 笠原文太郎 |
| 笠原小十郎 | 横山勝太郎 | 木村正孝 |
| 長澤延次郎 | 岩松兼經 | 秋虎太郎 |
| 西川嘉門 | 細野順 | 音羽耕逸 |
| 尾後貫朝吾郎 | 安藤兼吉 | 八東可海 |
| 野並慶定 | 後藤武夫 | 長清助 |
| 角田眞平 | 鳩山一郎 | 溝淵正氣 |
| 松崎英太郎 | 川久保源治 | 橋本直一 |
| 飯塚仁兵衛 | 青木榮次郎 | 秋山朗 |
| 笠間平右衛門 | 新井與四郎 | 根岸治右衛門 |
| 松崎權四郎 | 三浦良幹 | 矢野鉉吉 |
| 野々山幸吉 | 中島行麿 | 辻井喜太郎 |
| 小泉策太郎 | 所澤貞太郎 | 江間俊一 |
| 近藤達兒 | 太田信治郎 | 堀田生次郎 |
| 大内重兵衛 | 津村重舍 | 長谷川吉次 |
| 若林成昭 | | |

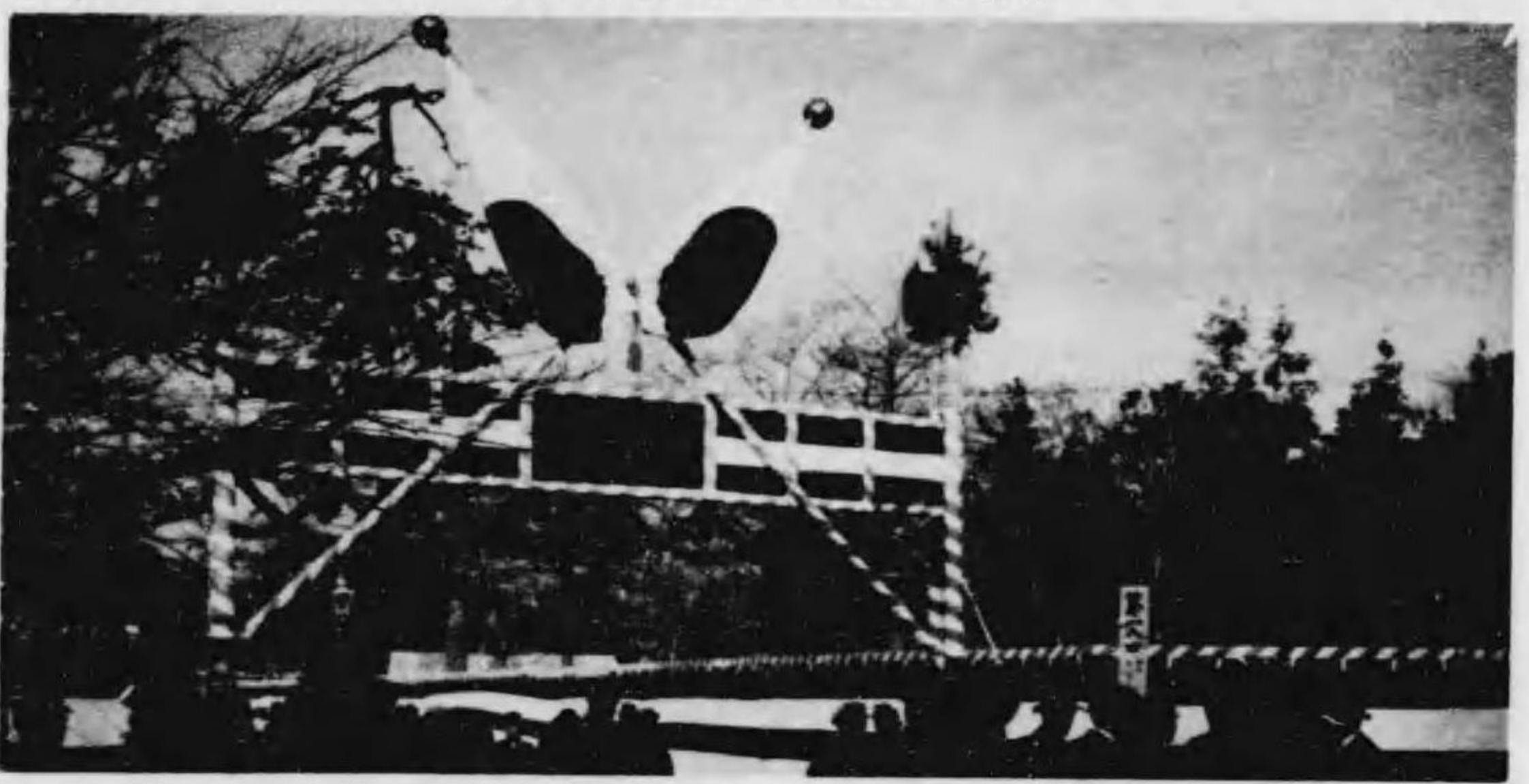
而シテ市内各小學校職員及兒童總代ハ、豫定ノ如ク、式場正門外ニ整列シテ奉迎ス、

四圖書名簿奉獻

陛下便殿ニ入御御休憩ノ機ヲ俟チ、市長ハ宮内大臣ヲ經テ、本市ノ市勢關係圖書、大正元年東京市統計表、大正三年末各區人口密度圖、市區改正



(内門正)場入員列參會觀奉市京東



(口入場式) 同



(場式) 同

庶ノ聚マル所ナリ是故ニ天日耀ヲ垂レテ
輦路春ニ先チ一人慶アレハ億兆之レニ頼
ル恭シク惟ミルニ

陛下睿哲天縱、尤ニ文允ニ武ニシテ

先帝維新ノ鴻圖ヲ紹キ給ヒ登極ノ初、詔ヲ齊
民ニ下シテ國維民常ヲ申明シ又恩露ヲ沛
キテ老ヲ養ヒ窮ヲ賑ハシ德音ヲ發シテ重
泉ヲ寵シ罪辜ヲ愍ミ給ヘリ

聖德至仁、凡ソ羣生ニ在リテ孰レカ之ヲ仰カ
サランヤ況ンヤ本市民ノ常ニ日下ニ住シ
テ殊ニ恩波ニ沐スルノ深キニ於テチャ今
日吉辰茲ニ恭シク

聖駕ヲ邀ヘテ上賀ノ誠ヲ表ス市民子ノ如ク
來リテ

休光ヲ瞻仰シ皆欣々然トシテ相慶幸シ以テ
天恩ノ優渥ナルヲ頌ス是ニ由リテ神人感孚

シテ海嶽祥ヲ呈シ京中ノ景物皆喜色ヲ騰
ケ東台ノ草木悉ク光輝ヲ生シ均シク
寶祚ノ窮リナクシテ

聖壽ノ萬斯年ナルヲ祝セサルハナシ伏シテ
惟フニ

陛下宵旰治ヲ圖リ尤モ民ノ義ヲ務メ給フ市
民ノ

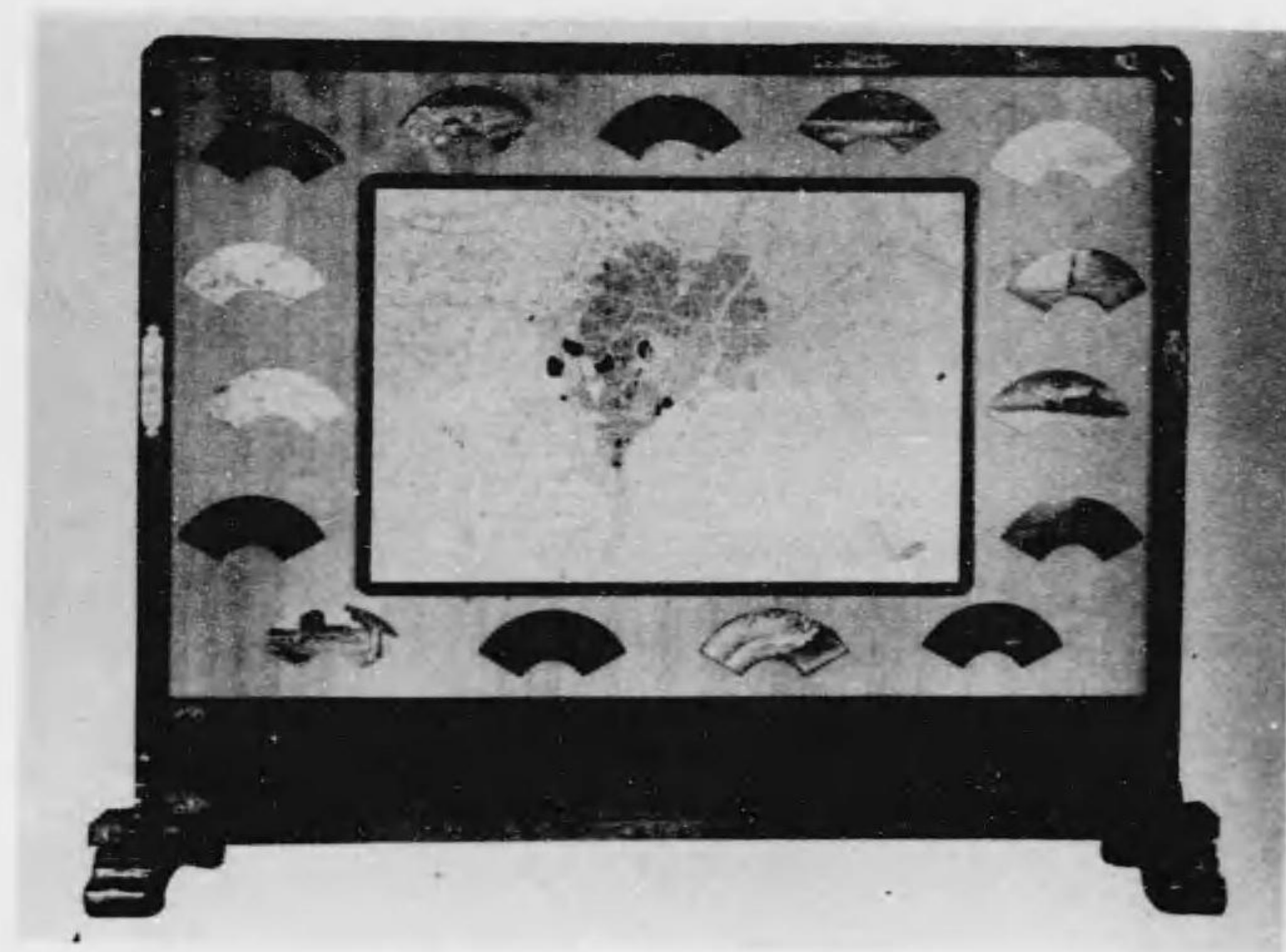
聖恩ニ感激スル必ラス當サニ夙ニ興キ夜ニ
寐ネ各其業ヲ勵ミ入りテハ嚴父孝子トナ
リ出テテハ忠良ノ臣民トナリテ益々報效
ノ志ヲ殷ンニスヘシ則チ今日臨幸ノ盛事、
風大内山ニ動キテ草武藏野ニ偃セン臣義人
不才ヲ以テ清時ニ際會シ仰テ

天威ニ咫尺シ激切屏營ノ至リニ任フルナシ
謹ミテ市會ノ議ヲ經、市民ニ代リテ賀辭ヲ
上ル臣義人誠歡誠忭頓首頓首謹ミテ言フ
ス

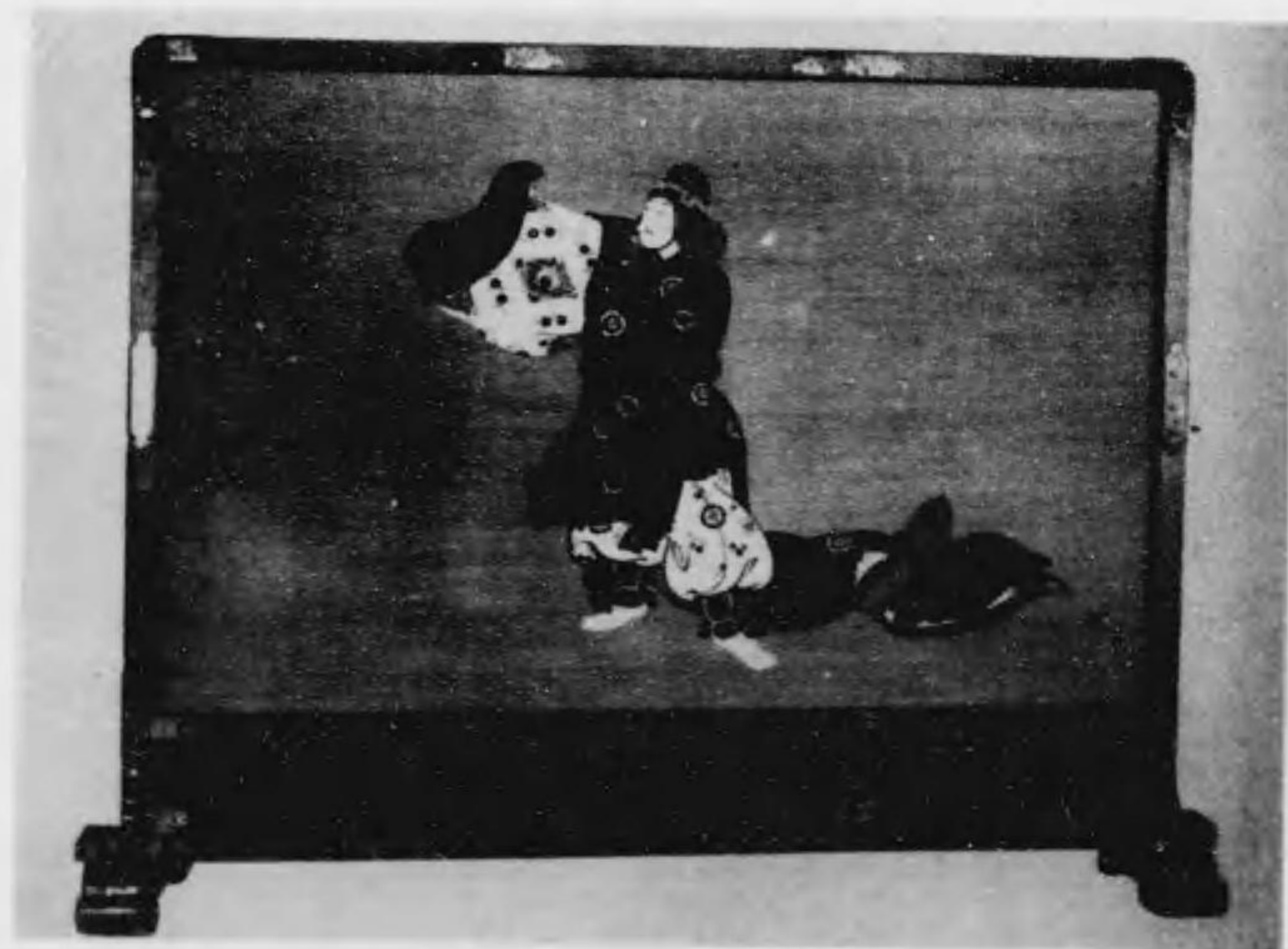
大正四年十二月九日

東京市長正三位勳一等法學博士臣奧田義人

此間 陛下ハ終始御耳ヲ傾ケサセ給ヒ、時々御
會釋ヲ賜フ、天恩ノ優渥ナル言フ所ヲ知ラス、六
萬ノ參列諸員 天威ニ咫尺シ、忠愛ノ至情禁ス
ル能ハス、崇嚴森肅ノ氣場ニ滿チ、殆ト言語ニ絶
セリ、市長ハ奉讀ヲ終リ、最敬禮ノ後、階ヲ下リテ
奉祝詞ヲ市會議長ニ渡シ、階前所定ノ位置ニ就

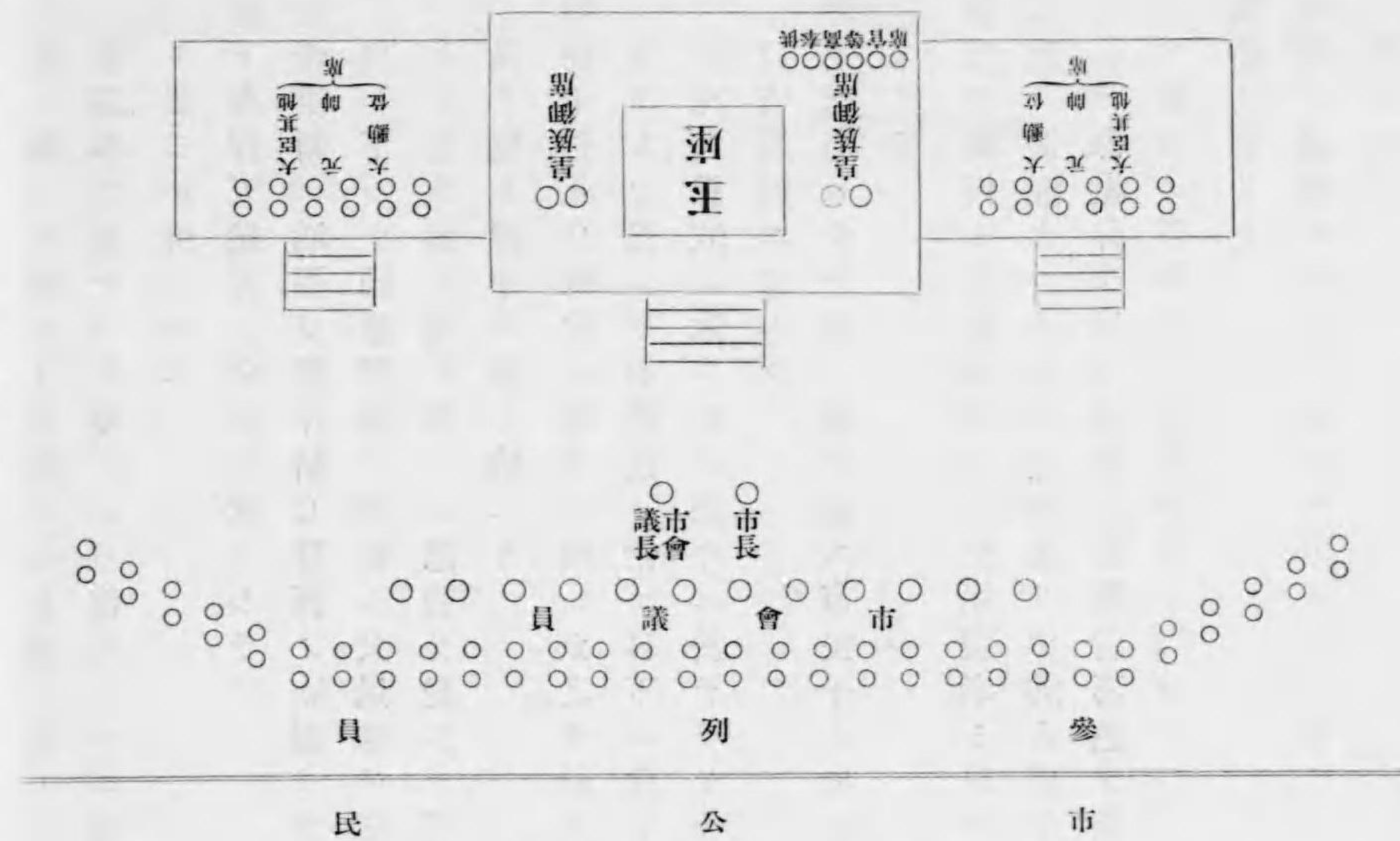


(表) 立 衝 御 上 獻



(裏) 同

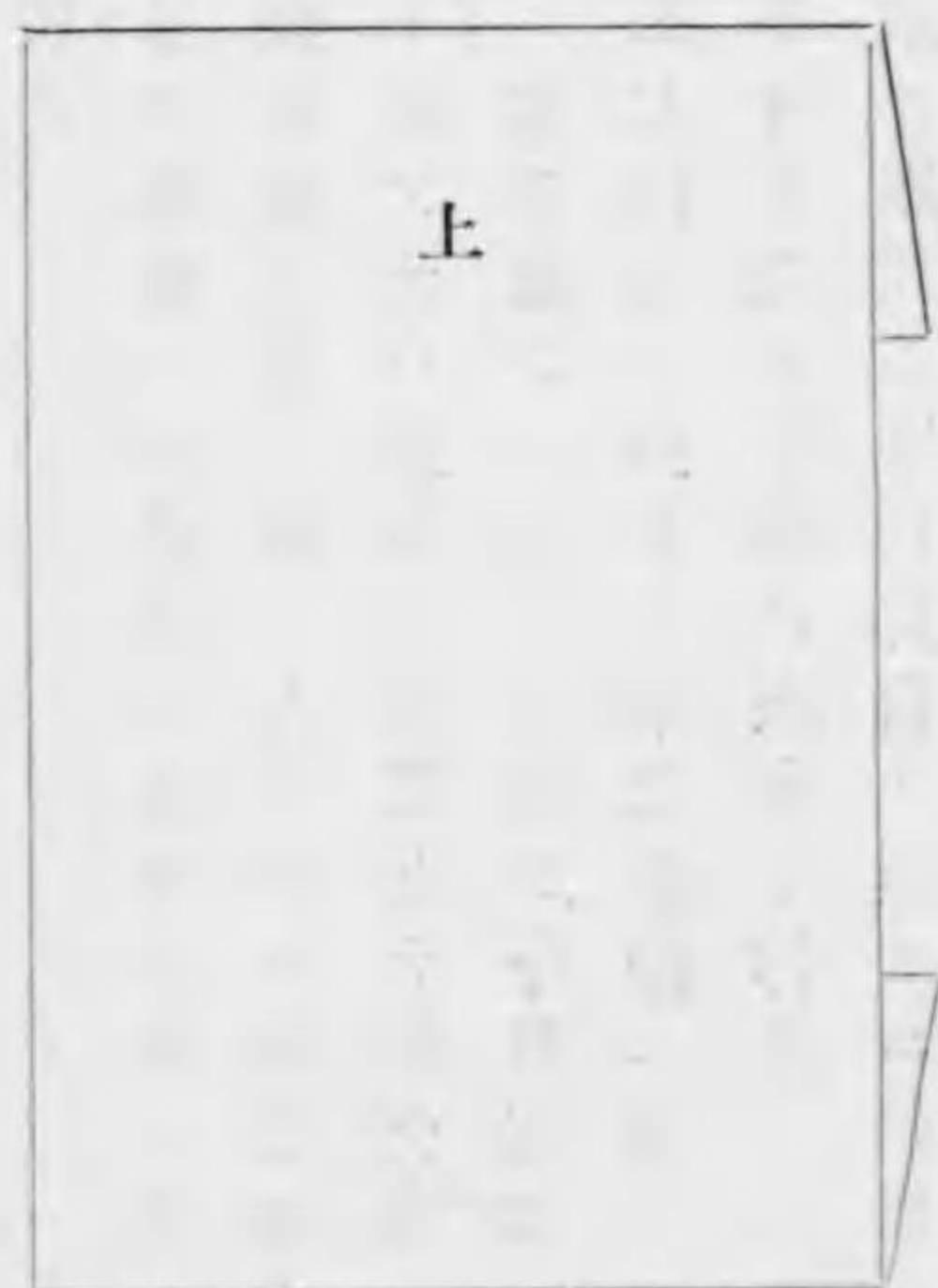
圖 場 式



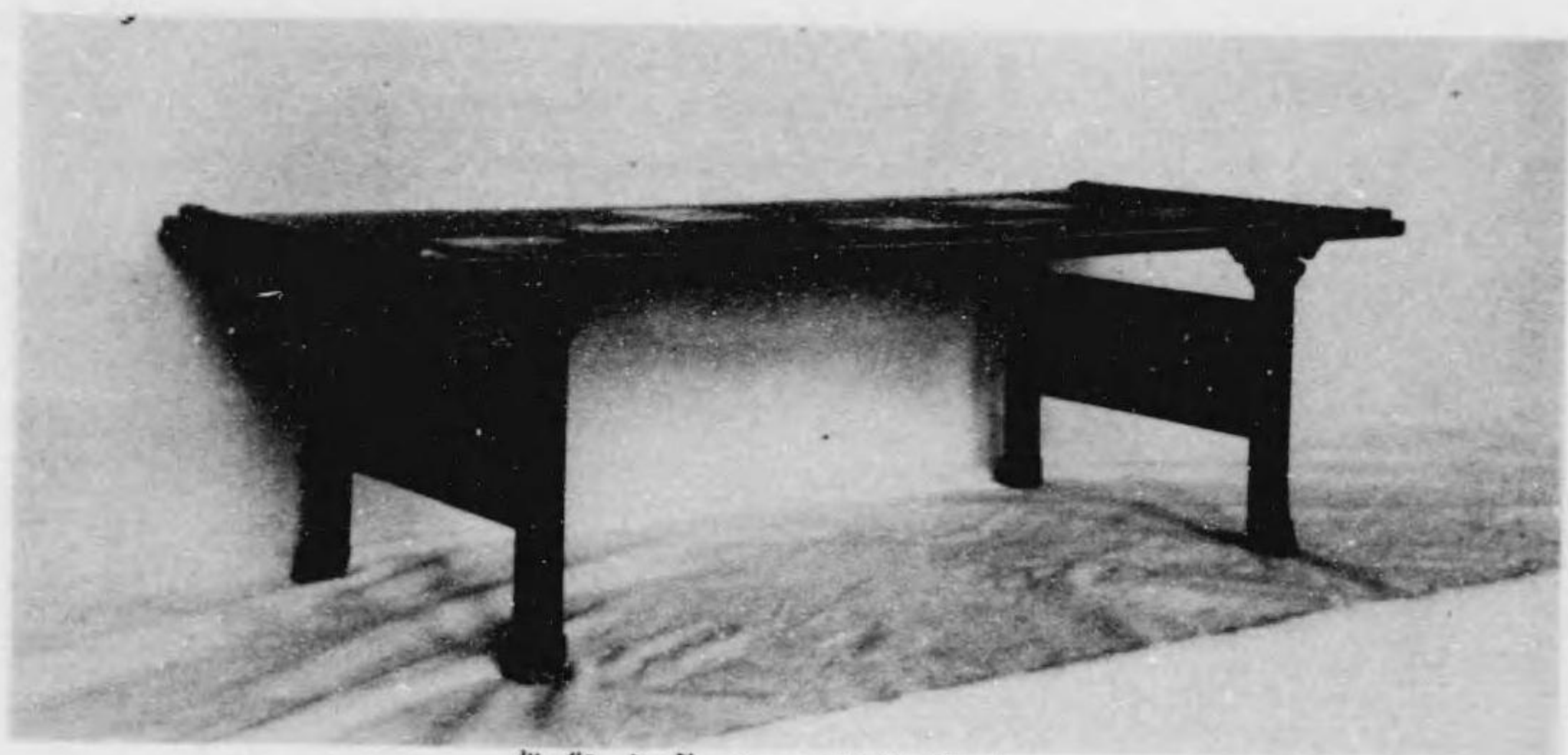
(四〇三)
 キ、陛下ノ萬歳ヲ三唱シ奉ル、參列諸員等シク
 之ニ和ス、斯クテ陛下ハ宮内大臣ノ奏請ニ依
 リ、諸員最敬禮君が代奏樂裡ニ入御在ラセラ
 レ、茲ニ御大禮奉祝式ヲ結了ス、時ニ午前十時三
 十分也、

六獻上品目錄奉獻

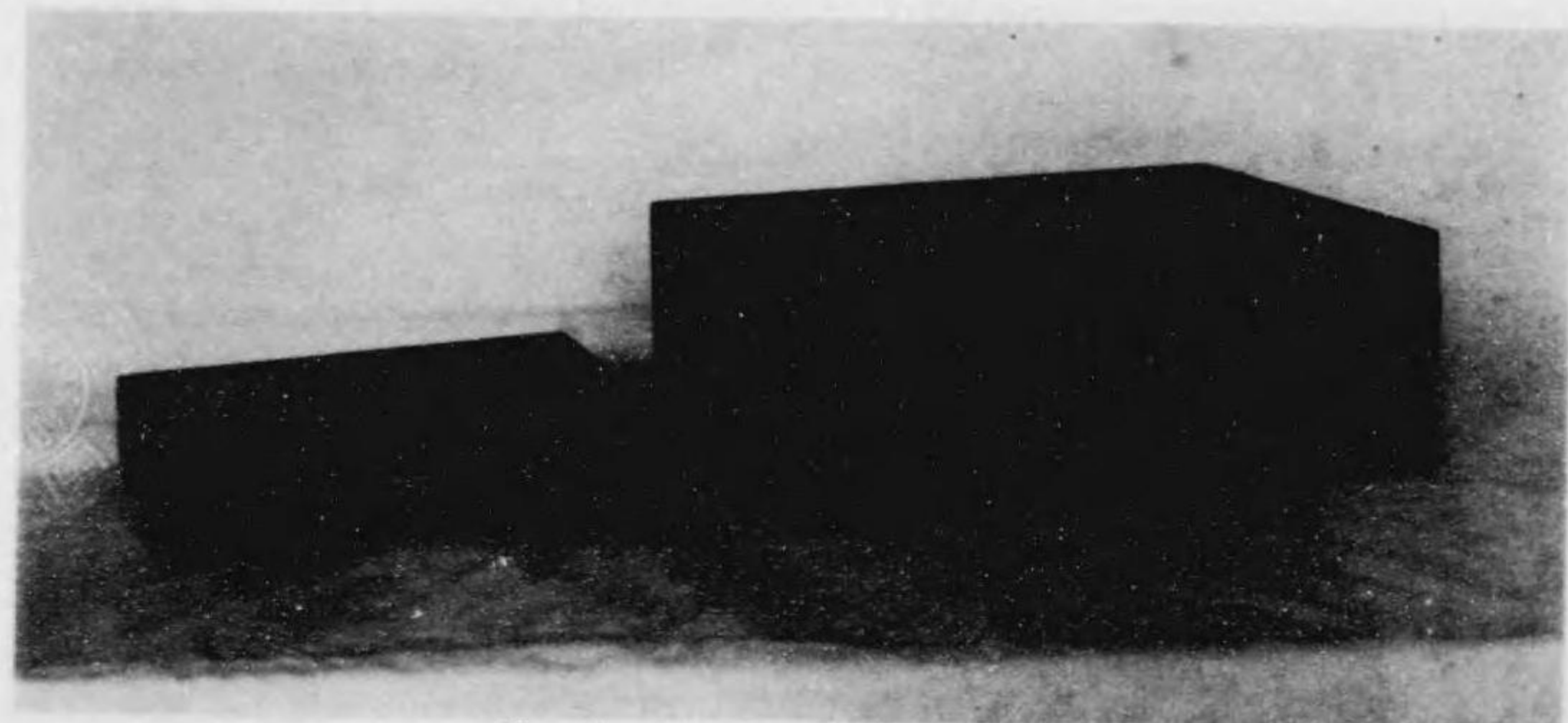
式後便殿ニ御休憩ノ間、市長ハ宮内大臣ヲ經
 テ、本市力豫テ兩陛下ニ奉獻スル爲メ製作シ
 タル御衝立壹、御文机壹、御料紙文庫壹、御硯函壹
 ノ目錄、及其製作者人名簿ヲ奉獻ス、



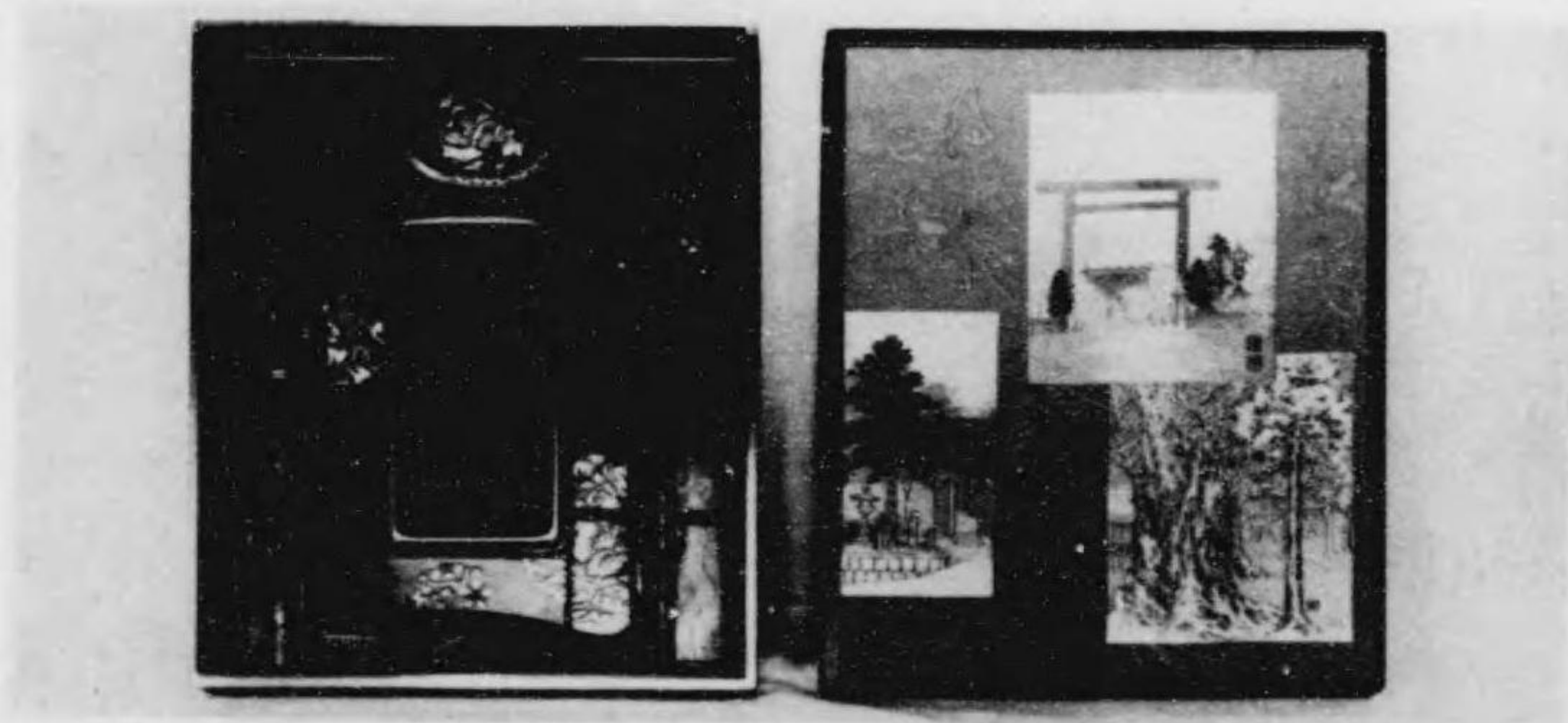
(包紙大高檜紙)



机御上載ノ〜下陸后皇



前硯御車文御同



面硯御

(大高禮紙二枚重ネ三ツ折リ)

奉獻

一 御衝立

壹

以上

大正四年十二月九日

東京市長正三位勳一等法學博士 奥田 義人

(包紙大高禮紙)

御衝立製作者人名簿

(大高禮紙二枚重ネ横綴、但水引綴)

地 圖

監 修 小倉 俊司
製 圖 今村 巳之助

扇面地紙形

麴町區

宮城正門前ノ景
彫 漆 堆朱 楊成

神田區

神田須田町ノ景
螺 銅 豐川 楊溪

日本橋區

日本橋下魚市場ノ景
彫 漆 香川 勝廣

京橋區

佃島ノ景
布日象嵌 宮地 一男

芝 區

芝浦ノ景
磁 器 加藤 陶壽

(四〇三)

麻布區	東京天文臺ノ景	木彫	竹内久一
赤坂區	青山練兵場ノ景	牙彫	三浦光風
四谷區	四谷見附ノ景	彫金	塚田秀鏡
牛込區	牛込神樂坂ノ景	蒔繪	白山松哉
小石川區	東京砲兵工廠ノ景	彫金	海野清
本郷區	東京帝國大學ノ景	木象嵌	由井長
下谷區	上野公園ノ景	鑄金	大島如雲
淺草區	淺草觀音堂ノ景	磁器	板谷波山
本所區	向島ノ景	七寶	濤川惣助
深川區	深川木場ノ景	銅起	平田宗幸
綴織地萬歲樂刺繡	原圖	小堀頼音	
設計圖案	刺繡	飯田藤次郎	
全部構造監督		島田佳矣	
以上		東京美術學校	

以上
 大正四年十二月九日
 東京市長正三位勳一等法學博士奥田義人

御文机
 御料紙文庫 製作者人名簿
 御硯函

御文机
 御料紙文庫 製作者人名
 御硯函
 東京名所繪刺繡 菅原直之助
 名所繪原圖
 麴町區 靖國神社ノ景 田中頼璋
 神田區 神田神社ノ景 鍋木清方

(天高楨紙二枚重平横綴但水引綴)

(包紙天高楨紙)

上
 (包紙天高楨紙)
 (四〇四)

奉獻
 一御文机 壹
 一御料紙文庫 壹
 一御硯函 壹

日本橋區	江戸橋ノ景	佐竹永陵
京橋區	大根河岸ノ景	荒木十畝
芝區	山内三門ノ景	小坂芝田
麻布區	一本松ノ景	松林桂月
赤坂區	水川神社ノ景	村田丹陵
四谷區	須賀神社ノ景	松岡映丘
牛込區	陸軍士官學校ノ景	小室翠雲
小石川區	關口水道ノ景	池上秀畝
本郷區	聖堂大成殿ノ景	高取稚成
下谷區	上野清水堂ノ景	尾形月耕
淺草區	待乳山ノ景	荒木探令
本所區	黒田隄ノ景	結城素明
深川區	越中島ノ景	山田敬中
桑木地指物		星野克勤齋
總鉸具		榑原忠克
蒔繪		伊東貞文
螺鈿		野原貞明
設計圖案		島田佳矣
全部構造監督		東京美術學校
以上		

(四〇五)

七 教育學藝品並生産品天覽

斯テ 陛下ニハ再ヒ出御在ラセラレ、市長ノ御先導ニ依リ、別室陳列ノ教育學藝品並ニ本市ノ生産品ヲ 天覽在ラセラレ、時々市長ニ御下間有リ、御獎勵ノ御詫ヲ拜ス、天覽中、御車寄ノ御扉ハ、之ヲ閉チ奉リタリ、

八 還 御

天覽終テ便殿ニ 入御御休憩ノ後、午前十時四十五分 還御仰出サル、是ニ於テ、市長ハ御車寄ニ奉導シ、階ヲ下リテ市會議長、府知事、警視總監ト共ニ侍立シ、市會議員ハ御車寄前廣場所定ノ位置ニ整列シ、謹ミテ奉送ス、龍顏麗シク奏樂裡ニ豫定ノ御道筋ヲ還幸在ラセラレ、宮城著御ハ、同十一時十五分ト拜承ス、市内各小學校職員兒童ハ、式場正門外ニ於テ奉送シ、一般市民ハ、沿道ニ於テ、奉送ス、御先著ノ各宮殿下ハ、還幸奉送後、一旦御休憩室ニ入ラセラレ、尋テ陳列品御覽御歸殿仰出サレ、諸員御見送り申上ク、

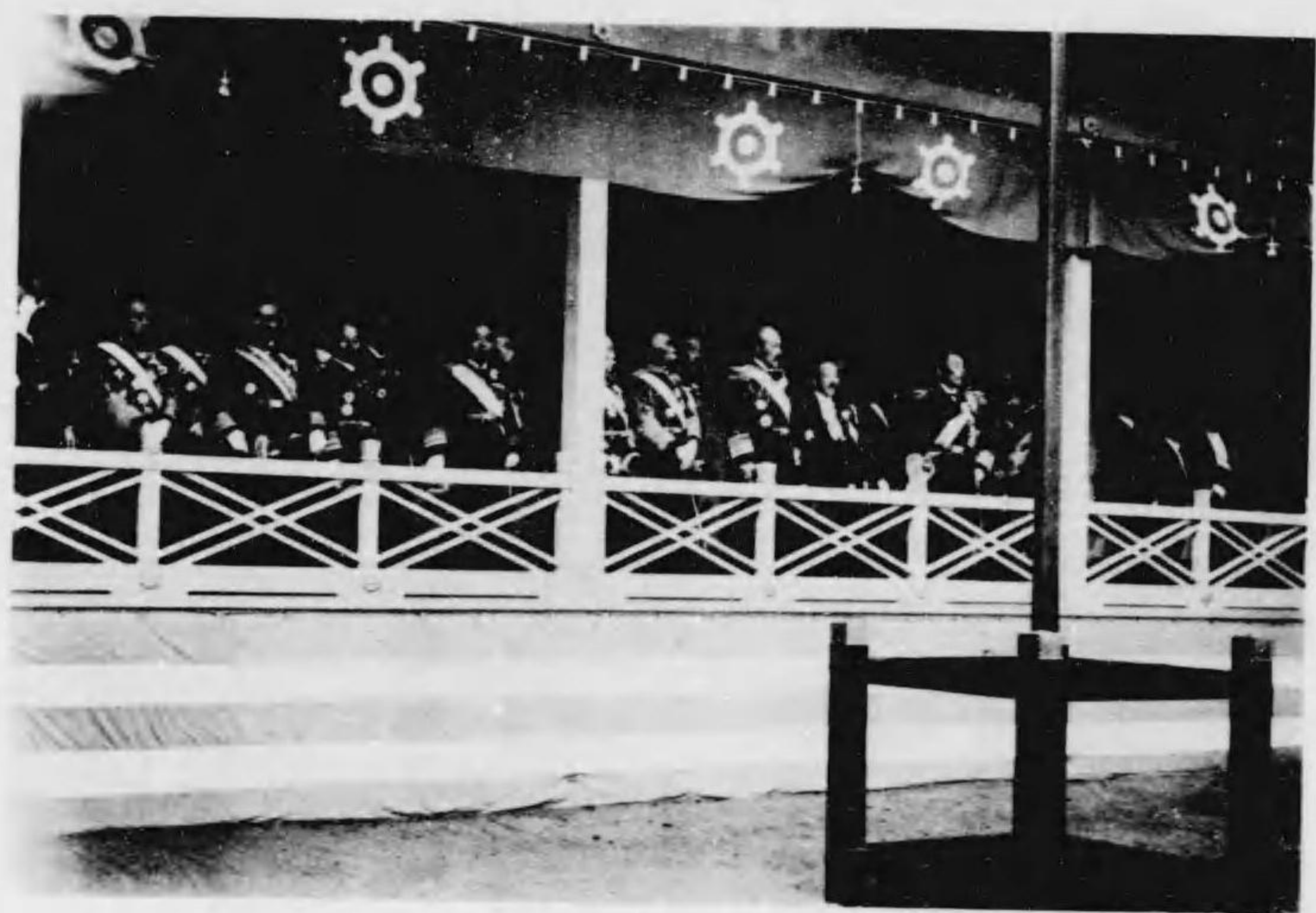
(附記)

諸儀結了後、便殿ハ、御重ニ監理ヲ加ヘ、御調度等粗相ナキ様、嚴密ニ注意ス、

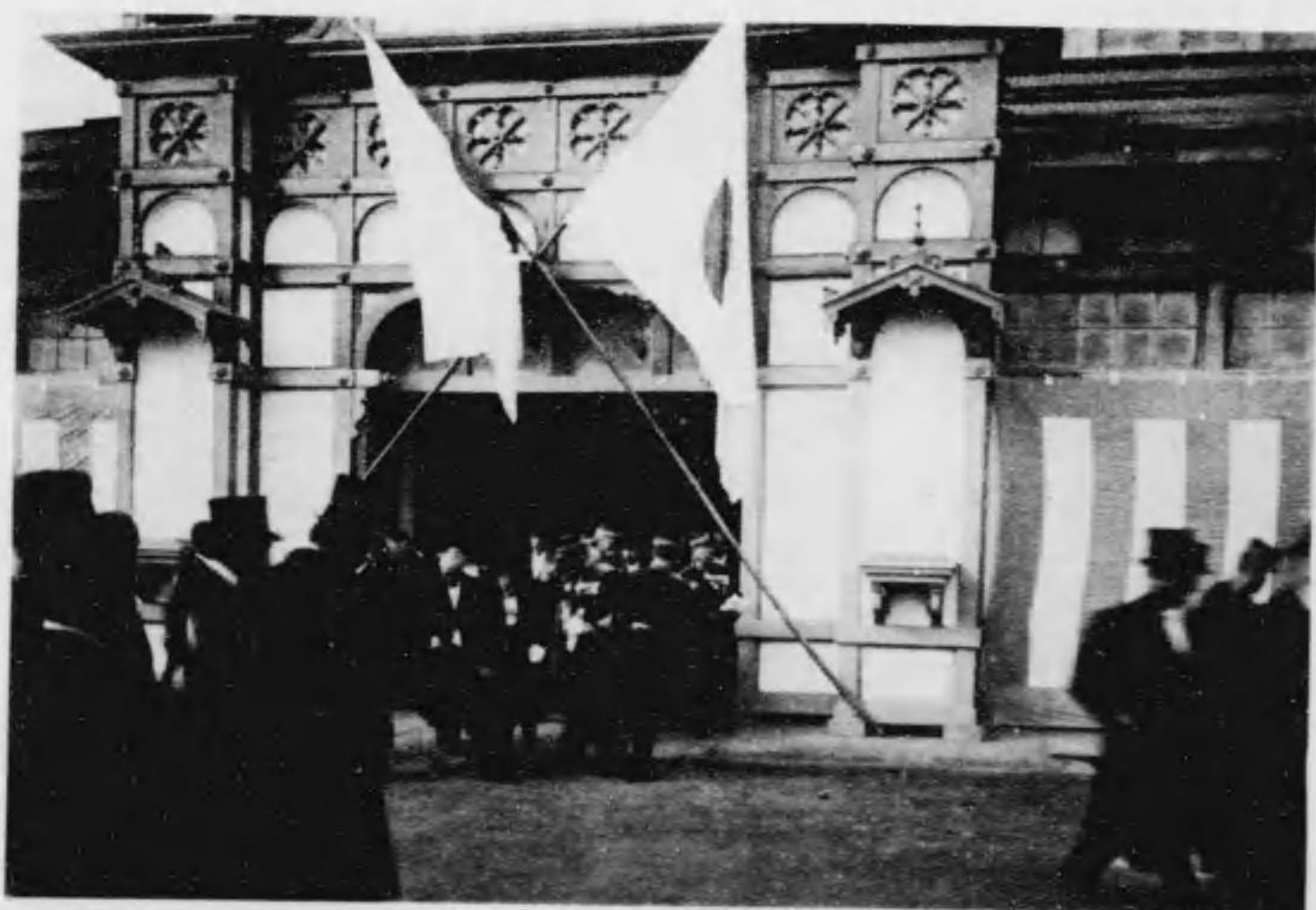
九 參會者及入場者

是日來賓ノ總數二千六百餘名、博物館前受附ニ於テ參會章引換ニ記念徽章ヲ呈ス、公民ノ入場シタル者約六萬人、東雲臺銅像前ノ受付ニ於テ、入場券引換ニ記念盃ヲ交付ス、掛員一百名ヲ以テ之ニ當リ、午前七八時ノ間、事務ノ繁劇ヲ極メタリ、而シテ重モナル參會者、左ノ如シ、

侯爵	松方正義	伯爵	東郷平八郎
伯爵	奧保業	子爵	井上良馨
	一木喜徳郎		尾崎行雄
	武富時敏		河野廣中
子爵	長谷川好道	子爵	川村景明
	箕浦勝人		高田早苗
男爵	石井菊次郎	伯爵	寺内正毅
伯爵	土方久元	男爵	後藤新平
男爵	加藤高明	男爵	齋藤實
伯爵	芳川顯正	伯爵	樺山資紀
侯爵	蜂須賀茂韶	子爵	伊東巳代治
子爵	末松謙澄	子爵	清浦奎吾
子爵	南部甕男	男爵	片岡七郎
男爵	伊集院五郎	男爵	濱尾新
子爵	花房義質	男爵	淺田信典
男爵	安東貞美	子爵	會我祐準



東京市奉觀會參列貴賓



同退場

子爵	大迫尚道	子爵	大島義昌	男爵	日高壯之丞	男爵	上村彦之丞	男爵	上田有澤	男爵	福島安正	公爵	徳川家達	公爵	神尾光臣	坂本一	藤井較一	大井成元	伊地知季珍	押川則吉	加藤定吉	明石元二郎	近衛文麿	公爵	久我通久	男爵	阪谷芳郎	沖原光孚	高崎親章	周布公平	藤井包總	柴田家門	古市公威	長崎省吾					
子爵	島村速雄	子爵	大島久直	男爵	土屋光春	男爵	鮫島重雄	男爵	三須宗太郎	男爵	佐藤愛麿	男爵	島田三郎	男爵	山田忠三郎	秋山好古	山川健次郎	男爵	大森鐘一	松室致	名和又八郎	山下源太郎	一條實輝	公爵	淺野長勳	侯爵	松岡康毅	男爵	木越安綱	男爵	千家尊福	男爵	中村雄次郎	男爵	小野田元照	眞鍋斌	股野琢	山中信儀	荒井賢太郎

安達峯一郎	山田彦八	山脇玄	秋月左都夫	藤井茂太	長岡外史	大澤謙二	子爵 藤波言忠	古川阪次郎	男爵 木村壯介	侯爵 黒田長成	伯爵 津輕承昭	侯爵 中御門經恭	侯爵 徳川頼倫	侯爵 大炊御門幾麿	侯爵 花山院親家	侯爵 西郷寅太郎	侯爵 廣幡忠隆	侯爵 徳川圀順	侯爵 醍醐忠重	侯爵 池田禎政	伯爵 大谷光瑩	伯爵 柳澤保惠	男爵 山根貫一
-------	------	-----	-------	------	------	------	---------	-------	---------	---------	---------	----------	---------	-----------	----------	----------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------

一〇茶菓饗應

各宮殿下御歸殿ノ御見送りヲ了スルヤ、時正ニ正午ニ近シ、是ニ於テ市長ハ、是日招待シタル參列員一同ヲ竹ノ臺陳列館五號室ニ設ケタル食堂ニ案内ス、食堂ハ綠葉ヲ以テ柱ヲ飾リ、場内縱横ニ引渡シタル彩條ニ、旭旗市旗ヲ點綴シ、天井所々ニ瓔珞裝飾珠ヲ聯吊シ、燦然目ヲ奪フ、各員席定マリ盃ヲ舉ク、此間絶エス軍樂隊ノ奏樂有リ、宴酣ニシテ市長ハ、今日特ニ臨幸ノ盛儀ヲ賜リタル 天恩ノ優渥ナルヲ感戴シ、幸ニ滞リナク奉祝式ヲ舉クルヲ得タルハ、本市ノ光榮コレ

ニ過クル者ナシ、是レ全ク各位ノ贊助ニ依ル所ナリ、茲ニ市民ニ代リテ誠實ナル謝意ヲ表スル旨ヲ述ヘ、尙ホ本日ノ臨場ヲ深謝シ、來賓ノ健康ヲ祝福シテ、益ヲ擧ク、次ニ侯爵松方正義、參列員ヲ代表シテ挨拶アリ、東京市民ノ今日舉行セル御大禮奉祝會カ最高ノ榮譽ヲ荷ヒ、十分ノ成功ヲ見タルヲ慶賀シ、是レ實ニ帝都二百萬市民忠愛ノ至誠期セスシテ表顯シタル者ナリト感賞シ、是日ノ招待ヲ謝シテ東京市ノ萬歲ヲ唱ヘ、一同之ニ和スルノ聲場ヲ動カス、斯クテ和氣霽然、主客歡ヲ罄シテ午後一時隨意退散シタリ、

一 御下賜金

奉祝會ヨリ 還幸アラセラルルヤ、午後一時御召有リ、市長ハ市會議長ト共ニ、内記課長ヲ隨ヘ、宮内省ニ出頭ス、宮内大臣御沙汰ヲ傳ヘ、特別ノ思召ヲ以テ東京市ニ金拾萬圓ヲ下賜セラル、市長議長謹テ之ヲ拜受ス、

市會議員通知

拜啓本日午後一時御召ニ依リ宮内省ニ出頭候處特別ノ御思召ヲ以テ金拾萬圓本市ニ御下賜ノ御沙汰被爲在候旨宮内大臣ヨリ傳達相成候間不取敢此段得貴意候 敬具

大正四年十二月九日 東京市長法學博士 奥田 義人

市會議員宛

(備考) 大正五年二月九日ノ市會議決ヲ以テ、御下賜金ハ、本市教育基本財産中國書館基金トシ、利子ヲ圖書購入費ニ充テ又同基金ニ編入ス、

一二 御禮參内

奉祝會當日、市長議長ハ御下賜金ヲ拜受スルト共ニ、即刻東御車寄ヨリ參内シ、御大禮東京市奉祝會ヘ 臨御ヲ賜ヒタル御禮及御下賜金ノ御禮ヲ言上シテ退出ス、

一三 御禮參殿

奉祝會當日、御禮參内後、市長議長ハ、奉祝會ニ台臨有リタル梨本宮竹田宮兩殿下ノ御殿ニ伺候シ、台臨ノ御禮ヲ言上ス、

一四 勅使市中巡視

イ 御内沙汰

十二月八日夜、宮内省ヨリ本市ヘ御内沙汰有リ、其要旨左ノ如シ、

一、明日ノ奉祝會ニ付深キ御思召有之宮城還幸後特ニ侍從ヲ東京市中ニ差遣サレ市民奉祝ノ模様等詳細視察スヘキ旨御内旨有之依ツテ明日(當日雨天ナラハ十日)正午迄ニ市役所ヨリ可然吏員三人ヲ説明トシテ宮内省ニ出頭セシムヘシ但市中カ爲メ特ニ御出迎準備等ハ一切其儀ニ及ハス却テ有ノ儘御巡視ヲ請フ事可然トノ御注意ナリ

是ニ於テ市長ハ、九日正午、助役宮川鐵次郎、理事井上敬次郎、技師堀田丈夫ヲシテ、宮内省ニ出頭シテ、勅使市中巡視ノ案内ヲ勤メシム、

日根野侍從巡視

侍從日根野要吉郎ハ、勅ヲ奉シテ九日午後一時宮城出門、神田下谷本郷小石川牛込麴町方面ヲ巡視シ、市民奉祝ノ至誠ヲ視察シ、同二時三十分歸城、委細之ヲ奏上スト云フ、助役宮川鐵次郎嚮導シテ、説明ノ任ニ當ル

第一線

一、大手門ヲ出テ大手町一丁目一番地角ヲ左ニ神田橋ヲ經テ神田區美土代町一番地角ヲ右ニ岩本町二十二番地角ヲ左ニ和泉橋ヲ經テ下谷區御徒町三丁目十一番地電話局角ヲ左折シ本郷區切通坂ヲ經テ本郷四丁目一番地角ヲ右ニ帝國大學前ヲ經テ駒込町八十番地ニ至リ小石川區白山前町二十五番地ヨリ電車線ニ沿ヒ下富坂町十八番地角ヲ右折シ電車線ニ沿ヒ大塚町十二番地先ヲ左折シ音羽町一丁目二十番地角ヲ下リ江戸川橋ヲ渡リ牛込區天神町三番地角ヲ左折シ神樂坂ヲ經テ神樂町一丁目十二番地角ヲ左折シ飯田橋ヲ經テ麴町區九段坂下ニ至リ粗橋ヲ渡リ神田區南神保町十七番地角ヲ右折シ一ツ橋ヲ經テ平河門ニ入ル 發二時五分 著二時五分

八石山侍從巡視

侍從石山基陽ノ巡視方面ハ、京橋日本橋深川本所淺草ノ五區ニ互ル、理事井上敬次郎嚮導説明ス、

第二線

一、馬場先門ヨリ東京府廳前鍛冶橋ヲ經テ京橋區本八丁堀一丁目十五番地角ヲ左ニ電車線ニ沿ヒ日本橋區北島町一丁目三十九番地角ヲ右ニ靈岸橋、永代橋、深川區福島橋ヲ經テ門前仲町十六番地角ヲ左ニ黒龜橋ニ出テ電車通ニ出テ本所區相生町五丁目三十番地角ヲ右ニ綠町五丁目三十七番地角ヲ左ニ一直線ニ進ミ中ノ郷原庭町三十九番地角ヲ左折シ、吾妻橋ニ出テ淺草區花川戸町五十九番地角ヲ右折シ山谷橋ヲ經テ田中町ニ至ル(郡部ヲ經テ下谷區三輪町郡市境界線ヨリ電車通ニ沿ヒ下谷區役所角ヲ左折シ淺草茶屋町一番地角ヲ右ニ淺草橋ヲ經テ日本橋區ニ入り鞍懸橋ヲ經テ本町一丁目三番地角ヲ左ニ淺草ニ沿ヒ吳服橋ヲ渡リ麴町區永樂町ヲ經テ大手門ニ至ル

清水谷侍從巡視

侍從伯爵清水谷實英ハ、芝麻布赤坂四谷牛込麴町方面ヲ巡視ス、技師堀田丈夫隨行説明ヲ爲ス、

第三線

一、櫻田門ヲ出テ芝區今入町三十番地角ヲ左折シ櫻田善右衛門町四番地角ヲ右折シ芝區役所前ヲ左折シ宇田川町二十四番地角ヲ右折シ本芝一丁目三番地角ヲ曲リ本芝

四丁目八番地角ヲ右折シ松本町三十一番地角ヲ左折シテ赤羽橋ヲ渡リ麻布區飯倉二丁目二十九番地角ヲ左折シ電車通ヲ六本木五十番地ヲ左折シ赤坂區青山南町六丁目五十四番地角ヲ右折シ電車通ヲ赤坂見附ニ出テ濠端ニ沿ヒ四谷區尾張町一番地角ヲ左折シ傳馬町二丁目十七番地角ヲ右折シ津ノ守坂ヲ下リ片町二十八番地角ヲ半込區陸軍中央幼年學校ニ沿ヒ右折シ柳町八番地角ヲ右折シ細工町二十七番地角ヲ右折シ市ヶ谷田町二丁目六番地角ヲ右折シ市ヶ谷見附ヲ經テ麴町區三番町通六番地角ヲ右折シ麴町二丁目八番地角ヲ左折シ半藏門ニ入ル

一五奉祝會報告

十二月十日午後一時市參事會開議、十二名市長、市議員、市長、市議員、市議員、市議員、市議員、市議員、市議員、市議員、市議員、市議員出席有リ、左ノ諸件ヲ供覽シ、午後二時五十分閉會ス、

東京市奉祝會行幸ニ關スル宮内大臣ノ通牒供覽
十二月九日東京市奉祝會へ行幸アラセラレ市市長市會議長副議長ニ拜謁被仰付件供覽
十二月九日午後一時御召ニ依リ市長宮内省ニ出頭シタル處特別ノ御思召ヲ以テ金拾萬圓ヲ東京市ニ御下賜ノ御沙汰被爲在旨宮内大臣ヨリノ傳達書供覽

一六皇族殿下御來場

御大禮奉祝會當日、行幸還幸御道筋延長五千四百間ヲ六區ニ分割シ警戒清淨ヲ全カラシムル爲メ、左ノ通り吏員及備人ヲ配置ス、

技師 一名
技手 二十名 工手 十九名
工夫 三百四十名
四奉祝裝飾警戒
奉祝會當日御道筋裝飾警戒ノ爲メ、左ノ吏員及備人ヲ派遣ス、

技師 一名
技手 九名 雇 四名
工手 三名
奉祝會々場警戒ノ爲メ、左ノ吏員及備人ヲ附ス、
技師 二名
技手 十名 雇 二名
工手 六名
奉祝會後十二月十五日マテ、奉祝會場及附屬建築物ヲ存置シ、市民ノ觀覽ニ供スルカ爲メ、土木課出張所ニ左ノ人員ヲ駐メテ警戒ニ任セシム、
技手 一名 雇 二名

口電氣設備警戒

十二月九日御大禮奉祝會當日、本市電氣局ニ於テ警戒スルコト、左ノ如シ、

竹田若宮殿下ハ、十二月十二日午後五時御學友二名ヲ御同伴ニテ、上野公園内御大禮本市奉祝會式場へ御來場アラセラレ、係員ノ御案内ニテ、御座所其他ノ各室、及陳列品等御觀覽ノ上、同五時三十分御退場アラセラル、

一七警戒

イ土木設備警戒

十二月九日御大禮奉祝會當日、奉祝土木設備ニ對シ、本市土木課ニ於テ警戒スルコト、左ノ如シ、

一、河川警戒
御大禮奉祝會當日、鹵簿通御ノ沿道河川取締トシテ左ノ通吏員ヲ派遣ス、
事務員 一名
技手 一名 雇員 一名
二、橋梁警戒
御大禮奉祝會當日、鹵簿通御ノ沿道橋梁警戒及掃除監督ヲ爲サシムル爲メ、幸橋新橋、京橋、日本橋、今川橋、萬世橋、三橋ノ七橋ニ、左ノ通吏員及備人ヲ派遣ス、
技師 一名
技手 十三名 雇員 一名
工手 一名 工夫 二名 人夫 七名
三、道路警戒

一、軌道警戒

御大禮奉祝會當日、行幸ノ御道筋ニ當ル線路ハ、夙ニ軌道面ノ整理ヲ行ヒ、軌道ノ各橫斷箇所ニハ、當日人員ヲ配置シテ警戒ヲ爲サシム、尙宮内省ニ打合ノ上、左記箇所ニ軌道上撒砂ヲ施行シタリ、
一、芝區二葉町、ガータ下
一、新橋京橋間
一、萬世橋南詰
二、電線路警戒
御大禮奉祝會當日、行幸ノ御道筋ニハ、人員ヲ配置シテ警戒ヲ爲サシム、

ハ衛生設備警戒

十二月九日御大禮奉祝會當日、本市衛生課ニ於テ警戒スルコト、左ノ如シ、

會場内
一、救護所警戒
御大禮奉祝會當日、會場内救護所從事員ハ、前日夜半マテニ諸用具ノ運搬ヲ了シ、當日ハ午前四時半ヲ以テ、各自所定ノ場所ニ集合シ、五時半ヨリ設備全ク成リテ救護ノ任ニ當ル、午後三時閉鎖、醫員看護婦其他係員何レモ隨意散解シ、衛生課員ハ居残りテ所要物品ノ整理ヲ爲シ、役所ニ引揚ケ、茲ニ救護事務ノ完了ヲ告ク、
當日會場内各救護所ニ於テ收容シタル人員左ノ如シ、

會場内救療人員表

救護所	救護所	救護所	救護所	救護所	救護所	計
第一	第二	第三	第四	赤十字社	計	
二	四	一	一	一	二	一〇
二	二	二	二	二	三	一九

(附記) 跡始末

當日午後四時、衛生課所要物品ハ、悉ク之ヲ役所内ニ運搬シ、會場外救護所ノ整理ヲ併セテ翌十日之ヲ行フ、

二、湯呑所警戒

湯呑所ノ設備ハ、前日已ニ整ヘ置キ、當日ハ午前四時半ヲ以テ、従事員各自指定ノ任務ニ服ス、同五時頃迄ハ稍閑散ナリシモ、同六時頃ニ至リ、參列者ノ湯茶ヲ需ムル者漸ク多ク、同七時頃ハ人夫四名ヲ以テスルニ、尙器物ノ洗濯ト供給トニ忙殺サルル程ニシテ、殊ニ第二湯呑所ノ如キ、恰モ場ノ中央ニ位セル爲メ、甚タ繁忙ヲ極メタリ、午前九時半式開始ノ時刻切迫スルト共ニ、會集者皆式場ニ赴キ、自然接待ノ必要ヲ感シタルヲ以テ、湯呑所ハ之ヲ開放シ、人夫ニ監視ヲ命シ、掛員全部ヲ引揚ケ警衛掛ニ編入セリ、

三、警衛

警衛掛員ハ當日午前四時指定ノ場所ニ集合シ同五時各配置ノ任務ニ就キタルカ入場者ハ漸次其數ヲ増加シ同七時頃ニハ第一入口ヨリ入場者ノ爲メ同方面ニ於ケル參列場ハ早クモ立錐ノ餘地ナキニ至レルヲ掛員ハ警察官吏ト協力シ入場者ヲ誘導シテ一方ニミ娯集セシム

四、掃除

アランヨリ同處ニハ警察官吏ト共ニ二名宛ノ交替勤務ヲ以テ警衛セシメタリ以上ノ如キ配備ノ下ニ任務ヲ繼續シ一般拜觀者全ク四散スルニ及ヒ午後十一時半四名ノ夜警勤務者ヲ殘シ解散セリ夜警勤務ハ二時間毎ニ二名宛交替シ徹宵警衛ノ任ニ當リタルモノニシテ一名ハ正殿ノ警衛ヲ爲シ一名ハ式場ノ内外ヲ巡回シテ警戒セリ

會場内掃除ハ、當日式後夜ニ入り、群集雜沓シ之カ施行不可能ナルヲ以テ、翌日之ヲ施行ス而シテ九日御式終了後、拜觀者甚タ多カリシヲ以テ、式場ノ内外殊ノ外不潔ヲ極メ、就中上野驛ニ面シタル崖地及池ノ端ノ傾斜面一帯ハ最モ甚シシ是ニ於テ掃除全區域ヲ六區ニ分チ、各監督者一名ノ下ニ人夫五十名乃至八十名ヲ配置シ、午前七時ヨリ午後一時ニ至リ、大規模ノ掃除ヲ施行シタリ、尙十五日マテハ、一般公衆ノ式場拜觀ヲ許シタル爲メ、自然繼續掃除ノ必要ヲ認め、連日適宜人夫ヲ使役シ、以テ跡掃除ヲ遺憾ナカラシム、

跡掃除成績表

日	別	監督員數	人夫取締	人夫數	塵芥重量
十日		八	一〇	四二二	四、二五〇
十一日		一	二	二八	四〇〇
十二日		一	二	二八	五〇〇
十三日		一	二	二八	三五〇
十四日		一	二	二八	二五〇
十五日		一	二	二八	二五〇
合計		一三	二〇	五六一	六、〇〇〇

五、便所警戒

ルコトナク場内ノ平均ヲ圖リ以テ混雜ヲ避クルニ努メタリ已ニシテ、式開始ノ間近トナルヤ參列者ハ何レモ好位置ヲ占メントシ互ニ先ヲ爭フテ前進シ正殿來賓席ト一般參列場トヲ區別セル警戒線ニ向ヒ一氣ニ押寄せタル爲メ堅牢ニ工作セル境界木柵モ或ハ之ヲ支フル能ハサル虞レアリシヨリ警衛幹部ハ急遽營繕掛員ト共力シテ警戒線ナル木柵ニ支柱ヲ加ヘ一方従事員ハ警察官吏ト共ニ極力之カ防止ニ努メタル結果漸ク靜肅ニ歸シ事ナキヲ得タリ然ルニ是等雜踏裡ニ高齡虛弱者ニシテ後方ヨリ壓迫ト久シク佇立セル疲勞ノ爲メ輕度ノ腦貧血ヲ起シタル者十數人アリタルヲ以テ何レモ充分ナル保護ヲ與ヘ救護班ニ送致シタリ又市公民參列場ハ木柵ニヨリ横埒トナシ數段ニ區割シ其間ニ入場者ノ來往ニ便ナラシムヘク縦ニ數箇處ノ通路ヲ設ケタルモ式開始ノ時刻切迫スルト共ニ各自好位置ヲ占メントシテ埒ノ内外ヲ間ハス前進シ全ク通路ヲ閉塞セル爲メニ却テ埒内ノ參列者ハ動モスレハ進退ノ自由ヲ缺キタルカ如シ式開始スルヤ稍ヤ閑散ニ歸シタル湯呑所勤務ノ掃除監視ハ全部之ヲ引揚ケ更ニ第八班トシテ警衛ニ編入シタリ午前十一時半式終了シ參列者全部解散スルニ及ヒ一般市民ニ正殿ノ拜觀ヲ許シタル爲メ群集ハ各入口ヨリ陸續踵ヲ接シテ入場シ日没ニ至リ益々其數ヲ増加シタルヲ以テ警衛各班ヲ解キ勤務ノ方法ヲ變更シ正殿前面ノ警戒線ニ立タシメ警察官吏ノ交通整理ト相俟テ之レカ取締ヲ爲サシメタリ又式場後方御車奇モ同様警戒ノ要

監督係員及人夫ハ、當日午前四時半會場ニ參集シ、各部署ヲ定メ、其清潔ニ留意シ、終日コレニ從事シタリ、而シテ翌日以後ノ掃除及跡始末ハ、之ヲ土木課營繕掛ニ一任ス、以上各項ノ施行ハ何レモ極メテ好良ニシテ、些ノ遺漏ナク之ヲ完了スルヲ得タリ、當日衛生課施行事項管掌本部ハ、之ヲ凌雲院内ニ置キ、以テ各掛施行事務ノ統一ト進捗トニ意ヲ留メタリ、

當日會場内従事員數

項目	主事	技師	事務員	技手	警衛員	監督員	監視員	看護員	人夫	計
計	三	一	一	一	八	八	八	八	八	三二
(備考)	四谷區書記ハ事務員中ニ、撤水馬車ハ人夫中ニ計上セリ									
掃除ハ當日其施行ナキヲ以テ表ニ加ヘス										

會場外

一、救護所警戒

當日會場外各事務係員ハ、午前四時半市役所ニ參集シテ、所要物品ヲ受領シ、直ニ之ヲ各自擔當ノ場所ニ運搬シ、六時ヲ期シテ開設シ、其ノ勤務場所ノ情況ニ應ジ、或ハ午前中ニ、或ハ午後二時三時頃ニ閉鎖シ、警員看護婦ハ會場内ニ於ケルト等シク隨意解散セシメ、事務係員一同ハ、携帶物品ヲ整理シテ市役所ニ引上ケ以テ救護事務ヲ無事ニ

終了ス、是日救護所ノ收容人員、左ノ如シ、
會場外救護所收容人員

場所	病氣	擦過傷	脚貧血	脚加答兒	切傷	計
櫻町	—	—	—	—	—	—
村井銀行脇	—	—	—	—	—	—
西黒門町	—	—	—	—	—	—
山下	—	—	—	—	—	—
計	三	四	一	—	—	九

(備考) 此外六ヶ所ニハ收容人員ナシ
其他警視廳及赤十字社ニテ收容人員計二十二名アリ

〔附記〕 跡始末

救護所ノ跡始末ハ、直接衛生課ニ於テ建設シタル天幕ノ取毀其他備品ノ整理ニシテ、此等ハ會場内ト併セテ、事務員二名ニヨリ翌十日全部ノ處理ヲ遂ケタリ、
二、便所警戒

奉祝會當日會場外ニ於ケル沿道在來便所及假便所一個所ノ警戒ハ、關係區役所ヨリ人夫一名ヲ配置シテ之ヲ掃除シ、奉祝會終了後、假便所ハ不要ナルカ如キモ、猶當日一日ハ之ヲ保留シ、只其裝飾ノ黒幕ノミヲ撤去シ、翌十日早朝全部ヲ取解キ、所要物品ハ之ヲ市役所ニ保存ス、

以上ノ會場外施行事項、亦些少ノ支障ナク之ヲ施行スルコトヲ得タリ、尙當日ハ、市役所ニ豫備員ヲ留メ、各所ヲ巡視シテ、其補充ト聯絡トヲ計リ、以テ缺遺ナキヲ努ム、

當日會場外從事員數

事務ヲ休停シ、市立小學校亦臨時休業ヲ爲ス、

二〇 橋梁點火裝飾

十二月九日奉祝會當夜、本市土木課ハ、點燈裝飾ヲ有スル左記橋梁ニ點火ノ裝飾ヲ爲ス、
日本橋 鍛冶橋 四谷見附橋

二一 電車運轉變更

十二月九日御大禮奉祝會當日、本市電氣局ハ、電車運轉系統ヲ變更シ、竝ニ一部ノ運轉ヲ中止ス、即チ左ノ如シ、

電車運轉變更

- 一九日雨天ノトキハ十日午前四時ヨリ運轉ヲ開始ス、
- 一、左記ノ通り運轉ヲ中止ス、
 - 一、須田町上野車坂町間
 - 一、御茶ノ水萬世橋間
 - 右ハ午前六時頃ヨリ同十一時半頃マテ、
 - 一、車坂町雷門間
 - 一、本郷三丁目御徒町間
 - 右ハ午前七時頃ヨリ同十一時半頃マテ、
 - 一、三宅坂築地茅場町間
 - 一、赤坂見附芝口間
 - 一、御成門小川町間
 - 一、小川町淺草橋間
 - 一、須田町本郷白山上間
 - 一、土橋吳服橋間
 - 一、大門須田町間
 - 一、常盤橋淺草橋間

項	日	事務員	技手	醫員	監視員	看護婦人	夫	計
豫備員	九	—	—	—	—	—	—	九
救護所員	—	—	—	—	—	—	—	—
撒水係員	—	—	—	—	—	—	—	—
計	九	—	—	—	—	—	—	九

(備考) 撒水馬車ハ人夫ニ計上ス

〔附記〕 當日御道筋各區ニ於テ、掃除撒水及便所警戒等ニ任シタル者、左ノ如シ、

當日關係各區從事員數

區名	書記	記書記	補員	具掃除監督	掃除監視人	夫	計
區名	二	—	—	—	—	—	二
龜町區	—	—	—	—	—	—	—
神田區	—	—	—	—	—	—	—
日本橋區	—	—	—	—	—	—	—
京橋區	—	—	—	—	—	—	—
芝區	—	—	—	—	—	—	—
下谷區	—	—	—	—	—	—	—
計	二	—	—	—	—	—	二

一八 警備

市内各區ハ、御大禮中ヨリ引續キ、奉祝會前後モ、各町ヲ警備シ、或ハ自身番ニ依リ、或ハ區民各自ニ火ノ元其他ヲ警メタリ、

一九 事務休停

十二月九日奉祝會當日、本市役所及所屬公廳ハ、

右ハ午前八時頃ヨリ同九時半頃マテ、

一、淺草橋九段下間

一、須田町本石町間

一、須田町本郷白山上間

一、御茶ノ水吳服橋間

一、小川町比谷間

一、大手町日本橋間

右ハ午前十時頃ヨリ同十一時半頃マテ、

一、運轉中止區間ニ對シテハ、乗換切符ヲ發行セス、

二二 花電車運轉

十二月九日御大禮奉祝會當日ヨリ、十四日ニ至ル六日間、本市電氣局ハ、左ノ豫定計畫ニ基キ、奉祝花電車ヲ運轉ス、

奉祝花電車運轉日割

月日	七曜其他	車數	運轉線	運轉回數	收容車庫
十二月九日	木	五	品川淺草上野三田間	午後一回	三田
同十日	金	五	品川上野淺草箱根線及三田小川町須田町間	午前一回 午後一回	同
同十一日	土	三	青山箱根線	同	青島山
同十二日	日	二	新宿箱根線及新宿萬世橋間	同	大新
同十三日	月	二	深川線江東橋線	同	日本比谷
同十四日	火	三	三ノ輪線南千住線	同	廣三ノ輪

- 一、大通線ハ雨天順延
- 一、其他ノ線ハ雨天中止
- 但シ、大通線順延ノ場合ニ限り順次繰延ス、
- 一、九日上野行幸還幸ノ際及東京實業組合聯合提灯行列等ハ之ヲ避ケ運轉スルモノトス、
- 花電車名稱
- 一、櫻ニ橋聖壽萬歳
- 一、麒麟ニ鳳凰
- 一、藤ニ牡丹
- 一、胡蝶ノ舞
- 一、蓬萊山
- 以上五臺

二三煙火

十二月九日御大禮奉祝會當日、本市ハ本市水道課監督ノ下ニ豫定ノ煙火ヲ打揚ケ、祝火ニ點火シ、又輕氣球ヲ飛揚セリ、

一、煙火

打揚月日	打揚場所	本	數	請負人氏名
十二月九日 (市奉祝會)	第一高等學校構内 芝浦埋立地	夜	一四〇〇	鍵屋篠原彌兵衛
		晝	八〇〇	
		夜	九〇〇	
		晝	八〇〇	
				平山煙火製造所主 小野よし 玉屋及川博之

二、祝火

- 鍵屋篠原彌兵衛ニ請負ヲ命シ、不忍池上ニ於テ五十臺ヲ點火ス、
- 三、輕氣球
- 鍵屋篠原彌兵衛ニ請負ヲ命シ、大小四拾個ヲ飛揚ス、

二四市民奉祝

前に出で三ヶ所の公衆出入口から入場し式場を遙に距る櫻並樹の道以東に參列する以上來賓參列者及市民通過道路に沿ふ長大な區域には二重にも三重にも紅白の幕を張り詰め裝飾用と共に群集の亂入を防ぐことにする山下門を御通過の 天皇陛下には直ちに小松宮銅像前綠塔造の正門をやらせられ左折し更に右折して御便殿に御到着あらせらるゝ御豫定である而して此の正門も六日中には全部落成することになつて居る

山下門から正門までの間は内外裝飾會社の請負で十間隔毎に裝飾柱を建てることになつて居れどまだ著手して居ない而して此間には東京市小學校生徒の參列場が設けられる何分にも六萬餘の市民が集まることであるから市は十分警戒して救護所三箇所便所九箇所を設け且つ來賓や入場者の人力車及自動車置場も嚴かなる用意を整へて居る

下谷の蒲飾 山下門から廣小路黒門町通り外神田界までの町飾は去月十日前後のものに大差はないらしい只三枚橋の鐵柵が取り拂ひになつて其跡に下谷區の奉祝塔が瓦斯裝飾を施されて立ち又區界の大綠門塔は新裝新に成つて一層莊嚴の度を加へ問題たりし本郷同朋町の高い廣告塔は青簾で圍はれて正面には奉祝的の裝飾をして不體裁を現はさぬ如になつて居る (五日正午記十二月六日國民新聞)

飾られた一千四百町(中)
行幸道路は眼も覺むる新粧
九日 陛下奉迎準備の爲めに東京市の繁忙は目も當てら

御大禮東京市奉祝會當日ハ、聖上陛下上野公園式場へ臨御在ラセラルルニ依リ、行幸還幸ノ御道筋ハ鹵簿奉拜ノ市民早朝ヨリ群集シ、夜ハ亦實業團體ノ奉祝提灯行列宮城上野間ヲ練テ頗ル壯觀ヲ極ム、

(參考)

飾られた一千四百町(上)

聖駕を迎ふる上野の設備

御大典東京市奉祝の十二月九日は實際に迫り式場に當てられた上野公園竹ノ臺の奉迎建築も略ぼ落成して七日中には一切の裝飾も全部出來し八日は只不備の點を修整する豫定である

式場の概要 式場は宮殿造り其屋根は擬檜皮葺天井は格天井で其坪數は六十三坪である左右參列席八十五坪御便殿百二十三坪に附屬屋等總計三百坪になつて居る式場には壁代を掛け中央に三段上り擬高御座の玉座を設けて皇族及供奉員は式場に總理大臣以下の大官顯職數百は左右參列席に居流れ其餘の參列者は式場前の土間に參列する而して文展跡の五號館は三千來賓の休憩所及食堂になる筈山下門以北 壯大な山下門は目下建造中である奉祝當日は此の門の左右に受付を設けて來賓は直に正門方面に進んで大佛前を左折し動物園脇を美術學校横に出で右折して博物館前の裏門から式場に入る五萬八千の市民は山下門から袴越の石段を西郷銅像下に入り摺鉢山下を凌雲院

れぬ位なり御沿道施設は未だ半ばも落成し居らざれば係員は今夜を徹宵するも七日中には大略竣工せしめんとしつゝあり

丸の内の市飾 神田橋より櫻田本郷町に至る丸の内道路は一切東京市にて直接裝飾することになり居り其飾り方は馬場先門より東京驛に至る間の現在のものを其儘要用する次第なり又馬場先門の萬歳門は新裝改飾して面目を一變したり日比谷公園前電車交又點四ツ角には四本の奉祝塔を建て櫻田本郷町には架空線を越えたる綠門を造りつゝあり

芝口須田町間 新橋驛有樂町間の高架鐵道下は御通路になり居れば御通路上の鐵橋は遺憾なきまで裝飾を施さんとしつゝあり芝口より新橋に廻る角には四本の柱を建て、大國旗を翻へし新橋の勾欄は十分に裝飾せらるべし京橋の奉祝門は京橋區建築の奉祝門を其儘用ひ日本橋の大奉祝門も區にて多少手入れせしむゝにて市は少しも干渉せず只橋の勾欄は市にて直接飾ることゝせり神田日本橋の區境なる今川橋には極めて新規なる裝飾をなす筈にて架空線上に葡萄棚狀或はハンモック式の網を張り之に電氣裝飾は申すに及ばず色々の裝飾をなしつゝあり

上野神田橋間 須田町は餘りに架空線に富み手の付け様もなければ電車交又點の四ツ角に四本の柱を建て其上に馬連狀繩式の裝飾をなし又上野三橋にも須田町の如き繩式飾柱二本を建てつゝあり御還幸道路に當れる神田小川町には芝口の如く柱四本を建て、大國旗を翻へし神田橋に

は二本の奉祝塔を建て橋の勾欄は新橋の如く裝飾な
り、(六日正午記) (十二月七日國民新聞)

飾られた一千四百町下)

統一のある神田の町飾り

神田橋から櫻田本郷町に至る間の市直營の町飾りは高さ
四間の源平棒の尖端に櫻の圖案裏面は橋を設らへ三尺許
り下に腕木を渡して長き房六筋を垂らし其先には五つの
煙火玉を飾り付け兩側には國旗を建つる一種と高さ三間
の二本の源平棒の先に杉の葉を注連繩にて結び房を垂ら
し旗二枚を取り付けたる物との此兩種の棒を十五間を隔
て、交互に建てたり

華麗な銀座通

櫻田本郷町土橋間の兩側は日月に因む意匠
を源平棒の尖端に交互に飾り付けること大典當時の通り
にて土橋芝口間は青竹に注連飾り例の如く新橋通り出雲
町は源平にあらずして青と白との柱に青と白との幕を張
り渡し奉祝文字や奉祝歌奉祝樂譜を現はし銀座は白色の
モトルを新に取り換へて町飾りとし見世飾りは各戸各様
の意匠を凝らし居れり南傳馬町附近にては青竹を棕櫚繩
にて結び居れり

常磐木と紅葉

日本橋通りの町飾りは例に依つて綺羅區々
様式は十町十色にて唯々目醒むる許りなり白木屋附近の
瑞の幕には新に杉葉を飾り付け魚河岸附近は根付け常磐
木に注連飾り舊に依り三越前は注連飾りに丹楓燃ゆる許
りのものを取り添へ町飾りとし尤も人目を眩す
青竹に注連飾り 神田は従來内神田外神田の二種に統一され

宮城前廣場

宮城前の裝飾は面目を更めて、兩側に建て列ねたる十數の、
萬歳旗朝風に翻る、午前七時には橋際より萬歳門に至る兩
側は早くも拜觀の群衆に滿されたり、八時半には右側に高
等師範附屬小學生徒四百名が小國旗を手にして並びたる
を始めとして麴町區内の各小學生、豊鳴學校生等あり、左側
には千葉師範生を始めとして、慈惠醫院、府立一中、順天中學
等の學生三千餘名整列す、やがて九時十五分、囀鳴たる喇叭
の吹奏御出門を報じて、鹵簿肅々と二重橋を渡り、馬場先へ
と進ませらる

馬場先門前

馬場先前の電車通には兩側と中央の三列五間置位に憲兵
と警官が立つて警戒す、拜觀者は七時頃から詰かけて商業
會議所に陣取り、八時頃には其隣の空地明治火災の前帝劇
前など一杯の人となる、花賣の婦人連は其後を寒さうに賣
歩き、麵麩や密柑の行商も警官に追はれながら彼方此方と
徘徊す、九時二十分鹵簿肅々馬場先門を出で、帝劇前通御の
際陛下には陪乗の鷹司侍從長と何事かを微笑れ乍ら仰せ
らる、麗はしい龍顔を拜し奉つて群衆は皆難有さに感泣せ
り

日比谷附近

日比谷附近は前夜裝飾を一新し、公園入口と日比谷俱樂部
前に奉祝塔を建て、尙二三間置に金環を垂れたる裝飾柱を
連ぬ、網の中にギッシリ列んだ拜觀者は何處もさしたる混
雑なく、新聞紙の上に坐つて靜かに通御を待ち愛國生命の
右側には社員の家族連、華族會館前には花のやうな夫人令

(四一八)

し町飾りなりしが今回新に全區青竹に注連飾りを取り加
へ一層統一熱を發揮し今川橋萬世橋神田橋昌平橋萬世橋
末廣町間の御通路には些の不淨をさへ見せじと努力しつ
つあり兎角不體裁なりとの非難多かりし鐵道院の高架線
敷地の空地には或は積樽を重ね或は山車造物を飾りて空
地を全く美化せり(七日正午記) (十二月八日國民新聞)

二百萬の驀聲

十二月九日、我大日本帝國の首都たる東京の市民は、天皇
陛下の臨幸を上野に仰ぎて御即位大禮奉祝の典を舉ぐ、光
榮ある都よ、光榮ある民よ、街々更に粧ひを新にして、戸々盡
く悦びに溢れたり、萬歳！萬歳！！萬々歳!!!

行幸御道筋

宮城御出門

千代田の松の梢に瑞雲たなびきて、九日の佳き日はほのぼ
のと明け放れたり、曉の空に稍や薄雲りたれど、錦旗宮城よ
り翻めき出づる頃には、美しき天皇日和となりぬ、天皇陛
下には午前九時十五分宮城御出門あり、鹵簿は第二公式に
準じ、大元帥の御禮裝にて普通儀裝御馬車に乗御陸軍少將
の禮裝せる鷹司侍從長御陪乗申上げ久邇宮北白川宮兩殿
下を始め奉り小禮服にて普通馬車に乗れる供奉員を従へ
させられ、正門より右へ馬場先門跡を出で、右へ濠端通り、有
樂町一丁目通櫻田本郷町角を左へ、二葉町通芝口一丁目角
を左りへ新橋を渡り、銀座通、京橋、日本橋、今川橋通りを経て、
須田町の角を右へ、萬世橋を渡り、舊御成道より三橋を経て
上野公園内式場正門に入らせらる

娘連、勸業銀行前には富山縣の在郷軍人がズラリ居列び其
間を天野、岡田長谷川女史等以下の花賣が胡蝶の如く縫ひ
歩けるは美しかりき、通御の時三浦警視は臨機に濠端の空
地に拜觀者を整列させたるが、總て靜肅に鹵簿を奉送せり

櫻田本郷町

御通過の時間近づくと共に拜觀人益す加はるより警官は
交叉點の奉祝門の柱高く二重橋、日比谷公園附近に多數を
容るゝ餘地ありと貼札したる爲、群衆は其の方面に赴きた
り、騎馬巡查來ると共に交通を遮斷し、南側西側の電車線路
の上に婦人のみを入れて混雜を防ぐ、交叉點より土橋にか
け芝全部の小學生、慎まし氣に控へたり、九時二十分風聲通
御、群衆を靜めて奉迎せり

土橋と新橋

新橋の上には芝と京橋の共同に成る古風なる飾りあり、人
數刻々に加はりて、さしもに太き警戒の網も切れんす有様、
騎馬巡查來れば混雜は一時止み、去れば又混雜す、九時過ぐ
る頃風聲を拜す、陛下には土橋附近に飾られたる土佐の
花臺人形に御目を著させ給ひ、陪乗の侍從長に何事か御下
問ありしやに拜せり

銀座の大通

兩側一帯の飾り鮮やかなる中に、京橋畔の奉祝門の菊花古
き儘なるが目につけり、京橋區内各小學校生徒は手に國旗
を持ち、女生徒は赤いリボンを束髪に結んで奉迎せるが美
くし、銀座二丁目右側には區内の天盃拜受者五十餘名控へ、
拜觀者は兩側とも二十重の人垣を作れり

(四一九)

京橋より日本橋邊の商店も皆店頭を片付け軒下に假床を設けて、家族知人の奉拜所を設らへあり、七時頃より京橋日本橋の高等小學校生徒及び一般の拜觀人にて兩側の入道を埋め人は刻々に増し九時頃日本橋詰村井銀行側の遮斷線破れて一時非常の混雜なりしが警官の盡力にて辛く鎮まる、九時四十分先驅騎兵の槍旗見るや一齊に脱帽し、罷車通御の折は思はず萬歳を叫びて奉迎しまつりしが、中に娘に手を曳かれて七十歳位の老婆、斯變によく拜んだのは始めてだ」と難有涙を流し居たり

午前六七時常ならば混雜の最中なる魚河岸が業を休みし静けさ、寧ろ淋しさを感せり、それより北須田町までの一帯は未明よりの人出、八時には日本橋區内十三校約三千の小學生が室町より今川橋迄、今川橋より須田町迄は神田の各小學生約二千が整列す、三井物産前の塙は撤せられて棧敷が出来、三井同族社員等が奉迎せり、一帯幾重の人垣中須田町にて奉迎せし群衆、雨簾通御の際、威に打たれて我知らず「萬歳を奉唱し、警官の注意を受けたり

廣瀬中佐の銅像附近は、混雜名狀すべからず蜜柑箱、酒樽を賣り歩く者あり、忽ちにして賣り切れたり、車道と人道とを麻繩にて區分され、その五歩に一人の割りにて佇立する警官、通御間近になると共に儼然として眼を八方に配る、萬世橋畔には花の日會の婦人數十名花を賣りつゝ奉迎せるが

代生徒約五百名、教職員等が控へ、九時に全く往來を遮斷し、御幸大路は掃き淨められたり、恰も十時、上野の鐘歡喜に響き渡る時、雨簾廣小路を通御あり、萬歳の聲、何處からともなく湧立ちたるが、雨簾は些さかの亂れもなく肅々として進御ありたり、群衆は還御を待ち動くとも見えざりき

やがて十時五十分、還御の雨簾を再び上野山下廣小路に迎へ奉り送り奉る、通御後稍や暫くして崩れたる群衆は、見渡す限りの大路を忽ち眞黒に埋めたり、廣小路より須田町に至る間も、奉迎の群衆なほ去り遣らずしていと靜肅に控へ、芽出たき還幸を送り奉りぬ、外神田署の取扱ひたる事故は、只迷兒三人あるのみなりしが、いづれも問もなく父兄の手に復り、ニコ／＼として歸り行く、問もなく美しき花電車が南をさして幾臺も續き行くに又一しほの雜沓を加へたり

還幸の御道筋は須田町より小川町に折れ、行幸の時と順路を異にす、行幸の雨簾通御後一時に交通遮斷を解きたる爲、須田町界隈の雜沓は海嘯の如く大渦を卷きたるが、十時半頃よりは更に還幸を待ち奉る可く再び交通の整理を初めれば、問もなく拜觀者は道の四方に押分けられたり、されど此の時、銀座、日本橋方面に在りたる人々、還幸の模様をも拜せんとして押寄せ來るもの相踵ぎ、十一時五分通御の頃には、さしもの廣場も人に埋る程の騒ぎなりき

眼を惹きたり

各戸の店先には棧敷が設けられ、金屏風の床しきが多し、萬世橋より下谷黒門町に至る兩側は殆んど拜觀の人を以て満たされ、中に神田婦人會の八百名、小學生徒、その保護者數萬人の團隊が目立つ、數箇所に飾られたる山車は賑やかに囃し立てたり、九時十五分頃、田代町榮町角にて警戒の繩切れて大騒ぎ、問もなく松住町角にては前に跪座せし人々を後ろより押したる爲坐したる人々は前に偃めり、人の下積となり、中に右手を踏まれて挫きし婦人一名あり、通御一時間前、埼玉師範學校生徒四百五十名來つて黒門町角に堵列奉迎せり

拜觀に屈強の所として、電車が運轉を停止せし頃は、兩側歩道人を以て埋まりゐたり、松坂屋前には上野高等女學校の生徒、その向側には下谷高等小學校生徒、廣小路西側には下谷區内各小學校生徒全部、東側には下谷在郷軍人團が奉迎せり、各飲食店は店先に板敷を構へ、御來客様拜觀席と貼紙したるが多し、山下奉祝門前には市の受付所があり、「一般入口」「來賓入口」を立札し、吏員が道を塞ぎて「入場證を出して居て下さい」と一々調べ、一般公民は此所にて俸を降され石段を上る、それが六萬の人數として六時より八時迄二時間餘り石段の上に更らに絹帽山高の段々を作れり、參觀證を持た來賓の馬車、自動車、俵は山下道を真直に、動物園より博物館の方を廻りて式場に入る、山下門の内には市内各小學校の總

小川町より神田橋に至る間の東側は、高さ三尺許りの棧敷を店頭に設け、それに藩を敷きて拜觀せる家族多く、西側には區内の小學生徒全部が小川町より神田橋際まで、整列せる外、變りしこともなし、還幸と行幸とは拜觀者の心持も違ふものと見えたり、警視廳よりは第五中隊本部を神田橋際、の和強樂堂に配置し、尙同所と美土代町青年會館内とに救護所を設けたるが、救護を受けたる者はなかりし様子なり

還幸の雨簾拜觀の群衆、丸の内差して四方より來り、十時頃より刻々に殖えたり、十一時ごろ騎馬巡查還幸の前觸れを爲し、警戒の警官人拂ひを始め、東側人道は明治保險より東京驛前通は人と人とが芋洗ふ混雜、十一時十五分と申すに還幸の雨簾拜さるゝと共に騒がしかりし群衆、鳴りを靜めて奉迎せり

馬場先より宮場前にかけては、更に新しき人出に賑ひたるも、些かの混雜もなく、群衆は極めて靜肅に還幸を迎へ奉り送り奉る、悠くてこの日の東京に榮ある光りを被らしめたる尊き風景は、午前十一時十五分と申すに芽出たく宮城に還御あらせられたり

(十二月十日萬朝報)

本月九日、聖上陛下上野なる東京市奉祝會へ行幸あらせらるゝに付き、御道筋に當れる各區にては何れも更に裝ひを凝らして奉祝の誠意を表するが中にも、江戸ッ兒の精銳を以て任ずる神田區民は、當日御順路なる内神田に七木外

神田に三本の

各町特有の山車

を飾り付け天覧に供へ奉らんと夫々準備中なりしが愈鍛冶町より通新石町に至る左右兩側に通新石町の歳徳神豊島町の玉取姫鍛冶町の三條小鍛冶旭町の龍神、堅大工町の飛騨内匠萬世橋際に須田町の關羽、佐久間町一丁目の素盞鳴尊、外神田署脇に旅籠町一丁目の翁、同町二丁目の和布莉神事、臺所町の石橋の山車等

都合十本の節附

に著手し向多町、連雀町三箇所の青物問屋組合にては萬世橋際に蓬萊の庭を設け新調の燒印美事なる盤臺一千餘個を積上げ美觀を呈する事となり三十日來消防夫連が小屋掛に著手したれば全部出來の上は頗る壯觀を極むべしと

(十二月二日中央新聞)

式場の内外

静肅な市民の誠意

師走の月と云ふに花曇に似た天氣、上野附近一帶は此の日に限つて一時二時

早く夜が明け

放れた廣小路から三枚橋の間迄兩側の入道は下谷區内の各小學校生徒を前に其の背後へ一般の奉拜者が暗い内から轟々と詰掛けた上野の戦争時分から其の店名を唄はれた伊藤松坂屋呉服店はこの日臨時休業廣々として飾窓へは全部白絹のカーテンを下し其前へ木柵板敷の奉拜所を設けて

男女の店員がズラリ並ぶ向ふ側の栗田といふ茶舗は金屏

(四二二)

風二双を持出し綺麗に拭込むだ店火鉢を真中に据ゑ店主夫婦から臺所の女中まで店の者に交つて古風な奉拜をしてゐた山下寄の寄席鈴本亭は前掛が三階で

抜群の高きだが紅白の幔幕で其窓々を目隠しした模様誠に美事だ第二商品館は鐵の鏡戸がピツタリ下りて中央だけが開かれ其處に出品人一同角帯を揃へて立つた廣小路の電車交又點は午前六時頃から既に電車の運轉を中止し警戒も充分に行渡つてゐたので芋を洗ふ様な混雜であつたに拘はらず群集は餘り動いて押合ふ事はなかつた三枚橋の手前から池の端へ出ると、揚出しの裏手に當る處へ第二廿二中隊の警官休憩所が大きな天幕を張つてゐる外人の影は極薄く急に朝寒を感ずる位だつた三枚橋の警戒線は廣小路の四角より一層嚴重で

橋の羽織に袴

を著けたと云ふ風體の者はドシ／＼と元來

た方へ押戻されてゐた、活動寫眞の都座は此の警戒線の中に在るのだが杉の葉、國旗、幔幕等で表を飾り立て手引の女連は後の方に館主の親戚知己と云うた風の婦人連が前方で木柵の中に整列してゐた、御道筋の入道と車道とを隔切つた太綱は三枚橋際で盡きてゐるのだが太綱の全延長五里十丁、即ち五里十丁目の端が此の三枚橋際であつたのだ、警戒別働隊の總大將橋爪係長が中山にフロッタと云ふ姿で一名の刑事を従へ、歯籬の見え始めるまで此の橋際に凄い眼を光らせてゐた

一般入口

滿員また滿員

公園入口の奉祝門へ近附くと、來賓入口だとか一般入口だとか階級の立札が立並んでフロッタの襟に

濃紫色の菊

の造花を附けた市吏員が入場券を御手に御持

下さいと注意してゐる、來賓の入口は西側で誠に人通りが

少く自動車なども自由に駛走出來る有様だが東側の一般

入口は奉祝門の傍門を潜る時など急に道が狭まくなるで

呼吸が止まる程、一時は押された時もあった、此の入口から

入場する群集は

所謂公民の塊

で西郷銅像前へと石段を登り詰ると第二の

關門が出來てゐて入場券は其處で取り上られ代りに記念

素燒の盃を受取る石段上に立つて山下から廣小路を

見下ろすと

奉祝門、國旗、幔幕、提灯、萬歳旗と總る色を集めた

彩色の中を一筋黒くなつて參列員が陸續と詰めて來る趣

は誠に廣大なものだ清水堂へは繩張が出來て登らせず常

盤華壇は東京市吏員の休憩所に當てられて其處も無暗に

入れなかつた、東京美術協會と摺鉢山の間を抜けると間も

無く

式場の第一

入口、杉の葉、菊花、幔幕で飾り立て門構へととなつ

て急に春の上野へ來た様な心地がさせられる、此入口は午

前七時頃に滿員の貼札が出た、一丁程で第二の入口、此處も

第二番目に滿員でお仕舞迄空てゐたのが第三入口だつた、

式場は竹の臺陳列館脇で一般の參列する場所は春に小學

校の生徒が能く

運動會を開

いてゐる處、入口は三ツでも丸太で區切りした

だけなので入つてからは共通紫宸殿擬の式壇が此方を向

上野の式場

(十二月十日讀賣新聞)

二百萬の東京市民が熱誠を罩めて祝意を表すべき奉祝會場は、冬枯の木立自らなる森殿を示す上野公園の竹の臺の廣場に設けらる、南方の正門は鳥居形の綠門にて左右に古代花輪を飾り、春日燈籠を置きたる先づ神々しく博物館に向つて左手の空地には玉座を設けたる紫宸殿に象りし大殿堂殿かに立ち、中央玉座後方に美しき衝立を立て、正面十八階段の眞上には隸書の萬歳額を掲げ、格天井に描かれたる鳳凰

奉平の御代

に翱翔せるにも似たり、正面一面に青く縁取り

たる淺黃の御簾懸けられ、後方の壁代には瑞雲に霞模様あり

階段左右には左近の櫻、右近の橘に擬へたる二鉢の女松

男松濃緑の色美しく、參列高官の爲めに設へたる左右の袖

は後方を青白にて彩りたる壁代に圍まれ、前には三本宛建

て連ねし日月の蠶簾微風に靡き、正面には市の紋章を染抜

ける紫の幕を垂れ、更らに兩袖より斜めに淺黃と白との幔

幕を張り、三本の萬歳旗の間には十本の小旗を配す、玉座の

背後には別に御便殿ありて玄關を入れれば左右には府市物

産教育品の陳列室、皇族室、供奉員室、市長、市會議長等の各室

ありて木の香高く、玉座前面式場は總て黃白及び紅白の幔

幕にて繞らされ、東方に三箇所の入口を有し、玉座と相對せ

(四二三)

る遙かの東方には大小七歳の萬歳旗立てり、前庭境内には前方は三千三百人を容るゝ來賓參列場、其後ろに

五萬餘人を容るゝ入場券持參者參列場あり、市民は味爽四時過より早くも詣寄せ來るもあり、九時頃になりて梨本、竹田兩宮殿下を始め奉り、大禮服燕尾服の文武大官等何れも自動車馬車腕車にて參著し、静かに著御を待ち奉る中、日光雲間を洩れ出でたる十時五分、函館簾々として著御あらせらるゝや、燕尾服に紺帽揃ひの市會議員は式場正門内にて奥田市長、中野市會議長は御車寄にて奉迎申上げ、陛下には軍樂隊の囀鳴たる奏樂裡に、市長、市會議長の御先導にて便殿に入御あらせらるゝ御休憩中、御先著の梨本竹田兩宮御同列の久邇北白川各宮殿下其他に謁を賜ひ市長は波多野宮相の手を経て東京市勢に關する圖書及び市内高齢者四千二百二十九人の名簿を獻上し奉る、此間參列の文武官は玉座左右の席に昇り終れば、十時廿分、陛下には伊藤式部次長の御先導にて各宮殿下其他を従させられ、君が代の奏樂裏に式場に出御參列諸員最敬禮を行ひ中には覺えず萬歳を高唱するもあり、陛下には龍顏殊の外麗はしく、大元帥の御正装にて大勳位章を佩はせ給ひし風爽たる御英姿を運ばれ、錦を覆ひし卓を前にして玉座に著かせ給ふ、此時市長は鞠躬如として階段を登り、恭しく賀詞を捧げ、所定の位置に就いて、天皇陛下

萬歳を三唱、すれば、諸員悉く之に和し其聲上野の山を搖がし、全市の大氣に和樂の調を漾はせしかと思はる、十時二十分、陛下には一同の最敬禮裏に、便殿に入御、此間市長よ

員三千人の大食堂が開かれた元老並に各大臣一般參列員といふ順に、歡喜の極みといふ陸軍樂隊の陽氣な奏樂につれて食堂に繰込み始めた食堂の天井から降るやうに吊された藥玉の下芳香馥郁たる盛花に對し

美酒を啣る三千の紳士の眉宇には一

様歡喜の色が溢れて居る奥田市長の挨拶があつて後松方老侯が起つて、吾輩は市の代表者として市の萬歳を三唱する、と壯者も凌ぐ聲を振り上げて、嗚呼之に和して一同は場も破れよと許り萬歳を高唱した打見れば奥田市長と松方侯と土方伯と川村元帥と其他の大官連は卓を圍んで相對し、お目出度う、天氣都合が良く何より結構など、飲み且つ語つて獻してゐた

(十二月十日やまと新聞)

假裝行列で式場へ

御還幸後上野の賑ひ

十時二十分式が了つてやがて、聖上陛下が御還幸に相成り最う自由に式場に入つても好いと成ると今迄張り切れ相な思ひで沿道に拜觀して居た群衆は水の低きに流るゝ如くに東西南北の入口から雪崩込んでさしに廣大なる上野公園も人ももつて埋まる、其中何業者の團體か知らねど達磨兎籠で作つた高さ一間もあるシルクハットを冠つたなぞの假裝行列が練り込んで來る、其後からソッショイソッショイと子供神輿が揉み込んで來ると云ふ大景氣公園内は何處も彼處も人の波が渦を巻いて居る御殿の中には、陛下が御著席になつた御椅子も御卓もまだ其儘になつてあつたので之れを拜まんと締めき合ふ人も非常な

(四二四)

り宮相の手を経て市の獻上品目録を奉獻し、尙陳列の教育學藝品及生産品を櫛はせられ、特に露國に輸出の軍用靴に御注目ありて、寂感斜ならず、斯て暫く御休憩の後諸員奉送裡に十時三十五分還幸の途に就かせ給ふ、陛下還幸後文展跡洋館の大食堂開かれ立食の饗あり、市長及市會議長は直ちに御禮の爲宮中に參内、又參列各宮殿下方へも、伺候御禮を言上し、斯くて御大典の最後を飾れる東京市奉祝會は目出度も終りを告げたり

(十二月十日萬朝報)

祝宴場

松方老侯の挨拶

奉祝式終了後三千の來賓は一旦休憩室に入れり金モールの燦然たる燕尾服の瀟洒たる互に入り混つて、歡談漫語暫くありやがて、囀鳴たる奏樂の音起り、開宴を告ぐるや來賓一同著席す、酒盃遍く到りて奥田市長は主人側を代表して本日の盛儀に際し、貴顯紳士の來臨を辱なうしたるは、寔に光榮とする處なり、茲に深厚なる感謝の意を表する旨を告ぐ、次で松方侯爵は來賓一同を代表して、斯る盛大なる儀式に參列するの光榮を有したるは一同の深く感謝する處なりとの挨拶あり、夫れより同侯爵の發聲にて萬歳を三唱し、一同乾盃す、此間網えす奏樂起り、元老大臣親任官以下降んに酒杯を飛ばし、一同十二分の歡を盡して正午芽出度宴を撤せり

(十二月十日時事新報)

食堂内の和氣

松方侯の萬歳

陛下還幸遊ばさるゝと間もなく十時五十分と云ふに參列

もの併しそれは少時にして片附られて了つた市では有資格者の家族の人々にして希望の者には式場の御殿内を拜觀させたので、裾模様や白襟紋付の婦人などが入り替り立ち替り登殿して物珍らしげに眺めて居た因に御殿は來十三日頃迄その儘にして市民に縦覽させ、其後取り壊した上、何うするか就ては目下協議中である、(十二月十日國民新聞)

行列五萬人

陛下、東京市臨幸と云ふ光輝ある九日の日は暮れた、五時五分前合圖の煙花一發轟然として日比谷の空に揚ると、音樂堂前のグラウンドは五六萬の鬼燈提灯が一時にパツと點せられた、之ぞ東京市十五區實業聯合會の奉祝大提灯行列の第一歩であつた

紅色の灯影

はユラ／＼と揺れて灯影に映る姿は尻端折つたのや、向鉢巻に威勢の好いのや、印半纏に股引の揃ひや、新調の記念白服隊や小僧さん、番頭さん、職工、事務員、扱ては袴やお道化たのが千姿萬態、其が一人々々提灯の柄を肩にしたのが、眞晝のやうに讀めて其上には更に高く萬燈と旗が林立してゐる、之を又た見物する市民の群は女子供で日比谷の内外人垣を築き、警官は聲を暖して制止する、正五時、第二發目の煙花は飛んだ同時に、ブーカドン／＼萬歳——ウソー／＼と諸の聲が寒天に響いて、東京全市に響する許り先發隊の幹部連は奉祝と染た手提灯を提げてブーカ／＼、ドン／＼と練り出した紅蓮の雪崩れが動き揺めき、一隊又一隊公園の大道を進んで櫻田門から二重橋指して揺らめき行く、櫻田

(四二五)

門前の電車線路には警官隊と監督とが提灯振つて電車と行列の警戒に夢中である

標田門から

日比谷を出る行列を眺むれば木の間に縫ふてチラ／＼してたのが忽然紅火の塊となつて吐き出される、足を宙にして地上から六七尺、ユラリ／＼フラリ／＼と進むのがお濠に映つて星影も利鎌の月影も全く光を失ふ、誠に是れ昭代の市民が赤誠を吐露した紅灯の反映である、行列が全く日比谷を出拂つたのが七時で先頭は既に上野の坂に掛つて居つた、玉の宮居の掛橋には今爛々と四邊眩ゆき電燈が點いた、二重橋畔に立つて眺むれば遙に見下す馬場先門内の奉祝萬歳門も愈々夜の領分に喰ひ入つて、華やかな風致を見せて居る、賑々しい樂隊を先頭にした提灯行列は小松の黒い梢を越して向ふに見える、待つ程もなく樂の音と喇叭の聲と萬歳の叫びとが連る火の河に推されて段々と近付いて来る陰曆三日の月は聲もなく皇城正門の眞上に懸つて、お濠の水は只銀色に光つて居る、此の森嚴言ふばかりなき

二重橋畔の

静寂は刻一刻と悦びに満ちた民の聲に破られて来る、二基の高張を前にして樂隊を中に後に六十名の幹部から成る代表隊は五時二十分橋の袂に立つた、一同幅を取り静肅の間に聖壽の萬歳を三唱した、斯て踵を返して萬歳門を指して進んで行く、之に續くは手に手に鬼灯提灯を高くさし上げて聲を限りに萬歳を叫びつゝ押し寄せ押し行く火の河

待つてゐる、警官は盛に提灯を打振り

聲を吸して

交通の整理に盡してゐるが一向立ち去る様子もない、六時五十分頃となると行列は樂隊を先頭に景氣よく繰込んで来た、而して國産展覽會の入口からドン／＼入つて池の端を巡り掛ると展覽會の役員等は盛に瓦斯を焚いて迎へる、斯て展覽會前に到ると商業會議所副會頭等の幹部は一々之を迎へて萬歳を連呼する行列は順次進んで池の端を一周して思ひ／＼に解散する事となつたが、先頭が出口三橋に出でんとする頃は蜿蜒光蛇の如き火は池の水に映じて割る／＼許りの萬歳の聲は上野の山に響いて山も爲めに搖がんと思はれ其の壯觀響へん様もなかつた、斯くて行列は陶器商組合を殿りとして約一時間半を経て解散した

(十二月十日報知新聞)

来る九日の花の日會賣場

来る九日東京市奉祝會當日の花の日會は左記場所を賣場と定め關係の夫人令嬢は朝七時から午後四時迄大活動をなすべく、當日は四十萬の花を賣る豫定とのことですから、市の奉祝會と共に嘸市中を飾ることでありませう、殊に日比谷には當代博士夫人の一隊が活動して活動するさうです、尙當日の収益は全部之れを十餘の東京市立貧民學校に寄附するとの事です

日比谷 天野、岡田、山長、谷川、入澤、青山、緒方、加藤、近藤、和田、遠藤、池田の諸博士夫人、田中、池田、小池、上野、中川、三浦、平岡の諸夫人を始め約七十人

(四二六)

の本陣である樂の音勇ましく喇叭の聲も天上高く響けと吹いて居る、仰ぎ見る雲井遙かの方に提灯の火影が揺ぐ、東京諸車製造組合や織物問屋組合、肉屋組合、蒲團蚊帳組合などの部隊が蜿蜒長蛇の如く打ち續く、斯くて殿隊が此處に萬歳を叫んだのは約二時間の後であつた、二重橋を發した無數の提灯隊は鍛冶橋を渡つて銀座通に出で、電車路を一直線に上野を指して突進した潮の如く押寄せた群集は沿道一帶に垣を築き打續く提灯の行列は恰も天の川が降つた様だ、衆口一致で發する萬歳の叫び歡呼の聲は樂隊の響きと合して天地も裂けん許りの有様、通路の店は

軒毎に國旗

を打振つて聲援し、旦那も小僧も今日は平等何れも吾れを忘れて熱狂する中將湯本家の順天堂では後鉢巻白禰の店員數十名頻りに鈴を振りお向の雜貨店では拍子木を鳴らして景氣を付ける、通三丁目の成田書店の二階では提灯行列諸君萬歳と大書した貼紙を出して小僧さん達が君が代を合唱すればお隣の近江屋ではブリキ罐を叩いて囃し立てる餘りの景氣に浮かされて日本橋袂の群衆に加はつてゐた印度人が三人頓狂聲を張り上げて蒲團組合の行列中へ飛込んで見物人を吃驚させた、日本橋を渡つた行列は沿道の商家と呼應して到る處で萬歳を連呼しつゝ、御成街道を経て上野公園に向つた、上野公園は夜に入つて式場を拜觀せんと集へる群衆幾十萬、拜觀の歸路今夜の提灯行列を見んと廣小路から山下にかけて殆ど身動きもならぬ様で群衆は冷たい夜氣にも怯けず歸らうともせずに行列を

村井銀行前 村井宇野子、村井春子、吉田貞子、渡邊薫子、中濱芳子、枝吉とよ子、富田富尾子、上原豊子、鈴木かす子、戸板せき子、田村あき子の諸夫人を始め約五十人
上野廣小路 櫻井ちか子、松木静江子、金谷珠子、吉村律子、岩瀬すま子、清水英子、長瀬繁子、林美好子、長谷川文子、田崎すみ子、佐倉富子、小林あけ子、石塚小蘭、小峰はる子、夫人を始め約七十人
萬世橋 吉岡彌生子、塚原乙子、島田信子、藤見李子、井出志代子、佐藤貞子、植木愛子、其他四十人
兩國 大同寺子、服部よう子、川名よし子、星野佐代子、小島常代子、其他四十人
吾妻橋 嘉悦孝子、鈴木保子、長谷川時雨、岡田八千代、香川ふく子、其他四十人

(十二月六日讀賣新聞)

九日の花の日會

賣場は初め上野公園、吾妻橋兩國、日比谷、萬世橋及び村井銀行前の六ヶ所の管であつたが、還幸の時刻まで上野と村井銀行前の一箇所を禁じられ、上野に於ては唯鐵道院構内と櫻亭内に於てのみ許された、村井銀行前の鳩山春子、村井うの子以下百餘名の女子職業學校關係者は群を爲して日比谷に居る天野たき子、岡田とく子、夫人等の團體が押寄せて此處では花賣のお嬢さん達が寒風を赤くしながら賣つて居た、萬世橋は活動家の吉岡彌生、女史が驛構内に陣取つて五十名の部下を指揮して居た、活動家揃ひだけに此處は朝からうんと賣つた様子である、精神病院の小峰學士夫人が白襟に裾模様の盛装で車夫と女中を伴に連れて立つて居た、向ふ側の高久商店前には指原、植木、女史等が控へて還幸の際欄内にづらりと花籠をさへげて二十餘人列んで拜觀した様は美しかつた、吾妻橋際には二箇所に天幕を張つて嘉悦女史が賣場に立つて居た、玉姫町邊の貧乏人の

(四二七)

子供が花を貰つて喜んで歸つて行つたのはいぢらしかつた。還幸後は上野一圓及び村井銀行前の禁止も解けて日本橋交叉點などには美しく花をつないで賣つてゐた。

萬歳！ 萬歳！！
（十二月十日萬朝報）

上野式場跡に夥しき拜觀の群が後から〜と

東京市奉祝會式場行幸の跡は昨日も其儘に拜觀を許された日光を正面に受けて小紫宸殿の裝飾は美しく輝く。昨日參列を許されなかつた老若男女は早朝からヒシ〜と詰り掛け警戒の警官隊も未だ第二十二中隊本部の高札を掲げ騎馬巡査の應援を求めて雑沓を取締つてゐる。數知れの群衆の流れは皆目的を一にして竹の臺の小紫宸殿に向ふのである。そして殿前堅く結ばれた木柵の外から遙に玉座の跡を拜しては熱誠溢れて萬歳を高唱する。十二時頃本所區内龜井戸天神の氏子が大神を先登に神輿九臺勢よく練り込み群衆の萬歳に和して神輿を振る本所松井町の義士行列も一緒に落ち合せて更に深川八幡氏子五千餘名の旗行列が来る。斯くて上野の杜は萬歳の聲の絶えることなく萬歳に明けて萬歳に暮れた。 （十二月十一日東京日々新聞）

十日の行列

神輿行列 本所區林町一、二、三丁目、松井町一丁目、相生町一、二、三、四丁目、深川區常磐町の神輿九臺及林町二丁目の獅子頭は十日午前九時大神を先頭に各町を出發し既橋を渡り一直線に上野廣小路に至り御成街道より昌平橋を渡り淡路町小川町を経て馬場先萬歳門に至り萬歳を三唱して解散

拜觀者七萬人

昨日の濱離宮と新宿御苑

昨日は東京市奉祝に參列せる市民約六萬と其兩親妻女及高齡者約四千四百中牛込、小石川本郷下谷淺草、本所深川、四谷各區在住者に對し午前九時より午後三時迄の間に於て特に濱離宮並に新宿御苑の拜觀を許されぬ。

濱離宮の御質素に敬服しぬ

濱離宮拜觀者は汐留口の正門より入り濱松町口の裏門に出づる事に定められ入口は定刻前午前八時頃より拜觀者が踵を接し非常な賑ひを呈しいづれも正門前の天幕張にて外套コート等を脱げば宮内省の役員は一々丁寧に指示し

高齡者に對し ては「襟巻や上衣をお脱ぎにならんで宜しう御座います」と極めて親切なり、拜觀者は若き紳士が多く高齡者は二割位のものなりしが大黒頭巾に紅木綿の股引紅白段々巻にした竹杖をついた八十幾歳の爺さんが二十歳ばかりの若夫人に手を曳かれたのや黒紋付の著物を著た白髪頭で梓の弓を張つた腰に紅い帯を堅矢の字に結んだお婆さん等群衆の中に一際目立ちぬ、斯く

拜觀者の群は、ゾロ／＼離宮内を練り歩き中の鳥のお茶屋其他の建物の濱風に晒されし質素なものなるを見て「天皇陛下でも斯んな御質素だから儉約しなくては不可ませんよ」と子に諭す親もあつた。離宮の橋を渡り丘を越える間に老齡の母親の手を曳いて見る目も快よきばかりの孝養の誠を盡すもの多く離宮拜觀が畏き邊りの御質素を拜察

(四二八)

したり
義士行列 本所區松井町の義士行列五十餘名は十日午前十一時其の第二回を催し兩國橋を渡り淺草橋より藏前通りを一直線に淺草區黒船町通を左折し上野廣小路より竹の臺奉祝會場跡に至り萬歳を唱へ御徒町通を電車に添ひ人形町を土州橋より永代橋に出で彌勒橋に至り解散したり
旗行列 深川八幡神社氏子各町民五千餘名は十日午前十一時深川公園に集合し奉祝と染抜きし印絆天を著し旗行列を催したり、上野公園式場跡にて萬歳を奉唱し御成街道より萬世橋を渡り小川町に出て左折濠端に添ひ宮城前に至り萬歳を唱へ京橋高橋より永代橋を渡り歸著解散したり
（十二月十一日萬朝報）

二五新宿御苑濱離宮拜觀

十二月十、十一兩日、市内高齡者市民、新宿御苑及濱離宮ヲ拜觀ス、本市水道課拜觀者受附其他之二關スル一切ノ事務ヲ擔當ス、兩日ノ拜觀者左ノ如シ、

新宿御苑及濱離宮拜觀者

場所	總人員	内		同上前部
		月日	人員	
濱離宮	三、三三三	十日	一、九二五	一、四〇八
新宿御苑	三、三三三	十日	三、三三三	三、三三三
		十一日	三、三三三	三、三三三
		十一日	二、四九六	二、四九六
		十一日	三、三三三	三、三三三
		十一日	二、四九六	二、四九六
		十一日	三、三三三	三、三三三
		十一日	二、四九六	二、四九六

(參考) 新宿御苑濱離宮拜觀模様

して勤儉を促し孝養の美德を涵養せしむるに多大の效果ありき

珍花咲き誇る新宿御苑の温室

新宿の御苑も朝から夥しい人にて新宿一丁目の御門より入り右に折れて十數間行けば廣い芝生の上に配置よく常磐木が植られ芝生の小高い入口には維新前より明治にかけて
徳川慶喜公に 仕へきといふ當年八十四歳の老婆田中よねが紅羽二重の羽織著物に同じ頭巾を戴いて入り來り拜觀者の肩や腕を擦りながら無病息災を祈り居たるは目立ちぬ芝生の右側には多くの温室あり幾多珍花が紅、黄、白、紫色ととりどりに咲き匂ひ居る中に
最も見事なる は一二間以上に及ぶ芭蕉にて澤山の實が房房と生り臺灣南洋に在るの感ありき、されど温室前の花壇は流石に霜枯れて黄菊、白菊のみ僅に残んの色香を留むるに過ぎず拜觀者のうちには櫛其他の種子を拾つて拜觀記念に植ふん といふ者多かりき動物園附近は暖く拜觀者は皆此處に集まりて休憩し樂羽亭といふ東屋の南側に植られし白梅は早や蕾を持つて近く咲き初めさうなりき、尙ほ本日も午前九時より殘餘の各區公民高齡者に對し同様拜觀を差許さるゝ筈なり
（十二月十日東京日々新聞）

二六獻上品奉獻

イ奉獻

天皇陛下 皇后陛下へノ獻上品御衝立及御文

(四二九)

机御料紙御文庫御硯函ハ、其筋ノ指揮ニ依リ、十二月十一日之ヲ赤坂離宮ニ上納シ、茲ニ奉獻ノ手續ヲ了ス、

報 告

十二月二十一日午後一時市參事會開議、是日

聖上 皇后兩陛下ニ獻上品奉獻濟報告ノ件ヲ

供覽シ、午後三時閉會ス、出席者十二名、市長奥田義人、

助役高橋要治、

大正四年十二月二十四日議決

大正四年十二月二十一日議決

獻上品奉獻濟報告

聖上

皇后兩陛下ニ御大禮奉祝ノ爲メ奉獻ノ本市獻上品ハ十二月九日御大禮奉祝會へ、臨幸ノ節市長ヨリ宮内大臣ヲ經テ獻上品目錄ヲ奉獻シ御嘉納被爲在タルニ付本月十一日其筋ノ指揮ニ依リ赤坂離宮へ上納シ奉獻手續無滞相濟候右報告候也

二七高齡者記念品贈呈

イ麴町區

麴町區ニ於テハ、十二月十五日區役所樓上ニ、區内高齡者ニ對スル市贈與記念品傳達式ヲ舉グ、式ノ次第左ノ如シ、

同日午前十時三十分式場ニ高齡者一同著席橋本區長ハ市

及茶菓ヲ頒チ、本人竝ニ附添人等ニ會我廬家一座ノ喜劇ヲ觀覽セシメ以テ祝意ヲ表ス

祝賀會費千五百四十五圓ハ有志之ヲ寄附ス

一、記念物 紅白真綿一兩

一、料 理 一人前

別ニ辨當及茶菓ヲ供ス、

ニ京橋區

京橋區ニ於テハ、十二月十五日區役所ニ於テ、高齡者へノ記念品贈呈式ヲ舉ケ、市贈與ノ記念品ヲ區内高齡者ニ交付シタリ、

ホ芝 區

芝區ニ於テハ、十二月十五日高齡者記念品贈呈式ヲ市立愛宕高等小學校ニ舉行ス、區名譽職員參列シ、區長古橋幸正一場ノ挨拶ヲ爲シ、嚮ニ東京府廳ニ於テ天盃ヲ賜リタル區内高齡者三百五十八名ニ對シ、市贈與記念品萬歲樂額地ヲ交付シタリ、

ヘ麻布區

麻布區ニ於テハ、十二月十五日高齡者記念品贈呈式ヲ舉行ス、麻布尋常小學校内ニ式場ヲ設ケ天杯ヲ賜リタル區内ノ高齡者二百四十餘名ニ對シ、市贈與品ヲ交付シ、區ヨリハ尙ホ酒肴料ヲ

長ニ代リテ鄭重ナル挨拶ヲナシ紀念品ヲ各高齡者ニ授與シ右終テ高齡者宮城はま令息宮城利八高齡者一同ヲ代表シテ答辭ヲ述ヘ式ヲ終レリ

神田區

神田區ニ於テハ、十二月十五日高齡者へノ記念品贈呈式ヲ舉行ス、式場ハ區會議事堂ニ之ヲ設ケ、區内居住高齡者二百三十五名ヲ午後一時二時ノ兩回ニ分チテ招致シ、區名譽職立合ノ上、東京市ヨリ贈ル可キ記念品萬歲樂額地ニ贈呈書ヲ添ヘ、區長ヨリ順次高齡者ニ交付シタリ、神田區婦入會ハ、是日高齡者ニ茶菓ヲ饗ス、

ハ日本橋區

日本橋區ニ於テハ、十二月十五日高齡者へノ記念品贈呈式ヲ日本橋俱樂部ニ舉ク、區内高齡者二百五十六名ニ對シ、市贈與ノ記念品萬歲樂額地ヲ交付シタリ、區會議長柿沼谷藏ノ祝辭有リ、

(附記)高齡者祝賀會

日本橋區有志會ハ、同區高齡者記念品贈呈式後、同ク日本橋俱樂部ニ於テ高齡者祝賀會ヲ開催シ、區長ノ祝辭、高齡者總代清水米藏ノ答辭有リ、記念品及料理ヲ贈リ、尙寄贈ノ辨當

頒ツ、

(附記)高齡者祝賀會

麻布區ハ、十二月十五日麻布尋常小學校内ニ市贈與記念品ノ交付ヲ爲スト同時ニ、高齡者祝賀會ヲ開キ茶菓ヲ饗シ、且祝トシテ酒肴料ヲ贈與ス、

ト赤坂區

赤坂區ニ於テハ、十二月十五日高齡者記念品贈呈式ヲ舉ケ、市贈與記念品ヲ頒ツト同時ニ、九條公爵筆色紙及菓子ヲ贈付シタリ、

チ四谷區

四谷區ニ於テハ、十二月十五日高齡者記念品贈呈式ヲ區役所ニ舉ケ、市贈與ノ記念品ヲ頒チタリ、區民奉祝會ヨリハ記念扇子ヲ贈ル、

リ牛込區

牛込區ニ於テハ、十二月十五日ヲ以テ、區内高齡者ニ、市贈與ノ記念品ヲ頒チタリ、

又小石川區

小石川區ニ於テハ、十二月十五日區役所ニ高齡者記念品贈呈式ヲ舉ケ、市贈與ノ記念品ヲ頒ツ、本區ハ高齡者ヲ一目瞭然タラシムル爲メ、紅白ノ徽章ヲ著ケシメタリ、

ル本郷區

本郷區ニ於テハ、十二月十五日ヲ以テ高齢者記念品贈呈式ヲ舉行ス、當日ハ區役所樓上ニ休憩所竝ニ式場ヲ設備シ、茶菓等ヲ用意シテ接待シ、適宜ニ參集シタル人員ヲ計リテ式場ニ入ラシメ、區長ヨリ市記念品贈呈ノ趣旨ヲ告ケ、各自ニ記念品ヲ交付シタリ、

下谷區

下谷區ニ於テハ、十二月十五日午前十時ヨリ區役所樓上ニ高齢者ニ對スル御大禮奉祝記念品贈呈式ヲ舉行シ、區長一場ノ挨拶ヲ爲シタル後、市記念品竝ニ區ヨリ菓子一箱ツツヲ高齢者ニ贈呈シタリ、是日贈呈式ニ參列シタルハ區内在住府會議員市會議員及區會議員竝ニ同待遇者也

ワ淺草區

淺草區ニ於テハ、十二月十五日午後一時ヨリ三時マテ、高齢者記念品贈呈式ヲ區役所ニ舉ク、其數四百三十四名、區長自ラ贈呈ノ趣旨ヲ傳ヘ、贈呈書ニ記念品ヲ添ヘテ一名ツツ之ヲ授與シ、區費ヲ以テ一同ニ茶菓ヲ饗ス、

カ本所區

本所區ニ於テハ、十二月十五日高齢者記念品贈呈式ヲ區役所ニ舉ク、市贈與ノ記念品ヲ區内高齢者ニ頒ツト同時ニ、鶴龜ノ菓子ヲ分與シタリ、

深川區

深川區ニ於テハ、豫定ノ如ク、十二月十五日高齢者記念品贈呈式ヲ舉ク、區内高齢者二百七十名ニ市贈與記念品及贈呈狀ヲ交付シ、區ヨリハ酒肴料ヲ贈呈シ、同時ニ區會議員寄贈ノ紅白餅一包ツツヲ頒ツ、

二八市名譽職員記念品贈呈

御大禮當時在職ノ市會議員市學務委員市養育院常設委員ニ對シ、十二月御大禮記念品贈呈ノ手續ヲ爲セリ、

二九市名譽職員吏員教員其他表彰

十二月十日東京市區名譽職員吏員教員其他ノ表彰式ヲ東京市會議事堂ニ舉ク、式場ハ別ニ裝飾ヲ施サス、議長席ヲ以テ市長席ニ充テ、之ニテ「ブル掛ヲ掛ケ、松竹梅ヲ活ケタル花瓶ヲ置キ、午後三時ヲ以テ、先ツ市區名譽職員表彰式ヲ舉

行ス、市區名譽職員勤勞表彰者及參列員トシテ表彰者以外ノ市會議員著席シ、先ツ市長式辭ヲ朗讀ス、

今上陛下即位ノ嘉辰ニ際シ各位ハ本市ノ名譽職ニ在リ各心力ヲ竭盡シテ市政ノ上ニ貢獻セラレタルコト多年因リテ本市ノ經營發達ニ於テ多大ノ功效ヲ見ルヲ得タルハ本市ノ感謝ニ堪ヘサル所ナリ茲ニ各位ノ功勞ニ對シ微物ヲ呈シ以テ表彰ノ意ヲ申フ尙ホ各位ノ益々強健ニシテ本市ノ爲メニ盡サレシコトヲ冀フ

大正四年十二月十日 東京市長法學博士 奥田 義人

次ニ内記課長ハ市名譽職員表彰者十二人市會議員秋虎太郎、同松崎權四郎、同野々山幸吉、同伊東靖、同坪谷善四郎、同江間俊一、同堀田生次郎、同安藤兼吉、同津村重舍、同角田眞平、養育院常設委員大倉喜八郎、同原亮三郎ノ氏名ヲ披露シ、市長ヨリ表彰狀ヲ贈呈ス、次ニ區名譽職員表彰者百三十三人ノ氏名ヲ披露シ、年限順ニ依リ撰出シタル各區表彰者總代

- 麹町區名譽職員表彰者總代 橋本好正
- 神田區名譽職員表彰者總代 細谷謙太郎
- 日本橋區名譽職員表彰者總代 柿沼谷藏
- 京橋區名譽職員表彰者總代 田村藤兵衛
- 芝區名譽職員表彰者總代 村松仙之助
- 麻布區名譽職員表彰者總代 大西朝光
- 赤坂區名譽職員表彰者總代 苗村文右衛門
- 四谷區名譽職員表彰者總代 仁科条次郎

ノ十五人ニ取纏メテ表彰狀ヲ贈呈ス、次ニ表彰市名譽職員總代秋虎太郎、表彰區名譽職員總代柿沼谷藏表彰者ヲ代表シ、市長ニ對シテ本日ノ盛儀ニ膺ルコトヲ得タルヲ謝シ、益奮勵市區公共ニ盡ス可キ旨ヲ答辭挨拶ス、乃チ名譽職員表彰式ヲ閉會シ、更ニ市吏員等勤勞八百六十人ノ表彰式ヲ同一席ニ舉行ス、市長席左右ノ參列員席ニハ市會議員著席シ、午後四時十分ヲ以テ開式ヲ宣ス、市長ノ式辭朗讀有リ、

諸君ハ多年職ヲ本市ニ奉シテ各心力ヲ其擔任ノ事務ニ勞シ以テ本市ノ經營發達ヲ助ケラレタルハ本市ノ感謝ニ堪ヘサル所ナリ茲ニ

今上陛下即位ノ嘉辰ニ於テ微物ヲ贈リ表彰ノ意ヲ申フ尙ホ表裏間ナク終始一貫シテ益々本市ノ爲メニ盡瘁セラレシコトヲ望ム

大正四年十二月十日 東京市長法學博士 奥田 義人

畢リテ内記課長表彰者ノ氏名ヲ披露シ、市長ヨリ表彰者總代ニ表彰狀ヲ授與ス、是時表彰者總代タリシハ、

市役所及附屬公署吏員九十一名囑託員二名總代 玉井幸太
 區役所吏員百八十四名總代 平林政博
 小學校教員及保母二百七十六名總代 三谷保
 雇員三十一名總代 田中仲次郎
 使用人二百七十六名總代 木島房太郎
 ニシテ、亦年限順ヲ以テ撰出シタル者ニ係ル、次ニ表彰吏員以下ヲ代表シテ玉井幸太、表彰學校教職員ヲ總代シテ下谷御徒町尋常小學校長三谷保、各本日ノ光榮ヲ感謝シ、倍本市區ノ爲メ忠誠ナルヘキコトヲ挨拶答辭シ、茲ニ其式ヲ終ヘ、一同退場ス、

表彰者

- 名譽職員(各職名別ニ於ケル記名ノ順次ハ在職年數多キ向キトシ、在職年數同シキトキハイロハ順ニ依ル)
- 市會議員
 秋 虎太郎 松崎權四郎 野々山幸吉 伊東 靖
 坪谷善四郎 江間俊一 堀田生次郎 安藤兼吉
 津村重合 角田眞平
 養育院常設委員
 大倉喜八郎 原 亮三郎
 勸導區會議員
 橋本好正 河合徳兵衛 田中武兵衛 矢澤小兵衛
 仁木傳吉 宮本 央 高羽惣兵衛 太田善吉
 久保田榮 廣橋嘉七郎 宇野友治 溝淵正氣
 井上豊太郎 針ヶ谷長吉 大野 和歌三郎 川島仔司
 竹村良貞 敷津林傑
 勸導區學務委員
 柴田實顯
 神田區會議員

- 相川尙清 鹽島仁吉 笠間 平右衛門 曾嶋晴次郎
 大澤 彦右衛門 吉田康助 高橋 甚右衛門
 本郷區會議員
 吉川仙太郎 柏原正義 高木信吉 田中勝藏
 冠 松兵衛 瀧澤竹太郎 井上萬吉 松脇武輔
 植村永之助 小林好愛 眞壁信忠 伊藤定七
 小川萬二郎
 本郷區學務委員
 柳橋 一郎
 下谷區會議員
 荒井宗雄 吉田 浚 坂入宗兵衛 岩松兼經
 片山久藏 高橋義信 杉原仁太郎
 淺草區會議員
 八田浪之助 松村清吉 新井與四郎
 本所區會議員
 岩崎周作 袴田喜四郎 大竹仁三郎 小池長次郎
 本所區學務委員
 久村長三郎
 深川區會議員
 岡田貞三 中村清藏 松本忠次郎 笠原小十郎
 田口篤信 小倉鐵助 五木田 治郎吉 木村方茂
 關口安五郎 沼田辰五郎
 市吏員其他(各職名別ニ於ケル記名ノ順序ハ在職年數ノ多キ向キトシ、在職年數同シキトキハ俸給順ニ依ル)
- 市參事(各職名別ニ於ケル記名ノ順序ハ在職年數ノ多キ向キトシ、在職年數同シキトキハ俸給順ニ依ル)
- 男爵 澤榮 一
 主事
 安達憲忠 玉井幸太 松尾儀一 藤井庄一郎
 花房有恒 熊野 昇 安藤彪雄 松下金太郎
 技師
 遠山格吉 小川織三 橋本善之助 米元晋一
 區長
 平林政博 古本 崇 見山正賀 國枝拾次郎

- 須崎 緋作 長谷川 友次郎 山縣 鐵藏 古橋 幸正
 市會書記長 八田 五三
 囑託員
 豐田周作 宮本 叔
 內記課事務員
 興膳 駿郎 下村人孝 同部 清彦 十時 章
 阿部 恩
 庶務課事務員
 時田 格造 宮地忠男 近藤千賀三
 教育課事務員
 新島 謙吉
 衛生課事務員
 荒木 郁 藤波如一 野田作一
 同掃除監督
 猿橋幾太郎 信澤幸七 山田益三郎 中村銀三
 佐々木 鐵藏
 同掃除巡視
 井上 徹 村田貞次郎 高櫻喜一郎 戸田庄治
 谷中重太郎 原田啓八
 用地課事務員
 伊藤 高義
 同技 手
 白石 信榮
 同船 長
 神 清太郎
 土木課事務員
 三浦 實助 川又辰三
 同技 手
 村越健治 村上七郎 多田源三郎 松居六藏
 舟崎金太郎 高木精一 池上太郎 内藤和三郎
 水道課事務員
 渡邊謙太郎 藤澤伊之助 朝倉規藏 野村新吉
- 細谷 謙太郎 福田又一 横田清兵衛 青木榮次郎
 角倉 賀道
 神田區學務委員
 山岸 豐壽郎
 日本橋區會議員
 柿沼 谷藏 野本傳七 清水米藏 西澤善七
 渡邊大治郎 市原 求 小西安兵衛 前田兼七
 稻延利兵衛 星野 錫 大橋新太郎 大内重兵衛
 渡邊對三 白澤武平 澁谷正吉
 日本橋區學務委員
 南川 福藏
 京橋區會議員
 秋田 太郎兵衛 田村藤兵衛 池田謙太郎 河合萬五郎
 酒井 泰 細谷牛兵衛 大村 五左衛門 高島 徳右衛門
 齋田岩太郎
 芝區會議員
 村松仙之助 菅谷元次郎 細野 順 笠原慶藏
 加治木勇吉 宇津治三郎 黒須龍太郎 阿部治兵衛
 清水石五郎 森 安三郎
 麻布區會議員
 大西朝光 手塚長三郎 塚田幸三郎 白井誠造
 佐治實然 堀井松之助
 赤坂區會議員
 苗村 又右衛門 肥 塚 龍 横山政方 渡瀬實次郎
 訖摩武彦 松下善太郎 齋藤勝太郎 松島 剛
 北川 鐘三郎 徳田久次郎 箕原貞明
 四谷區會議員
 仁科 余次郎 大友 赤松 鈴木金太郎 荒木重治
 鈴木 熊治郎
 牛込區會議員
 飯塚仁兵衛 世良太一 小原芳次 戸泉定吉
 犬崎 乙平
 小石川區會議員

木佐森孝一
同技手 河部 努 成實太市 永井純一 森 友吉
中川 柳松
同機關手 中野 熊之助
經理課事務員 白鳥 德之助 木崎 惠雄 金高 政治郎
會計課事務員 窪田 鐵二
臨時下水改良課技手 前田 丈三郎 清水 庄次郎
臨時水道擴張課技手 中島 利雄 高橋 甲子雄
養育院事務員 高島 登代作 小林 正金 岸 萬龜太 早川 傳治郎
同技手 杉山 基 四谷 炳鑽
同技手 同 仁三郎
日比谷圖書館事務員 酒井 起夫
衛生試驗所技手 大武 畧四郎
消毒所技手 久保 又三郎
駒込病院調製員 杉本 治五郎 萩原 嘉一
同看護婦長 越津 ミサ
施療病院事務員 南保 正之
麹町區役所書記 吉田 輝一 福原 菊次郎 原島 榮之助 押木 藤一郎

柴山 勘藏
四谷區役所書記 酒井 龍太郎 山田 儀助 堀 永有隣 山崎 邑吉
安西 群二 菊池 彌太郎 河村 恒次郎 中野 德藏
北村 信
牛込區役所書記 多賀 高吉 川島 廣成 佛坂 安文 山本 紋藏
多田 藤吉 手島 信夫 下田 元三郎 河谷 半重郎
鈴木 重三 高田 小一郎 龜川 卓 新井 政藏
小石川區役所書記 福島 權平 疋田 盛一 山路 信雄 吉井 豐藏
安本 伊之助 坂田 文作 森 佐久馬 鬼島 秀信
古澤 俊藏 山田 史良
本郷區役所書記 古河 岸郎 菅野 誠明 大岡 忠誠 太田 遵行
今村 御三郎 桑原 勝太郎 久保 田直三 桑山 一
戸森 泰章 村上 省三 安本 舜 田澤 榮
川村 慶吉
下谷區役所書記 鶴野 嘉一 齋藤 虎之助 木村 喜三郎 矢部 圓太郎
佐々木 武夫 水内 峰吉 秦 由太郎 杉浦 省三
望月 深藏 根本 常太郎 長尾 靜夫 松井 義雄
國友 勝雄 塚元 三吾
同書記補 中島 勘四郎
淺草區役所書記 藤田 好三郎 村上 四郎 坂野 要四郎 淺野 利次郎
小林 茂十郎 白石 一次 大頭 義男 井上 芳太郎
小野 鷹雄
同書記補 長谷 清太郎 井上 春浪 磯 昌一
本所區役所書記 西谷 外與吉 川瀨 龜吉 本目 保三郎 春日 成美

和田 重吉 鈴木 佐助 宮尾 時司 金子 友治
小林 義夫 永井 十七治郎 濱口 儀藏
神田區役所書記 三宅 義夫 平井 卯之助 上原 清次 柴原 國松
吉村 鴻一郎 白田 昭平 安部 鐵三郎 齋藤 健文
重藤 悅造 魚井 重太郎 小野 萬吉 杉山 熊三郎
岩田 友次郎 廣澤 守三 藤本 忠信 行宗 菊次郎
栗崎 道 中村 貞治
同書記補 飯田 吉三郎
日本橋區役所書記 安間 德三郎 野尻 誠之助 福田 學 關口 德太郎
小山 伊三郎 宮田 源兵衛 秋田 武太郎 花岡 總四郎
戸塚 爲一 村井 庄太郎 山本 萬五郎 江口 素一
米山 恒治 岡田 虎次郎
同書記補 根本 幸三郎
京橋區役所書記 加藤 木良徳 河島 八十次 新井 半次郎 神原 義門
寺田 寛之丞 中山 彌三郎 小島 龍次 木村 定次郎
益山 彦太郎 山本 鐵彌 清水 安孝 三好 幸太郎
清水 龍之助 加藤 賢道 須賀 貞榮 廣 永 斌
佐藤 喜代男
芝區役所書記 池田 甚之助 大竹 房 後藤 德太郎 小宮 山信治
戸室 康吉 大久保 忠輔 大友 龍充
麻布區役所書記 若松 卯吉 松壽 泰近 大橋 要一郎 福山 貞
時田 慶治 神田 眞 菅原 仁壽 井東 寅藏
赤坂區役所書記 安枝 芳松 佐藤 正治 高田 經吉 都築 邦義
大月 忠太郎 飯本 禮實義 堀 善 嵐 清宮 榮藏
同書記補

吉田 常吉 菊田 清敏 山中 矢太郎 内納 錦之助
安彦 信清 山名 益太郎 塚原 龜作 須原 良平
佐藤 昌一 深山 盛雄 三谷 伴次郎 小田 弁太郎
天城 信廣
同書記補 中村 政次郎
深川區役所書記 堀内 岩夫 正田 利太郎 大岡 服三 岩井 松兵衛
東 啓太 前田 常次郎
同書記補 野中 啓介 小島 庄太郎 上野 計次郎
市立小學校教員及保母 (記名ノ順次ハ在職年數多キモノヲ先トシ在職年數同シキトキハ年令順ニ依ル)
市立小學校 靈岸 尋常小學校 調導 長尾 元亨
猿江 尋常小學校 調導 淺見 作太郎
麹町區 富士見 尋常小學校 調導 校長 小野 義倫
富士見 尋常小學校 調導 鍋本 加藤
富士見 尋常小學校 調導 川井 益之
麹町 尋常小學校 調導 伊東 よし
番町 尋常小學校 調導 校長 高野 榮次郎
番町 尋常小學校 附屬 幼稚園 保母 中野 よし
番町 尋常小學校 附屬 幼稚園 保母 吉川 才
富士見 尋常小學校 附屬 幼稚園 保母 福田 あい
富士見 尋常小學校 附屬 幼稚園 保母 船葉 かれ
神田區 神田 尋常小學校 調導 校長 風當 朝朗
淡路 尋常小學校 調導 校長 宮尾 元四郎
芳林 尋常小學校 調導 校長 田中 次郎三
千櫻 尋常小學校 調導 校長 濱田 國松
神田 尋常小學校 調導 上原 みつ
淡路 尋常小學校 調導 鶴見 キン
千櫻 尋常小學校 調導 小林 八子男

日本橋區

和泉尋常小學校調尋兼校長 今井蘇江
神田尋常小學校調尋 近藤新重郎
濱路尋常小學校調尋 吉本きね
神田尋常小學校調尋 渡邊榮藏
濱路尋常小學校調尋 服部きの
一橋高等小學校調尋兼校長 湯澤直藏
錦華尋常小學校調尋 林榮次郎
千櫻尋常小學校調尋 古宮常三郎
千櫻尋常小學校調尋 市村辰五郎
濱路尋常小學校調尋 櫻井とみ
練成尋常小學校調尋 富岡ハツ
小川尋常小學校調尋 南藤枝
小川尋常小學校調尋 岡松つね
有馬尋常小學校調尋 飯沼徳太郎
久松尋常小學校調尋 鈴木錦一郎
箱崎尋常小學校調尋兼校長 伊藤政良
有馬尋常小學校調尋 服部貞三
千代田尋常小學校調尋 積田新太郎
千代田尋常小學校調尋 榎本觀藏
東華尋常小學校調尋兼校長 柳澤慶次郎
十思尋常小學校調尋兼校長 高橋卯之助
日本橋女子尋常小學校調尋兼校長 森田勝
坂本尋常小學校調尋兼校長 中島行徳
千代田尋常小學校調尋 小野泰助
上町女子尋常小學校調尋 熊谷直三郎
濱町尋常小學校調尋 喜多島周
有馬尋常小學校調尋兼校長 大平力雄
上町女子尋常小學校調尋 大熊くわ
千代田尋常小學校調尋 町田久
常盤尋常小學校調尋 松澤角三郎
常盤尋常小學校調尋 小向勇藏
日本橋高等小學校調尋 狩野太郎

京橋區

坂本尋常小學校調尋 新居トセ
十思尋常小學校調尋 松永証一
城東尋常小學校調尋 清水彌作
十思尋常小學校調尋 田中小市
十思尋常小學校調尋 日根野弘正
常盤尋常小學校調尋 鈴木直枝
箱崎尋常小學校調尋 中井通
常盤尋常小學校調尋 土肥マツ
箱崎尋常小學校調尋 高松モナ
坂本尋常小學校調尋 市川サホ
濱町尋常小學校調尋 日根野ムメ
千代田尋常小學校調尋 三溝きやう
上町女子尋常小學校調尋 大生志洋
久松尋常小學校調尋 堀江嘉吉
常盤尋常小學校調尋 河田朗
城東尋常小學校調尋 本間田寛吉
濱町尋常小學校調尋 大野朝比奈
十思尋常小學校調尋 松本健雄
久松尋常小學校調尋 佐藤よみ
常盤尋常小學校調尋 伊藤のぶ
常盤尋常小學校調尋 橋本ハナ
常盤尋常小學校調尋 江原ふつ
市立日本橋城東幼稚園保母 藤原ふた
泰明尋常小學校調尋兼校長 高橋鐵藏
鐵砲洲尋常小學校調尋兼校長 弘中吉太郎
越前堀尋常小學校調尋 江せん
泰明尋常小學校調尋 奥田茂太郎
泰明尋常小學校調尋 井上たを
泰明尋常小學校調尋 木内けい
泰明尋常小學校調尋 水野さよ
築地尋常小學校調尋 長谷川いぢ
寶田尋常小學校調尋 今津善せ

芝區

泰明尋常小學校調尋 川岸トッ
靈巖島尋常小學校調尋兼校長 加地鹿三郎
越前堀尋常小學校調尋 今泉ヒテ
京橋高等小學校調尋 富田ハス
鐵砲洲尋常小學校調尋兼校長 笹野豊美
築地尋常小學校調尋 磯原三之助
築地尋常小學校調尋 太田忠治
寶田尋常小學校調尋 遠藤佐吉
月島尋常小學校調尋 山門秀太郎
京橋尋常小學校調尋 倉林孝吉
寶田尋常小學校調尋 北村初女
寶田尋常小學校調尋 岡本たゑ
月島第二尋常小學校調尋 西村信義
寶田尋常小學校調尋 和田茂喜
市立朝海幼稚園保母 深江とき
市立朝海幼稚園保母 千葉ひで
三光尋常小學校調尋兼校長 櫻井庚太郎
御田高等小學校調尋 恩田銀次郎
御坂高等小學校調尋兼校長 村田猛
愛宕高等小學校調尋 澤邊康
西櫻尋常小學校調尋 三木民三郎
愛宕高等小學校調尋 福井ふづ
櫻田尋常小學校調尋兼校長 鈴木兼之助
臺町尋常小學校調尋兼校長 高木仙藏
南海尋常小學校調尋 田丸久吉
神明尋常小學校調尋兼校長 北原文太郎
新船尋常小學校調尋 山本菊
南海尋常小學校調尋兼校長 菱谷廣太郎
南海尋常小學校調尋 植松直惟
櫻川尋常小學校調尋 高野鐵也
愛宕高等小學校調尋 淺野光

麻布區

御田高等小學校調尋 片岡かつ
三光尋常小學校調尋 谷水輔
櫻川尋常小學校調尋 小泉巖雄
新船尋常小學校調尋 伊藤秀華
新船尋常小學校調尋 西川くりゑ
御田尋常小學校調尋 岩間りき
聖坂尋常小學校調尋 矢田キツ
南櫻尋常小學校調尋 長谷川有世
南櫻尋常小學校調尋 香坂さつ
御田尋常小學校調尋 根本與三郎
新船尋常小學校調尋 森川 泥
新船尋常小學校調尋 渡邊忠夫
新船尋常小學校調尋 坂本伊三郎
新船尋常小學校調尋 依田傳太
新船尋常小學校調尋 中野善吉
新船尋常小學校調尋 石田巳之吉
西櫻尋常小學校調尋 鮫島彦一
櫻川尋常小學校調尋 重見シヅ
南海尋常小學校調尋 中西彌一郎
南海尋常小學校調尋 宮崎 鐵
櫻田尋常小學校調尋 宮内ヒツ
芝尋常小學校調尋 中村けい
芝尋常小學校調尋 永井たま
新船尋常小學校調尋 中村松枝
麻布尋常小學校調尋 永塚橋太郎
麻布尋常小學校調尋兼校長 小澤卯之助
三河臺尋常小學校調尋兼校長 榎本義道
三河臺尋常小學校調尋 守田近三
青山高等小學校調尋兼校長 山本萬平
青山尋常小學校調尋 榎井光華

赤坂區

青山高等小學校調尋兼校長 山本萬平
青山尋常小學校調尋 榎井光華